

養生所/(長崎)医学校等遺跡の  
保存・保護・整備・公開に関する陳情書 XX

(旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)

長崎奉行所西役所等遺跡群の  
調査・保存・活用・公開・整備に関する陳情書 XI

(サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等)

2021年(令和3年)6月11日 金曜日

長崎市議会議長 井上重久 様

陳情人

〒852-8127

長崎県長崎市大手二丁目十七-四十六-一〇二

養生所を考える会 代表 池知和恭



連絡先 携帯電話



内容

I. 『国際長崎遺跡公園都市構想』 1. “遺跡についてXXVII” (2021年(令和3年)5月30日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭) 2. “遺跡についてXXVIII” (2021年(令和3年)6月1日 火曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭) 3. 小林充雄氏(1939年山梨県生まれ)よりの寄稿 4. “遺跡についてXXIX” (2021年(令和3年)6月2日 水曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭) 5. “遺跡についてXXX” (2021年(令和3年)6月3日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭) 6. 『国際長崎遺跡都市構想』 2021年(令和3年)5月25日 火曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

II. 『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の遺跡としての現示』 2021年(令和3年)3月13日 土曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

III. 『日本国の文化財保護法の遺跡の定義の明文に於ける不十分と当該明文の運用に関する帰結の可能性、そして、私達人類の対応』 2021年(令和3年)3月18日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

IV. “遺跡についてXVI 2021年3月7日 日曜日～XXVI 2021年5月23日 日曜日”

V. “遺跡について2021年2月27日 土曜日～2021年6月3日 木曜日”

VI. 情報、並びに、“遺跡についてXXXI” (2021年(令和3年)6月9日 水曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭)

VII. 参考資料

養生所(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する陳情書 X IX (旧長崎市立佐古小学校校地とその外周道路を中核として)
長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する陳情書 X (サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等)
2021年(令和3年)2月22日 月曜日 長崎県議会議長 井上重久 氏 / 2021年(令和3年)3月3日 水曜日 長崎県議会議長 瀬川光之 氏
養生所(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する要望書 IX (旧長崎市立佐古小学校校地とその外周道路を中核として)
長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する要望書 X (サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等)
2021年(令和3年)3月3日 水曜日
長崎県知事 中村法道 様 長崎県教育委員会 教育長 池松誠二 様 長崎県企画部長 柿本敏晶 様 長崎県地域振興部長 浦 真樹 様 長崎県文化観光国際部長 中崎謙司 様 長崎県土木部長 奥田秀樹 様 長崎県環境部長 宮崎浩善 様 長崎県文化財保護審議会長 立平 達 様 長崎県美術館長 小坂智子 様 長崎歴史文化博物館長 水嶋英治 様
長崎市長 田上高久 様 長崎市教育委員会 教育長 横田慶信 様 長崎市教育委員会 教育総務部長 前田孝志 様 長崎市企画財政部長 片岡研之 様 長崎市文化観光部長 股張一男 様 長崎市まちづくり部長 片江伸一郎 様 長崎県土木部長 松浦文昭 様 長崎市中央総合事務所長 大車品之 様 長崎市原爆被害対策部長 中川正仁 様 長崎市理村部長 小田 徹 様 長崎市環境部長 宮崎忠彦 様 長崎市秘書広報部長 原田宏子 様 長崎市文化財審議会 下川達彌 様 (長崎歴史文化博物館長 水嶋英治 様)

以上

# 『国際長崎遺跡公園都市構想』

— 長崎地域に於ける、遺跡の発見又は再発見と調査、保存と活用、整備と公開、再建、による、「公園都市」、現代の都市の計画、の提案と要望 —

— 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より —

2021年(令和3年)5月25日 火曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

	区域	提案と要望〈A態様〉	提案と要望〈B態様〉	備考/趣旨
1	JR新長崎駅一帯区域	—	<p>[現代の都市長崎の要点 I]</p> <p>【JR新長崎駅を中心とする現代機能の構成】 《交通と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① JR新長崎駅東口を再開発し“宇宙—太陽系—地球の自然—宗教—芸術—哲学—遊び—幸福—科学—経済—仕事—不確実性—私達人類の文化と文明—遺跡—私達人類と長崎地域に関する総合博物館”中核中央総合博物館を設置、私達人類の諸活動を支援する。</p>	<p>《JR鉄道輸送上の玄関口》</p> <p>長崎県都である長崎市の中核区域で在り得る。長崎市により計画され工事が進捗しているJR新長崎駅西口再開発に於ける「大規模集合交流展示施設」の運用と、計画と実施を提案し要望するJR新長崎駅東口再開発により設置する“私達人類と長崎地域に関する総合博物館”-中核中央総合博物館、並びに、遺跡等地域サテライト博物館の運用との相乗効果を期待する。</p>
2	長崎水辺の森公園一帯区域	<p>【『国際長崎遺跡公園都市』の内部公園都市 A—抽象芸術文化活動の中核区域】 《抽象芸術文化と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 長崎港と丘の景観 ② 長崎水辺の森公園 ③ 水辺のプロムナード ④ 長崎県美術館 ⑤ オペラハウス—シンフォニーホール—劇場 ⑥ 平面大型無料駐車場（—徒歩と公共交通機関による長崎地域の回遊を誘導—市街の活性化） ⑦ 長崎外国人居留地遺跡 ⑧ 長崎バンド(bund)遺跡 ⑨ 長崎市民病院 ⑩ 私達人類の現代の生活</p>	<p>[現代の都市長崎の要点 II]</p> <p>【『国際長崎遺跡公園都市』の内部公園都市 A—抽象芸術文化活動の中核区域】 《抽象芸術文化と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 長崎港と丘の景観 ② 長崎水辺の森公園 ③ 水辺のプロムナード ④ 長崎県美術館 ⑤ オペラハウス—シンフォニーホール—劇場 ⑥ 平面大型無料駐車場（—徒歩と公共交通機関による長崎地域の回遊を誘導—市街の活性化） ⑦ 長崎外国人居留地遺跡 ⑧ 長崎バンド(bund)遺跡 ⑨ 長崎市民病院 ⑩ 私達人類の現代の生活</p>	<p>《長崎港/大村空港/高速自動車道輸送上の玄関口》</p> <p>『長崎遺跡公園都市』に於ける抽象芸術文化活動発信を集積する内部公園都市としての一帯区域</p> <p>① 長崎港と丘の景観 ② 市民の憩い ③ 抽象芸術文化活動/発信その蓄積 ④ 国際文化経済都市としての活性化=長崎地域に於ける徒歩並びに公共交通機関による回遊 ⑤ 長崎市民の健康維持と療養 ⑥ 私達人類の長崎地域に於ける現代生活の充実/幸福/平和</p> <p>※ 公園地を主とする長崎県有地について、公園要素以外の営利私企業は移転を誘導し、自然環境と芸術に由来の公益公共の公園であることを専とし中核とする。</p>
3	長崎内町外町旧市街並びに近隣関連区域	<p>【『都市長崎遺跡』の中核区域】 《生活芸術文化活動と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 個別の遺跡又は遺跡群遺跡の調査と保全と再建 ② 『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』の外に隣接する長崎県警本部跡地一帯を再開発し、“宇宙—太陽系—地球の自然—宗教—芸術—哲学—遊び—幸福—科学—経済—仕事—不確実性—私達人類の文化と文明—遺跡—私達人類と長崎地域に関する総合博物館”を設置し、私達人類の諸活動を支援する。</p>	<p>[重層的な都市動線の形成]</p> <p>【『都市長崎遺跡』の中核区域】 《生活芸術文化活動と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 個別の遺跡又は遺跡群遺跡の調査と保全と再建 ② 1—①に記す“私達人類と長崎地域に関する総合博物館”を中核中央博物館とし、個別遺跡近傍等に於いて個別主題サテライト博物館/資料館を設置し、私達人類の諸活動を支援し、都市動線を誘導する。(例えば、『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』の外側に隣接する長崎県警本部跡地一帯の再開発による、神道—修験道—道教—儒教—仏教—キリスト教博物館、近代化博物館、医学博物館/資料館、海事博物館、又、近世江戸期を中心とする長崎奉行所立山役所跡の「長崎歴史文化博物館」、長崎核爆弾被爆爆心地帯の「長崎平和公園/長崎刑務所浦上刑務支所被爆遺跡公園—爆心地被爆遺跡公園」の再調査と遺跡としての再建—「長崎原爆資料館」—「原爆死没者追悼平和祈念館」—「長崎歴史民俗資料館」—「野口弥太郎美術館」—「爆心空間より展望/光点の塔(tower: tower)」の設置)</p>	<p>《旧市街に於ける歴史的構造の活用》</p> <p>旧市街に蓄積された、遺跡としての“土地の造形”、「建造物」、「土地の利用の履歴」、並びに、歴史的伝統的生活芸術哲学行為文化、の継承と保全と再建と活用、私達人類の現代の生活と一体の振興、を図る。</p>
4	桜町の長崎市庁舎—長崎市議会建物一帯 (長崎市役所—長崎市議会は魚の町に新築移転予定)	<p>[哲学学術研究とリベラルアーツ活動の拠点の形成]</p> <p>【『国際長崎遺跡公園都市』の内部公園都市 B—於長崎地域:学術研究/リベラルアーツ活動の中核区域】 《学術文化活動と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 世界各地と日本地域の複数の学術研究機関より大学サテライトキャンパスを誘致し、大学サテライト複合体キャンパスを形成して運営し、長崎地域に於ける哲学学術研究活動を促進すると共に、キャンパスのリベラルアーツとしての働きにより、超領域的に、私達人類の文化/産業/就労/交流/その他の諸活動を支援する。</p>	<p>[哲学学術研究とリベラルアーツ活動の拠点の形成]</p> <p>【『国際長崎遺跡公園都市』の内部公園都市 B—於長崎地域:学術研究/リベラルアーツ活動の中核区域】 《学術文化活動と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 世界各地と日本地域の複数の学術研究機関より大学サテライトキャンパスを誘致し、大学サテライト複合体キャンパスを形成して運営し、長崎地域に於ける哲学学術研究活動を促進すると共に、キャンパスのリベラルアーツとしての働きにより、超領域的に、私達人類の文化/産業/就労/交流/その他の諸活動を支援する。</p>	<p>《長崎地域に於ける、社会的共通資本としての、哲学学術研究活動の促進、並びに、リベラルアーツ活動の充実、私達人類の諸活動の支援》</p> <p>一帯を、櫻町—内中町—小川町である旧市街遺跡として“土地の造形”に於いて再建し、『国際長崎遺跡公園都市』に於ける、遺跡による内部公園都市とし、茲に、大学サテライト複合体キャンパスを形成し、長崎地域に於ける哲学学術研究活動を促進すると共に、リベラルアーツとしての働きにより、又、様々な機関と連携し、私達人類の個体と集団の諸般の活動を広範に支援する。</p>
※	—	—	—双頭多層型文化的都市動線形成とその経済効果—	—

# 『国際長崎遺跡公園都市構想』

一 長崎地域に於ける、遺跡の発見又は再発見と調査、保存と活用、整備と公開、再建、による、「公園都市」、現代の都市の計画、の提案と要望 一

一 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より 一

2021年(令和3年)5月25日 火曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

区域	提案と要望〈A態様〉	提案と要望〈B態様〉	備考/趣旨
I	『国際長崎遺跡公園都市構想』：地球の自然の引受け、並びに、II、III、IV、の、遺跡の発見又は再発見と調査、保存と活用、整備と公開、憶測の余地のない再建又は根拠のある再建、による、私達人類の、文化と文明、幸福と平和、遊びと生業、憩いと緊張、宇宙と太陽系のエネルギー系並びに地球の自然と私達人類の生命体としての生理に従う私達人類の活動の空間、を具現する地域生活(社会:gesellschaft)の実現、並びに、私達人類の地域(共同体:gemeinschaft)としての風土の醸成。		長崎地域を、遺跡である実態により、地球の自然と遺跡による「公園都市(数理経済学者 宇澤弘文氏の提唱する概念)」として都市計画し、行為し、顕現する。
II	『長崎先史時代-古代-中世遺跡群構想』：①約三万年前の私達人類の日本列島への到達 ②旧石器時代から新石器時代、縄文様式から弥生様式の私達人類の長崎地域に於ける生活の痕跡、遺跡 ③古代中世の私達人類の長崎地域に於ける生活の痕跡、城館の痕跡、遺跡 ④古代以来の福田氏、中世以来の肥前丹治比氏(戸町氏・永崎氏・大浦氏・矢上氏・時津氏・大串氏等)、近世以来の深堀氏、等に関する遺跡		環日本海/東シナ海交流交易圏の拠点としての長崎地域、奈良/京都/関東中央政権との関係性、私達人類の中世に於ける認識の変化、人口移動、並びに、地域社会としての長崎地域の提示を行う。
III	『長崎キリシタンの里構想』：①中世長崎地域に於ける西欧地域より来訪するキリスト者によるキリスト教の伝道 ②中世長崎地域に於ける最初の六町の町建てと近世にかけての町域の拡大 ④長崎の頭=長崎代官村山等安の提議と徳川家の公儀による慶長十年(1605年)の長崎換地により成立する、長崎内町と外町と属邑を一体とする、又は、長崎代官支配の外町と属邑を一体とする地域に於けるキリシタンの生活とその地域関係性の確立 ⑤十一箇所の教会、並びに、ミゼリコルディア、聖ラザロ病院、サンチャゴ病院 ⑥日本地域各地に拡散する西欧地域に由来する文明とその定着 ⑦現代の長崎地域の風土/文化の形態の起源となる筈の村山等安の事績の再確認、村山等安記念祭の実施、1614年5月(慶長十九年)長崎のキリシタン聖行列(アビラ・ヒロン『日本王国記』、等)の再現-その形態は「長崎くんち」に近似と仮定 (○慶長十九年四月二日(1614年5月9日)この日から20日間わたり、キリシタン行列をなして長崎の街を練り歩く(幕府の迫害に対するデモンストレーション)(1614年5月9日から行われたキリシタン行列のときには、代官村山等安兼シユスタは、両手に十字架聖牌をさげ、腕から綱を荒縄でしばり、頭には茨の冠をかむって素足で歩いた。最後の日には、等安みずからこれに参加した。この行列はサン・アウグスチノ教会を出発し、町内各地の教会を一巡するもので、参加者は数千人に及んだ。また、数々の信徒が沿道に立って祈ったといわれ、全町あげての幕府に対するレジスタンスであった)〔行列通過町名〕○古川町-○本組屋町-○島原町-○文知町-○外浦町-○大村町-○本博多町-○興善町-○豊後町-○小川町-○上町-○新組屋町-○大工町-○魚町(○印は外町)このころには、外町も大いに拡大(開港史))		長崎の内町外町、並びに、長崎の頭=長崎代官村山等安の提議と徳川家の公儀による長崎換地により成立する長崎代官支配の外町と属邑を一体として、日本地域に広域に拡散するキリシタンの里/都市/西欧地域に由来する文明の中核地域と仮定し、情報収集、研究、遺跡の調査と提示、情報発信、催事、人士の交流、を行う。
IV	『都市長崎遺跡構想』：①中世長崎地域に於ける最初の六町の町建ての遺跡 ②中世日本地域に成立する戦国大名城下又は物流通商交易に由来する自治都市としての性格の遺跡 ③中世近世長崎内町外町旧市街遺跡と属邑田園地帯並びに関連拠点地域とその変遷の遺跡 ④近世末近代都市長崎としての変遷の遺跡 ⑤長崎核爆弾被爆遺跡 ⑥アジア太平洋戦争後の現代の復興の遺跡 ⑦現代昭和期高度経済成長と安定の遺跡 ⑧現代平成令和期へ至る遺跡 ⑨私達人類の現代の生活=未来への遺跡遺産の可能性としての現代の蓄積		日本地域に於ける中世自治都市としての長崎地域の都市的性格の始まりと近世、近代、現代への推移の提示を行う。
a	『長崎の丘-帯先史時代-中世遺跡群遺跡』：①古来、長崎の丘-帯は、長崎内港の停泊地として、豊かな自然に恵まれ、私達人類にとって重要な生活地帯であった可能性 ②古来、長崎地域の海岸地帯に位置する長崎の丘は、長崎地域の葬送の地であった可能性 ③古来、長崎の丘は、環日本海/東シナ海交流交易の拠点、停泊地であり、中国地域の人々韓国地域の人々等の居住のあった可能性-肥前森崎に後その一族が大分府内に移った中国系張氏一族が居住したと研究される		古来の日本の文化と文明に於ける、長崎地域の性格、長崎地域に於ける長崎の丘の性格の実態の把握とその提示を行う。
b	『中世本尾城-近世庄屋高谷氏居館-近代浦上天主堂-近世近代石神の石切場-帯遺跡群遺跡』：一帯の、中世、近世、近代、現代への連続と断絶、遺跡としての、発見並びに再発見と発掘等調査、保存と活用、整備と公開、「土地の造形」を基盤とする、憶測の余地のない再建、根拠のある再建、による遺跡の提示の実施。		長崎地域に於ける、中世から近世、近代の状況、又、長崎核爆弾被爆、の実態の把握とその提示を行う。
c	『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』：①『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』の遺跡の遺跡としての実態と空間の提示 ②『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』の外側に隣接する長崎県警察本部跡地一帯の再開発、遺跡地との高架広場による私達人類の活動の空間の接続、博物館/資料館等説明施設設置による私達人類の諸活動の支援 ③築地遺跡の提示 ④大波止遺跡の提示と長崎くんちに於ける大波止御旅所の回復 ⑤飲食機能等は、原則、隣接近隣市街の市民業務で提供する。		『都市長崎遺跡』の中核区域、日本地域の中世近世に於ける西欧地域由来の文明の移入、同近世に於ける近代への具体的取り組みの遺跡、としての提示を行う。
d	『桜町地区遺跡群』：①肥前丹治比氏である長崎氏の根拠都市の機能地域としての長崎の丘 ②西洋式城塞都市として(二ノ堀遺跡、三ノ堀遺跡、一帯の「土地の造形」~旧内町地区と旧外町地区の「土地の造形」に於ける形態の差異) ③中世末期から近世初期の切支丹遺跡として(サンフランシスコ教会) ④近世の都市遺跡として(二ノ堀遺跡、三ノ堀遺跡、一帯の「土地の造形」、町家、「籠屋舗」(牢屋敷:サンフランシスコ教会跡)) ⑤近代の都市遺跡(長崎区役所-長崎市役所(町年寄 高嶋家跡一帯)遺跡、桜町囚獄-長崎本獄-長崎監獄-長崎西彼杵郡役所(籠屋舗(牢屋敷:サンフランシスコ教会跡)遺跡、長崎税務監督局-長崎税務署-長崎商業会議所-長崎商工会議所、長崎原爆被災遺跡) ⑥現代の都市遺跡(桜町の立体交差「桜橋」、長崎市役所、長崎商工会議所)		長崎地域の中世-近世-近代への連続性と現代への断絶の実態の把握と提示を行う。
e	『長崎近世外港内港海防遺跡群』：①徳川家の公儀、長崎奉行所、並びに、諸藩の屋敷、船泊遺跡 ②複数の遠見番所等警固遺跡 ③複数の烽火台遺跡 ④複数の台場等遺跡群遺跡 ⑤佐賀藩高島の炭鉱遺跡群遺跡 ⑥以上遺跡群の発見並びに再発見と発掘等調査、保存と活用、整備又は公開、再建		日本地域又は長崎地域に於ける、近世の海防への具体的取り組みの実態の把握と提示を行う。
f	『長崎製鉄所等遺跡群遺跡』：①長崎製鉄所遺跡 ②岩瀬道修船架築造遺跡 ③立神軍艦打建所築造遺跡 ④小菅修船場遺跡 ⑤以上遺跡群の発見又は再発見と発掘等調査、保存と活用、整備又は公開、憶測の余地のない再建又は根拠のある再建		日本地域に於ける、近代西洋文明への具体的取り組みの実態の把握と提示を行う。
g	『小菅根築地遺跡』：①遺跡の遺跡としての発掘等調査と実態と空間の提示 ②個別主題の博物館設営の可能性の検討 ③遺跡としての「夕顔丸」船着場等公共交通機関の結節点としての「土地の利用の履歴」に由来する土地の活用の可能性の検討		長崎地域に於ける、近代社会への具体的取り組みの実態の把握と提示を行う。
h	『養生所/(長崎)医学校等遺跡』並びに『長崎病院遺跡』：①長崎市立仁田佐古小学校の旧長崎市立仁田小学校の土地と施設に於ける運営 ②遺跡の遺跡としての発掘等調査の拡張 ③長崎地域の学芸文化の証徴として、遺跡の遺跡としての調査並びに資料に基づく、憶測の余地のない再建、並びに、根拠ある再建、による遺跡の回復 ④長崎市立仁田佐古小学校の施設の、旧医学校、研究機関、一般病院、梅毒病院である遺跡としての「土地の利用の履歴」に由来する、新型コロナウイルス等感染症対応、療養施設、研究機関、としての転用、並行して、漸次、遺跡の回復 ⑤一帯の土地、近世近代旧道、畑地、建物、建造物の遺跡としての発見並びに再発見と発掘等調査、保存と活用、整備と公開、提示の実施 ⑥長崎市の「長崎(小島)養生所跡資料館」の、遺跡等地域サテライト博物館/資料館としての発展的継承		日本地域に於ける近代西洋医学への具体的取り組みの実態の把握と提示を行う。 一帯土地の近世近代遺跡としての発見並びに再発見と発掘等調査、保存と活用、変遷その実態の提示、又は、土地の利用の履歴に由来する土地の活用を行う。
i	『長崎核爆弾被爆遺跡』：①公園地、教育機関、河川、道路等公共用地又はその性格を有する土地に於ける、遺跡としての発掘調査と遺跡の提示、又は、根拠ある再建、遺骨搜索収容供養提示 ②大規模再開発の計画に於ける、遺跡としての発掘等調査と遺跡の提示、遺骨搜索収容供養提示 ③遺跡の遺跡としての実態と空間の提示、その内容と範囲の拡張、遺骨搜索収容供養提示、並行して、被爆遺跡による公園都市として存在し得る長崎地域とその土地の活用の在り方の再検討。		日本地域に於ける近代の終焉、長崎核爆弾被爆の痕跡の実態把握と提示、遺骨収容提示、被爆の実相とその範囲の提示を目的とし、内容と範囲の拡張を行う。
○	私達人類の、長崎地域に於ける現代の生活を、宇宙と太陽系のエネルギー系、地球の自然、私達人類の生命体としての生理、並びに、私達人類の世界に於ける世界的な水準とグローバルな関係性、に於いて維持し、以って、長崎地域-九州・沖縄・山口・山陰地域-四国・関西・中部地域-北陸・関東・東北地域-北海道地域-日本地域-グローバルにあって、相乗的に地域振興する。		

## I. 『国際長崎遺跡公園都市構想』

### 1. “遺跡についてXXVII”

(2021年(令和3年)5月30日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭)

# “遺跡についてXXVII”

## 『国際長崎遺跡公園都市構想について』

大文字の文化(カルチャー:Culture)から小文字の文化(カルチャー:culture、又は、cultures)へ、～“主体”～、私達人類の個体に於ける間や遊びや飾り、～“文明”～、主体としての大きな機械(原動機:エンジン:engine)から、介添えとしての小さな機械(原動機:エンジン:engine)へ

私達当会は、私達当会が、皆様に、提案し要望する『国際長崎遺跡公園都市構想』が、そんな、私達人類の、私達人類の世界の過去一近代と現代一から現在と未来へ向かう転換を、後押しすることができる、と確信します。

私達人類の個体の充実と幸福と私達人類の平和へ

脱近代、真のポスト-モダン(post-modern)へ

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り届けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 追跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)5月30日 日曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# “遺跡についてXXVIII”

『私達人類にとっての現代の事象である遺跡』

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、私達人類にとって、遺跡たる事象が、共時的通時的に、常に、現代の事象である処、遺跡を鑑賞し経験する私達人類にとっての価値や意義や意味や必然は、第一義に、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体の固有に委ねられた価値や意義や意味や必然でなければならない、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、私達人類の一部の個体や集団が、当該の遺跡にあって、任意に、様々な事象を付加し、又は、任意に、様々な事象を削減し、依って、任意に、様々な遺跡を規定することがあってはならない、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体が、自由に、当該の遺跡を契機として、又は、当該の遺跡に由来する、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体に固有の、価値や意義や意味や必然を発見し、又は、獲得することを、補佐し得る可能性がある、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、私達人類が、遺跡を、遺跡としてあるがままの、又は、遺跡としての必然である、遺跡としての具象、並びに、当該の遺跡に関する、遺跡としての様々な有意性を包摂する可及的に広範な空間、を、私達人類に、提示し、且つ、遺跡以外の局面を運用し、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体が、自由に、当該の遺跡を契機として、又は、当該の遺跡に由来する、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体に固有の、価値や意義や意味や必然、を発見し、又は、獲得することを、補佐し得る可能性に挑戦すること、を提案し要望します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)6月1日 火曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

題名

## 浦上発 19 時 50 分

(ミネルヴァの梟は、黄昏になってようやくここを飛び立つ)

作者

小林充雄

(1939年山梨県生まれ)

.....

### 19 時 50 分あるいは現代美術オタクのエクリチュール

#### 芸術は世界認識の方法、作品はその装置

作品は作者の個人的な都合で世に生み出されるわけだが、作者の手を離れて美術の制度（美術館や画廊など）の中に置かれることでメディア化される。そのときから、作品は作者の経験と存在を凌駕して自ら自立した存在となり、社会の構造の中に組み入り、解説装置と成ってテキストとして他者に「読まれるもの」となる。このように、作者ではなく「作品を読む人」が主体となる芸術作品のテキスト化を、ロラン・バルト、ミシェル・フーコー、ウンベルト・エーコらは「作者は死んだ」と言った。

作品のテキスト化は 1960 年代から今日に至る概念化した現代美術において特に顕著だ。そのために作品解説には美術史的、哲学的、社会学的、精神分析的、構造主義的、ポスト構造主義的方法等々を縦横に駆使して作品を読み解釈し、その意味の「創造的発見」を企てようとするのが、芸術というものに関わろうとする私の態度だ。そして、その企ての意志は芸術の認識から世界の認識へと定向進化するのである。

#### 作者と作品の解釈

見る側の人間が作品を介して作者と出会い、彼や彼女の個人的な趣味に感動したからといって、ただ見る

だけでは作品の理解あるいは解釈はできない。うまくいっても、それはせいぜい作者の琴線に触れる程度のことだろう。感動することと、作品の解釈は別物だ。今日がバルト、フーコー、エーコらが言う「作者は死んだ」時代であるならば、作品を読み、解釈して、その意味と芸術的価値を決定する主体は作品を見る側にある。それゆえに、モノサシのない現代美術の鑑賞にはさまざまな読みと解釈があって、そのことによる意味と価値をめぐる数多くの激しい論争が起こった事例は美術史の教えるところである。しかし考えてみれば、これこそがまさに現代美術固有の表現(鑑賞)あるいは関わり方というものであろう。

作者の役割は芸術と世界に関するもろもろの問題提起であって、予定調和的に答えを提示するものではない。バルト、フーコー、エーコらに「作者は死んだ」と言わしめた今日、見る側は作者に答えを求めるべきではないだろう。言うまでもないことだが、現代美術の作者は答えを出さない。否、出しようがないのだ。だから作者は作品を世界に向かって投企するのである。このため、作品は未知の構造と認識の可能性を孕んだまま完成し、作者の手を離れると同時に、投企されたものとして自らの運命を世界にゆだねるのである。マルセル・デュシャンが、作品の意味あるいは傑作は「後からやってきた者、つまり見る者よってつくられる」と言ったのはそういうことであつたのだ。そういえば、日本における初のデュシャン展(1981年・高輪美術館)のタイトルは、「反芸術ダダの巨匠・見るひとが芸術をつくる展」だった。

#### 作品の本質と存在

いくら完璧な芸術作品と呼ばれても、作品には本質といわれるものはない。作品は世界に投企されたがゆえに、本質よりも存在が先立ってそこに在るだけであり、作品の意味や価値やはその後に生まれる。近代およびそれ以前の芸術は、作者と作品は一体化して作品の主体は常に作者の側にあつた。だから作品鑑賞は、作品を通して作者の人間性にアウラを見るものであつた。しかし、今日そのような作者中心主義的な作品鑑賞には、言わずもがな芸術のリアルも時代のリアリティーもない。

もう一度言っておこう。作品の意味と価値は、作者によって表現されたものと、作品から生み出されるそれとは同じではないということ。

作者は答えを出す人ではなく、今までにはなかった「新しい問題」を提起する人。

作品は作者の手によって生み出されるわけだが、それが世界に投企された以上は、作品の意味と芸術的価値を決定する役割は、それをつくった作者ではなく、デュシャンのいう「後からやってきた者」、要するにそれを「見る人」のほうにあるのだ。

ミネルヴァの乗は、迫りくる夕闇 19時50分によくここを飛び立つ。

2012年12月20日

小林 充雄(ジャズ、現代美術・現代アート、哲学・現代思想オタク)



## 鑑賞者の創造的営為

### (1) 創造的営為：：マルセル・デュシャン

これは全米美術連盟総会(テキサス州ヒューストン、1957年4月)における、創造的営為に関する討論会での講演。

いずれにせよ、創造的営為は芸術家のみによって行われるものではない。鑑賞者は作品に内在する特質を解説、解釈することによって作品を外の世界に触れさせて、創造的営為に貢献をはたす。後世が作品の最終的な判断をくだすとき、またときには忘れられた芸術家を復権させるとき、このことがさらにいっそうあきらかになるだろう。

「マルセル・デュシャン」 カルヴィン・トムキンス 著 木下哲夫 訳 2003年1月 みすず書房

### (2) 抽象画に対して、われわれのとるべき態度：：ハインリヒ・リュツェラー

どのような抽象画もわれわれをさまざまな省察へ導く。・・・その際それらの抽象画は多義性を包蔵している。それらは、対応してくる観者の差異に応じて、その意味が変化する。

もとよりそれらは勝手気ままに変化するのではなく、ただその枠内でのみ、一定の範囲内でのみ意味変化する。しかし観者が自己の主観のみの注釈でもしよものなら、たちまちそれらは、その形態によってこれを拒絶する。ある種の線、面、色彩などが、突如もはや説明されえないものとなり絵の特色は脱落して、顧みられなくなるだろう。それは、観者の事実とそぐわない解釈には、絵が適応しないからである。

「抽象絵画 意味と限界」 ハインリヒ・リュツェラー 著 西田秀穂 訳 1973年8月 美術出版社

### (3) 開かれた作品の出現：：アメリア・アレナス

作品の意味は作者の責任外の問題である。意味は、人々が作品を見るという行為を通じて作品と行うコミュニケーションによって、作品に付加されるものである。

・・・だからこそ、「アーティストは何をいいたいのか」というよりは、「この作品は何を意味するのか」というほうがより適切な問いだといえる。作品がどれほど美しかろうが、技術的にいかにすばらしかろうが、あるいはオリジナリティーがどれほど備わっていようが、作品にとって重要なのは、作者の意図がいかに表現されているかではなく、結果的にどれほど鑑賞者の意図をひきだせるかということなのである。

「なぜ、これがアートなの」 アメリア・アレナス 著 福のり子 訳 1998年8月 淡交社

### (4) 芸術の知恵：：ロラン・バルト

作品が、実際は、細かな計算の結果であるかどうかはたいした問題ではない。大事なのは偶然の効果である。・・・私(画家)は自分が何をしているかは知っているが、何を生み出

すかはしらない。

絵の主体はそれを見る人でもある。見る者を呼び寄せ、引きつけ、見る者は絵に合体しようとする。それを美的に消費するためにはなく、自分がそれを再生産するためにである。絵を見る主体は多様であり、主体が内的に持つ言述は、主体のさまざまなタイプに左右される。

「美術論集」 ロラン・バルト 著 沢崎浩平 訳 1986年7月 みすず書房

(6) 芸術作品と芸術家：：ワリシー・カンディンスキー

真の芸術作品は、秘密にみちた、謎めいた、神秘的な方法で、芸術家によって生み出される。しかし芸術家の手を離れると、作品は独立の生命をえて人格となり、精神的に呼吸する独立した主体となって物質的に現実生活をも営む、それは一つの生物なのだ。それは、さりげなく偶然に生まれた、精神生活のうちにあって取るに足らぬものとして存続する現象ではなく、むしろ、あらゆる生物と同じように、さらに創造し続ける能動的な力をそなえているものである。

「抽象芸術論・・芸術における精神的なもの・・」 ワリシー・カンディンスキー 著 西田 秀穂 訳 1958年2月 美術出版社

(7) タブローは、それを観る者によってしか存在しない：：パブロ・ピカソ

タブローは、あらかじめ構想され固定化されるものではない。制作の途上で、作品は思考の働きに従って変化している。完成後も、作品は観る者の状態に従って変化する。タブローはひとつの生ける存在であるかのように己の人生を生き、日常生活が我々に強い変化を同じように被っているのである。タブローはそれを観るものによってしか存在しえないのであるから、これは当然のことだろう。

「ピカソとの生活」 フランソワーズ・ジロー／カールトン・レイク 著 瀬木慎一 訳 1965年 新潮社 (ピカソのこの言葉は1944年のある議論の中での発言と報告されている)。

(8) アーティストは、それぞれの時代とコンテクストにおいて、見る側の人々と共有する芸術理論を頼りに何ものかを美術として創造するのだ。：：アーサー・ダントー

「でも、これがアートなの？」 シンシア・フリーランド 著 藤原 訳 2007年  
ブリュッケ

(9) 以上は、美術教師OK氏の祝作品への批判、「意味のないつまらない絵」のコメントへの反批判のマテリアル。ここは、デュシャンの言う鑑賞者の「創造的営為」の働きができないOK氏の発言のほうこそ、「意味のないつまらないコメント」と言うべき。  
KTNギャラリー 祝利恵子展によせて。

小林 充雄

## “遺跡についてX X IX”

### 『遺跡が本物であると云うこと』

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、遺跡が、遺跡に附随する、本物であるという特性（共時的且つ通時的な真正性且つ特異性）の故に、私達人類は、当該の遺跡に於いて、信頼の念を生起し、感嘆を生起し、喜びを生起し、又、当該の事象は、私達人類の感興と興味に、応えることが可能となる、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、私達人類が、遺跡を、遺跡としてあるがままの、又は、遺跡としての必然である、遺跡としての具象、並びに、当該の遺跡に関する、遺跡としての様々な有意性を包摂する可及的に広範な空間、を、私達人類に、提示すること、を提案し要望します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを汲みとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)6月2日 水曜日

養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# “遺跡についてXXX”

## 『遺跡たる事象と私達人類、又、私達人類の遺跡の活用』

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、遺跡が、私達人類の、破壊、忘却、並びに、様々な経緯による、その土地への埋納により、私達人類の世界に於ける共時的通時的な連続性を断絶し、自ずから、宇宙、又は、私達人類の世界に投企された事象である、と認識します。

私達当会は、遺跡について、遺跡には本質といわれるものはない、遺跡は、宇宙、又は、私達人類の世界に投企されているがゆえに、本質よりも存在が先立ってそこに在るだけであり、遺跡の私達人類にとっての価値や意義や意味や必然は、その後に来る、その遺跡に於ける歴史上の関係者と関係する事象の役割は宇宙と私達人類の世界に関わるもろもろの問題提起であって、予定調和的に答えを提示するものではない、遺跡は、未知の構造と認識の可能性を孕んだまま完成しているものであり、歴史上のその関係者と関係する事象の手を離れると同時に投企された事象として、自らの運命を宇宙と私達人類の世界にゆだねるのである、と確信します。

私達当会は、遺跡について、遺跡は、その遺跡に於ける歴史上の関係者と関係する事象によって生み出されるわけだが、それが宇宙又は私達人類の世界に投企された以上は、私達人類にとっての遺跡の価値と意義と意味と必然を決定する役割は、それをつくったその遺跡に於ける歴史上の関係者と関係する事象ではなく、マルセル・デュシャンのいう「後からやってきた者」、要するにそれを「見る人」のほうにあるのだ、と確信します。

私達当会は、わが国における初のデュシャン展(1981年・高輪美術館)のタイトルは、「反芸術ダダの巨匠・見るひとが芸術をつくる展」だった、と認識します。

私達当会は、遺跡について、私達人類は、遺跡を、受け入れ、受け取らなくてはならない、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡たる事象に関して、遺跡を、遺跡の存在として、投企された事象としての、そのあるがままの具象、並びに、当該の遺跡に附随する空間、を、私達人類に、提示すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、遺跡が、私達人類の、詩文、詩歌、音楽、芸術、並びに、哲学、遊び、－私達人類の存在、と近似している、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡たる事象に関して、遺跡を、私達人類の、歴史並びに学術に於いて、認識し、且つ、遺跡を、私達人類の、詩文、詩歌、音楽、芸術、並びに、哲学、遊び、－私達人類の存在、に於いて、活用すること、を提案し要望します。

参考資料：『作品 浦上発 19時50分 作者 小林充雄(1939年山梨県生まれ) 19時50分あるいは現代美術オタクのエクリチュール 2012年12月20日 小林充雄(ジャズ・現代美術・現代思想オタク)』

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)6月3日 木曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# 『国際長崎遺跡公園都市構想』

一 長崎地域に於ける、遺跡の発見又は再発見と調査、保存と活用、整備と公開、再建、による、「公園都市」、現代の都市の計画、の提案と要望 一

一 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より 一

2021年(令和3年)5月25日 火曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

区域	提案と要望〈A態様〉	提案と要望〈B態様〉	備考/趣旨
1 JR新長崎駅一帯区域		<p>【現代の都市長崎の要点Ⅰ】</p> <p>【JR新長崎駅を中心とする現代機能の構成】</p> <p>《交通と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① JR新長崎駅東口を再開発し“宇宙-太陽系-地球の自然-宗教-芸術-哲学-遊び-幸福-科学-経済-仕事-不確実性-私達人類の文化と文明-遺跡~私達人類と長崎地域に関する総合博物館”中核中央総合博物館を設置、私達人類の諸活動を支援する。</p>	<p>《JR鉄道輸送上の玄関口》</p> <p>長崎県都である長崎市の中核区域で在り得る。長崎市により計画され工事が進捗しているJR新長崎駅西口再開発に於ける「大規模集合交流展示施設」の運用と、計画と実施を提案し要望するJR新長崎駅東口再開発により設置する“私達人類と長崎地域に関する総合博物館”-中核中央総合博物館、並びに、遺跡等地域サテライト博物館の運用との相乗効果を期待する。</p>
2 長崎水辺の森公園一帯区域	<p>【『国際長崎遺跡公園都市』の内部公園都市 A-抽象芸術文化活動の中核区域】</p> <p>《抽象芸術文化と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 長崎港と丘の景観 ② 長崎水辺の森公園 ③ 水辺のプロムナード ④ 長崎県美術館 ⑤ オペラハウス-シンフォニーホール-劇場 ⑥ 平面大型無料駐車場(一 徒歩と公共交通機関による長崎地域の回遊を誘導 - 市街の活性化) ⑦ 長崎外国人居留地遺跡 ⑧ 長崎バンド(bund)遺跡 ⑨ 長崎市民病院 ⑩ 私達人類の現代の生活</p>	<p>【現代の都市長崎の要点Ⅱ】</p> <p>【『国際長崎遺跡公園都市』の内部公園都市 A-抽象芸術文化活動の中核区域】</p> <p>《抽象芸術文化と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 長崎港と丘の景観 ② 長崎水辺の森公園 ③ 水辺のプロムナード ④ 長崎県美術館 ⑤ オペラハウス-シンフォニーホール-劇場 ⑥ 平面大型無料駐車場(一 徒歩と公共交通機関による長崎地域の回遊を誘導 - 市街の活性化) ⑦ 長崎外国人居留地遺跡 ⑧ 長崎バンド(bund)遺跡 ⑨ 長崎市民病院 ⑩ 私達人類の現代の生活</p>	<p>《長崎港/大村空港/高速自動車道輸送上の玄関口》</p> <p>『国際長崎遺跡公園都市』に於ける抽象芸術文化活動発信を集積する内部公園都市としての一帯区域</p> <p>① 長崎港と丘の景観 ② 市民の憩い ③ 抽象芸術文化活動/発信その蓄積 ④ 国際文化経済都市としての活性化=長崎地域に於ける徒歩並びに公共交通機関による回遊 ⑤ 長崎市民の健康維持と療養 ⑥ 私達人類の長崎地域に於ける現代生活の充実/幸福/平和 ※ 公園地を主とする長崎県有地について、公園要素以外の営利私企業は移転を誘導し、自然環境と芸術に由来の公益公共の公園であることを専とし中核とする。</p>
3 長崎内町外町旧市街並びに近隣関連区域	<p>【『都市長崎遺跡』の中核区域】</p> <p>《生活芸術文化活動と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 個別の遺跡又は遺跡群遺跡の調査と保全と再建 ② 『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』の外に隣接する長崎県警本部跡地一帯を再開発し、“宇宙-太陽系-地球の自然-宗教-芸術-哲学-遊び-幸福-科学-経済-仕事-不確実性-私達人類の文化と文明-遺跡~私達人類と長崎地域に関する総合博物館”を設置し、私達人類の諸活動を支援する。</p>	<p>【重層的な都市動線の形成】</p> <p>【『都市長崎遺跡』の中核区域】</p> <p>《生活芸術文化活動と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 個別の遺跡又は遺跡群遺跡の調査と保全と再建 ② 1-①に記す“私達人類と長崎地域に関する総合博物館”を中核中央博物館とし、個別遺跡近傍等に於いて個別主題サテライト博物館/資料館を設置し、私達人類の諸活動を支援し、都市動線を誘導する。(例えば、『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』の外側に隣接する長崎県警本部跡地一帯の再開発による、神道一修験道一道教一儒教一仏教一キリスト教博物館、近代化博物館、医学博物館/資料館、海事博物館、又、近世江戸期を中心とする長崎奉行所立山役所跡の「長崎歴史文化博物館」、長崎核爆弾被爆爆心地帯の「長崎平和公園/長崎刑務所浦上刑務支所被爆遺跡公園-爆心地被爆遺跡公園」の再調査と遺跡としての再建-「長崎原爆資料館」-「原爆死没者追悼平和祈念館」-「長崎歴史民俗資料館」-「野口弥太郎美術館」-「爆心空間より展望/光点の塔(タワー:tower)」の設置)</p>	<p>《旧市街に於ける歴史的構造の活用》</p> <p>旧市街に蓄積された、遺跡としての“土地の造形”、「建造物」、「土地の利用の履歴」、並びに、歴史的伝統的生活芸術哲学行為文化、の継承と保全と再建と活用、私達人類の現代の生活と一体の振興、を図る。</p>
4 桜町の長崎市庁舎-長崎市議会建物一帯 (長崎市役所-長崎市議会は魚の町に新築移転予定)	<p>【哲学学術研究とリベラルアーツ活動の拠点の形成】</p> <p>【『国際長崎遺跡公園都市』の内部公園都市 B-長崎地域学術研究/リベラルアーツ活動の中核区域】</p> <p>《学術文化活動と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 世界各地と日本地域の複数の学術研究機関より大学サテライトキャンパスを誘致し、大学サテライト複合体キャンパスを形成して運営し、長崎地域に於ける哲学学術研究活動を促進すると共に、キャンパスのリベラルアーツとしての働きにより、超領域的に、私達人類の文化/産業/就労/交流/その他の諸活動を支援する。</p>	<p>【哲学学術研究とリベラルアーツ活動の拠点の形成】</p> <p>【『国際長崎遺跡公園都市』の内部公園都市 B-長崎地域学術研究/リベラルアーツ活動の中核区域】</p> <p>《学術文化活動と都市動線と情報の結節、集積と分配》</p> <p>① 世界各地と日本地域の複数の学術研究機関より大学サテライトキャンパスを誘致し、大学サテライト複合体キャンパスを形成して運営し、長崎地域に於ける哲学学術研究活動を促進すると共に、キャンパスのリベラルアーツとしての働きにより、超領域的に、私達人類の文化/産業/就労/交流/その他の諸活動を支援する。</p>	<p>《長崎地域に於ける、社会的共通資本としての、哲学学術研究活動の促進、並びに、リベラルアーツ活動の充実、私達人類の諸活動の支援》</p> <p>一帯を、桜町一内中町-小川町である旧市街遺跡として“土地の造形”に於いて再建し、『国際長崎遺跡公園都市』に於ける、遺跡による内部公園都市とし、茲に、大学サテライト複合体キャンパスを形成し、長崎地域に於ける哲学学術研究活動を促進すると共に、リベラルアーツとしての働きにより、又、様々な機関と連携し、私達人類の個体と集団の諸般の活動を広範に支援する。</p>
※		一 双頭多層型文化的都市動線形成とその経済効果一	

# 『国際長崎遺跡公園都市構想』

一 長崎地域に於ける、遺跡の発見又は再発見と調査、保存と活用、整備と公開、再建、による、「公園都市」、現代の都市の計画、の提案と要望 一

一 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より 一

2021年(令和3年)5月25日 火曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

区域	提案と要望〈A態様〉	提案と要望〈B態様〉	備考/趣旨
I	『国際長崎遺跡公園都市構想』：地球の自然の引受け、並びに、II、III、IV、の遺跡の発見又は再発見と調査、保存と活用、整備と公開、億測の余地のない再建又は根拠のある再建、による、私達人類の、文化と文明、幸福と平和、遊びと産業、憩いと緊張、宇宙と太陽系のエネルギー系並びに地球の自然と私達人類の生命体としての生理に従う私達人類の活動の空間、を具現する地域生活(社会:gesellschaft)の実現、並びに、私達人類の地域(共同体:gemeinschaft)としての風土の醸成。		長崎地域を、遺跡である実態により、地球の自然と遺跡による「公園都市(数理経済学者 宇澤弘文氏の提唱する概念)」として都市計画し、行為し、顕現する。
II	『長崎先史時代-古代-中世遺跡群構想』：①約三万年前の私達人類の日本列島への到達 ②旧石器時代から新石器時代、縄文様式から弥生様式の私達人類の長崎地域に於ける生活の痕跡、遺跡 ③古代中世の私達人類の長崎地域に於ける生活の痕跡、城館の痕跡、遺跡 ④古代以来の福田氏、中世以来の肥前丹治比氏(戸町氏・永崎氏・大浦氏・矢上氏・時津氏・大串氏等)、近世以来の深堀氏、等に関する遺跡		環日本海/東シナ海交流交易圏の拠点としての長崎地域、奈良/京都/関東中央政権との関係性、私達人類の中世に於ける認識の変化、人口移動、並びに、地域社会としての長崎地域の提示を行う。
III	『長崎キリシタンの里構想』：①中世長崎地域に於ける西欧地域より来訪するキリスト者によるキリスト教の伝道 ②中世長崎地域に於ける最初の六町の町建てと近世にかけての町域の拡大 ③長崎の頭=長崎代官村山等安の提議と徳川家の公儀による慶長十年(1605年)の長崎換地により成立する、長崎内町と外町と属邑を一体とする、又は、長崎代官支配の外町と属邑を一体とする地域に於けるキリシタンの生活とその地域関係性の確立 ④一箇所の教会、並びに、ミゼリコルディア、聖ラザロ病院、サンチャゴ病院 ⑤日本地域各地に拡散する西欧地域に由来する文明とその定着 ⑥現代の長崎地域の風土/文化の形態の起源となる善の村山等安の事績の再確認、村山等安記念祭の実施、1614年5月(慶長十九年)長崎のキリシタン聖行列(アピラ・ヒロン『日本王国記』、等)の再現 - その形態は「長崎くんち」に近似と仮定 (慶長十九年四月二日(1614年5月9日)この日から20日間にわたり、キリシタン行列をなして長崎の街を駆け回り(幕府の迫害に対するデモンストレーション)(1614年5月9日から行われたキリシタン行列のときには、代官村山等安東宮ジユスオは、両手に十字架をさき、殿から馬を荒縄でしり、頭には茨の冠をかむって赤足で歩いた。最後の日には、専攻みずからこれに参加した。この行列はサン・アウグスチノ教会を出发点、町内各地の教会を一巡するもので、参加者は数千人に及んだ。また、数々の儀仗が治道に立てて歩いたといわれ、全町あげての幕府に対するレジスタンスであった)【行列通過町名】○古町一○本郷町一○原町一○文町一○外町一○大町一○本町一○長崎町一○長崎町一○小川町一○上町一○新堀町一○大工町一○魚町(○印は外町)このころには、		長崎の内町外町、並びに、長崎の頭=長崎代官村山等安の提議と徳川家の公儀による長崎換地により成立する長崎代官支配の外町と属邑を一体として、日本地域に広域に拡散するキリシタンの里/都市/西欧地域に由来する文明の中核地域と仮定し、情報収集、研究、遺跡の調査と提示、情報発信、催事、人士の交流、を行う。
IV	『都市長崎遺跡構想』：①中世長崎地域に於ける最初の六町の町建ての遺跡 ②中世日本地域に成立する戦国大名城下又は物流通商交易に由来する自治都市としての性格の遺跡 ③中世近世長崎内町外町旧市街遺跡と属邑田園地帯並びに関連拠点地域とその変遷の遺跡 ④近世近代都市長崎としての変遷の遺跡 ⑤長崎核爆弾被爆遺跡 ⑥アジア太平洋戦争後の現代の復興の遺跡 ⑦現代昭和期高度経済成長と安定の遺跡 ⑧現代平成令和期へ至る遺跡 ⑨私達人類の現代の生活=未来への遺跡遺産の可能性としての現代の蓄積		日本地域に於ける中世自治都市としての長崎地域の都市的性格の始まりと近世、近代、現代への推移の提示を行う。
a	『長崎の丘-先史時代-中世遺跡群遺跡』：①古来、長崎の丘-一帯は、長崎内港の停泊地として、豊かな自然に恵まれ、私達人類にとって重要な生活地帯であった可能性 ②古来、長崎地域の海岸地帯に位置する長崎の丘は、長崎地域の葬送の地であった可能性 ③古来、長崎の丘は、環日本海/東シナ海交流交易の拠点、停泊地であり、中国地域の人々韓国地域の人々等の居住のあった可能性 - 肥前森崎に後その一族が大分府内に移った中国系張氏一族が居住したと研究される		古来の日本の文化と文明に於ける、長崎地域の性格、長崎地域に於ける長崎の丘の性格の実態の把握とその提示を行う。
b	『中世本尾城-近世庄屋高谷氏居館-近代浦上天主堂-近世近代石神の石切場-遺跡群遺跡』：一帯の、中世、近世、近代、現代への連続と断絶、遺跡としての、発見並びに再発見と発掘等調査、保存と活用、整備と公開、“土地の造形”を基盤とする、億測の余地のない再建、根拠のある再建、による遺跡の提示の実施。		長崎地域に於ける、中世から近世、近代の状況、又、長崎核爆弾被爆、の実態の把握とその提示を行う。
c	『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』：①『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』の遺跡の遺跡としての実態と空間の提示 ②『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡』の外に隣接する長崎県警察本部跡地一帯の再開発、遺跡地と高架広場による私達人類の活動の空間の連続、博物館/資料館等説明施設設置による私達人類の諸活動の支援 ③築地遺跡の提示 ④大波止遺跡の提示と長崎くんちに於ける大波止御旅所の回復 ⑤飲食機能等は、原則、隣接近隣市街の市民業務で提供する。		『都市長崎遺跡』の中核区域、日本地域の中世近世に於ける西欧地域由来の文明の移入、同近世に於ける近代への具体的取り組みの遺跡、としての提示を行う。
d	『桜町地区遺跡群』：①肥前丹治比氏である長崎氏の根拠都市の機能地域としての長崎の丘 ②西洋式城塞都市として(二ノ堀遺跡、三ノ堀遺跡、一帯の“土地の造形”~旧内町地区と旧外町地区)に於ける形態の差異 ③中世末期から近世初期の切支丹遺跡として(サンフランシスコ教会) ④近世の都市遺跡として(二ノ堀遺跡、三ノ堀遺跡、一帯の“土地の造形”、町家、「籠屋舗」(牢屋敷:サンフランシスコ教会跡)) ⑤近代の都市遺跡(長崎区役所-長崎市役所(断年寄 高嶋家跡一帯)遺跡、桜町四獄-長崎本獄-長崎監獄-長崎西彼村郡役所(籠屋舗(牢屋敷:サンフランシスコ教会跡)遺跡、長崎税務監督局-長崎税務署-長崎商業会議所-長崎商工会議所、長崎原爆被災遺跡) ⑥現代の都市遺跡(桜町の立体交差「桜橋」、長崎市役所、長崎商工会議所)		長崎地域の中世-近世-近代への連続性と現代への断絶の実態の把握と提示を行う。
e	『長崎近世外港内港海防遺跡群』：①徳川家の公儀、長崎奉行所、並びに、諸藩の屋敷、船泊遺跡 ②複数の遠見番所等警固遺跡 ③複数の烽火台遺跡 ④複数の台場等遺跡群遺跡 ⑤佐賀藩高島の炭鉱遺跡群遺跡 ⑥以上遺跡群の発見並びに再発見と発掘等調査、保存と活用、整備又は公開、再建		日本地域又は長崎地域に於ける、近世の海防への具体的取り組みの実態の把握と提示を行う。
f	『長崎製鉄所等遺跡群遺跡』：①長崎製鉄所遺跡 ②岩瀬造船修船架築造遺跡 ③立沖軍艦打建所架築造遺跡 ④小首修船場遺跡 ⑤以上遺跡群の発見又は再発見と発掘等調査、保存と活用、整備又は公開、億測の余地のない再建又は根拠のある再建		日本地域に於ける、近代西洋文明への具体的取り組みの実態の把握と提示を行う。
g	『小曾根築地遺跡』：①遺跡の遺跡としての発掘等調査と実態と空間の提示 ②個別主題の博物館設営の可能性の検討 ③遺跡としての「夕顔丸」船着場等公共交通機関の結節点としての「土地の利用の履歴」に由来する土地の活用の可能性の検討		長崎地域に於ける、近代社会への具体的取り組みの実態の把握と提示を行う。
h	『養生所/(長崎)医学校等遺跡』並びに『長崎病院遺跡』：①長崎市立仁田古小学校的旧長崎市立仁田小学校的土地と施設に於ける運営 ②遺跡の遺跡としての発掘等調査の拡張 ③長崎地域の学芸文化の証徴として、遺跡の遺跡としての調査並びに資料に基づき、億測の余地のない再建、並びに、根拠ある再建、による遺跡の回復 ④長崎市立仁田古小学校的施設の、旧医学校、研究機関、一般病院、梅毒病院である遺跡としての「土地の利用の履歴」に由来する、新型コロナウイルス等感染症対応、療養施設、研究機関、としての転用、並行して、漸次、遺跡の回復 ⑤一帯の土地、近世近代旧道、畑地、建物、建造物の遺跡としての発見並びに再発見と発掘等調査、保存と活用、整備と公開、提示の実施 ⑥長崎市の「長崎(小島)養生所跡資料館」の、遺跡等地域サテライト博物館/資料館としての発展的継承		日本地域に於ける近代西洋医学への具体的取り組みの実態の把握と提示を行う。一帯土地の近世近代遺跡としての発見並びに再発見と発掘等調査、保存と活用、変遷その実態の提示、又は、土地の利用の履歴に由来する土地の活用を行う。
i	『長崎核爆弾被爆遺跡』：①公園地、教育機関、河川、道路等公共用地又はその性格を有する土地に於ける、遺跡としての発掘調査と遺跡の提示、又は、根拠ある再建、遺骨搜索収容供養提示 ②大規模再開発の計画に於ける、遺跡としての発掘等調査と遺跡の提示、遺骨搜索収容供養提示 ③遺跡の遺跡としての実態と空間の提示、その内容と範囲の拡張、遺骨搜索収容供養提示、並行して、被爆遺跡による公園都市として存在し得る長崎地域とその土地の活用の在り方の再検討。		日本地域に於ける近代の終焉、長崎核爆弾被爆の痕跡の実態把握と提示、遺骨収容提示、被爆の実相とその範囲の提示を目的とし、内容と範囲の拡張を行う。
o	私達人類の、長崎地域に於ける現代の生活を、宇宙と太陽系のエネルギー系、地球の自然、私達人類の生命体としての生理、並びに、私達人類の世界に於ける世界的な水準とグローバルな関係性、に於いて維持し、以って、長崎地域-九州・沖縄・山口・山陰地域-四国・関西・中部地域-北陸・関東-東北地域-北海道地域-日本地域-グローバルにあって、相乗的に地域振興する。		

( 10/116 )

## Ⅱ. 『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の遺跡としての現示』

(ローマ・カトリック教会時代の教会墓地、並びに、その後の推移、明治初期の墓地跡処分の遺跡の可能性、そして、遺跡の現示) 2021年(令和3年)3月13日 土曜日 養生所を考える会 代表 池和森

### 一、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地(又は、イエズス会本部墓地)、並びに、その後の推移、明治初期の墓地跡処分の遺跡の可能性

私達当会は、最近、長崎県教育庁学芸文化課の文化財担当者より、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の長崎奉行所西役所建物敷地の西部区域の発掘調査結果の内容を聞きました。

私達当会が、今回の陳情書/要望書で指摘した、当該区域に於ける、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地、並びに、明治初期に於ける当該墓地の痕跡の発見と当該墓地跡の処分の可能性(注1)、は、従来にない、新しい視点を提供した様子で、当該の可能性を念頭に、遺物の整理並びに発掘調査結果の検討を行う、と説明がありました。

#### 1. 当該遺跡の当該区域の発掘調査に関する長崎県教育庁学芸文化課の文化財担当者の説明の要旨

- (1) 明治初期と思われる時期に、掘削があり、盛土により敷地を再築、現在の西面の石垣は、旧来の位置に再築されている(石材、工法についての説明はなし)。
- (2) 掘削は、現在の地表面に対して、深部に到達している。
- (3) 掘削は、概略、東部から西部にかけて下がる、雨水流下可能な緩斜面の状態を構成している。
- (4) 盛土に陶磁器片はなく、瓦片が混入。元土より陶磁器片を除去した可能性がある。明治期の工法として、地盤沈下緩和のために瓦片の混入はあり得る。
- (5) 調査は、広くはない立坑(トレンチ)による。面的な遺跡としての地下の詳細実態は不明。

#### 2. 私達当会による可能性への仮定

- (1) 明治初期と思われる時期の掘削は、当時の建物建築の為の敷地平面の構築を目的としていない。

・緩斜面   ・元土を精製し(陶磁器片を除去)之による全面的な盛土   ・石垣を旧来の位置に再構成

- (2) 明治初期と思われる時期の掘削は、一時的な、仮設の施設の設置を目的としていない。

・元土を精製し(陶磁器片を除去)之による全面的な盛土   ・石垣を旧来の位置に再構成

- (3) 明治初期と思われる時期の掘削は、旧長崎警察署敷地平面等を目指した建物建築敷地造成の為の掘削、計画変更による中止、原状回復、の可能性はある。

・緩斜面   ・元土を精製し(陶磁器片を除去=安全上の措置、鋭利な陶磁器片を選別し除去)之による全面的な盛土   ・石垣を旧来の位置に再構成

⇒ 当時の計画資料の調査、裏付けが必要

- (4) 明治初期と思われる時期の掘削は、長崎の丘の南端頂部から西側海岸沿いになる段丘状の墓地、当該墓地の閉鎖、当該墓地の痕跡の遺存、糸割符会所、又は、長崎奉行所の為の土地の造成と利用、明治初期に於ける当該墓地の痕跡の発見、当該墓地の痕跡の処分、例えば、遺骨遺物搜索撤去廃棄、埋め戻し、土地の再利用、に関係する可能性がある。

・緩斜面   ・元土を精製し(陶磁器片を除去=墓地遺骨遺物徹底搜索撤去廃棄)之による全面的な盛土   ・石垣を旧来の位置に再構成

⇒ 当時の計画資料の調査が必要、且つ、当該遺跡の面的な調査による遺跡の実態把握が必要

#### 3. 私達当会による仮定と提案と要望

私達当会は、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の長崎奉行所西役所建物敷地の西部区域の地下の遺跡の性格について、当該の発掘調査成果説明により、明治初期と想定する掘削に関し、掘削後に於ける元土を用土とする盛土に、陶磁器片がなく、瓦片が混入する点、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地の痕跡の発見、当該痕跡の徹底排除、遺骨遺物搜索と廃棄、の可能性が、十分に考えられる、と仮定します。

私達当会は、明治前期の、長崎市の佐古の丘の養生所/(長崎)医学校敷地の北に隣接する、大徳寺庫裏跡に於ける長崎病院建設に於いて、建設用地内の旧軍人墓地取扱いについて、旧日本帝国陸軍並びに同海軍からの異議申し入れにより、長崎地域が、数次に亘り発掘し跡にかけて遺骨選別収集を行った、墓地調査の史実を想起します。

私達当会は、皆様に、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の長崎奉行所西役所建物敷地の西部区域の地下の遺跡について、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地、当該墓地の痕跡の遺存、当該墓地の痕跡の処分、の遺跡としての性格を念頭に、その遺跡の実態把握の為に、当該の地下遺跡の面的な発掘調査の実施、を提案し要望します。

## 二、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の遺跡としての現示

私達当会は、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地(又は、イエズス会本部墓地)に関する遺跡の可能性について、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡に於ける、これ迄の遺跡発掘調査にあって、唯一の、当該土地に、中世末期から近世初期のローマ・カトリック教会時代の遺跡を現示する可能性である、と仮定します。

私達当会は、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地について、ながローマ・カトリック教会時代の初期、イエズス会とドン・バルトロメウ(大村純忠)が必要な協定を行なった後、元龜二年(1871年)大村領の長崎に町立てが始まってから、天正八年(1580年)に大村純忠の行為により教会領となるまでの十年間に、長崎の町に関して、ローマ・カトリック教会側と長崎地域の現地勢力である、武雄の後藤貴明・諫早・深堀連合勢との戦、深堀茂宅との戦があり、その戦没者の為に、岬の教会に、一定規模の墓地が整備された可能性があり、その位置は、長崎の教会の初期にあって、岬の教会の教会堂建物敷地に隣接した可能性がある、と仮定します。

私達当会は、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地について、ローマ・カトリック教会時代の後期に、1620年3月20日迄に、長崎奉行長谷川権六(在任期間:元和三年十月(1617年)～寛永三年四月(1626年))によって、岬の教会の墓地、即ち、郭内の3墓地、ミゼリコルディア、聖十字架、サンタ・マリアの墓地が、郭外のサン・ミゲル墓地(炉粕町)に移されるまで、岬の教会、即ち、郭内の墓地は、各地の殉教者の遺骨の収容で、収容数が拡大した可能性がある、と仮定します(注2)。

私達当会は、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地について、ローマ・カトリック教会時代の最初の苦難以降、長崎のローマ・カトリック教会時代の最後まで、その営みを共にした、重要な遺跡である、と仮定します。

私達当会は、過去の陳情書/要望書で、長崎の丘の南先端部の法面の石垣について、関連絵図の検討により、ローマ・カトリック教会の時代に、石垣が築造されておらず、土羽であったか、又は、ローマ・カトリック教会時代の末期に、当該の法面の石垣が撤去された可能性があり、一帯の法面は、1600年代前半に、土羽であった可能性があり、一帯の法面の石垣群は、寛永十三年(1636年)5.10出島が完成する以降に、その連続した状態が完成した可能性があること、を指摘しました(注3)。

私達当会は、皆様に、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡について、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の江戸時代の長崎奉行所西役所の石垣群が欠如する、長崎奉行所西役所等遺跡南部に於いて、遺跡の発掘等調査を継続し、当該の岬の自然地形の痕跡とその実態、又、江戸前期以前の遺跡としての実態、を明らかにし、且つ、自然地形をその根拠ある再建により補足して、現示し、江戸前期以前の遺跡、時に、土羽、を、現示し、江戸後期時代の長崎奉行所西役所の江戸町に下る石段の根拠ある再建を行為して、現示し、長崎奉行所西役所等遺跡西部に於いて、ローマ・カトリック教会時代の教会墓地、並びに、その後の推移、明治初期の墓地跡処分の遺跡、又は、その可能性を、調査して、現示し、長崎奉行所西役所等遺跡中央部と北部と東部に於いて、糸割符宿老会所、長崎奉行所西役所遺跡、並びに、歴代の長崎県庁舎の遺跡を、範囲拡張継続調査し、混在併置して、現示し、長崎奉行所西役所等遺跡法面に遺存する石垣群に於いて、伝統的な石垣築造技術による注意深い、石垣群上層部分、の必要カ所の解体修理、欠損部の補作、を行為して、現示し、長崎奉行所西役所等遺跡一帯に隣接する築地遺跡、水路遺跡、について、発掘等遺跡調査を継続し、その全体像を把握しつつ、遺跡として、逐次、現示し、即ち、その他の一帯に隣接し、共時的通時的に連続する、遺跡群と合わせて、地球の自然、又、長崎の岬の地域の先史時代から、古代、中世、近世、近代、現代へと至る、私達人類の営みの長い時間、時の流れに於ける、スペクタクル(spectacle)(注4)、又、喜びと悲しみ、生と死、時に、戦い、を包摂し、証徴する遺跡、として現示すること、を提案し要望します。

## 三、注釈

注1 参考資料①②-P79、P80

注2 参考資料⑤-P9 ~注20 1620年3月20日付コーロス書簡 Jap. Sin. 35, 138より拙訳。文末に史料写真を掲載。等

注3 参考資料①②-添付資料-P38~P45、即ち、参考資料③④-P38~P45

注4 参考資料⑥

## 四、参考資料

①養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する陳情書ⅩⅨ(旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)ノ長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する陳情書Ⅹ(サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等) 2021年(令和3年)3月3日 水曜日 長崎県議会議長 瀬川光之様、2021年(令和3年)2月22日 月曜日 長崎市議会議長 井上重久様 陳情人 養生所を考える会代表 池知和彦

②養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する要望書Ⅹ(旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)ノ長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する要望書Ⅹ(サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等) 2021年(令和3年)3月3日 水曜日 長崎県知事 中村法道様 長崎県教育委員会 教育長 池松誠二様 長崎県企画部長 柿本敏晶様 長崎県地域振興部長 浦真樹様 長崎県文化観光国際部長 中崎謙司様 長崎県土木部長 奥田秀樹様 長崎県県民生活環境部長 宮崎浩吾様 長崎県文化財保護審議会議長 立平進様 長崎県美術館長 小坂智子様 長崎歴史文化博物館長 水嶋英治様 長崎市長 田上富久様 長崎市教育委員会 教育長 橋田慶信様 長崎市教育委員会 教育総務部長 前田孝志様 長崎市企画財政部長 片岡研之様 長崎市文化観光部長 股張一男様 長崎市まちづくり部長 片江伸一郎様 長崎市土木部長 松浦文昭様 長崎市中央総合事務所長 大串昌之様 長崎市原爆被害対策部長 中川正仁様 長崎市理材部長 小田徹様 長崎市環境部長 宮崎忠彦様 長崎市秘書広報部長 原田宏子様 長崎市文化財審議会議長 下川達彌様(長崎歴史文化博物館長 水嶋英治様) 要望人 養生所を考える会代表 池知和彦

③養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する陳情書ⅩⅧ(旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)ノ長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する陳情書Ⅹ(サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等) 2020年(令和2年)11月24日 火曜日 長崎市議会議長 井上重久様、2020年(令和2年)12月2日 水曜日 長崎県議会議長 瀬川光之様 陳情人 養生所を考える会代表 池知和彦

④養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する要望書ⅩⅧ(旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)ノ長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する要望書Ⅹ(サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等) 2020年(令和2年)11月27日 金曜日 長崎県知事 中村法道様 長崎県教育委員会 教育長 池松誠二様 長崎県企画部長 柿本敏晶様 長崎県地域振興部長 浦真樹様 長崎県文化観光国際部長 中崎謙司様 長崎県土木部長 奥田秀樹様 長崎県環境部長 宮崎浩吾様 長崎県文化財保護審議会議長 立平進様 長崎市長 田上富久様 長崎市教育委員会 教育長 橋田慶信様 長崎市教育委員会 教育総務部長 前田孝志様 長崎市企画財政部長 片岡研之様 長崎市文化観光部長 股張一男様 長崎市まちづくり部長 片江伸一郎様 長崎市土木部長 松浦文昭様 長崎市中央総合事務所長 大串昌之様 長崎市原爆被害対策部長 中川正仁様 長崎市理材部長 小田徹様 長崎市環境部長 宮崎忠彦様 長崎市秘書広報部長 原田宏子様 長崎市文化財審議会議長 下川達彌様

⑤『長崎総合科学大学 平和文化研究 第39集(2019年1月)』-「長崎のイエズス会本部とその影響 ～そこでは活躍したイエズス会員を中心に～」日本イエズス会管区長 デルカレンゾ (P9-11注20 1620年3月20日付コーロス書簡 Jap. Sin. 35, 138より拙訳。文末に史料写真を掲載。等)

⑥『スペクタクル』: スペクタクルとは視覚的に強い印象を与えるようなものであり、広くは光景や情景などが意味される。芸能での業界用語としては、視覚的に強い印象を与えるような大掛かりな場面や出し物のことが意味されている。芸能におけるスペクタクルとして当てはまる場面というのは、天変地異、戦争、自然の風景などであり、ともにこれらに変化が生じるということが、演出とされていることが多い。現在では、宇宙・天体などの滅多に見ることのできない壮大な天文現象(自然現象)に対して使われることが多い。特に極地に行かなければ見られないオーロラ、数百年に一度来る彗星、月食・日食でのダイヤモンドリングなどが有名。……: Wikipedia「スペクタクル」最終更新 2019年10月24日(木)04:06



### Ⅲ. 『日本国の文化財保護法の遺跡の定義の明文に於ける不十分と当該明文の運用に関する帰結の可能性、そして、私達人類の対応』

2021年(令和3年)3月18日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、日本地域の遺跡の保存と活用に関し、日本国の文化財保護法に於いて、その取り扱う文化財たる記念物である遺跡の定義、その明文にあって、当該明文の規定上の目的に於ける行為対象事象に対し、当該行為対象事象の性格や私達人類にとっての価値の把握に不十分があり、その結果、当該明文の規定上の目的に於ける行為対象事象と、当該明文の論理上の帰結に於ける行為対象事象との間に、乖離を生起し、即ち、明文構成上の齟齬を生起している、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、日本地域の遺跡の保存と活用に関し、日本国の文化財保護法に於いて、その取り扱う文化財たる記念物である遺跡の定義を、その明文にあって、歴史上価値、並びに、学術上価値、に於いて、成す処、歴史上価値によって保存され活用される遺跡によって保存され継承される事象は歴史であり、学術上価値によって保存され活用される遺跡によって保存され継承される事象は学術である、と仮定し得る、即ち、例えば、任意の特定の土地又は空間の一体の連続する範囲を媒体とする連続する遺跡を、価値によって、部分に分節し分断し、ある部分を現状保存し、ある部分を移築し、ある部分を模造に置換し、ある部分を記録に置換し、ある部分に遺跡と遺跡としての関係性を有しない事象に由来する造形を施し、即ち、遺跡の存在と之を表象する具象とその形態を破壊し、同時に、歴史上価値と之を表象する具象とその形態、又は、学術上価値と之を表象する具象とその形態、又は、遺跡に対して遺跡としての関係性を有しない事象と之を表象する具象とその形態、を保存し活用する、その帰結として、保存し活用し継承する事象は、遺跡ではなく、歴史と学術、並びに、遺跡に対して遺跡としての関係性を有しない事象、である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、ユネスコの世界遺産に関する『世界遺産条約履行のための作業指針』に、遺跡について、「遺跡 人間の作品、自然と人間との共同作品及び考古学的遺跡を含む区域」、と記載して定義する事実、を確認します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、ユネスコの世界遺産に関する『世界遺産条約履行のための作業指針』に、遺跡を、人間の作品、自然と人間との共同作品及び考古学的遺跡を含む区域、即ち、作品、即ち、自己完結する一体の体系、と把握し、不可分であり部分に分断することが不能又は不適切な事象、と理解する、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、日本地域の遺跡の保存と活用に関し、日本国の文化財保護法に於いて、その取り扱う文化財たる記念物である遺跡の定義の明文にあって、当該明文の規定上の目的に於ける行為対象事象に対し、当該行為対象事象の性格や私達人類にとっての価値の把握を、改正し、十分足らしめ、当該明文構成に於いて、当該明文の規定上の目的に於ける行為対象事象と、当該明文の論理上の帰結に於ける行為対象事象の一致を生起すること、その為の措置を講ずること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、日本地域の遺跡の保存と活用に関し、日本国の文化財保護法に於いて、当該の改正を施行するまで、私達人類が、日本国の文化財保護法の明文に由来する行為にあって、当該明文の規定上の目的に於ける行為対象事象に対し、当該行為対象事象の性格や私達人類にとっての価値の把握を、十分な事象と成し、当該行為に於いて、当該法の明文の仮定し得る不十分を補足し、当該明文の規定上の目的に於ける行為対象事象と、当該明文の論理上の帰結に於ける行為対象事象の一致を生起すること、即ち、遺跡の保存と活用に関し、遺跡を保存し活用すること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡について、例えば、遺跡であり、遺跡上価値、即ち、遺跡の具象とその構成する造形、並びに、関連事象間の関係性、又は、歴史上価値、又は、学術上価値、のある事象、と定義し、此の定義により、遺跡を保存し活用すること、を提案し要望します。

参考資料

1. 『文化財保護法 昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号』 第一章 総則 (この法律の目的)  
第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。(文化財の定義) 第二条 この法律で「文化財」とは、次に掲げるものをいう。 一 ……(以下「有形文化財」という。) 二 ……(以下「無形文化財」という。) 三 ……(以下「民俗文化財」という。) 四 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとつて歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、溪谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとつて芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)、植物(自生地を含む)及び地質鉱物(特異な自然の現象の生じている土地を含む。)で我が国にとって学術上価値の高いもの(以下「記念物」という。) 五 ……(以下「文化的景観」という。) 六 ……(以下「伝統的建造物群」という。) 2 ……(以下省略)

2. 『世界遺産条約履行のための作業指針』(世界遺産条約履行のための作業指針 ユネスコ世界遺産センター・文化庁仮訳) II. 世界遺産条約一覧表 II. A 世界遺産の定義 文化遺産及び自然遺産 文化遺産及び自然遺産とは世界遺産条約第一条及び第二条に定義される資産をいう。第一条 この条約の適用上、「文化遺産」とは、次のものをいう。 記念物 建築物、記念的意義を有する彫刻及び絵画、考古学的な性質の物件及び構造物、金石文、洞穴住居ならびにこれらの物件の組合せであつて、歴史上、芸術上、又は学術上顕著な普遍的価値を有するもの 建造物群 独立した建築物の群又は連続した建造物の群であつて、その建築様式、均質性又は景観内の位置のために、歴史上、芸術上、又は学術上顕著な普遍的価値を有するもの 遺跡 人間の作品、自然と人間との共同作品及び考古学的遺跡を含む区域であつて、歴史上、芸術上、民俗学上又は人類学上顕著な普遍的価値を有するもの 第二条 この条約の適用上、「自然遺産」とは、次のものをいう。 ……(以下省略)

# “遺跡について XVI”

『遺跡』

(遺跡の機能、遺跡に於ける私達人類の課題) 2021年(令和3年)2月23日 火曜日

私達当会は、遺跡について、私達人類にとっての、遺跡の機能、即ち、私達人類にとっての、遺跡に特徴的な作用は、その具象に於いて、私達人類の個体に、私達人類の個体の生命の長さよりも、長い、時間とその経過たる事象を、直観させること、である、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が関わる、遺跡と私達人類の関係に於ける私達人類の課題に関して、之を、私達人類が、私達人類の活動の空間にあって、遺跡、並びに、私達人類の諸事象の関係に対して、之を、相互に、完全な状態に保持し、且つ、接続し、重層しつつ、私達人類の個体に於いて、如何に、私達人類の個体の生命の長さよりも長い時間とその経過を、直観させ得る、空間、又は、景観、又は、具象、を現出することを成し得るか、にある、例えば、連続と階調(グラデーション)、時に、断裂と対比、と確信します。

(“欲求”、“価値”、“都市主導型文明”、バイアス(bias: 偏倚)) 2021年(令和3年)2月28日 日曜日

私達当会は、皆様に、私達人類の万人が、私達人類の個体の感覚と認識と欲求と行為、並びに、その集団に由来する文化と文明が、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然に対する、私達人類の生命体としての生理に由来する、バイアス(bias: 偏倚)であることを認知し、時に、当該のバイアス(bias: 偏倚)を楽しみ、又、当該のバイアス(bias: 偏倚)を修正すること、その為に、遺跡、即ち、個別の遺跡の集合、即ち、群、を活用すること、を提案し要望します。

(私達人類の使命、遺跡の有意性) 2021年(令和3年)3月7日 日曜日

私達当会は、遺跡について、遺跡の具象により、私達人類の生きる意味と、その意味に向かう、私達人類の使命に対し、私達人類の感得を経由して、私達人類の世界にあって、最も良く、有意であり得る事象である、と確信します。

(私達人類に於ける、事象の本源に向かう努力) 2021年(令和3年)3月7日 日曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の万人は、私達人類が、知性、又は、想像力、を有する限りに於いて、その引き換えに、常に、事象の本源に向かう、その努力を、失ってはならない、と確信します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)3月7日 日曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# “遺跡についてXVII”

『私達人類の行為たる遺跡の保存と活用』

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡の存在を媒体として具体化し、表象する、私達人類にとっての価値や機能、によって、同時に、私達人類が、遺跡の存在そのもの、即ち、遺跡の具象、に直感する、スペクタクル (spectacle)、静謐、沈黙、又、言語や記号や形式に置換出来ない、又は、言語や記号や形式に置換せざるべき、良さ、時に、悪さ、可能性、によって、遺跡を保存し活用すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、今、私達人類は、私達人類の活動の空間を、私達人類の概念、規定、によって、之を横溢し、私達人類の姿が見えない空間へと置換しつつある、その可能性を排除できない、と確信します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)3月14日 日曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# “遺跡についてXVII”

## 『遺跡と長崎地域』

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、長崎地域に於いて、遺跡が、長崎地域の目玉になるだけではない、遺跡によって、長崎地域が、日本地域と世界の目玉になるのである、と確信します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)3月18日 木曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# “遺跡についてXIX”

私達当会は、皆様に、私達人類の事象の全範疇を包摂すると考え得る、遺跡たる事象、且つ、その存在、遺跡の具象、の保存と活用、を中核として、提案し要望します。

私達当会は、遺跡である土地に関して、以下、提案し要望します。

[遺跡の遺跡としての発見、遺跡の調査と遺跡の把握、並びに、遺跡の保存]

① 遺跡の保存並びに活用の為の遺跡の調査を実施する。

(遺跡を遺跡として発見する。遺跡の全面積/全空間の発掘その他の調査を実施する。遺跡全体の実態と性格を把握し、当該遺跡の保存と活用に連結する)

[遺跡の活用1]

② ここは遺跡である、と直観させる。

(遺跡としての“土地の造形”と遺跡に関連する空間構成、即ち、そこにある遺跡と遺構を見せる)

[遺跡の活用2]

③ 遺跡の近傍近隣仮想空間の説明施設機能で説明する。

(遺跡又は遺跡の敷地外で事象を説明する/遺物を見せる、掲示展示又休憩等附帯機能設置)

私達当会は、遺跡、その土地にあって、遺跡そのものが主役である、説明と展示は二次的な事象である、と確信します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)4月10日 土曜日

養生所を考える会 代表 池知和恭

# “遺跡についてXX”

『長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、関連する遺跡群、の調査と保存と活用』

私達当会は、皆様に、長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、関連する遺跡群、に於ける、遺跡の調査と保存と整備、公開、活用、に関して、① 土地を遺跡として提示する公園の実現、② 長崎の丘南部築地遺跡、並びに、大波止遺跡の計画的な調査保存再建整備公開活用、大波止遺跡に於ける長崎くんち御旅所の回復、と共に、③ 当該遺跡群遺跡、並びに、一帯の遺跡の保存と活用に関して、検出遺物の展示、並びに、遺跡、歴史、その他関連する事象、例えば、宗教、医学、芸術、哲学、私達人類の集団、私達人類の文化と文明、生命、エネルギー、宇宙、に関する、物品並びに説明の展示、附随する機能、例えば、休憩ラウンジ等、の提供について、長崎県警察本部跡地一帯の、遺跡を調査し保存し再建し提示しつつ行う再開発、並びに、当該再開発に於ける、国道324号線を跨ぐ高架デッキ設置による、当該遺跡群遺跡と当該再開発区域に関する、私達人類の活動の空間の接続、の活用、を提案し要望します。（飲食機能について、原則近傍近隣市街の民間事業に一任、支援：遺跡関係敷地施設に持込可：公開遺跡/公園敷地外の近傍の市街施設に塵芥収集箱を設置：公開遺跡/公園敷地内では、長崎名物チリンチリンアイス等屋台による飲食事業等のみ営業許可）

私達当会は、皆様に、当該遺跡群遺跡の保存と活用に関して、株式会社三菱総合研究所が長崎県から業務委託を受けて長崎県に提出した『県庁舎跡地整備基本構想検討報告書 株式会社三菱総合研究所』に於いて提案した事象を念頭に、私達当会の提案と要望を、再構成し、④ 都市長崎遺跡、先史時代—古代—中世遺跡、旧内町—旧外町遺跡、旧サンフランシスコ教会～籠屋舗～桜町囚獄—長崎本獄—長崎監獄～長崎西彼杵郡役所～長崎商業会議所—長崎商工会議所遺跡等、内包される土地隣接する土地近傍近隣に連続、又は、断続する遺跡の発見、再発見、調査、保存、整備、再建、公開、活用、⑤ 出島遺跡/長崎旧市街等遺跡群遺跡と世界遺産の構成資産である小管修船場遺跡を連絡する、小曾根築地遺跡の調査と保存と活用、⑥ 長崎県が所有する土地である、長崎水辺の森公園—水辺のプロムナード—長崎県美術館一帯敷地への、オペラ・ハウス/シンフォニー・ホール/劇場、の誘致、⑦ 長崎市庁舎並びに長崎市議会建物移転後の跡地に、大学サテライトキャンパスの誘致設置、又、オープンイノベーションその他産業労働支援機能の併設、⑧ 旧市街の外延埋立地であるJR新長崎駅周辺を含む長崎湾岸区域に、都市長崎遺跡等遺跡群遺跡、並びに、海上と陸上の景観、を破壊し阻害しない、平面式大型駐車場、並びに、交通結節機能の設置、⑨ 市内公共交通と徒歩による長崎旧市街等遺跡群遺跡/長崎市内の回遊の促進、⑩ 国道34号線土地南部、旧長崎県庁舎から長崎市庁舎一帯での、日曜祭日に於ける歩行者天国の実施、併せて、催事の開催、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、個別の遺跡の土地の範囲に於ける、にぎわいの創出、と云うより、遺跡である、長崎地域、近傍近隣市街近郊、並びに、都市長崎遺跡、即ち、先史時代—古代—中世—旧内町—旧外町—出島—倉田水樋—旧水路—治水—築地—旧長崎内港外港—旧郊外田園地帯—旧道/旧街道—旧関連拠点—小曾根築地—旧外国人居留地—長崎キリシタンの里—長崎核爆弾被爆—戦災復興—経済発展に関する遺跡、又、自然の態様、並びに、私達人類が日本列島に到達する先史時代以降現代のおよそ50年以前迄の期間を対象とする、私達人類に関する事象（日本国の文化財保護法に於ける、文化財の範囲、と想定し得る）、遺跡の発見、再発見、調査、保存、再建、整備、公開、情報蓄積、研究、発信、活用、又、現在の私達人類の活動は、私達人類の未来にどの様な遺跡を形成し遺し得るのか、その全体での、にぎわいの創出、を提案し要望します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)4月12日 月曜日

養生所を考える会 代表 池知和恭

# “遺跡についてXXI”

『遺跡の保存と活用、私達人類の活動の空間に於ける空隙、  
としてのプロデュース (produce: 生み出す、生産する)』

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界  
にあって、遺跡の保存と活用に関して、遺跡を、物体、並びに、  
建築、又は、機能、例えば、文明、例えば、利用、と云うより、  
「人間の作品、自然と人間との共同作品及び考古学的遺跡を  
含む区域」(『世界遺産条約履行のための作業指針(ユネスコ  
世界遺産センター・文化庁仮訳)』)、並びに、私達人類の活  
動の空間に於ける空隙、即ち、私達人類の現在の活動、例え  
ば、日常の生活、と、異質の空間、非日常の空間、安息(何  
の心配・苦痛もなく静かに休むこと: Oxford Languagesの  
定義)、又は、芸術並びに哲学、例えば、文化、例えば、引き  
受け、として、顕現し、提示すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、  
日本地域の私達人類は、例えば、時の経過とその揺らぎ、空  
間の存在とその戦ぎ(そよぎ=顫: ふるえる、振動する)、を愛  
する、と確信します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)4月22日 木曜日

養生所を考える会 代表 池知和恭



# “遺跡についてXXII”

『長崎地域に於ける現代都市長崎の都市計画の主題  
—遺跡を契機とする経済効果、双頭多層型文化的都市動線の形成』

私達当会は、皆様に、私達当会が、本紙の、『長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、関連する遺跡群、の調査と保存と活用』2021年(令和3年)4月12日 月曜日、に於いて、又は、それ以前に、皆様に、長崎県警本部跡地一帯の土地に設置することを、提案し要望した、“宇宙—太陽系—地球の自然—宗教—芸術—哲学—遊び—幸福—科学—経済—仕事—不確実性—私達人類の文化と文明—遺跡～私達人類と長崎地域に関する総合博物館”、について、新長崎駅東敷地再開発、によって、之を、建設し設置し、又、個別の遺跡等に由来し、遺跡等の近傍の土地に、主題別サテライト博物館/資料館/展示説明施設、例えば、長崎県警本部跡地一帯の土地に、宗教博物館、近代医学資料館、近代化博物館、海事博物館、を設置し、他の、例えば、私達人類の、私立/公立/国立の保育園/幼稚園—小学校—中学校—高等学校—専門学校—大学、等、教育機関/制度、図書館—オペラハウス/シンフォニーホール/劇場—博物館—資料館—美術館—画廊—街並み、等、学習/文化/制度/都市型蓄積施設/市街、と相互に、連携/連動して、運営する、もう一つの在り方、を提案し要望します。

私達当会は、例えば、長崎地域の文化的都市動線、について、JR新長崎駅一帯再開発と“私達人類と長崎地域に関する総合博物館”の双方を備える、JR新長崎駅一帯を、主点、とし、遺跡と都市型蓄積施設と市街と教育機関によって、模式的に、放射状に、都市動線が形成される、と想定すれば、理解しやすい都市構造となる、さらに、海路/長崎港、又、空路/長崎空港からの長崎地域への入口となる、ながさき出島道路出入口と大浦一帯、旧長崎バンド、に隣接する、長崎水辺の森公園—水辺のプロムナード—長崎県美術館—平面大型駐車場を擁する県有地の、長崎県美術館と連続し利便性が高い国道499号/路面電車側に、オペラハウス/シンフォニーホール/劇場、を設置し、抽象文化活動を振興すれば、長崎水辺の森公園地域を、副点、として、双頭、の形態を形成し、さらに、長崎旧内町外町旧市街遺跡地域に生活文化/芸術を振興すれば、相互に隣接し、環長崎港道路によって連続する、長崎旧市街遺跡一帯(生活文化/芸術の醸成と発信)—長崎バンド/水辺の森公園一帯(抽象文化/芸術の醸成と発信)—JR新長崎駅一帯(交通と情報の結節)、の三角構造、さらに、外郭関連地域、日本地域、世界、の遺跡群/文化的事象との動線、を基盤とする、双頭の、集約し拡散し回遊する、双方向、又、複雑、且つ、相乗的な働きを出現する、多層型文化的都市動線の構造を形成することができる、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、当該の、長崎地域に於ける双頭多層型文化的都市動線、に於いて、私達人類の活動の振興と共に、経済効果を形成し、之を、波及し、分配し(ディストリビュート:distribute)、蓄積し得る、茲に、当該の、長崎地域に於ける双頭多層型文化的都市動線の形成が、長崎地域に於ける現代都市長崎の都市計画の主題(コンセプト:concept)であり得る、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、長崎地域の私達人類が、長崎地域に於いて、当該の、“長崎地域に於ける双頭多層型文化的都市動線”、を形成すること、を提案し要望します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているのでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)4月27日 火曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# “遺跡についてⅩⅩⅢ”

『私達人類にとっての、遺跡に固有である意義、又、社会的共通資本』

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類にとっての、遺跡に固有である意義に関して、之が、a. 例えば、① 私達人類の意図の断絶、例えば、私達人類の様々な事由に由来する忘却や、時の経過を契機とする埋納や痕跡であること、に由来する、② 私達人類の個体、又は、集団、の記憶の喪失、様々な事由に由来する、に対する、私達人類の共時的通時的な可逆性への担保の可能性、例えば、狩猟採集の様式（文化≒引受、と仮定）と農耕牧畜の様式（文明≒利用、と仮定：私達当会は、近代/現代の都市主導型文明について、之を、農耕牧畜の様式の範疇にある、と仮定します）、③ 人工/都市的要素/構成、収集、集約、集権、に対する、私達人類の個体の生命体としての生理に呼応する事象、例えば、身体的スケールや肌理（テクスチャー：texture）や基準面としての大地、離散的配置又は状況、織交、多様な遠近/空間把握/認識の態様、建築家である隈研吾氏が言及する、④ 白人至上主義、例えば、2021年4月28日に、アメリカ合衆国第46代大統領であるジョゼフ・ロビネット・バイデン・ジュニア氏が、同氏の大統領としての最初の議会演説となる施政方針演説で、テロの脅威、人種差別根絶に関して言及した（2021年4月30日金曜日 長崎新聞 第一面記事）、に対する、その土地の遺跡/歴史/民俗/文化/文明/意識の形態/思考の形態/行為の形態、b. 即ち、私達人類の、主知と主意と主情、文化と文明、意識、想像又は思考と行為、意思、意図、体系、形式、の獲得、又は、再確認、又は、追認、にある、と云うより、私達人類の、主知と主意と主情、文化と文明、意識、想像又は思考と行為、意思、意図、体系、形式、の超越、常と共に在り得る、にある、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、之が、私達人類にとっての遺跡に固有である意義、に因り、私達人類にとっての「社会的共通資本」、即ち、数理経済学者である宇澤弘文氏が提唱し、私達人類に継承される概念、である、と仮定します。（宇澤弘文氏は、自ら概念する、「社会的共通資本」について、『社会的共通資本』著者 宇澤弘文 発行 2000年11月 岩波書店で、「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置を意味する。」と定義し、又、「自然環境」「社会的インフラストラクチャー(infrastructure)」「制度資本」として構想し、国家的に管理されたり、利潤追求の対象として市場に委ねられたりしてはならず、職業的専門家によってその知見や規範に従い管理・維持されなければならない、と規定しています。：『知恵蔵mini』朝日新聞出版 等）

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、之が、私達人類にとっての「社会的共通資本」、そして、その構成要素としての「自然環境」であり、「社会的インフラストラクチャー」であり、且つ、「制度資本」でもある、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地に在る、遺跡の遺跡としての実態と空間、並びに、之を包括する空間性、並びに、諸般の関係性、その実態、を、私達人類にとっての「社会的共通資本」としての性格と概念に於いて、保存し、活用すること、を提案し要望します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)5月6日 木曜日

養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# “遺跡についてXIV”

『数理経済学者である宇沢弘文とその提唱に係る「社会的共通資本」、遺跡』

## 1. 情報

○『人間の経済』 著者 宇沢弘文 2017年4月20日 発行 発行所 株式会社新潮社

私の父は、宇沢弘文という経済学者でした。……二〇一一年三月十一日の東日本大震災の十日後に倒れたのですが、震災のためのホルダーも作られていました。……スティグリッツは「ヒロの話は三十年後ぐらいにわかる」と言っていました。『自動車の社会的費用』は最近、中国語と韓国語に翻訳されました。まだまだこれから伝わっていくことも多いと思っています。講演やインタビューがまとまった形で出版されるのは初めてです。聴衆やインタビューアの反応を見ながら、そして手元にあつたに違いない大好きだった魔法の水と共に広がっていく父の世界観を楽しんでいただければ幸いです。倒れる少し前まで、新潮新書の阿部正孝さんと父が出版に向けて打ち合わせを繰り返していた企画でした。父が倒れてからもお手元で温めていただいております。多くの方々の協力で出版にたどり着きました。本当にありがとうございました。最後になりましたが、この本をお手に取っていただいた皆様にもお礼を申し上げます。お読みいただいたことが、ゆたかな社会の実現への一助になると信じております。二〇一七年一月 宇沢国際学館 占部まり

序 社会的共通資本と人間の心 (P17)

昭和天皇のお言葉 (P17)

人間は心があつてはじめて存在するし、心があるからこそ社会が動いていきます。ところが経済学においては、人間の心というものは考えてはいけな、とされてきました。マルクス経済学にしても人間は労働者と資本家という具合に階級的にとらえるだけで、一人ひとりに心がある、とは考えません。また新古典派経済学においても、人間は計算だけをする存在であつて、同じように心を持たないものとしてとらえている。経済現象のあいだにある経済の鉄則、その運動法則を考えると、そこに人間の心の問題を持ちこむことは、いわばタブーだったわけです。次のようなことを記憶しています。一九八三年、私が文化功労者に選ばれたときのことでした。顕彰式が終わったあと、宮中で昭和天皇がお茶をくださることになり、じつはそれまで私は天皇制に批判的な考えをもっていたので、違和感を抱えたまま席にのぞみました。……私は自分の順番がきたときにはすっかりあがつてしまい、ケインズのここがおかしいだの、新古典派の理論がどうだとか、社会的共通資本とは何か、などと懸命にしゃべりたてました。しかし、われながら支離滅裂なのがわかって混乱していたところ、昭和天皇が話をさえぎって、こうおっしゃったのです。「君！君は経済、経済というが、つまり人間の心が大事だと、そういいたいのだね」心の中をピタリといいあてられたようで、私自身、ハッとしたものでした。それから四半世紀にわたって社会的共通資本の考え方、人間の心を大事にする経済学の研究をすすめてこられたのは、あのときの昭和天皇のお言葉に勇気づけられたからでもありました。(P17-P19)

「レールム・ノヴァルム」 (P19)

もう一つ、私の人生のなかで最も感動的な思い出をふりかえります。今から二十年ほど前、私はローマ法王ヨハネ・パウロ二世にヴァチカンへ呼ばれて、ある歴史的な文書の作成を手伝いました。文書というのはEncyclicalsです。Encyclicalsは、歴代のローマ法王が在任中に一度は出される重要な公式文書のことで、その時どきの世界の状況に関してローマ教会の公式な考え方をまとめたものです。世界中のビショップに配布されるこの分厚いドキュメントは、日本では「回勅」「同文通達」などと訳されます。そのなかで歴史的に最も有名な回勅が、一八九一年五月にレオ十三世によって出された「レールム・ノヴァルム」で、経済学の考え方に大きな影響を与えました。……(P19)

(私達当会は、1991年5月にローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が出した回勅、1891年5月にローマ教皇レオ十三世が出した「レールム・ノヴァルム」(ラテン語で「新しいこと」:カトリックで「革命」とも翻訳)―『資本主義の弊害と社会主義の幻想』の百年目の、新しい「レールム・ノヴァルム」―『社会主義の弊害と資本主義の幻想』、その題名は、ヨハネ・パウロ二世が、計画した、新しい「レールム・ノヴァルム」の作成のアドバイザーにと手紙で依頼した、宇沢弘文氏、氏は当該の回勅をまとめるに当たって「人を幸せにするシステムを改めて構築しなければいけない」と考えた(「医師、そして娘から見た「父、宇沢弘文」」:占部まり:m3.com 2017年11月26日聞き手・まとめ 橋本桂子(m3.com編集長))、その宇沢弘文氏自身が、ヨハネ・パウロ二世からの依頼の返事に、当該の回勅の主題として記したものである、と確認します。:『人間の経済』著者 宇沢弘文 序 社会的共通資本と人間の心 「レールム・ノヴァルム」(P19-P21)、他)

……「新しいレールム・ノヴァルム」が経済学者に提起したのは、それぞれの国が置かれている歴史的、社会的、文化的、自然的、経済的諸条件をじゅうぶん考慮して、すべての国民が人間の尊厳と市民的自由を守ることができるような制度をどうやってつくればいいのか、という問題でした。……医療や教育、自然環境が大事な社会的共通資本であることはもちろんですが、もう一つ、つけ加えるなら、平和こそが大事な社会的共通資本なのです。ヨハネ・パウロ二世は、生涯、アメリカが広島と長崎に原子爆弾を落としたことは人類が犯した最大の罪である、として厳しく批判されました。そのためにヨハネ・パウロ二世はアメリカでは評判が悪かったのですが、ローマ法王になられたばかりの一九八一年に来日されて広島と長崎を訪れた際、小石川の後樂園で盛大な屋外ミサを執りおこない、流暢な日本語でこういう話をされています。「平和は人類にとって、いちばん大事な共通の財産である。特に日

本の平和憲法は、平和を守る非常に重要な役割を果たす社会的な資産である」社会的共通資本、という言葉こそ使われませんでした。平和を守ることの意味を非常に大切なことと強調されたのです。ヨハネ・パウロ二世は全世界のこれまでまったく対立していた宗教の責任者の方々を回って歩き、そして歴史的な和解を実現されました。聖なる存在を神として敬う、そういう気持ちが宗教の原点にあるのだから、対象とする神は違ったとしても、神をもって自分たちが平和を守っていくという気持ちで結びつきたい、と考えておられたのです。話はちょっと脱線しますが、私には一つ欠点があって、それは酒を飲み過ぎることです。あるとき、ヨハネ・パウロ二世のお部屋でご馳走にあずかりました。……その際、ヨハネ・パウロ二世が「教育や医療はどのようなルールで維持したらよいのか」とお聞きになりました。私は「教育も医療も、それぞれの職業的専門家が職業的な discipline (規範) にもとづいて、そして社会のすべての人たちが幸福になれることを願って、職業的な営為に従事することだ」と申し上げ、さらに「今、世界は人々の魂が荒れ、心が殺伐としている。あなたは人間の魂、心を守るという聖なる職業をされているのに黙っている。あなたはもっとはっきり主張しないとイケない」と一席ぶってしまったのです。するとヨハネ・パウロ二世はニコニコしながら「この部屋(ローマ法王の部屋)で私に説教したのは、あなたがはじめてだ」といわれました。……そして残念ながらそのあと、必ずしもヨハネ・パウロ二世が期待されたようなかたちでの、新しい世界秩序は生まれていません。それでも、資本主義と社会主義という二つの体制概念が、歴史的な役割を終えて変質あるいは崩壊する過程で、ローマ法王の重要な仕事を手伝うことができたのは、経済学者としてたいへん名誉なことでした。(P22-P25)

— 「自由」と「利益」の暴走 (P26)

パックス・アメリカーナ (P26)

二〇〇八年九月のリーマン・ショック以降の経済の混迷は、約八十年前の昭和大恐慌になぞらえて、平成大恐慌と呼ぶべきものです。しかし、今回の方が事態はより深刻です。なぜなら、この問題は単なる景気の良し悪しでも、巷間いわれるような「百年に一度」でもなく、もっと長い歴史のスパンで考えなくてはならないからです。歴史を振り返ると、古くは紀元前後のパックス・ローマ(ローマの力による、ローマのための平和の時代)があり、近代においては十九世紀初頭にはじまったイギリスの海軍力を背景としたパックス・ブリタニカ、そして二十世紀後半の約半世紀にわたって世界を二分したパックス・アメリカーナとパックス・ソヴィエトロシア、すなわち資本主義と社会主義の概念を対立軸とした時代がありました。そして今、私たちはパックス・アメリカーナという大きな時代の、終わりの始まりにいるのだと思います。第二次大戦の終わりとともににはじまったパックス・アメリカーナとはどういうものだったのか、世界大恐慌の当事にさかのぼって考えてみます。……(P26-P27)

東西冷戦の立役者 ……

モンペルラン・ソサエティ (P35)

第二次大戦の終わりを目前に控えた一九四五年七月、スイスの避暑地モンペルランで二人の経済学者が偶然、一緒になりました。フォン・ハイエクとフランク・ナイトです。二人は「今度の大戦で、社会が破壊され、人間が破壊され、ヨーロッパの文明がされた。その一番の原因は、ナチズムと(当時、東欧で広がりがつつあった)共産主義である」として、ヨーロッパの文明を守るために新たな運動を起こそうと相談します。そして二年後、立ち上げられた学者たちの集まりが「モンペルラン・ソサエティ」で、その基本的な考え方は新自由主義と呼ばれます。新自由主義というのは、企業の自由が最大限に保障されているときに、はじめて人間の能力も最大限に発揮できる、そのためにすべての生産要素と資源を私有化し、市場を通じて取引することで社会全体として望ましい状態が実現できると考えます。言い換えれば、人間の能力、大気や水でさえ、新たなマーケットを通じて取引することが可能になるということです。新自由主義の出発点を作ったハイエクとナイトをはじめとする経済学者、政治家、言論人による運動は、その後、ミルトン・フリードマンをリーダーとする市場原理主義の大きな渦に巻き込まれていきます。市場原理主義(Market Fundamentalism)は、新自由主義(Neoliberalism)にふくめて表現されることもあります。ハイエクとナイトが考えたネオリベリズムと、フリードマンの市場原理主義にははっきりとした区別がある。ネオリベリズムをどう評価するかについて様々な議論があるにしても、一つの重要な考え方であり、私たちも理解できる思想です。しかし、市場原理主義は新自由主義からどんどん踏み込んでいって、市場で利益をあげるためならば法も制度も変えられる。要するに儲けるためならば何をしてもいい、拳句にそれを阻止するものがあれば水爆を落としてもいい、というまともな人間の理解の度をはるかに超えたところまでいってしまいます。……私には、ハーヴェイのような大きなスケールでネオリベリズムを語ることはとてもできません。しかし、市場原理主義がどういうもので、いかなる役割を果たしたかについては、自分自身の体験をふまえた意見があります。そして実は、社会的共通資本という考え方は、もともと市場原理主義への批判、あるいはオルタナティブ(代案)というものが出発点だったのです。(P35-P37)

ミルトン・フリードマン 選択する自由 シカゴ大学事件 市場原理主義の蔓延

リーマン・ショックの本質 (P50)

私はアメリカやイギリスで長いこと教えたあと、ヴェトナム戦争を契機として日本に帰ってきました。それ以来、日本の経済社会あるいはアメリカの惨憺たる状況を見て、経済学が社会の病を作っているのではないかと、何とかして経済学が人間のための学問であるようにと願い、様々な努力をしてきました。結局、あまりものにならないようですが、その過程で私は一つ大事なことに気がつきました。それは、大切なものは決してお金に換えてはいけぬ、ということです。人間の生涯において大きな悲劇は、大切なものを権力に奪い取られてしまう、あるいは追いつめられてお金に換えなければならなくなることです。私は公害や成田空港の土地収用の問題などで全国各地を駆けずり回ってきましたが、いずれのケースでも、先祖から伝えられてきたかけがえのない自然、あるいは土地が奪われてしまっていた。成田での国家権力による土地収用がそうであったように、そういうときの農民の苦しみと悩みは、理屈や言語では尽くしがたいものがあるのです。市場原理主義者は、あらゆるものをお金に換えようとします。人間のもっている大切なもの、あるいは社会的共通資本であっても、お金に換えるといくらになるか、ひたすら追求していく、非常に極端な人たちの経済学、いやむしろ似非経済学と呼ぶべきかもしれません。……そのとき基調講演をしたのが福井俊彦日銀総裁(当時)で、要するにこういう内容でした。「大切なものはお金に換えなさい。お金に換えておけば、価値を保存して、必要なときにまたそれを使うことができる」……人生最大の目的はもうけること、政府は企業活動をできるかぎり自由にして、もうけのチャンスを多くしよう、それが小

泉・竹中の改革の基礎にある考え方でした。今になって市場原理主義は異様な考え方だと思う人は多いでしょうが、フリードマンが世界中にセールスして歩いた市場原理主義は、もともと学問的にも経済学的にもまったく無内容で支離滅裂です。人間の心やそれぞれの境涯への配慮もない、ただもうかるかどうかを機械的に計算する、一種のコンピューターのようなものです。その行き着いた先がサブプライムローンであり、その破綻でした。経済学を専門としてきた私は、リーマン・ショックにはじまった平成大恐慌と日本社会の破壊の度合いの深刻さを見るにつけ、経済学が非常に悪い役割を果たしてしまった、という感じを持たざるを得ません。……

本来、金融機関というのは大切な社会的共通資本です。社会的共通資本は決してマーケットで取引するようなものではありませんが、市場原理主義者の最大のねらいは、大事な社会的共通資本として守られてきたものを世界中でもうけの対象にすることです。金融にとどまらず、医療については、医療サービスを売る人と買う人に分けてマーケットを設けよう、教育も教育をする方と受ける方と市場で取り引きしようと考えます。民営化のかけ声のもとで、どこの国でも最初にねらわれたのは国鉄と郵便局で、イギリスでもそうでした。公共的な交通機関や輸送システムのような社会的共通資本をねらって民営化し、それをアメリカの金融資本がマネージすることで巨利を得る、そうした流れは共通しています。第二次大戦後にはじまったパックス・アメリカーナ、そしてこの三十年ばかり、世界各国で起きている問題のほとんどは、アメリカにとって都合のいい考え方を他の国々に押しつける姿勢によってもたらされてきました。市場原理主義はその最大の象徴であり、今はそのパックス・アメリカーナ時代の終わりの始まりなのだと思います。(P50-P56)

## 二 経済学と医療をめぐる (P57)

### パックス・ブリタニカ (P57)

パックス・アメリカーナが始まる前、パックス・ブリタニカとその終焉に際して、経済学がどのような役割を果たしたかについて考えてみます。パックス・ブリタニカは、経済史では一八〇五年トラファルガー海戦で、ネルソン提督ひきいる英国海軍がフランス・スペイン艦隊を破ったときにはじまるとされますが、正式にはその十年後の一八一五年、ワーテルローの戦いでイギリスを中心とする連合軍が、ナポレオンの軍隊に圧勝したところが出発点になります。パックス・ブリタニカには一つの重要なルール、Two-power Standardというのがあって、イギリスの海軍力は世界一で、二番目と三番目の海軍力を合わせたものより強力でなければならない、とされてきました。その海軍力を使って、海賊的資本主義で世界を制覇するというのがパックス・ブリタニカの姿で、アフリカをはじめ中近東からインド、中国までを徹底的に収奪していったのです。イギリスの植民地政策は、世界史において特筆されるべき残酷さをもっていました。インドのエリート層のなかでも特に優秀な少年少女たちをオックスフォードやケンブリッジに連れてきて、英国式教育と思考様式を徹底的に叩き込み、母国へ帰して支配者階級に据えた。そしてアフリカでは、英国で教育を受けたインド人エリートたちがパックス・ブリタニカの先兵となって、さらなる植民地化を推し進めていく。それが一つのパターンでした。……スリランカにおいても、イギリスの軍隊が灌漑用のため池を壊してダムをつくり、森林を切り払って、お茶やゴムのプランテーションに変えていきました。アジアの農業はため池が中心で地元の村長がすべてを管理していたのを、ダムを作ることで中央集権的に用水をコントロールしたわけです。これもイギリスの植民地支配の苛烈な合理性をあらわしています。やがて二十世紀に入ると、オスマントルコの衰亡、第一次世界大戦を受けてパックス・ブリタニカは崩壊していきます。それを決定的にしたのが世界大恐慌であり、日本の経済史においては昭和の大恐慌と呼ばれる不況の大波でした。(P57-P60)

ケインズ＝ベヴァリッジの時代      ベヴァリッジ報告書      医療と乗数効果      NHS(国民保険サービス)の難局

### Kill-Ratio と Death-Ratio (P72)

…… もともと Kill-Ratio はマクナマラが考え出して、実行に移したものでした。第二次大戦中、マクナマラは陸軍航空隊で日本への爆撃計画を理論的に考える仕事をしていて、それが空軍司令官カーチス・ルメイ少将の目に止まります。グアム島に呼ばれたマクナマラは、第二十一爆撃集団による日本爆撃作戦を練り上げますが、そのとき彼が開発したのが有名なナパーム弾(焼夷弾)で、日本の木造家屋が非常に効率的に燃えるようにつくられていました。それが大量に使われたのが、一九四五年三月十日の東京大空襲でした。…… その後も日本の主だった都市を同じ手法によって焦土と変えていくなか、広島、長崎への原爆投下で日本にとどめを刺したというわけです。ずっと後になって「The Fog of War」(霧の中の戦争)という記録映画が作られたとき、マクナマラ自身が出演して、こんな発言をしていました。「ルメイ少将は、いつもこう言っていた。『日本がもし勝っていたら、われわれは戦争犯罪人として処刑されていただろう。われわれは、そういうことをやっていたのだ』とね。私も、そう思う」……しかし、いわゆる近代経済学の効率性の考え方が、このような形で適用されることに対しては、世界中から厳しい批判があるのです。社会的共通資本としての核心部分である医療に対しては、市場メカニズムを使うのではなく、もっと人間的な立場からその営みを守るために協力していかなくてはなりません。(P74-P75)

### 人生は短し、医術は長し (P76)

旧制一高時代、医学部志望のクラス(理乙)にいた私は、三年生になると自分の人生について真剣に考えるようになりました。いうまでもなく、医師を志す者は「ヒポクラテスの誓い」という厳しい掟を終生守ることを誓わなくてはなりません。医師たる者は自らの生涯を患者のために捧げ、自分のよこしまな心を一切捨てよ、というものです。しかし、……お医者さんは師の教えを守って、ヒポクラテスの誓いに忠実に医の道を歩む。そして必ず弟子に医の道を伝えていく。そうすると、短い命を救う医術は永遠の生命をもって次の世代に伝えられていく。医術が永遠の生命をもちうるのは、一人一人の医師がヒポクラテスの誓いを守り、医師として、また人間としての生きざまを全うし、師から学び受け継いだ医術を、次の世代に伝える高貴な営為に全力を尽くしているからである——これこそ社会的共通資本の核心です。……(P76-P77)

### 日本の医療危機の構図 (P79)

……人間を扱う医療というのは非常にデリケートなもので、一度壊されてしまうと回復するのは非常に難しいものです。特にイギリスの場合は、職能集団としての医師たちの士気、モラル、志という人間の心に関わるところが壊されてしまった。それがイギリスという国を危機的な状況に追い込んでいます。これは社会的共通資本としての今の日本の医療、あるいは教育が置かれた状況とじつに良く似ているのです。(P82-P83)

## 安倍能成先生のこと

(P84)

社会的共通資本としての教育について考えるとき、私にとって忘れられない光景があります。東京大空襲後の一九四五年、旧制一高に入学した年の出来事でした。戦時中、一高の本館は師団司令部が使っていて、学生は裏手にあった講堂で講義を受けていました。…… たしか九月半ば、軍隊の施設とみなされていた一高にもジープに乗った占領軍の将校団が接収にやってきました。当時の一高校長は安倍能成先生で、戦前の日本では最も優れたカント哲学者で、すぐれたリベラリストでもありました。ずっと後になって知ったことですが、安倍先生は、戦争中から、近衛文麿を中心とする敗戦処理を考えるグループの一員だったそうです。その安倍先生は占領軍の将校たちを前にして、英語できっぱりとおっしゃいました。「この一高は、Liberal Arts (リベラルアーツ) の College (カレッジ) です。ここは sacred place (聖なる場所) であり、占領という vulgar (世俗的) な目的のためには使わせない」リベラルアーツというのは、教育の仕上げの段階で重要な役割を果たすものです。つまり、学問や芸術、知識であれ文学であれ、専門を問わず、先祖が残した貴重な遺産をひたすら学び吸収し、同時にそれらを次の世代へ受け渡すという営為をする場所だということです。一人ひとりの学生の肉体的な成長を図るとともに、それを次代へと継承する役割がある。安倍先生はそのことを繰り返し、それを聞いた占領軍の将校たちは、黙ってそのまま帰っていきました。占領軍に楯突くなど逮捕されて当たり前、という時代にきわめて珍しいエピソードのはずなのに、新聞はもちろん一高の記録にもいっさい残っていません。しかし、その場に居合わせた私は心の奥底で、われわれは先祖が残した貴重な遺産をできるかぎり吸収して次世代に残すという仕事をしている、それが大学あるいは学校なのだという思いを強くしました。今になって考えると、私の心の中に「社会的共通資本としての教育」という考え方が芽生えた原点だったように思うのです。そのあとマッカーサーは日本の政治、経済、教育など、あらゆる面について徹底的な改革を命じました。東久邇内閣は即日総辞職し、幣原喜重郎を首班とする内閣が発足します。…… 。。。そういう経験から、マッカーサーはあえて幣原を首班に指名したのでしょう。それからしばらくしてマッカーサーは、日本が無謀な戦争に突き進んだのは、すべて教育制度に原因があるとして、日本の教育を徹底的に改革することを最優先課題にしました。アメリカからやってきた三十人以上の大調査団を出迎えたのが、そのとき文部大臣になっていた安倍先生で、このような挨拶をされたのです。「日本は戦争中、いろいろな国を占領した。そのときの最も重い罪は、それぞれの国の歴史、社会、文化、それらを無視して日本の制度を押し付けたことだった。あなた方は占領国を代表して日本の教育制度の改革に来られたが、日本が犯したのと同じ罪を、決して犯さないでほしい」とすると調査団の団長は大いに感激して、壇上にかけてあげて安倍先生に握手を求め、全員が割れるような拍手をしたのです。この様子は当時の新聞記事にもなり、大きな話題になりました。そしてじつは、この調査団長はリベラルな教育を唱導した哲学者ジョン・デューイのお弟子さんでした。デューイについては後で話しますが、安倍先生が強調されたのは、リベラルな教育は人類に共通であって一つの国に特有のものではない、ということでした。もともとリベラルという言葉にはそういう意味が含まれていて、教育も、医療も、人間社会にとってかけがえのない大事なものだから、それをリベラルな基準にしたがって大切に守って次の世代へ伝えていく。その際には、教育なら教育者の、医療なら医療に生涯を捧げる医療者たちの専門的な規範と判断によって、子どもたちへ残していこうということです。(P84-P88)

## 社会的自由ということ

(P88)

阿部先生の片腕として、大へんな苦勞を背負うことになったのが木村健康先生でした。木村先生は河合榮次郎の門下で、河合が軍を批判したとして起訴され休職に追い込まれたときは、河合に殉じて東大助手を辞し、特別弁護人として法廷にも立ちました。その後一高の教授となり、…… 木村先生の専門はイギリスの経済思想史で、中でもジョン・スチュアート・ミルを専門とされていました。一高時代の英語のテキストがミルの『On Liberty』でしたが、その冒頭には「ここに言うリバティはフリーダム、つまり無制限の自由ではない。他の人々の自由を侵さない限りにおいて、自由はある」と書かれていました。つまり、人間にとっての自由とは、社会的自由なのだということを強調されていたのが、今でもはっきりと記憶に残っています。リベラルとは何か、ということは若い頃から長く私の心にかかってきました。日本語ではリベラルもフリーダムも同じ「自由」と訳されます。前にふれたデヴィッド・ハーヴェイの本のタイトル「Neoliberalism」も「新自由主義」になりますが、「自由主義」を英語にすると、どちらかというと Libertarianism と言うのでしょうか、自由を最高至上のものとする考え方になります。本来リベラリズムとは、人間が人間らしく生き、魂の自立を守り、市民的な権利を十分に享受できるような世界をもとめて学問的営為なり、社会的、政治的な運動に携わるといいうことを意味します。そのときいちばん大事なのが人間の心なのです。(P88-P90)

## 福沢諭吉先生の信条

(P90)

日本人でリベラルアーツを代表する存在といえば、福沢諭吉だろうと私は思います。緒方洪庵が開いた適塾に学んだ諭吉は、もともと医者になるつもりはありませんでした。……。そのあと東京へ出て、今の慶応大学の前身となる学校をつくるのですが、彼の教育についての考え方は常に一貫していて、人間は生まれながらにして各々が素晴らしい能力をもっているのだから、それを自由に育てるのが教育で、決して競争や試験をすべきではないといひます。…… 「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」という人間に対する考え方、はじめての異郷の地でもまったくゆるがぬ信念を思うにつけても、私は、人間性の社会的本質を明らかにしようとしたアダム・スミスの『道徳感情論』を思い起こし、そこに経済学の原点をみる思いがします。『道徳感情論』をもとにして書かれた『国富論』のなかで、アダム・スミスは論理的整合性のみを基準として設計された経済制度は、必然的に、多様で個性的な人間のもつ基本的性向と矛盾することを、繰り返えし強調していました。(P90-P93)

## ジョン・デューイの教育哲学

(P93)

ジョン・デューイは、十九世紀後半から二十世紀にかけてアメリカで活躍した最も優れた哲学者であり、教育者です。接点こそありませんが、私にいわせれば、デューイは福沢諭吉の考え方を体系的に展開した哲学者ということになります。デューイは有名な著書『Democracy and Education』(民主主義と教育)で、「教育の三大原則」をまとめていますが、それは次のようなものです。第一は、社会的な統合です。子どもたちはそれぞれの家庭、村、宗教など生まれた環境を背景にした狭い世界のなかで育ってきて、学校へ行くようになってはじめて、あらゆるバックグラウンドが違う子どもたちと一緒にいる。つまり学校教育は、子どもたちが学校の教室という場で、他の子どもたちと一緒に学び、遊ぶことで一人前の人間に成長するのを助ける。アメリカは、特に十九世紀は典型的な

移民社会でしたから、そのなかで、人間として共通の理念や生きざまを学ぶのが教育だということです。第二は、平等に関わる原則で、どんな僻地に生まれても、どれほど貧しい家庭に育ったとしても、その時々の方が提供できる最高の教育を、すべての子どもたちが受けられるようにするという事です。第三は、一人ひとりの子どもの知的、精神的、道徳的な側面の発達を助けるということです。子どもたちはみな innate (生来的) に、あるいは後天的に独特の能力と性向をもっています。絵を描くのが上手な子、歌のうまい子もいれば足の早い子もいて、あるいは物真似の得意な子もいる。それらの良い面をできるだけ生かしながら、同時に社会的な存在としてバランスのとれた人間に育てます。 デューイが掲げた三大原則は、二十世紀前半のアメリカだけではなく、世界の学校教育において一つの理想とされました。しかしよく読むと、福沢諭吉が日記に書いたり、自ら行動で示していたこととほとんど重なっていて、そういう意味で、諭吉はリベラル教育の先導者だったといえます。それをデューイが受け継いだと考えれば、福沢諭吉は十九世紀後半において最も優れた思想家であり、教育学者でもあったわけです。 デューイの理念はアメリカ教育界の大きな流れとなり、彼自身、コロンビア大学の教育学部を全米における教育のメッカにしました。先にふれたように、終戦後に日本に派遣された教育調査団のほとんどがデューイの影響を強く受けた人たちで、その理念は戦後日本の学校教育改革に貫かれているように思います。しかし、よかったのは教育基本法がつくられるまでで、そのあと文部官僚たちはデューイの理念、あるいは諭吉の思想をないがしろにするような制度の改革を次から次に重ねてしまった。そのことを私は非常に残念に思います。 …… 試験で高い点数をとって有名大学に入り、一流企業に就職できたならもうそれで満足、ただそれだけで教育を考えている。そうではなくて、一人ひとりの子どもが人間として立派に成長し、社会的に活躍することができ、同時に豊かな感性と広い知識を持つようになること、いわばバランスのとれた人間にすることが教育の大切な役割なのです。 …… (P93-P95)

#### 私の学校計画 (P98)

…… それからずっと後になって、わたしの故郷である鳥取県の西尾呂次知事(当時)が、私の「公園都市」構想に共鳴していただきました。もともと公園というのは、十八世紀ドイツの文豪ゲーテがワイマール公園の宰相だったときに唱えたのが最初といわれます。当時、立派な庭園とその緑は領主や貴族が所有していて、一般の人たちは使えなかった。ゲーテはそれを所有者が誰であるかを問わずに、共通財産として一般の人びとが享受できるような場所にしたいわけです。一つの社会的共通資本として公園を位置づける考え方は、学問や芸術、広い意味での教育とつながると思います。 …… (P100) (※ …… <公園都市> …… 日本では公園というと庭園だけですが、ヨーロッパの公園には博物館や美術館、劇場などさまざまなものがあります。(宇沢弘文:週刊医学界新聞[対談]—Meet the expert—「社会的共通資本」から医療とリハビリテーションを語る 宇沢弘文氏—木村彰男氏(医学界新聞編集室で約3分の2に再構成)『総合リハビリテーション』誌(医学書院刊)Vol. 28. No. 3(全文))

#### 四 大学と都市の理想と現実 (P102)

##### ジェイコブスの四大原則 (P102)

ヨーロッパでもアメリカでも、理想的な大学は原則として全寮制で、教師も原則としてキャンパスの中か近くに住んでいます。つまり、生活をともにして一つのコミュニティをつくっている。しかし、わが日本の大学はというと、人里離れた広大なキャンパスに、味気ない建物が並んでいます。それを見ていると、現代日本の貧しい教育観のもとでは理想的な大学など到底実現できないだろうと思い、悲しくなります。 …… ルーヴァン・ラ・ヌーヴ建設計画の全体から細かいところまで関与した建築家ピエール・ラコンテは、アメリカの都市研究家ジェーン・ジェイコブスの思想に傾倒していました。ジェイコブスの思想について、要約して紹介します。二十世紀初頭、アメリカには数多くの魅力的な都市がありました。それらの都市では幅が狭くて曲がりくねった街路が隔々にまで行きわたり、人口密度が高く、大勢の人々が絶えず行きかっていた。主な交通手段は路面電車であつた。これまた街の隅々にまで敷かれ、人間的な営みを可能にしていたのです。しかし、一九五〇年代の終わりごろには、こうした大都市の大部分は「死んで」しまいます。ジェイコブスは、アメリカの多くの都市が「死んで」しまった背景には、ル・コルビュジエの「輝ける都市」を理念とする近代的都市像があると考えました。コルビュジエのいう近代都市とは「自動車に乗って、豪壮な高層ビルのあいだを縫うようにつくられた高速道路を走りぬけ、街の中心には行政機能を果たす建物が左右にならぶ」といったもので、その通り都市の再開発がおこなわれてきたことが最大の原因だと考えました。ジェイコブスは自分の足でアメリカ中を歩きまわり、住みやすく人間的な魅力をそなえた街並みがまだ残っていることを発見し、それらの街並みに共通する特徴を探し出して「ジェイコブスの四大原則」としてまとめました。第一の原則は、都市の街路は狭く、折れ曲がっていて、各ブロックが短いことです。幅が広く、まっすぐな街路を決してつくってはいけません。街を改造したり、新しい街を作ったりするときは広い直線道路はつくらず、ブロックを小さくします。第二の原則は、都市の各地区には、古い建物ができるだけ多く残っているのが望ましいということです。街を構成する建物が古く、つくり方もさまざまな種類のものがたくさん混じっているほうが、住みやすい街だということです。テレビなどで見たことがあるでしょうが、アメリカでは一ブロックまるごとダイナマイトで爆破してしまうので、古い建物は跡形もなくなります。ジェイコブスは「飲み屋でもレストランでも、新しくすると味が落ち、値段も高くなる」「新しいアイデアは古い建物から生まれるが、新しい建物からは新しいアイデアは決して生まれません」という有名な言葉を残しています。第三の原則は、都市の多様性についてで、都市の各地区は必ず二つかそれ以上の働きをするようになっていなければならない、というものです。住宅地、文教地区、公園、工場、という具合に機能によって整然と区分けしてしまうのではなく、あくまで自然発生的であるべきだと主張しました。ジェイコブスは、当時のアメリカの新しい都市開発は自動車の使用を大前提としてゾーニングを貫徹してしまうので、とても人間が住めるような街ではなくなってしまう、治安も悪くなると真っ向から反対しました。第四の原則は、都市の各地区の人口密度が高いということは、住居をはじめとして実際に住んでみて魅力的な街だということをおぼわすからで、これらジェイコブスの四大原則が、高層ビルの群立や幅の広い道路といった近代都市を否定し、人間的な魅力をそなえた、住みやすく文化的香り高い都市をつくるために有効な考え方であることは、一九六一年に名著『アメリカの大都市の死と生』(The Death and Life of Great American Cities)が刊行されてから半世紀のあいだに、はっきり示されてきたと私は思います。しかし、日本ではダメでした。ルーヴァン・ラ・ヌーヴの理念とは正反対の、ジェイコブスが批判したアメリカ流の醜悪な街づくりをどんどん進めてしまいました。それを象徴するのが筑波ニュータウンで、かつて私自身も建設省の筑波ニュータウンのレビュー委員会に入っていました。筑波ではまっすぐな広い道路、しかも自動車での移動を基本として設計してしまいました。それに大学のつくり方自体ひどいもので、…… だいいち、飲み屋が計画されていなかった。…… (P102-P107)

##### ヴェブレンの『大学論』 (P108)

…… ヴェブレンはアメリカが生んだ傑出した経済学者の一人で、深遠な思想家、そして鋭い文明批評家でした。私自身、早くからヴェブレンの経済学に傾倒し、彼の制度主義の概念をよりどころにしながら、社会的共通資本について考えを深めてきました。つまりそれは、ヴェブレンの経済学を私なりの言葉で表現したものに他ならないのです。ジョン・デューイがシカゴ大学哲学科に主任教授として迎えられたのと同じ頃、ヴェブレンは経済学部で講師をしていて、そこでの経験にもとづいて大学論を書いています。大学論は主として一九一六年に刊行された『アメリカにおける高等教育』(The Higher Learning in America)のなかで述べられていて、その副題は「もしビジネスマンが大学を経営したらどうなるか」というものでした。つまり、経営的観点を中心にして大学を運営するとひどいことになる、そういう皮肉をこめてヴェブレンは近代文明社会における大学の機能を二つの側面から考えました。一つは「Idle Curiosity(自由な好奇心)」で、人間に本来備わっている好奇心を探求していくことが大学の目的であって、決してお金を儲けたり、世間的に出世して偉くなったりするためにあるのではない、ということです。そしてもう一つは「Instinct of Workmanship(職人気質、生産者としての本能)」で、もともと人間はものづくりに対する本能的な熱意をもっていて、ものをつくるときに強制されたり、それによって儲けようと考えたりはしない。学問も研究も一種のものづくりですから、この二つの本能的傾向を深め、知識を蓄積していくことが大学の基本的な役割だということです。小・中学校では自由な生き方や能力を育て、社会的な存在として立派な一生を送れるような基礎をつくらうと唱えたデューイも、高等教育の本質を論じたヴェブレンも、後にロックフェラーによって大学を追われました。しかし、二人はそれから三十年ほどたってニューヨークで「ニュー・スクール・フォー・ソシアル・リサーチ」(The New School for Social Research)という社会科学を中心とする四年生大学をつくりました。…… 一九八〇年代に入って間もない頃のことでした。当時私は東大経済学部長をしていて、あるとき向坊隆総長に、フランスから来日するパリ大学のシステム責任者と会うので同席してほしい、と頼まれました。パリ大学といえば、一三のフランスのエリート校を集めたもので、その責任者は大臣よりも偉いといわれていました。するとその責任者は開ロー番、このようなことを言ったのです。「東大は偉い。あれだけの紛争があつたにもかかわらず、何一つとして改革していない。それに比べてパリ大学システムは、次から次に改革、改革というので、すっかりダメになってしまいました」フランスの官僚は日本と比べものにならないほど強烈で、改革はアカデミックな視点ではなく政治的な動機と意図にもとづくもので、大学の基本的な理念に反している—それを聞いた向坊総長も私も、我が意を得たりという心境でしたが、それから間もなく東大も改革の波に巻き込まれ、かつてのようなアカデミックな威信も、リベラルな雰囲気もすっかり影をひそめてしまいました。とりわけ無念だったのは、アメリカにはじまる市場原理主義の流れが押し寄せてからの変わりようです。学生たちは人間が本来持つべき理性、知性、そして感性まで失い、人生最大の目的はひたすら儲けることだという、まさに餓鬼道に堕ちてしまったのです。その頃から、工学部の学生たちが競って金融機関に就職を希望しはじめたのを見て、向坊さんは心底嘆いてこいわれました。「工学はもともと、すべての人々が豊かな文化的香りの高い生活を営むことができるように、自然も社会も安定的に持続的に維持できるような社会的インフラストラクチャーをつくるのが目的ではないか。その工学を勉強した学生たちが、ただひたすら金儲けを求めて自分の人生を送ろうとすることほど悲しいことはない……」しかし、経済学部の同僚の教授は私にこういったのです。「私のゼミの学生はその多くが大銀行に就職する。それは大銀行に入れば定年になってからも二次的な就職が可能で、生涯所得を最大にすることができるからだ。経済学の基本をちゃんと理解している彼らは、じつに賢明だ」歴史的スケールの金融恐慌を引き起こした直接要因となったサブプライムローン、それを徹底的に悪用した金融工学、その大きな責任は大学教育にもあるのです。…… (P108-P113)

大学の作られ方 ……

「種馬」と「敵」 (P115)

福沢諭吉やデューイの「競争をしてはいけない」という理念は素晴らしいものです。子どもは一人ひとり皆ちがうのだから、子どもたちが自由に自分の能力を育て、立派な人間として育つように教育しなければなりません。それを画一的な試験で比較したり、点を付けたりするのは、社会的共通資本としての学校教育の理念から大きく逸脱しています。そんな乱暴なことをするから「落ちこぼれ」が出たり「いじめ」が起きるのだし、だいたい点数で比較することに、いったいどんな意味があるのでしょうか。…… (P115-P116)

五 数学という永遠の命 (P121)

末綱恕一先生のこと (P121)

古代ギリシャの哲学者ピタゴラスは、南イタリアのクロトンで全寮制の学校のようなものをつくり、数学によって宇宙の神秘をあきらかにしようしました。彼らが考え出した正十二面体はその象徴的な存在で、それを「十二の五角形を持つ球」として最も聖なる形としました。しかし彼らは、今でいうところのカルト集団みたいな扱いを受けて糾弾され、ついに、ピタゴラスは殺されてしまいます。それでもピタゴラスの定理は真理として現代に受け継がれている。永遠に生命をもつ真理の継承、これこそ社会的共通資本のエッセンスだと思います。…… 私は東大数学科で弥永昌吉先生について代数的整数論を勉強するかたわら、末綱恕一先生に数学基礎論を学んでいました。末綱先生は西田幾多郎の哲学に心酔していて、もともとお寺育ちということもあって、インド哲学とサンスクリットにも精通しており、数学に西田哲学を応用できないかということまで考えるような方でした。しかし、微分積分にサンスクリットまで登場するので、私などはちんぷんかんぷんで往生したものです。それでも今もよく覚えているのは「無量」という言葉です。無量、すなわち数には限界がない、ということをも末綱先生はしばしば口にされました。……、あれから六十年以上たった今でも、数は無量、人間はいつも謙虚な心で問題にあたるべきだ、そうした先生の教えは心に残っています。(P121-P123)

『好きになる数学入門』への思い (P123)

数学が対象としているのは、数、空間、時間という自然の要素のあいだに存在する神秘的な法則を明らかにすることです。この自然の法則は決して人間の手によって変えたり、細工したりすることはできません。数学を学ぶというのは、厳然として存在する自然の法則を理解し、学ぶことにほかならず、すぐれた数学者がみな謙虚な人柄で謙讓の心を忘れないのは、こうした数学の本質に関わるところが大きいように思います。…… (P123-P124)

六 天与の自然、人為の経済 (P132)



経済学がはじまって以来、自然環境を扱うことはタブーとされてきました。もともと自然環境は天から与えられたもので、人間がつくったものではありません。人間は森から木を伐り出し、海や川から魚介を獲り、それによって経済的な生活を営むことができますが、森、川、海など自然の価値は、そこからどれだけ経済的メリットを受けることができるか、という一つの要素に過ぎなかったのです。一九七〇年、十数年ぶりに日本に帰ってきて間もない私は、はじめて水俣の地を訪れました。熊本大学の若い医学者原田正純さんに連れられて胎児性水俣病の患者に接し、その母親の悲しみをみたときの衝撃は、今も忘れることができません。私が知らずにいた高度経済成長の陰の部分の直視させられた経験は、それまでの経済学に対する私の考え方を根本からくつがえし、人生観まで変えたと言っても過言ではないでしょう。…… チツソは長いあいだ、営業の名のもとに水俣湾を自由気ままに汚染する犯罪行為をおこなったのです。水俣の公害問題は、自然環境というのは所有権がはっきりしていないのだから、企業がどれだけ利用しても、どれだけ汚染してもかまわない、という考え方が引きおこしたものです。しかし、水俣湾という自然は、決して自由財あるいは公共財ではありません。有史以来、地元の人々にとって共通の財産として大切に扱われ、海を汚すことはきびしく禁止されていた。そこで魚を獲って生計を立てる人たちは、海を神聖なものとして尊崇してきたのです。つまり、社会的共通資本としての水俣湾をチツソは勝手に使い、徹底的に汚染し、破壊しつくした。それによって数多くの人々が脳神経の中樞を冒され、言語に絶する苦しみを味わってきました。「水俣病患者をみると、これが犯罪でないならば、ほかに犯罪がありうるものかという感想をなんびとも抱くであろう」これは、惜しまれながらも若くして世を去った刑法学者の藤木英雄氏が、名著『公害犯罪』（東京大学出版会、一九七五年）のなかで残した言葉です。水俣病をはじめとして全国の公害問題にかかわるなかで、私はそれまで専門としてきた近代経済学の理論的枠組みの矛盾、倫理的欠陥をつよく感じざるを得ませんでした。そして数多くの公害の人間の被害の実態を分析していく過程で、その原因を解明し、根源的解決の道をさぐるような理論的枠組みとして到達したのが、社会的共通資本という考え方だったのです。所有関係には私有のものもあれば、公有もあり、国有もあります。それはマルクス経済学にも近代経済学にも共通していますし、私自身、かつては経済学者の通例として、すべて所有関係でものを考えてきました。しかし、それだけでは森林や海のような自然環境をうまく、持続的に管理していくのは不可能です。日本でも、明治の近代化の過程で急速に壊れてしまった入会制度のように、皆で相談して大切に使い、次の世代に伝えていく、つまりコモンズの精神を取りもどす必要があると思うのです。(P132-P135)

「環境」と「経済」の関係

エネルギー消費大国の横暴

排出権取引の反倫理性

近代文明から自然の摂理へ

(P147)

自然環境は、社会的共通資本として最も重要です。人間はもちろん、あらゆる生物は自然環境のなかで生きていくものだからです。京都會議が計画されているころ、私の先生でもあるケネス・アローが中心となって、地球温暖化や生物多様性の保全など、リオ・デ・ジャネイロ会議で提起された問題について、経済学的視点からだけではなく社会的、倫理的な視点から考えようとする大きな研究グループをつくりました。一九九四年にケニアのナイロビで開かれたIPCCの「気象変化に関する倫理的、社会的考察」のコンファレンスで発表された、カナダの環境に関する研究所の指導的研究者であったハイデンリツヒが、基調講演で次のような話をしました。「地球温暖化や生物多様性の保全といった地球規模の問題は、もとをただせば近代文明の考え方に沿って人間の活動がおこなわれてきたためだ。自然の摂理にしたがって生きるのではなくて、自然をできるだけ人間の都合のいいように使い、そこからできるだけ大きな利益を得るといふ、近代科学の原点ともいえるべきデカルトやベーコンの考え方にそもそもの原因がある——」ハイデンリツヒは、シートルに暮らす先住民族の族長の「白人は夜やってきて土地を盗み、それを売って儲ける。儲かるものなら自分の母親さえも売ってしまう」などの言葉を引きながら、「われわれは、アメリカの先住民族であるインディアンの方や知恵を学ぶべきだ。自然の摂理にしたがい、自然と共存して暮らすことが大事だ」と述べました。それを聞いた議長のアローは、すでに私たち経済学者の出る幕ではない、とため息をついたものです。京都會議では、こうした知恵も比例的炭素税も無視され、有効性のない政治的スローガンとしての数値目標、排出権取引という非倫理的な制度が中心テーマとなりました。しかしそれ以降、地球温暖化、生物多様性という問題はいつそう深刻になるばかりで、自然を大切に、自然とともに生きるという考え方を、政策的、制度的にうまく取り入れることが必要だという考え方が、世界的な流れとなりつつある。そうした大きな流れがアメリカではオバマ政権、日本では政権交代につながったともいえるでしょう。しかし、…… もともと私たちが暮らす日本は、海の生物の多様性においては世界で最も高い国で、非常に豊かな水産資源に恵まれています。しかし、日本列島の海の生物多様性は二十世紀を通じて、とりわけ第二次大戦後の六十年余りで劇的に損なわれつつあります。生態学者の加藤真は『日本の渚 失われゆく海辺の自然』（岩波新書）のなかで、かつての生命にあふれた干潟や海浜などがコンクリートや護岸に姿を変え、決定的に壊されてきたその構造を明らかにしています。戦後長きにわたって、自民党支配による問題ある政策が採られてきた結果だとは思いますが、地球温暖化や生物多様性の保全などの世界的な問題については、日本としても、世界の多くの国から支持される理性的な政策を打ち出すべきだと思います。この点においても、比例的炭素税の考え方は新興国、途上国すべてに適用できます。中国とロシアが参加しない限り、地球全体の問題について効果ある解決策を見出すことは難しいのですから、そうした立場からリーズナブルな主張を展開していくべきではないでしょうか。(P147-P152)

生物多様性

(P152)

地球の大気の安定性と、生物多様性の保全とは非常に深くかかわっています。なぜなら生物多様性の原点とは、地球の大気の循環が、生物が快適に多様な生き方をすることができるよう、摂氏十五度という温度に保たれていることだからです。これこそ神の摂理というべきものであり、地球ほどバランスのよい組成を持った大気は、おそらく宇宙に存在しないといわれます。生物多様性という言葉に象徴される、美しく豊かな自然。そのなかで人間が自然と調和して暮らしていくというバランスが、戦後、特に京都會議を契機として、大きく崩されてきていると感じます。二十世紀に入って、地球温暖化、生物の多様性喪失という、おそらくはこれまで人類が直面したなかでもっとも深刻な課題が、ダモクレスの剣のように私たちの頭上に迫ってきている。十八世紀後半の産業革命をきっかけとして展開されてきた、近代科学を基礎とする技術への盲目的な信頼、それと新古典派経済学にもとづく社会的、経済的条件を是とするような非人間的生き方、倫理的偏向がその原因です。ブラジルの優れた研究者ユージニオ・ダ・コスタ・エ・シルヴァの論文『生物種の多様性と知的所有権』には、次のようなことが書かれています。アメリカの製薬会社が開発する新薬の七五パーセントは、次のようなプロセスでつくられている。製薬会社が数多くの専門家を、アマゾンの熱帯雨林で暮らす少数民族の集落へ送る。彼らは集落の長老あるいはメディシンマンを訪ねて、伝承的に受け継がれてきた医療技術を聞く。長老やメディシンマンのなか

には一人で五千種類にもおよぶ治療法を知っている人もいて、彼らにアマゾンに生息する動植物や微生物、土壌や鉱物について、どのような症状や疾病、障害にどう使えばいいかを尋ねる。専門家はこれらのサンプルを本国へ持ち帰り、ラボラトリーで化学分析をして、人工的に合成して新薬として売り出す。近年、アメリカの製薬会社の多くが莫大な利益を上げているが、そのかなりの部分が、このような形で行われる新薬開発によってもたらされている。そこでブラジル政府は、アメリカの製薬会社がアマゾンの長老たちに特許料を支払う制度をつくったが、長老たちはこぞってその受け取りを拒否するという。その理由は、自分たちのもっている知識が人類の幸福のために使われることぐらいうれしいことはなく、その喜びをお金に代えるようなさもないことはしたくない、というものであった。あくどく利潤を追求してやまない市場原理主義的な企業のあり方と、アマゾンの長老たちのすがすがしい人間的な生き方との鮮明な対照こそ、現代文明の病理現象である地球環境問題を生み出したものです。地球温暖化と同じように生物多様性をめぐっても、国際間で様々な利害対立があるのが現実ですが、二十一世紀においてこの問題の根源的な解決につながる、暗夜の星のようなエピソードではないでしょうか。アフリカのある種族のあいだでは「自然」「文化」「宗教」が同じ言葉だといいます。自然の恩恵は、アマゾンやアフリカのような自然に生きる人びと、農の営みにたずさわる人びとにとって大切なもので、それを売って儲けるなどということは考えられないのです。森を守ることは神聖なことであり、自然環境は人間の生存に不可欠なばかりでなく、人びとの経済的、文化的、社会的活動のために重要な機能を果たしています。自然とともに生きる人、農の営みにたずさわる人はそのことをよく知っているのです。(P152-P155)

## 七 人類と農の営み (P156)

### 戦後農政の矛盾 (P156)

農の営みは、人類の歴史上、過去も将来においても基幹的な地位を占めつづけることはまちがひありません。およそ一万年前、人類がはじめた農の営みは、小麦にはじまり、稲を栽培し、農耕による食料の生産によって人口の増加を支えてきました。農の営みは、経済的、産業的範疇のなかでとらえる農業をはるかに超えて、すぐれて人間的、社会的、自然的な意味をもっています。つまり、人間が生きてゆくために不可欠な食料を生産し、衣と住についてその基礎的な原材料を供給し、さらに、山、森林、川、湖沼、海、土壌のなかに生存する多様な生物種を守りつづけてきたのです。そして農の営みは、自然環境をはじめとする多様な社会的共通資本を持続的に維持しながら、人類が生産するためにもっとも大切な食料を生産し、農村という社会的な場を中心として、自然と人間との調和的な関わり方を可能にすることで、文化の基礎をつくり出してきました。こうした意味で、農村自体も一つの重要な社会的共通資本であることはいまでもありません。どの国をみても、人口のある一定の割合が農村で生活していることが、社会的安定性を維持するために不可欠になっています。社会的安定性を保つために必要な農村人口の割合は、国によって、また、経済的な諸条件の変化によっても変わりますが、さしあたって日本の場合には、二〇～二五パーセント程度が望ましい農村人口の比率といっていでしょう。そしてこの人々は社会的、心理的な強制によるのではなく、農村に定住して農の営みに従事することが、自らの生き方としてもっとも望ましいものとして自ら選択する、ということの意味しています。しかし、今の日本農業は存続自体が危ぶまれるということでは、一九三〇年代の大恐慌以来、あるいはその形成以来、最大の危機を迎えています。それほど危地をもたらした要因のひとつは一九六一年に制定された農業基本法であり、市場的な効率性、つまり工業部門と同じような考え方を農業にあてはめてきた政策の失敗にあります。第二次大戦後、アメリカは、日本を意のままに動く国になるよう仕向けてきました。その占領政策の基本は二つあって、一つは、戦争中に利害を超えて軍隊に協力したアメリカの自動車産業に日本の巨大なマーケットを捧げることでした。はじめのうちこそ、日本が自動車をつくれないうように重化学工業をもつことを禁じられていましたが、朝鮮戦争による軍需で解禁され、積極的に推し進めたことが高度経済成長をもたらしました。それともう一つが、余剰農産物に苦しむアメリカ農業と日本の農業がコンフリクト(競合)しないようにすることで、農業基本法によって選択的農業という流れを全面的に法制化していったのです。かつて日本人の体格が貧弱なのはパンではなく米を食べるからだとか、俗説がたくさん流布されたものですが、それも余った農産物を日本に入れようというのが目的でした。それと並行して、農村の子どもたちを中学卒業と同時に「金の卵」と称して大量に都会へと連れ出し、工場などで朝から晩まで働かせるような政策が、広範囲で何年間にもわたってつづけられました。そのため農業基本法が制定されてから三十年ほどのあいだに、農業を選ぶ新卒者が九万人から千八百人にまで減ってしまいました。このような極端な政策をこれほど大規模におこなった国は、おそらく日本をおいて他にありません。社会的共通資本としての農業というとき、子どもたちが生まれ育った農村で立派に成長し、農の営みを続けていくことが原点になります。その農村の大事な宝物である子どもたちをいっせいに都会に連れ出し、農村をダメにしてしまったことは、とても大きな傷跡として今に残っているのです。農業基本法制定にあたって審議会の会長をつとめた東畑精一先生が、後年、「自分が中心になってつくった農業基本法が、日本の農村と農家を徹底的に破壊してしまった。それを見通せなかった自分は今後、農政について語る資格はない」と仰っていたことは、今も私の心に重く残っています。一九七四年に私が『自動車の社会的費用』を書いたきっかけは、一九五六年に世界銀行から日本の道路調査に派遣されたワトキンス調査団の研究助手をつとめたことでした。調査団には、若い頃、明治維新における日本の侍たちをテーマに論文を書いた経済学者エヴァレット・ヘーゲンMIT教授もふくまれていました。私は、日本を破壊するようなプランには協力できないと一度は断ったのですが、何せまだ占領同然でしたから、結局、助手として三ヶ月ぐらいい調査を手伝うことになったのです。アメリカの目的の一つは、朝鮮戦争のような事態に対応するために日本の機動性を高めようということで、その一つが名神高速道路、日本でもっとも最初に出来た有料高速道路でした。私はヘーゲンを説得して、建設予定地での聞き取り調査を何度もおこないました。そこに出てくるのは、足元がおぼつかないような高齢のお百姓さんだったりするのですが、日本語の通じない相手に緊張しながら、それでも必死になって中止を訴えるわけです。それを建設省(現在の国土交通省)の担当者が高圧的に抑えこんでは、卑屈なばかりに調査団に気をつかい、いくら住民が田んぼや農村がだめになると言って訴えても、彼らは聞く耳をもたなかったのです。私は腹が立ってしかたがなく、自分で報告書を書いて提出しましたが、まったく無視されました。ワトキンス報告書は最初から結論ありきのようで、日本の道路事情は悪すぎるから、日本のために全国どこでも自動車が通れるようにすべきだ、という自動車信仰一辺倒の内容で、それをきっかけとして以後次々に高速道路網がつくられていきました。しかし、高速道路は日本の古い街並み、田んぼや畑が広がる農村を壊し、その周辺は次第に町や農地として機能なくなっていく。今の農村は道路だけは真っ直ぐで立派でも、商店ひとつないゴーストタウンみたいな地域ばかりです。そして自動車を中心としたライフスタイルは、痛ましい交通事故だけでなく、排ガスによる様々な公害、犯罪の増加とその凶悪化までももたらしました。臨海工業地帯に象徴される日本の高度経済成長は、経済的に豊かになる過程で陸と海の自然環境を破壊し、農村という大切な社会的共通資本に深いダメージを与えました。成長を続けるために生産性を高め、農村の生活を犠牲にしてきたことが、国としてのバランスをはなはだ欠く状況をもたらしたことが残念でなりません。世界全体で見ても、二十世紀はじめまで世界の人口の約九〇パーセント近くが農村に暮らしていました。それが現在は約八〇パーセントが都市で生活しているといえます。かつてこれほど早いペースで都市化と工業化が進み、農村と農業が占める位置が相対的に低下しつづけた世紀はありませんで

した。その象徴的な例である日本では大きなバブルが崩壊し、リーマン・ショックがあり、経済は非常にきびしい状態におちいつています。私はそのいちばんの原因は、社会的共通資本として大切に守り、子どもたちの世代に残さなければいけない農村を粗末にしてきたことにつきると思います。日本人はあらゆる生活の営みにおいて農村をベースとして、そこに伝わる教えと生きざまを心に残してきた。それを時代遅れだとか、封建的だという見方でこわしてしまっただけです。それによって代わったのが、アメリカ発の市場原理主義的な考え方で、地球温暖化対策にもそれがはっきりと現われています。しかし、地球温暖化問題を考える上でも、中心となるのは農業なのです。もともと農業は太陽エネルギーと二酸化炭素という無限に存在する資源を使って、人類が生きていくのに必要な食料をつくってきました。植物を農作物として栽培し、動物を家畜として育成して食料を生産する作業を中心として、自然と共生しながら、もっとも効率的な結果を得ようとするものです。農業は二酸化炭素の排出を抑え、自然を大きく改変することなく営むことができるという点で、工業部門とは決定的にちがうのです。工業労働者とちがって、農民一人ひとりが主体的に生産にかかわることができます。そして重要なのは、農業は、日本や東アジアでは協同的な営みとして歴史的につづけられてきたということです。これまでの経済学では中心的な概念にはなりませんでした。私が一九九〇年のローマ会議で強く主張した考え方は、大気という大事な社会的共通資本を守るために、「競争的」ではなく「協同的」に、皆が公正と思えるようなルールを採用して協力していこうということでした。大切なことは、それぞれの国がもっている歴史と文化を社会的共通資本として大事に守り、それを子や孫たちの世代に伝えることであり、そのために私たちが力を合わせて協力し、協同して解決していくことです。そこで中心になるのが農の営みであり、いかにして農村を活性化し、そこで生きる人たちの生きざまを人間的、社会的な視点から豊かで希望あるものに変えていくのか、その実現に向かって出発するための条件を求めるときは今を置いてないと思うのです。(P156-P163)

私と農村の思い出 ……

空海の満濃池 (P168)

もともと工学は英語でいうと civil engineering、日本では土木工学と理解されがちですが、じつはそれより広い意味を含んでいて、社会が一つの社会として機能し、そこに住むすべての人たちが人間らしい生活ができるための工学的なストラクチャーを指しています。耳慣れない言葉だと思いますが、一例として、農業にかかわる灌漑について考えてみます。かつての日本農業は生産性の高さでは世界的にすぐれ、少なくとも一九五〇年代から一九六〇年代はそれがあてはまっていました。それを支えてきたのは、長い年月をかけて全国でつくられてきた灌漑システムと、共同体によるすぐれた管理方法でした。日本の灌漑システムに大きな影響を与えた空海は、日本の歴史上最も偉大な civil engineer (工学者) の一人でした。九世紀はじめ、空海は遣唐使とともに留学僧として中国長安に渡りました。…… それからしばらくして空海は、朝廷から別当職をもらって故郷の讃岐に帰り、有名な満濃池の大修復の総監督をすることになります。八世紀に造られた満濃池は、日本最大の灌漑用ため池でしたが、あまりに巨大だったので造ってすぐに壊れてしまい、使いものにならなかつた。それが大修復工事をはじめた空海のもとには、彼を慕うたくさんの人たちが集まり、わずか三ヶ月で大修復工事を仕上げました。これは日本古代の水利工学的な事業の中で、一番に特筆される事業として今も語り継がれています。空海は、満濃池を造るにあたって唐で学んだ工学的な知識をもとに、当時最新の技術を用いました。…… 空海が長安で学んだのは、スリランカの灌漑用ため池の技術でした。スリランカは紀元前三世紀から十世紀にかけて、社会的共通資本としての世界最高水準の水利文明を誇った国で、その中心となったのがため池です。古代スリランカの都アヌラダプラは古代世界で最も美しい都といわれ、大小無数のため池が非常にうまく計画されていて、スリランカに降った雨は一滴も無駄にしないで使うという理想で賞かれていました。田んぼや畑にとどまらず、家の庭までため池の水が回るようになっていて、もちろん農業生産性においては世界でいちばん優れた水準を誇っていたのです。しかし、十六世紀にはじまったポルトガルによる侵略、そして十八世紀にはイギリスの植民地政策によって急激に姿を変えていきます。イギリスは森林を切り払い、農地をつぶして茶やゴムのプランテーションに変えてしまった。軍隊によってため池や水利施設も破壊され、川は汚れ、マラリアを媒介する蚊が繁殖するなど、自然と調和した豊かな暮らしは、たちまち世界で最も悲惨なところに落ち込んでしまいました。日本による戦前の植民地支配は、朝鮮は陸軍、台湾は海軍が中心になっていたのも、ひどく強圧的だった朝鮮統治に比べると、台湾では海軍らしい国際的な視点が生かされていました。植民地支配といっても、まずは農業、つまり灌漑事業を調和的発展の基礎としてすえたことが、日本の統治に感謝する台湾の人たちが多い理由の一つなのです。…… 水の惑星、は地球の代名詞です。私たちの暮らす日本、スリランカやエジプトなどの例を見ていくと、いかに自然を大事にして、自然の恵みを十分に享受できるような制度を作らなければいけないか、社会的共通資本の原点について考えさせられます。(P168-P172)

八 「シロウトの経済学」ゆえの仏心 (P173)

石橋湛山のヒューマニズム 経済は人間のために

富を求めるのは道を聞くため (P180)

…… 湛山の著作は、経済のメカニズムに対して冷静に分析しながら、常に失業者やしいたげられた人びとに対する温かい目があります。それらを読んでいると、私の社会的共通資本という概念は、湛山の心を私なりに一つの経済学のコンセプトに徹底してきたのではないかとさえ思うことがあります。私の深読みかもしれませんが、湛山が自分のことを「有髮の僧」と称する原点には、やはり仏の心がある。私自身はだいぶ墮落してしまいましたが、自分にもまだ仏の心が残っていればいいが、そう願っているのです。(P184-P185)

本書の成り立ちについて (P186)

著者の宇沢弘文氏は、二〇一四年九月に他界されました。編集部では二〇〇九年、リーマン・ショック後の社会状況をふまえ、氏に『人間の経済』の刊行を依頼。翌年にかけて行ったインタビューや、近年の講演録等(巻末を参照)をもとに原稿をまとめました。内容・構成については了解され、刊行に向けて作業を進めていましたが、二〇一一年三月に体調を崩されたため、著者として細部にわたる校正作業は行われませんでした。本書には、この六年余の経済状況の変化については言及がありませんが、社会的共通資本という考え方とその役割は、現代社会において今なお重要であると考え、刊行することにしました。ご協力をいただいたご遺族をはじめ、関係者の皆様にあらためて御礼申し上げます。「新潮新書」編集部 (P186)

## 2. 私達当会の確信と提案と要望

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の個体にとって、「大切なもの」/事象は、当該の私達人類の個体に帰属するものですが、在り得ない処、お金は、常に、誰のもの/事象でも、在り得る、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡は遺跡ですが、在り得ない処、私達人類の主観に委任すれば、私達人類の主観の望み得る、何にでも、変容し得る、と確信します。

(神、又は、仏、の心、と、悪魔、又は、餓鬼、の心)

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の科学が、私達人類の世界に貢献し得る事象となり始めたのは、170年程以前からであり、私達私達人類の経済学が、私達人類の世界に貢献し得る事象となり始めたのは、90年程以前からである処、60年程以前には、経済学に、悪魔の心、又は、餓鬼、の心が、浸潤し始めた、私達人類の心、活動、展開、には、常に、神、又は、仏、の心、と、悪魔、又は、餓鬼、の心、の双方が、同時に、働き得る、私達人類は、その存在にあって、神、又は、仏、の心、と、悪魔、又は、餓鬼、の心、の、どちらを、選択し、行為するであろうか？ と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、事象に関して、私達人類の経済社会の市場に於ける私達人類の抽象的な価値観、並びに、之に基づいて行われる取り引き、に於いて、事象に包含される、私達人類にとっての多様である具体的な意味、並びに、多様な自然の事象、様々な関連性、が欠落する、その可能性がある、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界、私達人類の社会は、一度壊されてしまうと回復するのは困難である、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類の個体が、その生ける一生のうちに引き受け習得し継承できなかった当該の私達人類の個体に関係する任意の事象は、私達人類の世界から、永久に、消滅し、私達人類の世界に、二度と再び、回復することはない、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡は、一度壊されてしまうと回復するのは不可能である、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡は、全ての私達人類にとっての「社会的共通資本」である、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、その土地の遺跡について、遺跡たる私達人類にとっての必然と、私達人類にとっての道義、倫理、専門的職業的な規範 (discipline)、私達人類の社会のすべての人たちが幸福になれることへの願い、私達人類の文化、に従い、例えば、競争よりも協同に於いて、遺跡の分断と破壊を回避し、遺跡の、発見又は再発見、調査と実態の把握、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)5月11日 火曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

# “遺跡についてX X V”

## 『遺跡を考える者』

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、遺跡を考える者は、私達人類にとっての遺跡の価値や意義や意味を、限界まで探求して、極大化する努力を為さなければならない、遺跡を考える者が、私達人類にとっての遺跡の価値や意義や意味を、限定して捉えて、極小化するようなことが、あってはならない、と確信します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)5月22日 土曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

# “遺跡についてXXVI”

『民主主義による民主制としての例えば構造、そして、遺跡』

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の、民主主義による民主制としての例えば構造について、次の、三つを要点と、確信します。

① 地方自治体に於ける、共同体（※ コミュヌ (commune (仏) : 基礎自治体 : 共通、共同、共有、多数、平凡、庶民 : common (英) : [歴史] フランスの県や地域圏とは異なりコミューンの歴史は古く、住民の宣誓共同体という形態では中世の11-12世紀の頃にさかのぼるものもある。ただし、現在の多くの自治体については、特にその管轄範囲の起源をめぐっては、カトリック教会の地方組織として整備された教区 (パロワス paroisse) が基礎となっていることが多い。制度的には、フランス革命を経た後、教区の範囲が現在のコミューンの範囲とされ、19世紀には議会と首長の公選制が導入されている。 : Wikipedia「コミューン」最終更新 2020年9月30日(水) 11:16 より抜粋) )、としての地方自治の実態。例えば、私達人類の発信(アクション: action)と応答(リアクション: reaction) ~ 伝達-疎通-共感-制御(即ち、コミュニケーション: communication)の態様としての、社会(ゲゼルシャフト: gesellschaft)に対する、共同体(ゲマインシャフト: gemeinschaft)の在り方。

② 市民の考え、懸案 ⇒ 学者の検証、実証、理論化、確実性の構築 ⇒ 行政による実施=市民全体への還元 ⇒ 市民と学者による検証、蓄積、改善、変革、の循環(サイクル)

③ ①、②を実行し得る、市民に於ける蓄積、学術に於けるリベラルアーツとしての働き、行政に於ける応用力

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の集団に、①、②、③の民主主義による民主制としての例えば構造が成立し、且つ、私達人類の個体が遺跡を認識する、その実態に於いて、遺跡を、私達人類にとって、有意に、発見又は再発見し、調査し、実態を把握し、保存し、活用し、整備し、公開し、遺跡としての空間を保全、することが出来る、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の遺跡の調査と保存と活用について、遺跡としての、発見又は再発見と調査、実態の把握、保存と活用、整備と公開、遺跡としての空間の保全、に関して、私達人類の世界に於いて、①、②、③の民主主義による民主制としての例えば構造、を確立すること、を提案し要望します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来るのでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)5月23日 日曜日

養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

## V. “遺跡について2021年2月27日 土曜日 ~ 2021年6月3日 木曜日”

◇『私達人類の事象と遺跡』 2021年(令和3年)2月27日 土曜日 ~ 2021年(令和3年)3月7日 日曜日

(私達人類の事象と遺跡 ~ 私達人類の危機 遺跡についてXIV) 2021年(令和3年)2月19日 金曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、古来、私達人類の交換と交易が私達人類に関係する様々な差異を契機とし、私達人類の世界の各地に小さな集団と、ユーラシア大陸の中央部に多様な事象を包摂する帝国と、ユーラシア大陸の周辺部に比較的小さな王国を構成する処、私達人類の西欧地域に於いて、私達人類相互の意図と駆け引きと力を私達人類の認める価値の根源とする重商主義を経由して、一方で、科学を認識しつつ、技術の革新を加速し始め、分業と量産への資本投下により他者に対する優位たる概念を形成する資本主義を形式化、ユーラシア大陸の東西の周辺部、英、仏の王国と日本地域で主権国家を形成し、仏は、フランス革命で国民国家を形式化、又、フランスの国民公会は、フランス革命戦争で、国家総動員と平等な徴兵(即ち、国民皆兵)を実現、フランスは西欧地域で勝利、第一次世界大戦を経て、総力戦の概念を現実の事象とし、近代的な主権国民国家を出現した処、私達人類は、現代に至るまで、主権国民国家の形式を、自己と他者の二分法の概念を基盤とし、私達人類の個体と物資の動員への形式を社会的技術とする、私達人類の個人と集団の相互、地域間、国家間の抗争、私達人類の日常的な表象では競争、とその勝利の手段として、活用するのみである、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類の全ての個体の存在と行為の本源的必然的最終的な意義は、自己以外の他者と抗争して、勝利することなのか？ と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類が、私達人類の個体と集団を、本源的に、私達人類の諸般の意図と目的と動員から解放し、私達人類の生命体としての生物上の私達人類種に共通する必然的な自由であると想定し得る、想像と創造、に委ね、以って、私達人類の個体と集団の相互の理解による、活動と幸福と平和、を体現すること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、宇宙と太陽系のエネルギー系に由来する地球の自然、私達人類の忘却と痕跡としての存在であることにより私達人類の意図を断絶した遺跡、私達人類の意図の表象である人工、の夫々の具象の観察と考究と思索と再発見、調査、保存、回復、活用、形成、人工の可変、関係、連続、循環、永続、継承、を促進し、以って、私達人類の社会的共通資本とし、私達人類の、活動と幸福と平和、に貢献すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類に関する危機の解決に対して、私達人類が、既に、着手しているか、私達人類が、直ちに、着手しなければならない、喫緊の課題、である、と仮定します。

(私達人類の事象たる“動員”一考察) 2021年(令和3年)2月27日 土曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の事象たる“動員”に関し、之を、私達人類の為ず、私達人類の世界に於ける社会的技術によって、私達人類の個体が、その主体に於いて、主体的に、動かされる現象、又は、現に、動かされている状況、又、その私達人類の個体の群としての状態、と定義し得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の思索と行為の態様に関して、例えば、思索し行為する主体、縄と鎖と重しと鞭で強制される主体、そして、“動員”、私達人類の世界の西欧地域の文明の中世に於ける、私達人類の理想としての啓蒙思想、自由、平等、の概念と行為の出現、啓蒙思想の、近代への道程を経由する、私達人類の事象たる“動員”の為の、私達人類の世界に於ける社会的技術への変容、日本地域の文明の中世に於いて出現する、戦国大名の領国運営に於ける「兵農分離」、私達人類の個体の地球資源からの分離、又は、遊離、都市への人口の流入、都市の大衆化、西欧地域に由来する明示的な文明の、南北アメリカ大陸、南アジア、東アジア、オーストラリア大陸、ユーラシア大陸、シルクロード、そして、アフリカ大陸、への拡大、敷衍、を対照し得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の西欧地域の文明に由来して、中世から近代への経過と共に、英国と仏国に於いて、主権国家、国民国家、主権国民国家の形態を、明示的に、形式化し、之を、西欧地域、南北アメリカ大陸、ユーラシア大陸南部、ユーラシア大陸東部、オーストラリア大陸、ユーラシア大陸西部、ユーラシア大陸北部、ユーラシア大陸中央部、即ち、シルクロード地域、そして、アフリカ大陸、へと、現代にかけて、拡大し、拡張し、敷衍してきた、又は、敷衍しつつある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の活動の質と量、例えば、経済活動の規模は、関係する私達人類の人口と、相互依存の関係性にある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、時に、私達人類の欲求は、私達人類の利便の獲得に対する満足、と云うより、私達人類の利便の拡張の獲得に対する満足、である可能性がある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、その先に来たる事象は、私達人類の近現代の世界、又、私達人類の近現代の世界のその関係性の拡大の停止、そして、混乱の始まりではないか、私達人類の科学の進展と技術の革新は、私達人類の近現代の世界の拡大の停止に替わり、私達人類の近現代の世界のその関係性を拡張することが出来るか、又、私達人類の科学と技術は、私達人類の、本当に厳しい局面に於いて、私達人類にとって、本当に役に立つ事象であり得るか、そして、私達人類の、本当に厳しい局面に於いて、私達人類の世界と、私達人類の科学と技術は、私達人類を救済する事象であり得るか、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、鋸を引く高い技術を持った大工は、同時に、二人分の仕事を、出来ない、又、美しい建物、又は、大きな建物、を造る技術を持った大工の仕事は、その大工の仕事である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の日々の行為にあって、私達人類自身を蝕んでいないか、私達人類自身を救済する道筋に乗っているか、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、新しい、思索、又は、行為と行動の標準を必要としている、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類にとっての“価値”は、私達人類の個体の欲求を満たす事象、私達人類の個体の欲求には、私達人類の個体である主体、又は、その属する集団が永続的であるとの事象を包含する、によって、担保され、規定されている、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の個体の欲求のより完全な充足を求めて、交換し、交換の効率を求めて、私達人類の個体の存在する空間上の位置の相互の距離を縮め、集住し、さらに、高い交換の効率を求めて、情報を活用する事を認知し、情報の集積を機能として、都市を形成し、私達人類は、私達人類の世界にあって、私達人類自身の認識に於いて、歴史的に、より、高い“価値”を実現してきた、と認識し得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の「文化」の語「culture」は、「羅:colere:土地を耕す、栽培する」に由来し、関係する私達人類の行為の性格を表象する、「文明」の語「civilization」は、「羅:civis:市民」に由来し、私達人類の行為の軌跡である現象の形態を表象する、と仮定します。(永井俊哉:「都市文明はなぜ生まれたのか」)

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の形成する都市は、文化的交換、商品の経済的交換、復讐/互酬の政治的交換等を機能とし、文化的宗教的都市、経済的都市、政治的軍事的都市、江戸時代の京、大坂、江戸のように、三つの機能が分化することもあれば、フランスにおけるパリのように、一つの都市が三つの機能を独占することもある、又、政治都市、商業都市、産業都市、宗教都市、文化都市、都市国家、都市同盟、等、と認識される都市の形態を形成する、と仮定します。(永井俊哉:「都市文明はなぜ生まれたのか」、他)

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、近代以降に形成し、敷衍する文明の態様に関して、之を、都市的事象が当該の文明の全体を規定する、“都市主導型文明”、又は、“都市型文明”、である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の欲求に関して、之を、私達人類の生命体としての生物上の感覚とその情報処理に由来する、主観、であり、即ち、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然に対して、限定的、部分的であり、バイアス(bias:偏倚)である処、私達人類の文明は、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然に対して、限定的、部分的であり、バイアス(bias:偏倚)である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類の万人が、私達人類の個体の感覚と認識と欲求と行為、並びに、その集団に由来する文化と文明が、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然に対する、バイアス(bias:偏倚)であることを認知し、時に、当該のバイアス(bias:偏倚)を楽しみ、又、当該のバイアス(bias:偏倚)を修正すること、その為に、遺跡、即ち、個別の遺跡の集合、即ち、群、を活用すること、を提案し要望します。



(「都市主導型文明」、「動員力」、「優先」、伝統的な欲求、都市的な欲求) 2021年(令和3年)3月3日 水曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、集住し、都市を形成し、時に、都市は、周辺の余剰人口を吸収して肥大する処。都市の都市的事象が、私達人類に於ける動員力を獲得した時、私達人類の社会、又は、文明は、都市的事象が私達人類の個体の欲求と行為、私達人類の集団、私達人類の社会の全体を主導し、又は、規定する傾向を出現する、即ち、「都市主導型文明」、又は、「都市型文明」、又は、「文明」、であると仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の「都市型文明」に関して、之を、私達人類の伝統的な欲求の充足に対し、私達人類の都市的な欲求の充足を、優先する形態である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類に関する当該の事象の、任意の特定の“何か”、を切り捨て、而して、私達人類に関する当該の事象の、任意の特定の“何か”、を優先することなく、可能な限り、平易でありたい、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が私達人類の現代の世界を基準とした、私達人類の世界の過去、現在、未来、を分析し考察する際に、私達人類の為す、私達人類の世界に係る“動員”と「都市型文明」への考察が、その分析と考察の方法の軸、示標、又は、理論の支柱、となり得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類は、私達人類の伝統的な欲求の充足、行為、活動の形成の空間の領域に対し、私達人類の都市的な欲求の充足、行為、活動、都市文明的な活動、を、その内容、又は、生活、並びに、空間領域、の両局面に於いて、拡大し拡張しつつある、例えば、私達人類の世界の永続性を目的とする、化石燃料に依存しない発電～地上～田圃～森林～砂漠～都市～地中～海上～海中～海底～空～、と仮定します。

私達当会は、例えば、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、このまま、何処まで、行くことが出来るのでしょうか、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の個体の欲求と行為、その集団としての欲求と行為、動員たる私達人類の事象、文明、私達人類の狩猟採集に於ける行為と欲求とその在り方、私達人類の農耕牧畜に於ける行為と欲求とその在り方、私達人類の文明、若しくは、都市型文明に於ける行為と欲求とその在り方、私達人類の世界の過去と現在と未来、そのベクトル(vector)、即ち、方向と力、又、その補助線、を、再確認し、再発見し、再構成し、革めて、導かなければならない時にある、と仮定します。

(私達人類の命題) 2021年(令和3年)3月4日 木曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の為す、私達人類の命題は、何か、此処に、私達人類の皆が、集まっている、その意味は、何か、と仮定します。

(遺跡が、只、遺跡であること、事象の本源、私達人類の動員の回避、又は、解放) 2021年(令和3年)3月5日 金曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡に関して、之を、第一義に、例えば、任意の特定の私達人類の事象の獲得の為の、資本投下の対象、又は、任意の特定の私達人類の事象の獲得の為の、資本投下の場、空間、とするよりも、遺跡が、只、遺跡であること、を希望する、と望みたい、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類が、私達人類の欲求よりも、常に、当該の事象の本源に従うこと、之により、私達人類とその個体は、私達人類の事象である動員を、回避することが、出来る、又は、私達とその個体を、私達人類の事象である動員から、解放することが、出来る、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類が、私達人類の欲求よりも、常に、当該の事象の本源に従うこと、を提案し要望します。

(私達人類、又、その個体が生きている意味) 2021年(令和3年)3月6日 土曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類、又、私達人類の個体が、生を受け、生きている意味は、私達人類の福祉、又は、人類の福祉に向かうこと、である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の、南太平洋の小島では、村人が、其々の釣果を、老人の所に、持ち寄る、と聞きます。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の都市的な事象に於いて、私達人類の福祉、と異なる、ベクトル(vector)、即ち、方向と力、を、内包しつつある可能性がある、と仮定します。

(そして、グローバル・ヒストリー) 2021年(令和3年)3月6日 土曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達当会が、仮定して提案する、私達人類の文明に関する物語について、私達当会は、之を、私達人類、即ち、地球上の私達人類の個体の全員、並びに、地球上の私達人類の集団の全て、が、共通して、受け入れることが出来る、即ち、受容し、共有し得る、即ち、グローバル・ヒストリー、である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、今、私達人類の福祉、が、全き事象である為に、私達人類の全てが、共通して、受け入れ、受容し、共有し得る、即ち、グローバル・ヒストリー、を必要としている、と仮定します。

◇『遺跡』 2021年(令和3年)3月7日 日曜日

(遺跡の機能、遺跡に於ける私達人類の課題) 2021年(令和3年)2月23日 火曜日

私達当会は、遺跡について、私達人類にとっての、遺跡の機能、即ち、私達人類にとっての、遺跡に特徴的な作用は、その具象に於いて、私達人類の個体に、私達人類の個体の生命の長さよりも、長い、時間とその経過たる事象を、直観させること、である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が関わる、遺跡と私達人類の関係に於ける私達人類の課題に関して、之を、私達人類が、私達人類の活動の空間にあって、遺跡、並びに、私達人類の諸事象の関係に対して、之を、相互に、完全な状態に保持し、且つ、接続し、重層しつつ、私達人類の個体に於いて、如何に、私達人類の個体の生命の長さよりも長い時間とその経過を、直観させ得る、空間、又は、景観、又は、具象、を現出することを成し得るか、にある、例えば、連続と階調(グラデーション)、時に、断裂と対比、と仮定します。

(“欲求”、“価値”、“都市主導型文明”、バイアス(bias:偏倚)) 2021年(令和3年)2月28日 日曜日

私達当会は、皆様に、私達人類の万人が、私達人類の個体の感覚と認識と欲求と行為、並びに、その集団に由来する文化と文明が、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然に対する、私達人類の生命体としての生理に由来する、バイアス(bias:偏倚)であることを認知し、時に、当該のバイアス(bias:偏倚)を楽しみ、又、当該のバイアス(bias:偏倚)を修正すること、その為に、遺跡、即ち、個別の遺跡の集合、即ち、群、を活用すること、を提案し要望します。

(私達人類の使命、遺跡の有意性) 2021年(令和3年)3月7日 日曜日

私達当会は、遺跡について、遺跡の具象により、私達人類の生きる意味と、その意味に向かう、私達人類の使命に対し、私達人類の感得を経由して、私達人類の世界にあって、最も良く、有意であり得る事象である、と仮定します。

(私達人類に於ける、事象の本源に向かう努力) 2021年(令和3年)3月7日 日曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の万人は、私達人類が、知性、又は、想像力、を有する限りに於いて、その引き換えに、常に、事象の本源に向かう、その努力を、失ってはならない、と仮定します。

#### 〔参考資料〕

養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する陳情書 X IX (旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として) / 長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する陳情書 X (サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等) 2021年(令和3年)3月3日 水曜日 長崎県議会議長 瀬川光之様、2021年(令和3年)2月22日 月曜日 長崎市議会議長 井上重久様 陳情人 養生所を考える会 代表 池知和恭

養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する要望書 X (旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として) / 長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する要望書 X (サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等) 2021年(令和3年)3月3日 水曜日 長崎県知事 中村法道様 長崎県教育委員会教育長 池松誠二様 長崎県企画部長 柿本敏晶様 長崎県地域振興部長 浦 真樹様 長崎県文化観光国際部長 中崎謙司様 長崎県土木部長 奥田秀樹様 長崎県県民生活環境部長 宮崎浩善様 長崎県文化財保護審議会議長 立平 進様 長崎県美術館長 小坂智子様 長崎歴史文化博物館長 水嶋英治様 長崎市長 田上富久様 長崎市教育委員会教育長 橋田慶信様 長崎市教育委員会教育総務部長 前田孝志様 長崎市企画財政部長 片岡研之様 長崎市文化観光部長 股張一男様 長崎市まちづくり部長 片江伸一郎様 長崎市土木部長 松浦文昭様 長崎市中央総合事務所長 大串昌之様 長崎市原爆被爆対策部長 中川正仁様 長崎市理材部長 小田 徹様 長崎市環境部長 宮崎忠彦様 長崎市秘書広報部長 原田宏子様 長崎市文化財審議会議長 下川達彌様 (長崎歴史文化博物館長 水嶋英治様) 要望人 養生所を考える会 代表 池知和恭

(事象の個性) 2021年(令和3年)3月10日 水曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類にとって、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然は、私達人類にとって、例えば、生命の種や物質、関係性、その他の個性の集合体である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、例えば、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然の事象の個性、その部分、を制御し、又は、改変し、時に、画一化するより、例えば、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然の事象の個性、その全体、の流れや関係性に寄り添い、之に乗り、又は、従うほうが、効率が良い可能性がある、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類が、私達人類について、私達人類の世界にあって、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然、その、私達人類にとっての事象の個性とその関係性に、良く、寄り添い、その流れに乗り、又、従うこと、その方途を研究し、之を実現すること、私達人類が、之を選択すること、を提案し要望します。

(生命と生物、そして、私達人類の進化) 2021年(令和3年)3月10日 水曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の想像、又は、思考、に於いて、例えば、捨象し、抽象し、単純化し、形式化し、時に、画一化することが、私達人類の想像、又は、思考、に於いて、効率的である、と仮定し得る処、私達人類が、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然に対して、同じ、その方法、例えば、捨象し、抽象し、単純化し、形式化し、時に、画一化すること、を選択することが、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然に於いて、仮に、部分的に、効率的であったとしても、全体として、効率的ではない可能性がある、と仮定します。

私達当会は、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然の、生命と生物の進化について、当該の生命と生物が、宇宙と太陽系のエネルギー系と之に由来する地球の自然の事象の個性に、寄り添い、又、従う、事象である、と仮定します。

私達当会は、生命と生物、又は、その社会、の進化について、例えば、私達人類が、私達人類の想像、又は、思考、に於いて、事象に相対して、捨象し、抽象し、単純化し、形式化し、時に、画一化して、想像し、又は、思考することが、効率的であったとしても、私達人類が、事象に於いて、捨象し、抽象し、単純化し、形式化し、時に、画一化して、行為し、行動し、活動することが、私達人類が、之を、進化、と認識し得る事象ではない、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、例えば、ガラパゴス諸島の生命と生物が、地球の世界の生命と生物の進化から遅れた事象であるより、私達人類が認識し、解釈する、等しい時の流れの中で、地球の世界のガラパゴス諸島としての個性に対し、他の地域の生命と生物の進化に等しい意味に於いて、進化してきた、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類は、安易な、想像を、発散し続けていないか、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類にとっての、事象の事実、の意味は、私達人類の想像、又は、解釈、以上に、重い、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類の万人は、私達人類が、知性、又は、想像力、を有する限りに於いて、その引き換えに、常に、事象の本源に向かう、その努力を、失ってはならない、と仮定します。

(長崎県庁舎跡地活用について、仮定と提案と要望) 2021年(令和3年)3月11日 木曜日

私達当会は、長崎地域に於ける、長崎県庁舎跡地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、の活用について、私達人類が、当該の遺跡を、遺跡として、正統に、活かす、活かすこと、その為の、作業を、進めるならば、当該遺跡の周辺等関連地域に関する、当該遺跡と連携した、多様な地域振興、並びに、遺跡活用の方向性が、自ずから、浮き彫りになる、と仮定します。

私達当会は、皆様に、長崎県庁舎跡地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、の活用について、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡に関する事実を広範に調査し収集し把握した上で、遺跡を遺跡として、正統に、活かすこと、を中核として、さらに、関連地域に関する、多様な地域振興、並びに、遺跡活用、その他の事象、と連携し、当該遺跡の活用に、包摂する、との手法を採用すること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、長崎県庁舎跡地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、の活用について、私達人類が、遺跡を遺跡として、正統に、活かすことが出来ないならば、当該の事象の核が、定まらず、又、私達人類が、空理に陥り、理屈と空論に振り回され、地域振興、又、遺跡活用への投資の成果が上がらない、又、長期的な私達人類、又、私達人類の地域の活動と生活の安定を失う、結果となる可能性がある、と仮定します。

私達当会は、長崎地域に於ける、長崎県庁舎跡地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、の活用について、私達人類が、遺跡の遺跡としての活用、と、関連地域の地域振興としての活用、の正統な接点、又、当該の接点のその姿、を発見すること、又は、再発見すること、が、当該事象の主題となる、と仮定します。

私達当会は、皆様に、長崎県庁舎跡地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、の活用について、私達人類が、従来の、例えば、遺跡の保存活用と開発行為の調整等の、行政行為、検討、議論、研究、施策、の枠組みを、さらに、拡張し、私達人類が協働する枠組、視点によって、当該の、遺跡の遺跡としての活用、と、関連地域の地域振興としての活用、の正統な接点、又、当該の接点のその姿、時に、当該の接点の私達人類の活動の空間に於ける表象、その在り方、を発見すること、又は、再発見すること、そして、発見と再発見に基づき、行為すること、を提案し、要望します。

(遺跡について) 2021年(令和3年)3月11日 木曜日

私達当会は、皆様に、遺跡を、遺跡以外の事象としてでなく、第一義に、遺跡として、“地道に”、再発見し、調査し、発見し、その実態を確認し、活用し、整備し、公開し、私達人類の日常の生活とその空間にあって、継承すること、を提案し要望します。

(私達人類が遺跡に於いて行う行為) 2021年(令和3年)3月13日 土曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡に於いて行う行為は、大略、以下、認識し得る、と仮定します、即ち、① 遺跡としての、私達人類の集団に於ける、学術上の価値たる、即ち、価値を表象する存在の、保存と活用、即ち、私達人類の集団に於ける、学術の継承、② 遺跡としての、西洋地域の文明に由来する近代以降の国民主権国家に至る上での価値、又、近代以降の国民主権国家形成上の価値、又、近代以降の国民主権国家形成の社会的技術上の価値たる、即ち、価値を表象する存在の、保存と活用、即ち、西洋地域の文明に由来する近代以降の国民主権国家、並びに、西洋地域の文明に由来する近代以降の国民主権国家を形成維持する社会的技術の継承、③ 遺跡としての、私達人類の集団に於ける、民俗、風土、エスニシティ(ethnicity)、の価値たる、即ち、価値を表象する存在の、保存と活用、即ち、私達人類の集団に於ける、民俗、風土、エスニシティ(ethnicity)、の継承、④ 遺跡としての、私達人類の個体並びに集団に於ける、私達人類種たる生物の生命と生理上の価値、例えば、肌理、スケール(scale)、基準面としての水平面-大地、想像、芸術、たる、即ち、価値を表象する存在の、保存と活用、即ち、私達人類の個体並びに集団に於ける、私達人類種たる生物の生命と生理の継承、⑤ 私達人類の個人又は集団が保有する資産としての、私達人類の日常の活動の空間上の価値たる、即ち、価値を具現する機能、の保存と活用、即ち、私達人類の日常の活動の空間の継承、又は、維持、保全、⑥ 私達人類の個人又は集団が保有する資産としての、私達人類の安全と健康上の価値たる、即ち、価値を具現する機能の、保存と活用、即ち、私達人類の安全と健康の継承、又は、維持、保全、⑦ 私達人類の個人又は集団が保有する資産としての、私達人類の経済行為、経済取引上の価値たる、即ち、価値を具現する機能の、保存と活用、即ち、私達人類の経済行為、経済取引、の継承、又は、維持、保全。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、前に掲げる、私達人類が、遺跡に於いて行う行為の、①について、私達人類の活動、又、時に、日本国の文化財保護法に明文する、学術上価値、の狭義の内容に相当する、②について、私達人類の活動、又、時に、日本国の文化財保護法に明文する、歴史上価値、の狭義の内容に相当する、③について、私達人類の活動、又、時に、日本国の文化財保護法に明文する、学術上価値、並びに、歴史上価値、の広義の内容に相当する、④について、私達人類の活動、又、時に、ユネスコ世界遺産センターの世界遺産条約履行のための作業指針に記載する、遺跡 人間の作品、自然と人間との共同作品及び考古学的遺跡を含む区域、に相当する、①-②-③-④について、私達人類の文化の概念並びにその態様、又、私達人類の個体並びに集団の活動、並びに、社会的共通資本としての公益の実現、に関係する、⑤-⑥-⑦について、私達人類の文明の概念並びにその形式、又、私達人類の個体並びに集団の活動、並びに、公共、又は、社会的共通資本、としての公益の実現、に関係する、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、前に掲げる、私達人類が、遺跡に於いて行う行為の、①-②-③について、時に、行政主体によって、行為される、④について、私達人類の、遺跡と私達人類の関係性に於ける認識にあって、日本地域では、多く、暗黙的であり、明示的形式的に認識される場合は多くない、⑤-⑥-⑦について、私達人類の、遺跡と私達人類の関係性に於ける認識にあって、近年、時に、積極的に認識される、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡と私達人類の関係性に関して、④が、基層的な構造を成し、私達人類は、之を、更に、積極的、明示的形式的に、考察し、認識し、概念構成することが、私達人類、その存在にとって、有意である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、長崎地域に於いて、遺跡と私達人類の関係性に関して、例えば、養生所/(長崎)医学校等遺跡、又、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、に対し、前に掲げる、私達人類が、遺跡に於いて行う行為の、①について、近年、努力が継続される処、②-③について、現代、私達人類の日常の活動から、既に、断絶し、消失している、当該遺跡の私達人類の活動の空間に於ける、保存と活用は、①についての継続的な努力と完遂、②-③についての私達人類の日常の活動に於ける再生、④の行為と明示的形式的認識、①-②-③-④と⑤-⑥-⑦の接点の探索と発見、又は、再発見、に由来して、成立する、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡の私達人類の活動の空間に於ける保存と活用は、私達人類の行為に於ける、①についての継続的な努力と完遂、②-③についての私達人類の日常の活動に於ける健在、④の行為と明示的形式的認識、①-②-③-④に於ける⑤-⑥-⑦の包摂、に由来して、成立する、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡の私達人類の活動の空間に於ける保存と活用に関して、遺跡と私達人類の関係性に関して、①-②-③-④-⑤-⑥-⑦の各局面に対する、任意の特定のバイアス(bias:偏倚)を克服し、融和的な認識と行為を形成し、遺跡の保存と活用と人類の活動に於いて、私達人類の活動の空間に、遺跡の具象を、現示すること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあつて、私達人類が、遺跡の存在を媒体として具体化し、表象する、私達人類にとっての価値や機能、によって、同時に、私達人類が、遺跡の存在そのもの、即ち、遺跡の具象、に直感する、スペクタクル (spectacle)、静謐、沈黙、又、言語や記号や形式に置換出来ない、又は、言語や記号や形式に置換せざるべき、良さ、時に、悪さ、可能性、によって、遺跡を保存し活用すること、を提案し要望します。

◇『私達人類の行為たる遺跡の保存と活用』

2021年(令和3年)3月14日 日曜日

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡の存在を媒体として具体化し、表象する、私達人類にとっての価値や機能、によって、同時に、私達人類が、遺跡の存在そのもの、即ち、遺跡の具象、に直感する、スペクタクル (spectacle)、静謐、沈黙、又、言語や記号や形式に置換出来ない、又は、言語や記号や形式に置換せざるべき、良さ、時に、悪さ、可能性、によって、遺跡を保存し活用すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、今、私達人類は、私達人類の活動の空間を、私達人類の概念、規定、によって、之を横溢し、私達人類の姿が見えない空間へと置換しつつある、その可能性を排除できない、と仮定します。 ✕

◇『遺跡と長崎地域』

2021年(令和3年)3月18日 木曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、長崎地域に於いて、遺跡が、長崎地域の目玉になるだけではない、遺跡によって、長崎地域が、日本地域と世界の目玉になるのである、と仮定します。 ✕

## 1. 情報

○ 2021年(令和3年)3月20日 土曜日 長崎新聞 第1面

『県人事異動 統轄監に柿本氏 女性管理職 最高 14.5%』

県は19日、4月1日付の人事異動を発表した。部長級の筆頭で人口減少対策などに取り組む統轄監に柿本敏晶企画部長を起用する。…… (堂下康一)

## 2. 私達当会の仮定と提案と要望

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の日本地域に於いて、私達人類の世界の広範な分野と範囲の資本の投下を、私達人類に、私達人類にとって有効である、と、認識させ、又は、感じさせていた、見せていた、その可能性がある、私達人類の当該地域の範囲に於ける、人口の増加、は、最早、予定されていない、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、新たに、大きな投資を行為しなくとも、既に存在する、遺跡について、之を、破壊することなく、保存し、私達人類にとって、より有効に、活用すること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の地球に関して、又は、私達人類の国土に関して、利用すべき事象、から、育てるべき事象、へと、私達人類の視点を、転換すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『遺跡である長崎地域』 2021年(令和3年)3月20日 土曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡である長崎地域に関して、遺跡である長崎地域を、幸いである、と仮定します。 ✕

◇ 『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の保存と活用』 2021年(令和3年)3月21日 日曜日

## 1. 情報

○ 2021年(令和3年)3月21日 日曜日 長崎新聞 第16面 【文化】 《サンデーぶんか》

『開港450年 長崎の遠い記憶 増崎英明 ④ 織田信長と豊臣秀吉 「日本は世界の孤島」と意識』 ……………

〈コラム オルガンの声、6本の指〉

ルイス・フロイスは生来の観察者です。宣教師として34年間を日本で過ごしました。信長や秀吉をはじめ、当時の著名人に数多く会っており、最高の日本通でした。彼の筆は権力者に対しても直截で、司祭としてはともかく、個人としての忖度は感じられません。その鋭い観察眼は、信長と秀吉をどのように見たのでしょうか。 織田信長は声に特徴があったようで、「背は中くらいで華奢、ひげは薄く、声ははなはだ快調」と書いています。また、「信長は尋常ならぬ大声の持ち主であった」とあり、直訳すると「信長は異常なオルガンの音を持っていた」となるそうです。まるで目の前で信長の言葉を聞くような気持になります。 豊臣秀吉についての記述は、あまり好意的ではありません。著書「日本史」に「秀吉は身長が低く、醜悪な容貌で、片手に6本の指があった」と書いています。前田利家は「太閤様は右手親指がひとつ多く六つあった」と書き残しているのも、事実無根ではないようです。ただし、若い頃切り取ったとすれば、フロイスはその痕跡を見たか、世間の風説を記したのかもしれませんが。 長崎市万才町に「フロイス通り」があるので、散歩がてら探してみてもいいでしょう。フロイスは26聖人殉教と同じ年、県庁跡地にあった教会で昇天しました。 ✕

## 2. 私達当会の仮定と提案と要望

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、即ち、長崎県庁舎跡地並びにその周辺地域に関する、長崎県の活用への検討、又、当該検討に関して、長崎県が委託し、その成果物として提出された、株式会社三菱総合研究所の報告、に於いて、「…… フロイスは26聖人殉教と同じ年、県庁跡地にあった教会で昇天しました。」との物語や、私達人類の精神性は、全く、感じられない、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、即ち、長崎県庁舎跡地並びにその周辺地域に関し、当該遺跡にあって、私達人類が、何ものかに、対峙する如き、例えば、私達人類の、集中力、精神性、知性、を包摂する、即物性や記号や説明に依存しない、景観、情景、又は、例えば、間合い、ゆらぎ、を、現出する、必要がある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡にあって、当該の成果、を獲得する為に、更なる、大胆、且つ、精細、繊細(デリケート: delicate: 妙なる)、細心の留意を具現する、研究と行為、が、必要である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の保存と活用、並びに、長崎県庁舎跡地並びにその周辺地域に関する地域振興政策の実施、に於いて、本項の内容を具現すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『人口減少、例えば、利用する国土、から、育てる国土へ、消費する地球から、育む地球へ、そして、対話』

2021年(令和3年)3月22日 月曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の仕事は、かつて、その土地、国土、海浜、海洋、地球、地球の自然、と対話し、之を、育て、育むこと、ではなかったか？ 私達人類は、いつから、その土地、国土、海浜、海洋、地球、地球の自然、を踏破し、之を、利用し、消費する、ようになったのか？ 私達人類は、いつから、その土地、国土、海浜、海洋、地球、地球の自然、を踏破し、之を、利用し、消費する、ことを、私達人類の仕事である、と考えるようになったのか？ と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の事象に於いて、いつから、対話、を失ったのか？ と仮定します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、遺跡に於いて、私達人類が、踏破し、私達人類の概念と記号と標準により、事象を、遺跡を、利用し、消費する、その遺跡の在り方、姿、を現示するより、私達人類が、私達人類の概念と記号と標準による規定、表象、限界、を超越し、私達人類自身と対話し得る、具象としての、その遺跡の在り方、姿、を現示すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『私達人類の世界の関係人口の拡大と減少、私達人類の世界の文化と文明』

2021年(令和3年)3月24日 水曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、約一万年前に、従来の狩猟採集の生活とその様式に対して、地球上の世界の複数の地域で、同時期に、初めて、農耕牧畜の生活とその様式が出現した、との説明を知見します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類に関する事象の関係性に関して、a. 狩猟採集－遊び－文化－役に立たない、b. 農耕牧畜－仕事－文明－役に立つ、との、二類型を、仮定し得る、即ち、現在の私達人類の行動の様式に関して、古い狩猟採集の行動の様式と、新しい農耕牧畜の行動の様式、の二つの行動の様式が、併存している、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の関係人口の拡大に関して、現在、その最終期にある、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の文明の伸張と私達人類の世界の関係人口の拡大は、相互依存の関係性にある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の関係人口の縮小期にあって、私達人類の文化たる行動の様式が、私達人類の世界の、私達人類の行為とその成果の均衡の形成に於いて、再び、私達人類にとって、必要な、標準、必要な、私達人類の行動の様式、と成り得る、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の存在と在り方にとって、私達人類の文化的事象が、私達人類の、さらなる、難問、さらなる、混乱に対し、一つの解、又は、その示唆、であり得る、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の文化的事象を破壊し、私達人類の文明的事象に置換する行為、を停止し、私達人類の文化的事象の涵養、に努めること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、遺跡にあって、遺跡を、専ら、遺跡として保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕



◇ 『主題』 2021年(令和3年)3月27日 土曜日

私達当会は、私達当会が、行為する主題について、遺跡の保存と活用へ向けた、諸理論の総合化と補足、遺跡の保存と活用の実施へ向けた、諸理論とその補足の構造化、即ち、技術、である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、当該の分野に関して、日本地域と私達人類の世界に於いて、これ迄、殆ど、議論並びにその成果が、蓄積されていない、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡の保存と活用へ向けた、諸理論の総合化と補足、遺跡の保存と活用の実施へ向けた、諸理論とその補足の構造化、即ち、技術、の形成を促進すること、その為の措置を講じ、即ち、遺跡の保存と活用を、私達人類にとって、より、有意な事象と成すこと、を提案し要望します。 ✕

◇ 『遺跡について —— 感嘆符、！、と共に受容され得る事象、存在』 2021年(令和3年)3月27日 土曜日

私達当会は、遺跡について、遺跡は、博物館の展示とは異なる、即ち、言語、又は、記号や図像による説明によって示される事象と異なる、即ち、遺跡は、言葉、によって表現し得る事象としてではなく、即ち、言葉にならない、感嘆符、！、と共に受容され得る事象として、在らなくてはならない、と仮定します。 ✕

◇ 『私達人類の文明、私達人類の想像と欲求、仕事とその成果』 2021年(令和3年)3月27日 土曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が成す、私達人類の人工に関する工学の体系による仕事に於ける、エネルギー(energy)の変換効率、例えば、私達人類は、宇宙と太陽系のエネルギー系に由来する地球の自然の様々な形態のエネルギーを、私達人類が、利用しやすい形態に、収集する処、地球の自然が成す、地球の自然の体系による仕事に於ける、エネルギーの変換効率よりも、劣る、又、地球の自然が成す、地球の自然の体系による仕事に於ける、エネルギーの変換は、私達人類のスケール(scale)を遥かに超える大小の多様で複雑なスケールによって成立している、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が成す、私達人類の文明に特徴的な私達人類の行為は、宇宙と太陽系のエネルギー系に由来する地球の自然に於ける、様々な形態のエネルギーを、私達人類が利用しやすい形態に、収集すること、である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の、収集たる行為を経由して、事象に対し、私達人類の行為と、その行為の影響の及ぶ範囲を、拡張する、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、その仕事に於いて、エネルギーの変換効率に関して相対的に劣る体系に、依拠するならば、私達人類の仕事の成果は、相対的に劣った事象となる、又、私達人類が、その仕事に於いて、エネルギーの変換効率に関して相対的に優れる体系に、依拠するならば、私達人類の仕事の成果は、相対的に優れた事象となる、之は、必然であり、自明の理である、と想定し得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の想像又は欲求と私達人類の仕事とその成果の関係性について、改めて、又は、明示的に、再発見を形成し、発見を形成する、その再発見並びに発見を受容する、その必要に迫られつつある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、私達人類にとって、私達人類の万人が、私達人類の想像又は欲求と私達人類の仕事とその成果の関係性について、改めて、又は、明示的に、再発見を形成し、発見を形成する、その再発見並びに発見を受容する、その契機となる、又は、之への示唆を、豊かに、多様に、包摂する、と仮定します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、遺跡を、遺跡として、その具象を、保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『私達人類、又は、私達生命体の、生命としての、エネルギーの制御の、共時的、通時的な、痕跡、個別の、具象、である、遺跡』 2021年(令和3年)3月27日 土曜日

私達当会は、私達人類、又は、私達生命体について、宇宙と、例えば、太陽系のエネルギー系に由来する、例えば、地球の自然に於ける、様々な形態のエネルギーを制御することによって、その生を受けている、と仮定します。

私達当会は、遺跡について、私達人類、又は、私達生命体の、生命としての、宇宙と、例えば、太陽系のエネルギー系に由来する、例えば、地球の自然に於ける、様々な形態のエネルギーの制御の、共時的、通時的な、痕跡、個別の、具象、である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、私達人類、又は、私達生命体の、生命としての、宇宙と、例えば、太陽系のエネルギー系に由来する、例えば、地球の自然に於ける、様々な形態のエネルギーの制御の、共時的、通時的な、痕跡、個別の、具象、として、之を、保存し活用すること、之を、私達人類、又は、私達生命体、にとって、より有意な事象と成すこと、その為の、より有意な措置を講ずること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『私達人類が活動する地域、土地、又は、私達人類の都市、私達人類の活動の空間、に於ける、格調、精神性、その顔、遺跡』  
2021年(令和3年)3月29日 月曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類が活動する地域、土地、又は、私達人類の都市、私達人類の活動の空間、に於いて、格調、精神性、その顔、を保有する、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類が活動する地域、土地、又は、私達人類の都市、私達人類の活動の空間、に於いて、保有する、格調、精神性、その顔、は、当該の地域、土地、又は、当該の都市、私達人類の活動の空間、に居住し活動し関係する、私達人類の集団としての人格を表象する、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類が活動する地域、土地、又は、私達人類の都市、私達人類の活動の空間、に於いて、保有する、格調、精神性、その顔、に関して、例えば、その土地の遺跡、その土地の遺跡の具象、が、之を、具現する、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、遺跡を、遺跡として、遺跡の具象を、保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『私達人類の世界の現代、そして、遺跡』

2021年(令和3年)3月29日 月曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の想像と行為に於いて、例えば、私達人類の文明か、地球の自然の野蛮か、との二者択一思想により、私達人類の文化と文明に於いて、又は、私達人類の行為に於いて、文明を選択し、私達人類が、進歩している、と感じ、そう解釈し得る状況は、既に、過去の時代の事象となった、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、又は、宇宙と太陽系のエネルギー系に由来する地球の自然にあって、私達人類は、私達人類の存在する生命の生理に於いて、私達人類の個体が、より、多様な事象を見つめ、より、多様な事象と対話すること、を、基層として、必要としている、と仮定します。

私達当会は、遺跡について、私達人類の世界にあって、又は、私達人類の文明の世界にあって、私達人類の存在の基層たる「社会的共通資本」(数理経済学者 宇澤弘文による)である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、私達人類の世界にあって、且つ、私達人類の日常の活動の空間にあって、遺跡を、遺跡として、遺跡の具象を、保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の日本地域に於ける私達人類は、日本地域に於ける、私達人類の活動の空間である都市としての街づくりに関して、中世の後半期に、日本地域の各地に、複数成立する、新しい都市、例えば、戦国大名の領国経営、又、民間の流通や商業、に由来する都市、の成立発展期に於いて、都市に、都市機能が、混在する形態によって、之を、行為する処、江戸前期の、政治経済の安定を背景に実現させる、都市改造により、例えば、都市の高台部の行政施設、即ち、平山城、平城、陣屋、武家屋敷、都市の外郭部の非日常施設、例えば、神社、寺町、遊郭、牢、刑場、都市の海浜河川域築地低地中央平野部の民間日常活動空間、施設、例えば、物流、市場、商業、居住、等、その都市空間上にあって、都市機能適地集約配置相互連絡型の、私達人類の行為に対する効率向上の街づくりを行為してきた、と、仮定します。

私達当会は、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、養生所/(長崎)医学校等遺跡群遺跡、の保存と活用に関して、長崎地域に於いて、例えば、長崎県が、長崎県が保有する土地である、長崎地域の水辺の森公園—AIG長崎ビル—帯に、長崎県美術館の存在を背景に、例えば、“オペラハウス/シンフォニーホール/劇場”、を誘致し、抽象芸術振興発信、並びに、関連する私達人類の活動の振興、に於ける、相乗効果を形成すること、を提案し要望しています。

私達当会は、私達人類の長崎地域に於ける、現代の、開発行為を手段とする、街づくりに於いて、都市機能を分解し分断し、分散配置する傾向について、一方で、私達人類の世界にあって、人工に関する技術の進展に由来する、私達人類の行為、例えば、環境に対する建築物の立地、の自由度の向上が実現している処、私達人類の日本地域に於ける、江戸前期以前の、中世後半期以降の、新しい都市の成立発展期に於ける、都市に、都市機能が、混在する都市形態、へと逆行する様相事態である可能性がある、と仮定します。 ✕

## ◇ 『定量的把握、定性的把握』

2021年(令和3年)4月4日 日曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類が定量的に数値化し得る事象に注力して行為するならば、私達人類の行為の範囲、内容は、私達人類の可能性に対して、限定され、偏倚する、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、宇宙と太陽系のエネルギー系、並びに、之に由来する地球の自然、又、その動作、に対して、私達人類が、私達人類が数値化し得る事象の範囲と内容は、極めて、限定される、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類が、事象を、定量的に、数値化して把握する仕方について、之を、私達人類に対する、有用性であり、その範囲を拡張することについて、之を、私達人類の学術の範疇である、と認識し得る処、私達人類は、私達人類が、事象を、定性的に把握する仕方、又、その範囲の拡張、について、之に、私達人類に対する、例えば、有意性を与えなくてはならない、と仮定します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、私達人類の世界にあって、且つ、私達人類の日常の活動の空間にあって、遺跡を、遺跡として、遺跡の具象を、保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕

## ◇ 『長崎地域の街づくり—定性的把握—遺跡』

2021年(令和3年)4月4日 日曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の長崎地域に関して、海上交通と海洋資源に由来する港町、港湾都市、であった、又は、現在でも、港町、港湾都市、である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の長崎地域に関して、現在、私達人類が、長崎地域の街を歩いて、他の私達人類の日本地域の都市、例えば、内陸部の都市、と比べて、大きな違いは感じられない、又、例えば、丘から海が見える地域は、日本地域のどこにでもある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の長崎地域に関して、私達人類が、之を、かつて、港町、港湾都市、であった、又は、今も、港町、港湾都市、である、と直観し得る、街づくり、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の長崎地域に関して、私達人類が、長崎地域の遺跡を、最大限、十全に、活かすことにより、私達人類が、之を、かつて、港町、港湾都市、であった、又は、今も、港町、港湾都市、である、と直観し得る、街づくり、が可能となる、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡を、遺跡として、最大限、十全に、活かす時、即ち、遺跡を、「人間の作品、自然と人間との共同作品」、即ち、即ち、一体不可分、分断不能の完成した体系、として、その具象を、保存し活用する時、遺跡は、私達人類にとって、観察の対象である事象、私達人類を説明する収集、即ち、私達人類の技術である、私達人類の概念の範疇、即ち、文明の範疇、から、対面して受容する事象、私達人類を直観する表象、即ち、私達人類の存在そのものである、私達人類の哲学と芸術の範疇、即ち、文化の範疇、へと移転される、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、例えば、私達人類のギリシャ地域のアテネのアクロポリスの丘のパーテノン神殿の遺跡に関して、当該の遺跡、遺跡の具象によって、そこが、古代ギリシャの神殿であり、今でも、そこが、ギリシャ地域の神殿である、と直観し得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡たる事象に於いて、何を行為するか、に関して、之を、私達人類の世界に於いて、当該の、私達人類が為す、私達人類の文化、並びに、私達人類の文明、を、どう把握し、何を行為するか、の、表象、又は、宣言、となる、と仮定します。 ✕

◇ 『仮定、私達人類の文化と私達人類の文明』 2021年(令和3年)4月4日 日曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の文化と文明に関して、私達人類は、私達人類の集団の生理に於いて、文明が無くても、生きられる、私達人類の個体の生命を維持できる処、文化が無くては、生きられない、私達人類の個体の生命を維持できない、私達人類の文明に対して、私達人類の文化がより先に生起し、私達人類の世界にあって、共時的通時的に、私達人類の文明に相対して、私達人類の文化が支配的であった、範囲、期間、が、大半である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の文明に関して、之は、私達人類の文化に包摂される、私達人類の文化上の複数の技術の類型のうちの一つである、と、理解し得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の文化と文明に関して、例えば、任意の特定の、其の事象が、私達人類にとって、私達人類の文化たる事象でなく、又は、他の事象でなく、私達人類の文明たる事象でなければならない、との、画然たる根拠は、未だ、把握できない、と仮定します。

◇ 『私達人類の哲学と芸術である私達人類の活動の空間と遺跡』 2021年(令和3年)4月5日 月曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の文明、即ち、収集、又は、集約、に由来する、私達人類の世界の、私達人類の活動の空間、例えば、都市、他の地域、に関して、私達人類の技術の範疇、例えば、文明の範疇、から、私達人類の哲学と芸術の範疇、例えば、文化の範疇、に、移転すること、が、私達人類の世界の、私達人類の活動の空間、の最終形、である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の文明に由来する、私達人類の世界の、私達人類の活動の空間、例えば、都市、他の地域、に関して、私達人類の技術の範疇、例えば、文明の範疇、から、私達人類の哲学と芸術の範疇、例えば、文化の範疇、に、移転すること、を提案し要望します。

私達当会は、例えば、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡を基層に、私達人類の現代の空間を営むこと、例えば、遺跡を保存し活用し継承しつつ、その土地に、生活すること、例えば、遺跡である私達人類の土地の造成の総体、即ち、私達当会が定義する“土地の造形”、を維持し保存しつつ、新しい建築を構成すること、は、“人間の作品、自然と人間との共同作品”(『世界遺産条約履行のための作業指針』)であり、私達人類の哲学と芸術であり、私達人類の文化である、と仮定します。 ✕

◇ 『私達人類の行為たる私達人類の文化と私達人類の文明』 2021年(令和3年)4月5日 月曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の文化に関して、之を、私達人類が、任意の特定の事象を、私達人類の個体の、我が内に、引き受けることである、私達人類の文明に関して、之を、私達人類が、任意の特定の事象を、私達人類の個体の、我が為に、利用することである、と仮定します。 ✕

◇ 『美しい長崎地域、美しい都市長崎』 2021年(令和3年)4月6日 火曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の長崎地域に関して、「昔は、水路沿いに、柳が、植わって、美しかったのよ。」、と聞き、又、大正末期から昭和初期に撮影された写真に於いて、水路の穏やかな水面に蔵と町の灯が映える、美しい都市の光景、又、田園と海浜と山岳地域の美しい郊外の情景(片淵町に所在した「寫真館 響」撮影制作の写真帳『長崎』並びに複数年の「長崎医科大学」卒業記念写真帳に収録)、を知ることが出来る、都市長崎は美しい街であった、長崎地域は美しい地域であった、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の長崎地域に関して、美しい長崎地域を、戦争、例えば、建物強制疎開並びに核爆弾被爆、が破壊し、戦後の復興に於いても、美しい長崎地域を回復することが、出来なかった、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の長崎地域に関して、現代の今、遺跡たる私達人類の標準に従って、美しい長崎地域を、回復してはどうか、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の長崎地域に関して、現代の今、遺跡たる私達人類の標準に従って、美しい長崎地域を、回復すること、を提案し要望します。 ✕

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、美しい私達人類の活動の空間が、美しい私達人類の個体と美しい私達人類の個体の行為を形成する、美しい私達人類の個体と美しい私達人類の個体の行為が、美しい私達人類の活動の空間と美しい私達人類の世界を形成する、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、美しい私達人類の活動の空間を形成すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、遺跡が、私達人類の美の基準を、内包する、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の活動の空間に於いて、遺跡を、遺跡として、遺跡の具象を、保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕

## ◇ 『私達人類の文化と私達人類の文明の関係性、私達人類の未来、遺跡』

2021年(令和3年)4月8日 木曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、之が、私達人類の文化と私達人類の文明の関係性を、最も端的に、又は、唯一具象として、表象する事象である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、之が、遺跡の、遺跡の具象、即ち、一連の、又、一体の体系によって、私達人類、私達人類の万民、に、私達人類の文化と私達人類の文明の関係性を直観させ、同時に、私達人類、私達人類の万民、に対して、私達人類の文化と私達人類の文明の関係性を「証徴」(文化財保護関係旧法)する事象である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の現代の今、共時的通時的な、私達人類の文化と私達人類の文明の関係性を、再確認し、之を、私達人類の未来への補助線、又は、示標、とする必要に迫られている、と仮定します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、私達人類の世界にあって、且つ、私達人類の日常の活動の空間にあって、遺跡を、遺跡として、遺跡の具象を、保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕

## ◇ 『私達人類の世界の人類と私達人類の日本地域の人類』

2021年(令和3年)4月8日 木曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の日本地域の人類が、私達人類の文化、即ち、私達当会は、之を、私達人類の個体が為す任意の特定の事象を私達人類の個体の内に引き受ける決意に由来する私達人類の事象と仮定、と、私達人類の文明、即ち、私達当会は、之を、私達人類の個体が為す任意の特定の事象を私達人類の個体の為に利用する決意に由来する私達人類の事象と仮定、の関係性に関して、例えば、再確認し、例えば、私達人類の世界の人類と私達人類の世界の日本地域の人類の認識上のバイアス(bias:偏倚)、又は、差異、を認知し、之を、基層とする、私達人類の世界の日本地域の人類としての発信を、様々な方途に於いて、表象出来なければ、私達人類の世界の日本地域の人類とその国家は、私達人類の世界の人類又はその国家に、利用されるだけの、私達人類とその国家となる、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の日本地域の人類が、私達人類の文化と私達人類の文明の関係性を、例えば、再確認し、例えば、私達人類の世界の人類と私達人類の世界の日本地域との人類の文化上、文明上、認識上のバイアス(bias:偏倚)、又は、差異、を認知し、之を、基層とする、私達人類の世界の日本地域の人類としての発信を、様々な方途に於いて、表象すること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、私達人類の世界にあって、且つ、私達人類の日常の活動の空間にあって、遺跡を、遺跡として、遺跡の具象を、保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕

## 【情報】

○ 2021年(令和3年)4月8日(木曜日) 日本経済新聞 第1面

## 『英ファンドが2兆円買収提案 東芝、株主との対立打開へ』

東芝は7日、英投資ファンドのCVCキャピタル・パートナーズなどから2兆円超の買収提案を受け、取締役会で検討に入った。2017年の経営危機を救ったアクティビスト(物言う株主、3面きょうのことば)との対立が深まり、3月の臨時総会では株主提案が可決された。定時総会での再任が危うくなりつつあった一部の経営陣は、非公開化提案をアクティビストと決別し成長戦略を打ち出す好機と捉えている。(関連記事3面に)

「脱市場で探る再生」 7日午前東芝が開いた取締役会で、CVCからの買収提案が報告された。6日の株価に3割程度のプレミアム(上乘せ幅)を乗せた買収額が提示されたもようだ。 …… ✕

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、“かつて、利用できない日本地域を破壊しようとしたものはなにか、戦争と原爆ではなかったか”、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の為す、私達人類が、事象に対峙し、自らの為に、利用しようとする、私達人類の意思に由来する、と私達当会が仮定する、例えば、私達人類の文明、例えば、私達人類の収集と技術、の動作は、私達人類の世界にとって限界がある、私達人類は、今後、より、多くを、私達人類の為す、私達人類が、事象を受容し、自らの内に、引き受けようとする、私達人類の意思に由来する、と私達当会が仮定する、例えば、私達人類の文化、例えば、私達人類の哲学と芸術、の動作に、期待したい、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類の歴史は、常に、様々な局面で、且つ、大小、相似的に、之を、繰り返す可能性を、包摂する、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類の文化、例えば、私達人類の哲学と芸術、並びに、その動作は、私達人類が、生存し存在する限り、私達人類にとって、無限である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、今後、より、多く、私達人類の為す、私達人類が、事象を受容し、自らの内に、引き受けようとする、私達人類の意思に由来する、と私達当会が仮定する、例えば、私達人類の文化、例えば、私達人類の哲学と芸術、並びに、その動作を、発現すること、を提案し要望します。 ✕

## ◇ 『私達当会の、皆様への、遺跡である土地に関する提案と要望』

2021年(令和3年)4月10日 土曜日

私達当会は、皆様に、私達人類の事象の全範疇を包摂すると考え得る、遺跡たる事象、且つ、その存在、遺跡の具象、の保存と活用、を中核として、提案し要望します。

私達当会は、遺跡である土地に関して、以下、提案し要望します。

〔遺跡の遺跡としての発見、遺跡の調査と遺跡の把握、並びに、遺跡の保存〕

① 遺跡の保存並びに活用の為の遺跡の調査を実施する。

(遺跡を遺跡として発見する。遺跡の全面積/全空間の発掘その他の調査を実施する。遺跡全体の実態と性格を把握し、当該遺跡の保存と活用に連結する)

〔遺跡の活用1〕

② ここは遺跡である、と直観させる。

(遺跡としての“土地の造形”と遺跡に関連する空間構成、即ち、そこにある遺跡と遺構を見せる)

〔遺跡の活用2〕

③ 遺跡の近傍近隣仮想空間の説明施設機能で説明する。

(遺跡又は遺跡の敷地外で事象を説明する/遺物を見せる、揭示展示又休憩等附帯機能設置)

私達当会は、遺跡、その土地にあって、遺跡そのものが主役である、説明と展示は二次的な事象である、と仮定します。 ✕

## ◇ 『空地(あきち)に於ける再開発、又、空地(くうち)に於ける児童公園と遊具の設置』

2021年(令和3年)4月12日 月曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、長崎地域に於ける、遺跡への対応は、空地(あきち)に於ける再開発、又、空地(くうち)に於ける児童公園と遊具の設置、と、その行為に於ける、事象の把握、概念、並びに、方法、が、同一である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、当該の行為に於いて、行為の対象の事象の固有性に従う、事象の把握、概念、並びに、方法、を選択すること、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、私達人類の世界にあって、且つ、私達人類の日常の活動の空間にあって、遺跡を、遺跡として、遺跡の具象、並びに、関係する空間性、並びに、関連する諸般の関係性、を保存し活用すること、を提案し要望します。 ✕

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界に於いて、私達人類の世界の長崎地域に於いて、私達人類の世界の長崎地域の私達人類は、遺跡の保存と活用に関する、成功体験を、未だ、形成し、経験していない、この状態が継続すれば、遺跡である長崎地域を、死蔵することになる、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界に於いて、私達人類の世界の長崎地域に於いて、私達人類の世界の長崎地域の私達人類が、広範な事象に於ける機会損失を最小化する為に、遺跡の保存と活用に関する、成功体験、を、可及的速やかに、形成しなければならない、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界に於いて、私達人類の世界の長崎地域に於いて、私達人類の世界の長崎地域の私達人類が、例えば、長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、関連する遺跡群、への行為、を契機に、遺跡の保存と活用に関する、成功体験、を形成すること、を提案し要望します。 ✕

## ◇ 『長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、関連する遺跡群、の調査と保存と活用』

2021年(令和3年)4月12日 月曜日

私達当会は、皆様に、長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、関連する遺跡群、に於ける、遺跡の調査と保存と整備、公開、活用、に関して、① 土地を遺跡として提示する公園、の実現、② 長崎の丘南部築地遺跡、並びに、大波止遺跡の計画的な調査保存再建整備公開活用、大波止遺跡に於ける長崎くんち御旅所の回復、と共に、③ 当該遺跡群遺跡、並びに、一帯の遺跡の保存と活用に関して、検出遺物の展示、並びに、遺跡、歴史、その他関連する事象、例えば、宗教、医学、芸術、哲学、私達人類の集団、私達人類の文化と文明、生命、エネルギー、宇宙、に関する、物品並びに説明の展示、附随する機能、例えば、休憩ラウンジ等、の提供について、長崎県警察本部跡地一帯の、遺跡を調査し保存し再建し提示しつつ行う再開発、並びに、当該再開発に於ける、国道324号線を跨ぐ高架デッキ設置による、当該遺跡群遺跡と当該再開発区域に関する、私達人類の活動の空間の接続、の活用、を提案し要望します。(飲食機能について、原則近傍近隣市街の民間事業に一任、支援:遺跡関係敷地施設に持込可:公開遺跡/公園敷地外の近傍の市街施設に塵芥収集箱を設置:公開遺跡/公園敷地内では、長崎名物チリンチリンアイス等屋台による飲食事業等のみ営業許可)

私達当会は、皆様に、当該遺跡群遺跡の保存と活用に関して、株式会社三菱総合研究所が長崎県から業務委託を受けて長崎県に提出した『県庁舎跡地整備基本構想検討報告書 株式会社三菱総合研究所』に於いて提案した事象を念頭に、私達当会の提案と要望を、再構成し、④ 都市長崎遺跡、先史時代-古代-中世遺跡、旧内町-旧外町遺跡、旧サンフランシスコ教会~籠屋舗~桜町囚獄-長崎本獄-長崎監獄~長崎西彼杵郡役所~長崎商業会議所-長崎商工会議所遺跡等、内包される土地隣接する土地近傍近隣に連続、又は、断続する遺跡の発見、再発見、調査、保存、整備、再建、公開、活用、⑤ 出島遺跡/長崎旧市街等遺跡群遺跡と世界遺産の構成資産である小菅修船場遺跡を連絡する、小菅根築地遺跡の調査と保存と活用、⑥ 長崎県が所有する土地である、長崎水辺の森公園-水辺のプロムナード-長崎県美術館一帯敷地への、オペラ・ハウス/シンフォニー・ホール/劇場、の誘致、⑦ 長崎市庁舎並びに長崎市議会建物移転後の跡地に、大学サテライトキャンパスの誘致設置、又、オープンイノベーションその他産業労働支援機能の併設、⑧ 旧市街の外延埋立地であるJR新長崎駅周辺を含む長崎湾岸区域に、都市長崎遺跡等遺跡群遺跡、並びに、海上と陸上の景観、を破壊し阻害しない、平面式大型駐車場、並びに、交通結節機能の設置、⑨ 市内公共交通と徒歩による長崎旧市街等遺跡群遺跡/長崎市内の回遊の促進、⑩ 国道34号線土地南部、旧長崎県庁舎から長崎市庁舎一帯での、日曜祭日に於ける歩行者天国の実施、併せて、催事の開催、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、個別の遺跡の土地の範囲に於ける、にぎわいの創出、と云うより、遺跡である、長崎地域、近傍近隣市街近郊、並びに、都市長崎遺跡、即ち、先史時代-古代-中世-旧内町-旧外町-出島-倉田水樋-旧水路-治水-築地-旧長崎内港外港-旧郊外田園地帯-旧道/旧街道-旧関連拠点-小菅根築地-旧外国人居留地-長崎キリシタンの里-長崎核爆弾被爆-戦災復興-経済発展に関する遺跡、又、自然の態様、並びに、私達人類が日本列島に到達する先史時代以降現代のおよそ50年以前迄の期間を対象とする、私達人類に関する事象(日本国の文化財保護法に於ける、文化財の範囲、と想定し得る)、遺跡の発見、再発見、調査、保存、再建、整備、公開、情報蓄積、研究、発信、活用、又、現在の私達人類の活動は、私達人類の未来にどの様な遺跡を形成し遺し得るのか、その全体での、にぎわいの創出、を提案し要望します。 ✕

◇ 『必然と体系、又、雑然』 2021年(令和3年)4月15日 木曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、相対する事象に関して、夫々の要素に於いて、夫々の個別性に由来する必然を体現すれば、要素の集合は、整然と、内包する体系を顕現し、自ずから、より、大きな事象を、体現する筈、例えば、都市に於いて、夫々の要素に於いて、私達人類の主観を優先すれば、その集合は、雑然、スプロール、混乱、夫々の要素に於いて、夫々の個別性に由来する必然を体現すれば、整然、内包する体系を顕現し、事象の、即ち、私達人類にとっても、より、大きな機能とその効果、その共時的通時的な耐久性を体現する筈、遺跡に於いても同様、事象の、即ち、私達人類にとっても、より、大きな機能とその効果、その共時的通時的な耐久性を体現する、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の主観、よりも、相対する事象の個別性と必然性に従うこと、を提案し要望します。

◇ 『ある二組の想定』 2021年(令和3年)4月15日 木曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が関係する事象に関して、二組の想定、即ち、a. 自然たる制限⇨体系⇨必然⇨整然⇨芸術⇨哲学⇨成果⇨ユートピア、b. 人工たる自由⇨無秩序⇨便宜⇨雑然⇨閉塞と暴力⇨混乱⇨ディストピア、を仮定します。

◇ 『遺跡と土地』 2021年(令和3年)4月15日 木曜日

私達当会は、長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、関連する遺跡群、の調査と保存と活用について、長崎県庁舎跡地の現場、又は、具象、は遺跡である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の長崎地域に於いて、私達人類の世界の長崎地域の私達人類が、長崎県たる日本国の地方公共団体が保有する資産の、様々な経済市場に於ける運用、との視点を、休止し、私達人類にとっての遺跡たる事実を基盤に、さらに、多角的に、私達人類の概念を検討又は再検討すること由来し、当該の事象に関して、私達人類にとっての現代的意義が浮き彫りになる可能性がある、之を、基点として、当該の事象に関する、私達人類にとっての、“跡地/遺跡”の活用を概念し得る、例えば、第一義に、私達人類の遺跡たる必然、且つ、私達人類の遺跡たる標準、に従うこと、私達人類の文化と文明を再検討すること、私達人類の幸福、私達人類の福祉、を考察すること、私達人類の「社会的共通資本」(宇澤弘文氏の提唱による)を考察すること、と仮定します。

◇ 『私達人類の考察、立証、実証、又、感覚』 2021年(令和3年)4月17日 土曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、考察し、立証し、実証し得る事象、その行為の対象の範囲に関して、私達人類の、考察、立証、実証、に於いて、私達人類の、考察、立証、実証、たる行為の目的である事象に関する、私達人類の経験とその蓄積に対照して認識し得る、確からしさ、を想定し得る処、私達人類の、考察、立証、実証、の行為の対象の範囲は、私達人類の感覚に由来する想像に限定される、私達人類は、私達人類の想像以外の事象を、考察し、立証し、実証することが出来ない、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の想像を過信せず、私達人類の想像の由来、源、である感覚に対して、より謙虚、又は、より率直、より忠実、でなければならぬ、と仮定します。

私達当会は、皆様に、遺跡について、私達人類の世界にあって、且つ、私達人類の日常の活動の空間にあって、遺跡を、遺跡として、遺跡の具象、並びに、関係する空間性、並びに、関連する諸般の関係性、を保存し活用すること、を提案し要望します。



私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の個体の、生命体としての生理である感覚、と、感覚の経験の蓄積たる記憶、から、逸脱することができない、私達人類、又は、私達人類の個体、の存在、又は、在り方、の最終形は、私達人類の個体の、生命体としての生理である感覚、と、感覚の経験の蓄積たる記憶、に於ける遊び、即ち、芸術、哲学、探求/考察/研究、幸福、即ち、之が、私達人類の自由の根幹、由来である、と想定し得る、にある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の、日本地域の私達人類に関して、私達人類の西欧地域に由来する文明、その近代の国民主権国家の様相、啓蒙思想による中央集権、の移入に際して、現代まで、その形式を優先して、安易な状況に推移している可能性がある、即ち、文明の形式の整備、形態的な中央集権を急ぎ、即ち、麗句としての和魂洋才、私達人類の、私達人類たる存在の基層であると想定し得る、芸術、哲学、探求/考察/研究、幸福、又、私達人類の自由、を看過し、内国的に、表層たる効果の形成に拘泥し、国威を発揚した処、太平洋戦争で惨敗し、その後も、同じ動作を、反復している、可能性がある、その結果、近世である江戸期迄に蓄積した日本地域の国力、即ち、私達当会は、国力を、「社会的共通資本」(宇澤弘文氏の提唱による)である、と仮定します、を相対的に消耗し尽くし、逆も又真、事象の概念化、再構成にも弱点があり、世界の趨勢に遅滞し、私達人類の世界の、主導権、又は、標準の構想/形成、に参与し得る、概念を形成し、提示し、実現することが出来ず、之に参与し得ない、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の、日本地域の私達人類に関して、私達人類の西欧地域に由来する文明、その近代の国民主権国家の様相、啓蒙思想による中央集権、の移入は、その、完成と反省、と云うより、基層の形成を経由出来ず、その、中途崩壊、の様相である可能性がある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の、日本地域の私達人類は、例えば、遺跡に於いて、遺跡以外の事象を展開せず、遺跡として之を保存し活用し、又、原爆遺跡で、遺骨探索収集し、又、遺跡である現場に遺骨の例えば無釉白磁によるレプリカを設置する、他の空襲/爆撃と異なり、瞬時の被爆等により、私達人類の行為の選択である避難の機会が制限されるのである、その他、事象の必然、私達人類にとっての道義、であると想定し得る事象に対して、率直に、地道な処から、再び、始めてはどうか、と仮定します。 ✕

## ◇ 『私達人類の世界』

2021年(令和3年)4月22日 木曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の現代の、私達人類の社会は、制度に於いて、私達人類の人間関係が、私有財産概念の接点、例えば、市場、に置換され、「社会的共通資本」(宇澤弘文氏の提唱による)としての私達人類の行動様式が分解され解体される状態にある、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、次世代の、地球上の世界は、不確実性に関する情報と動力と伝送と接点、即ち、情報と機械、のみ、が在ればよいのであり、遺跡も、「社会的共通資本」(宇澤弘文氏の提唱による)も、私達人類も、不要である、私達生物が不確実性によって計画され(例えば、試行錯誤)、機械が不確実性を排除して計画される(例えば、許容誤差と云う制度により不確実性が排除される) 処、万一、情報と機械の世界で、内在する不確実性が解消されて消滅すれば、関係する事象の変動が消滅し、情報が消滅し、対応が発生せず、設備の稼働が不要となり、設備の稼働は停止する、即ち、機械は、本来の無機物の在り方に回帰する、あるいは、機械は、宇宙環境の変動に備えて、稼働し続けるであろうか、之等の可能性がある、と仮定します。 ✕

## ◇ 『遺跡、私達人類の活動の空間に於ける、空隙としてのプロデュース(produce:生産/企画)』

2021年(令和3年)4月22日 木曜日

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、之を、物体、並びに、建築、又は、機能、例えば、文明、と云うより、「自然と人間との共同作品」(『世界遺産条約履行のための作業指針(世界遺産条約履行のための作業指針ユネスコ世界遺産センター・文化庁仮訳)』)、並びに、私達人類の活動の空間に於ける空隙、即ち、私達人類の現在の活動、例えば、日常の生活、と、異質の空間、又は、芸術並びに哲学、例えば、文化、として、顕現し、提示すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、日本地域の私達人類は、時の経過とその揺らぎ、空間の存在とその戦ぎ(そよぎ=顫:ふるえる、振動する)、を愛する、と仮定します。 ✕

1. 情報

○ 2021年(令和3年)4月22日 木曜日 長崎新聞 第5面【情報】〔声 みんなのひろば〕

『県庁跡地活用 欧州を参考に』 無職 浜永孝雄 (70)

県庁跡地(長崎市江戸町)で発掘された遺構などの保存や、跡地活用について、私案がある。長崎市立桜町小を建設した際に跡地から出土した遺跡などを保存する、サント・ドミンゴ教会跡資料館。発掘現場をそのまま保存した資料館として高く評価されており、私は県庁跡地もこれと同様の保存方法を前提にすべきだと思う。ヨーロッパで見られる遺跡の保存活用方式は、全面保存とにぎわいを創出するショッピングセンターや集客施設と両立できる建築形態にしていることだ。今年が長崎開港450周年。県庁跡地の周囲の環境などから考えると、歴史的な建築物の復元や、歴史的景観を踏まえた施設を造るより、開港500周年など将来を見据えた造形デザインの建築物ができればいいと思う。例えば、屋外の史跡公園と施設の1階を遺跡展示室にしたり、江戸期の石垣遺構などを見るためにサント・ドミンゴ教会跡の展示方式を用いたりする。ヨーロッパではこれらの方式で古代の港の跡や城壁、下水溝跡などを常時見ることがができる。そして、その上階には市場やイベントが開催できる広場や飲食場、展望テラス、遊歩道もある。いずれにしる地域の人々が誇りと愛着を持って利用できる県庁跡地活用の基本構想策定を期待する。(長崎市)

2. 私達当会の仮定と提案と要望

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、当該の情報に紹介する事例に関して、遺跡を、現代の建築に於いて、解釈し、現代の建築として、再構成し、時に、構想者、設計者、制作者の作品として提示し、又は、当該の作品を、評価する事象である、その場合が包含されている、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、事象を、他の事象に於いて解釈し、又は、他の事象として再構成すると云うより、事象を、当該の事象として、率直に、把握し、提示する在り方、が第一義である、であると仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡を、他の事象に於いて解釈し、他の事象として再構成することを回避し、遺跡を、遺跡として、率直に、把握し、提示すること、を提案し要望します。

※ 『遺跡について 『遺跡の保存と活用、私達人類の活動の空間に於ける空隙、としてのプロデュース (produce: 生み出す、生産する)』』

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡の保存と活用に関して、遺跡を、物体、並びに、建築、又は、機能、例えば、文明、例えば、利用、と云うより、「人間の作品、自然と人間との共同作品及び考古学的遺跡を含む区域」(『世界遺産条約履行のための作業指針(ユネスコ世界遺産センター・文化庁仮訳)』)、並びに、私達人類の活動の空間に於ける空隙、即ち、私達人類の現在の活動、例えば、日常の生活、と、異質の空間、非日常の空間、安息(何の心配・苦痛もなく静かに休むこと: Oxford Language sの定義)、又は、芸術並びに哲学、例えば、文化、例えば、引き受け、として、顕現し、提示すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、日本地域の私達人類は、例えば、時の経過とその揺らぎ、空間の存在とその戦ぎ(そよぎ=顫: ふるえる、振動する)、を愛する、と仮定します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているのでしょうか?

遺跡は、人々の そして 現代の私達の 生と死の証です。 2021年(令和3年)4月22日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、事象に対して、日本地域の私達人類は、西欧地域の私達人類と、異なる行為する仕方が在り得る、私達人類のこの認識が、即ち、私達人類のグローバルたる事象である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、日本地域の私達人類が、日本地域に存在する遺跡に関して、西欧地域の私達人類が、西欧地域に存在する遺跡に関して、行為する仕方、と異なる、行為する仕方、である可能性を包含する、日本地域の私達人類に由来する、行為する仕方、を、発見し、又は、再発見し、行為し、提示すること、を提案し要望します。

3. “長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡”、即ち、長崎県庁舎跡地、に於ける、遺跡の保存と活用について、私達当会の提案と要望

私達当会は、皆様に、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、又は、長崎県庁舎跡地、に於ける、遺跡の調査と保存と活用、公開、活用、に関して、①土地を遺跡として提示する公衆、の表現、②長崎の長崎県庁舎跡地、並びに、交通止遺跡の目的を達成する再構成施設、の活用、交通止遺跡に於ける長崎(長崎)の歴史、と、③西役所等遺跡、並びに、一帯の遺跡の保存と活用に関して、提出される報告、並びに、遺跡、歴史、その地質学的な事象、例えば、発掘、調査、分析、研究、私達人類の表現、私達人類の文化と文明、生活、芸術、等、に関する、発見、並びに、解釈、の活用、を、評価する、事象並びに、評価する、事象、を、提案し、要望しています。【飲食場等については、南長崎地区市街の民間事業に一元、交通止遺跡等跡地活用の目的を達成する再構成施設、の活用、を、提案し、要望しています。】(『長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、に於ける、遺跡の保存と活用』2021年(令和3年)4月12日 月曜日 の内容を再掲)

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の、例えば、文明、では、私達人類の諸問題を解決することは、出来ない、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、即ち、事象が有限であると想定すれば、例えば、文明、即ち、利用する仕方では、目標を、解消から程度に置換し、又、対象を、AからBに転換して、終局を先送りすることは出来ても、問題を解決することは、出来ない、私達人類の、例えば、文化、即ち、引受ける仕方、例えば、私達人類の行為に対し、地球の自然の回復が優勢な状態、に、私達人類が、私達人類の諸問題を解決する糸口がある、但し、地球の歴史は億年、私達人類の歴史は万年、であることに留意が必要である、尤も、事象が、無限、即ち、無尽蔵、又は、私達人類の行為に対し、地球の自然の回復が優勢な状態、であるならば、素より、私達人類に、問題は存在しない、この時、私達人類が、事象を、問題である、と感じるならば、それは、即ち、私達人類と私達人類の関係に於ける調整が、完結の状態にあるのではなく、過程、途上の状態にある場合である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、而して、私達人類は、私達人類の行為に対し、地球の自然の回復が優勢な状態にある時、その状態を、文明、とは表象しない可能性がある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、果たして、事象は、無限であろうか？、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、例えば、私達人類の文化の仕方、例えば、私達人類の引受けとしての行為、を再認識し、之を、行為すること、を提案し要望します。

## ◇ 『私達人類と組織』

2021年(令和3年)4月26日 月曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、何故、新型コロナ・ウイルスが敷衍し、私達人類は後退するのか、組織論的に仮託して、新型コロナ・ウイルスの、ランダムに変異して、事象の不確実性に適応する生存の在り方は、溜めが効いており、私達人類の、私達人類の主観に対して、選択的、且つ、体系的に、効率的であろうとする行為の様式は、私達人類の生命体としての生理に由来する、私達人類の能力の限界、に起因する、事象の不確実性に対して、硬直的、であり、相対的に、溜めがない、と仮定します。

## ◇ 『長崎地域に於ける現代都市長崎の都市計画の主題—遺跡を契機とする経済効果、双頭多層型文化的都市動線の形成』

2021年(令和3年)4月27日 火曜日

私達当会は、皆様に、私達当会が、本紙の、『長崎県庁舎跡地、並びに、周辺地、即ち、長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡、並びに、関連する遺跡群、の調査と保存と活用』2021年(令和3年)4月12日 月曜日、に於いて、又は、それ以前に、皆様に、長崎県警本部跡地一帯の土地に設置することを、提案し要望した、“宇宙—太陽系—地球の自然—宗教—芸術—哲学—遊び—幸福—科学—経済—仕事—不確実性—私達人類の文化と文明—遺跡—私達人類と長崎地域に関する総合博物館”、について、新長崎駅東敷地再開発、によって、之を、建設し設置し、又、個別の遺跡等に由来し、遺跡等の近傍の土地に、主題別サテライト博物館/資料館/展示説明施設、例えば、長崎県警本部跡地一帯の土地に、宗教博物館、近代医学資料館、近代化博物館、海事博物館、を設置し、他の、例えば、私達人類の、私立/公立/国立の保育園/幼稚園—小学校—中学校—高等学校—専門学校—大学、等、教育機関/制度、図書館—オペラハウス/シンフォニーホール/劇場—博物館—資料館—美術館—画廊—街並み、等、学習/文化/制度/都市型蓄積施設/市街、と相互に、連携/連動して、運営する、もう一つの在り方、を提案し要望します。

私達当会は、例えば、長崎地域の文化的都市動線、について、JR新長崎駅一帯再開発と“私達人類と長崎地域に関する総合博物館”の双方を備える、JR新長崎駅一帯を、主点、とし、遺跡と都市型蓄積施設と市街と教育機関によって、模式的に、放射状に、都市動線が形成される、と想定すれば、理解しやすい都市構造となる、さらに、海路/長崎港、又、空路/長崎空港からの長崎地域への入口となる、ながさき出島道路出入口と大浦一帯、旧長崎バンド、に隣接する、長崎水辺の森公園—水辺のプロムナード—長崎県美術館—平面大型駐車場を擁する県有地の、長崎県美術館と連続し利便性が高い国道499号/路面電車側に、オペラハウス/シンフォニーホール/劇場、を設置し、抽象文化活動を振興すれば、長崎水辺の森公園地域を、副点、として、双頭の、形態を形成し、さらに、長崎旧内町外町旧市街遺跡地域に生活文化/芸術を振興すれば、相互に隣接し、環長崎港道路によって連続する、長崎旧市街遺跡一帯(生活文化/芸術の醸成と発信)—長崎バンド/水辺の森公園一帯(抽象文化/芸術の醸成と発信)—JR新長崎駅一帯(交通と情報の結節)、の三角構造、さらに、外郭関連地域、日本地域、世界、の遺跡群/文化的事象との動線、を基盤とする、双頭の、集約し拡散し回遊する、双方向、又、複雑、且つ、相乗的な働きを出現する、多層型文化的都市動線の構造を形成することができる、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、当該の、長崎地域に於ける双頭多層型文化的都市動線、に於いて、私達人類の活動の振興と共に、経済効果を形成し、之を、波及し、分配し(ディストリビュート:distribute)、蓄積し得る、茲に、当該の、長崎地域に於ける双頭多層型文化的都市動線の形成が、長崎地域に於ける現代都市長崎の都市計画の主題(コンセプト:concept)であり得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、長崎地域の私達人類が、長崎地域に於いて、当該の、“長崎地域に於ける双頭多層型文化的都市動線”、を形成すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の長崎地域に関して、例えば、JR新長崎駅一帯(JR新長崎駅一帯再開発―“私達人類と長崎地域に関する総合博物館”)、並びに、長崎水辺の森公園一帯(旧長崎バンドー長崎県美術館―オペラハウス/シンフォニーホール/劇場)、をツインヘッド(Twin head)とし新長崎市役所をクランク軸とする、V型エンジンを、遺跡のフレームに搭載し、長崎地域の海を前輪に、長崎地域の山と丘と谷を後輪に据え、“宇宙―太陽系―地球の自然―宗教―芸術―哲学―遊び―幸福―科学―経済―仕事―不確実性―私達人類の文化と文明―遺跡～私達人類と長崎地域に関する総合博物館”、をハンドルに、長崎地域の空と遺跡たる私達人類の活動の空間に於ける空隙をライダーに迎え、私達人類の世界に、人間的な鼓動を響かせ、私達人類の世界を、疾駆してはどうか！ と仮定します。

私達当会は、長崎地域全体が、海と川、空、山と丘と谷に囲まれた、遺跡であり、博物館であり、劇場であり、楽器であり、そこに人が住み、そこには、詩(うた)と舞いと音楽がある、と仮定します。 ✕

◇ 『私達人類の文化と文明、又、主知主義と主意主義と主情主義は、これから、何処へ向かい得るのか？』

2021年(令和3年)4月30日 金曜日

## 1. 情報

○ 2021年(令和3年)4月30日 金曜日 長崎新聞 第1面

『対中競争 勝利へ決意 バイデン氏施政方針 米「再始動」』

【ワシントン共同＝竹本篤史】バイデン米大統領は28日、上下両院合同会議で施政方針演説に臨み「中国や他の国々と競争し21世紀を勝ち抜く」と述べ、中国への対抗姿勢を鮮明にした。習近平国家主席を「専制主義者」と名指して批判し、米国の勝利すると強調。「米国の再び動き出している」と国家再生を宣言した。【7面に表層深層と関連記事】 議会演説は1月の就任後初めて。29日で政権発足100日となり、これに合わせて成果を訴えた。トランプ前政権下の混乱や新型コロナウイルスの危機、景気後退からの脱却を加速する構えだ。経済対策として、…… 中国には、…… 気候変動問題は、…… アフガニスタン駐留米軍については、…… 「現在の米国への最も致命的なテロの脅威は、白人至上主義者によるものだ」と警戒感を示し、人種差別の根絶を改めて求めた。 ✕

## 2. 私達当会の仮定と提案と要望

私達当会は、当該記事により、アメリカ合衆国第46代大統領であるジョゼフ・ロビネット・バイデン・ジュニア氏が、同氏の大統領としての最初の議会演説となる施政方針演説で、テロの脅威、人種差別根絶に関して、白人至上主義に警戒感を示した、と理解し得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の文化と文明、又、プラトンの魂の三分説以来の伝統に由来する、私達人類の主知主義と主意主義と主情主義は、これから、何処へ向かうのでしょうか？ 又は、何処へ向かい得るのでしょうか？ と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、発見又は再発見と調査と実態の把握と、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類にとっての、遺跡に固有である意義に関して、之が、a. 例えば、①私達人類の意図の断絶、例えば、私達人類の様々な事由に由来する忘却や、時の経過を契機とする埋納や痕跡であること、に由来する、②私達人類の個体、又は、集団、の記憶の喪失、様々な事由に由来する、に対する、私達人類の共時的通時的な可逆性への担保の可能性、例えば、狩猟採集の様式(文化≒引受、と仮定)と農耕牧畜の様式(文明≒利用、と仮定：私達当会は、近代/現代の都市主導型文明について、之を、農耕牧畜の様式の範疇にある、と仮定します)、③人工/都市的要素/構成、収集、集約、集権、に対する、私達人類の個体の生命体としての生理に呼応する事象、例えば、身体的スケールや肌理(テクスチャー: texture)や基準面としての大地、離散的配置又は状況、織交、多様な遠近/空間把握/認識の態様、建築家である隈研吾氏が言及する、④白人至上主義、例えば、2021年4月28日に、アメリカ合衆国第46代大統領であるジョゼフ・ロビネット・バイデン・ジュニア氏が、同氏の大統領としての最初の議会演説となる施政方針演説で、テロの脅威、人種差別根絶に関して言及した(2021年4月30日金曜日 長崎新聞 第一面記事)、に対する、その土地の遺跡/歴史/民俗/文化/文明/意識の形態/思考の形態/行為の形態、b. 即ち、私達人類の、主知と主意と主情、文化と文明、意識、想像又は思考と行為、意思、意図、体系、形式、の獲得、又は、再確認、又は、追認、にある、と云うより、私達人類の、主知と主意と主情、文化と文明、意識、想像又は思考と行為、意思、意図、体系、形式、の超越、常と共に在り得る、にある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、之が、私達人類にとっての遺跡に固有である意義、に因り、私達人類にとっての「社会的共通資本」、即ち、数理経済学者である宇澤弘文氏が提唱し、私達人類に継承される概念、である、と仮定します。(宇澤弘文氏は、自ら概念する、「社会的共通資本」について、『社会的共通資本』著者 宇澤弘文 発行 2000年11月 岩波書店で、「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置を意味する。」と定義し、又、「自然環境」「社会的インフラストラクチャー(infrastructure)」「制度資本」として構想し、国家的に管理されたり、利潤追求の対象として市場に委ねられたりしてはならず、職業的専門家によってその知見や規範に従い管理・維持されなければならない、と規定しています。:『知恵蔵mini』朝日新聞出版等)

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、之が、私達人類にとっての「社会的共通資本」、そして、その構成要素としての「自然環境」であり、「社会的インフラストラクチャー」であり、且つ、「制度資本」でもある、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地に在る、遺跡の遺跡としての実態と空間、並びに、之を包括する空間性、並びに、諸般の関係性、その実態、を、私達人類にとっての「社会的共通資本」としての性格と概念に於いて、保存し、活用すること、を提案し要望します。

## ◇ 『遺跡の調査と保存と活用、遺跡の破壊』

2021年(令和3年)5月7日 金曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、その土地の遺跡を破壊する時、その土地の私達人類が、その人心に於いて、その土地の私達人類の自身の身辺に、遺跡があり、きちんと整備されていることに充足感を覚え、又、その為に、応分の負担を担う、その在り方が、あるいは、既に、破壊されている、あるいは、かつて、そうであったように、形成され、又は、継承されていない、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、発見又は再発見と調査と実態の把握と、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

## ◇ 『私達人類の歴史』

2021年(令和3年)5月7日 金曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の歴史に関して、創造主である全知全能の神、と異なる、私達人類の、宇宙の森羅万象の全てを望みえない、即ち、全てを獲得することも、全てを形成することも、創造することも、成し得ない、能力の限界と、私達人類の無から生ずる、無限、無尽蔵の想像との、狭間、空隙に由来する、私達人類が存在する限り継続する、知、意、情、並びに、力、に於ける、戦いとその動揺である、と定義し得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、神の全知全能を想定することで、私達人類の限界ある能力を、定義してきたのではなかったか？ と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、茲に於いて、私達人類が、神を殺しても、神は、死なない、私達人類が、滅することによってのみ、神は、死ぬのである、それとも、やはり、既に、神は、死んでいるのか？ と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、発見又は再発見と調査と実態の把握と、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『民主主義、民主制、遺跡』 2021年(令和3年)5月8日 土曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡たる事象に相対して行為する事象は、私達人類のグローバル時代の、又は、次世代の水準に於ける、地方自治、即ち、主権国民国家の国体としての民主主義、並びに、民主制の、質、在り方、が問われる事案である(基礎自治体: commune: コミュニ: 仏語: 共通、共同、共有、多数、平凡、庶民: common: コモン: 英語)、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、発見又は再発見と調査と実態の把握と、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『私達人類の世界の在り方に関する、私達人類の価値観—ポストグローバル、その土地の遺跡』

2021年(令和3年)5月9日 日曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の世界の在り方に関して、「グローバル」と云う単語で、専一に、代表しようとする、私達人類の世界の在り方に関する、私達人類の価値観の時代は、既に、過去の事象として、終焉している、その可能性がある、私達人類の世界の現代は、例えば、“その土地の遺跡”、という語群で、代表する、私達人類の世界の在り方に関する、私達人類のグローバルな価値観の時代である、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、発見又は再発見と調査と実態の把握と、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『都市的な空間、又、私達人類の能力、不確実性、遺跡』 2021年(令和3年)5月9日 日曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の活動の空間に於いて、随所で、都市的な空間を拡張し、遺跡や、田地や、畑地を、アスファルトやコンクリートやプラスチックに置換したからと云って、始めは、新規により、私達人類にとっての価値を感じたとしても、それ故に、私達人類に、幸福が訪れたり、楽しいことが起こったり、面白いことが降ってくる、又は、発見する、と云うことは、恐らく、無さそうである、新規に慣れてくれば、感じていた私達人類にとっての価値も、本来、消失する筈、後は、白々とした崖と壁が、太陽からの熱と光を照り返し、黒々としたアスファルトは、太陽からの熱と光を吸収して蓄積し、色鮮やかなプラスチックはたちどころに白化して粉々になり、生物の内臓に蓄積する、他の生命体を排除しながら、確かに、私達人類の寿命は延びるかも知れないが、原爆の被爆を何万倍にも希釈した事象が、日々、押し寄せて来るのである、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の能力を過信して、信奉し、私達人類の生命体としての生理に由来する、私達人類の能力の限界、不確実性、を、侮って来た、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、発見又は再発見と調査と実態の把握と、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

◇ 『異変、遺跡、私達人類の喫緊の課題』 2021年(令和3年)5月9日 日曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡に関して、遺跡とは、私達人類にとって、少し以前に、云われたように、私達人類の世界の日本地域の子供達が、魚と云えば、スーパーマーケットで陳列してある魚の切り身が、そのまま、海で泳いでいる、と理解したつもりでいて、且つ、両親もその異変に気付かず、第三者が気付くまで、子供達の持つ概念を修正してあげることが出来ない、同様に、例えば、私達人類の現代の文化と文明の当事者である現代の私達人類が、私達人類の文明に於ける、現代の都市的な状況、大半は最近の75年以内に形成された事象、が、現代の私達人類の個体が生まれる前から、元々、そうであった、と云う様な、無意識の錯覚から、例えば、物心ついた頃から、成人しても、脱却できない、としたら、これは、“まずい”、つまり、遺跡とは、在った方が良く、又は、歴史上価値と学術上価値の保存、等、私達人類の理想、歴史、学術、と云うより、私達人類の現在と未来にとっての、“まずい”、を回避する為の、社会的装置、「社会的共通資本」(宇澤弘文氏の提唱による)、必然と不可欠の存在と制度、であり、その発見又は再発見、調査と実態の把握、保存と活用、整備と公開、は、私達人類の喫緊の課題、である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、発見又は再発見と調査と実態の把握と、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、私達人類の為す、都市化と機械化、を私達人類の、美德、又は、理想、又は、正義、として、推進力とする、私達人類の経済社会、之を包摂する私達人類の文明社会の形態は、私達人類の個体、私達人類の地域的集団、私達人類全体、にとって、負担が大きい、私達人類が、可及的速やかに、之を脱却し、私達人類の、日々の文化的活動を、私達人類の興味として、私達人類の経済社会の中核とする、私達人類の文化社会、への転換、例えば、小さな都市、小さな機械化、豊かな文化、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界の日本地域の近世である江戸期迄、又、その近代迄、の社会に、私達人類の文化社会への示唆が在り得る、と仮定し、私達人類の文化社会を実現する為、私達人類の世界の日本地域の近代迄の私達人類のその社会の実態の、又、私達人類の世界各地の先史時代に遡及する、考察と研究を行うこと、を提案し要望します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、発見又は再発見と調査と実態の把握と、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

## ◇ 『遺跡、又、私達人類の、私達人類にとっての必然性に従う行為、の選択』

2021年(令和3年)5月10日 月曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡たる空間の範囲で、私達人類の利潤の生産、その他、遺跡以外の事象を行為しなければならない、と云う、私達人類にとっての必然性は無い、遺跡には遺跡である、と云う、私達人類にとっての必然性がある、私達人類の利潤の生産、その他、遺跡以外の事象の行為は、遺跡たる空間の範囲の外で行為することが、可能である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、事象に於いて、私達人類にとっての必然性に従う行為、を選択すること、を提案し要望します。 ✕

## ◇ 『私達人類は、何人も、一日に、24時間を超えて、それ以上、戦うことは出来ない』

2021年(令和3年)5月11日 火曜日

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、「24時間戦えますか！」と云う様な、宣伝か、歌謡曲か、カラオケ、の様な文言を、“美德”や“元気のあかし”や“勇気のしるし”や“正義”、としたくなる、1988年、又は、1991年以來の、浅薄と仮定し得る如き、思想や実態や憧憬や称揚や自虐や社会的技術や紐帯の求め、から、可及的速やかに、脱却すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、安易に、一日に、24時間戦えば、例えば、私達人類の生命体としての生理に由来する、私達人類の能力の限界、例えば、不確実性たる事象の出現、を目前にして、何人も、一日に、24時間を超えて、それ以上、戦うことは出来ない、と仮定します。 ✕

## 1. 情報

○『人間の経済』著者 宇沢弘文 2017年4月20日 発行 発行所 株式会社新潮社

私の父は、宇沢弘文という経済学者でした。……二〇一一年三月十一日の東日本大震災の十日後に倒れたのですが、震災のためのホルダーも作られていました。……ステイグリッツは「ヒロの話は三十年後ぐらいにわかる」と言っていました。『自動車の社会的費用』は最近、中国語と韓国語に翻訳されました。まだまだこれから伝わっていくことも多いと思っています。講演やインタビューがまとまった形で出版されるのは初めてです。聴衆やインタビューアの反応を見ながら、そして手元にあったに違いない大好きだった魔法の水と共に広がっていく父の世界観を楽しんでいただければ幸いです。倒れる少し前まで、新潮新書の阿部正孝さんと父が出版に向けて打ち合わせを繰り返していた企画でした。父が倒れてからもお手元で温めていただけており、多くの方々の協力で出版にたどり着きました。本当にありがとうございました。最後になりましたが、この本をお手に取っていただいた皆様にもお礼を申し上げます。お読みいただいたことが、ゆたかな社会の実現への一助になると信じております。二〇一七年一月 宇沢国際学館 占部 まり

序 社会的共通資本と人間の心 (P17)

昭和天皇のお言葉 (P17)

人間は心があつてはじめて存在するし、心があるからこそ社会が動いていきます。ところが経済学においては、人間の心というものは考えたいけない、とされてきました。マルクス経済学にしても人間は労働者と資本家という具合に階級的にとらえるだけで、一人ひとり心がある、とは考えません。また新古典派経済学においても、人間は計算だけをする存在であつて、同じように心を持たないものとしてとらえている。経済現象のあいだにある経済の鉄則、その運動法則を考えると、そこに人間の心の問題を持ちこむことは、いわばタブーだったわけです。次のようなことを記憶しています。一九八三年、私が文化功労者に選ばれたときのことでした。顕彰式が終わったあと、宮中で昭和天皇がお茶をくださることになり、じつはそれまで私は天皇制に批判的な考えをもっていたので、違和感を抱えたまま席にのぞみました。……私は自分の順番がきたときにはすっかりあがってしまい、ケインズのここがおかしいだの、新古典派の理論がどうか、社会的共通資本とは何か、などと懸命にしゃべりてました。しかし、われながら支離滅裂なのがわかって混乱していたところ、昭和天皇が話をさえぎって、こうおっしゃったのです。「君！君は経済、経済というが、つまり人間の心が大事だと、そういいたいのだね」心の中をピタリといいあてられたようで、私自身、ハッとしたものでした。それから四半世紀にわたって社会的共通資本の考え方、人間の心を大事にする経済学の研究をすすめてこられたのは、あのときの昭和天皇のお言葉に勇気づけられたからでもありました。(P17-P19)

「ルールム・ノヴァルム」 (P19)

もう一つ、私の人生のなかで最も感動的な思い出をふりかえります。今から二十年ほど前、私はローマ法王ヨハネ・パウロ二世にヴァチカンへ呼ばれて、ある歴史的な文書の作成を手伝いました。文書というのはEncyclicalsです。Encyclicalsは、歴代のローマ法王が在任中に一度は出される重要な公式文書のことで、その時どきの世界の状況に関してローマ教会の公式な考え方をまとめたものです。世界中のビショップに配布されるこの分厚いドキュメントは、日本では「回勅」「同文通達」と訳されます。そのなかで歴史的に最も有名な回勅が、一八九一年五月にレオ十三世によって出された「ルールム・ノヴァルム」で、経済学の考え方に大きな影響を与えました。……(P19)

(私達当会は、1991年5月にローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が出した回勅、1891年5月にローマ教皇レオ十三世が出した「ルールム・ノヴァルム」(ラテン語で「新しいこと」:カトリックで「革命」とも翻訳) - 『資本主義の弊害と社会主義の幻想』の百年目の、新しい「ルールム・ノヴァルム」 - 『社会主義の弊害と資本主義の幻想』、その題名は、ヨハネ・パウロ二世が、計画した、新しい「ルールム・ノヴァルム」の作成のアドバイザーにと手紙で依頼した、宇沢弘文氏、氏は当該の回勅をまとめるに当たって「人を幸せにするシステムを改めて構築しなければいけない」と考えた(「医師、そして娘から見た「父、宇沢弘文」」:占部まり:m3.com 2017年11月26日 聞き手・まとめ 橋本桂子(m3.com編集長))、その宇沢弘文氏自身が、ヨハネ・パウロ二世からの依頼の返事に、当該の回勅の主題として記したものである、と確認します。:『人間の経済』著者 宇沢弘文 序 社会的共通資本と人間の心 「ルールム・ノヴァルム」(P19-P21)、他)

……「新しいルールム・ノヴァルム」が経済学者に提起したのは、それぞれの国が置かれている歴史的、社会的、文化的、自然的、経済的諸条件をじゅうぶん考慮して、すべての国民が人間の尊厳と市民的自由を守ることができるような制度をどうやってつくればいいのか、という問題でした。……医療や教育、自然環境が大事な社会的共通資本であることはもちろんですが、もう一つ、つけ加えるなら、平和こそが大事な社会的共通資本なのです。ヨハネ・パウロ二世は、生涯、アメリカが広島と長崎に原子爆弾を落とすことは人類が犯した最大の罪である、として厳しく批判されました。そのためにヨハネ・パウロ二世はアメリカでは評判が悪かったのですが、ローマ法王になられたばかりの一九八一年に来日されて広島と長崎を訪れた際、小石川の後楽園で盛大な屋外ミサを執りおこない、流暢な日本語でこういう話をされています。「平和は人類にとって、いちばん大事な共通の財産である。特に日本の平和憲法は、平和を守る非常に重要な役割を果たす社会的な資産である」社会的共通資本、という言葉こそ使われませんでした。平和を守ることの意味を非常に大切なことと強調されたのです。ヨハネ・パウロ二世は全世界のこれまでまったく対立していた宗教の責任者の方々を回って歩き、そして歴史的な和解を実現されました。聖なる存在を神として敬う、そういう気持ちがある宗教の原点にあるのだから、対象とする神は違つたとしても、神をもって自分たちが平和を守っていくという気持ちで結びつきたい、と考えておられたのです。話はちょっと脱線しますが、私には一つ欠点があつて、それは酒を飲み過ぎることです。あるとき、ヨハネ・パウロ二世のお部屋でご馳走にあずかりました。……その際、ヨハネ・パウロ二世が「教育や医療はどのようなルールで維持したらよいか」とお聞きになりました。私は「教育も医療も、それぞれの職業的専門家が職業的な discipline (規範) にもとづいて、そして社会のすべての人たちが幸福になれることを願って、職業的な営為に従事することだ」と申し上げ、さらに「今、世界は人々の魂が荒れ、心が殺伐としている。あなたは人間の魂、心を守るという聖なる職業をされているのに黙っている。あなたはもつとはっきり主張しないといいけない」と一席ぶってしまったのです。するとヨハネ・パウロ二世はニコニコしながら「この部屋(ローマ法王の部屋)で私に説教したのは、あなたがはじめてだ」といわれました。……そして残念な



がらそのあと、必ずしもヨハネ・パウロ二世が期待されたようなかたちでの、新しい世界秩序は生まれていません。それでも、資本主義と社会主義という二つの体制概念が、歴史的な役割を終えて変質あるいは崩壊する過程で、ローマ法王の重要な仕事を手伝えることができたのは、経済学者としてたいへん名誉なことでした。(P22-P25)

— 「自由」と「利益」の暴走 (P26)

パックス・アメリカーナ (P26)

二〇〇八年九月のリーマン・ショック以降の経済の混迷は、約八十年前の昭和の大恐慌になぞらえて、平成の大恐慌と呼ぶべきものです。しかし、今回の方が事態はより深刻です。なぜなら、この問題は単なる景気の良し悪しでも、巷間いわれるような「百年に一度」でもなく、もっと長い歴史のスパンで考えなくてはならないからです。歴史を振り返ると、古くは紀元前後のパックス・ローマ(ローマの力による、ローマのための平和の時代)があり、近代においては十九世紀初頭にはじまったイギリスの海軍力を背景としたパックス・ブリタニカ、そして二十世紀後半の約半世紀にわたって世界を二分したパックス・アメリカーナとパックス・ソヴィエトロシア、すなわち資本主義と社会主義の概念を対立軸とした時代がありました。そして今、私たちはパックス・アメリカーナという大きな時代の、終わりの始まりにいるのだと思います。第二次大戦の終わりとともににはじまったパックス・アメリカーナとはどういうものだったのか、世界大恐慌の当事にさかのぼって考えてみます。…… (P26-P27)

東西冷戦の立役者 ……

モンペルラン・ソサエティ (P35)

第二次大戦の終わりを目前に控えた一九四五年七月、スイスの避暑地モンペルランで二人の経済学者が偶然、一緒になりました。フォン・ハイエクとフランク・ナイトです。二人は「今度の大战で、社会が破壊され、人間が破壊され、ヨーロッパの文明がされた。その一番の原因は、ナチズムと(当時、東欧で広がりがついていた)共産主義である」として、ヨーロッパの文明を守るために新たな運動を起こそうと相談します。そして二年後、立ち上げられた学者たちの集まりが「モンペルラン・ソサエティ」で、その基本的な考え方は新自由主義と呼ばれます。新自由主義というのは、企業の自由が最大限に保障されているときに、はじめて人間の能力も最大限に発揮できる、そのためにすべての生産要素と資源を私有化し、市場を通じて取引することで社会全体として望ましい状態が実現できると考えます。言い換えれば、人間の能力、大気や水でさえ、新たなマーケットを通じて取引することが可能になるということです。新自由主義の出発点を作ったハイエクとナイトをはじめとする経済学者、政治家、言論人による運動は、その後、ミルトン・フリードマンをリーダーとする市場原理主義の大きな渦に巻き込まれていきます。市場原理主義(Market Fundamentalism)は、新自由主義(Neoliberalism)にふくめて表現されることもあります。ハイエクとナイトが考えたネオリベラリズムと、フリードマンの市場原理主義にははっきりとした区別がある。ネオリベラリズムをどう評価するかについて様々な議論があるにしても、一つの重要な考え方であり、私たちも理解できる思想です。しかし、市場原理主義は新自由主義からどんどん踏み込んでいって、市場で利益をあげるためならば法も制度も変えられる、要するに儲けるためならば何をしてもいい、挙句にそれを阻止するものがあれば水爆を落としてもいい、というまともな人間の理解の度をはるかに超えたところまでいってしまいます。…… 私には、ハーヴェイのような大きなスケールでネオリベラリズムを語ることはとてもできません。しかし、市場原理主義がどういうもので、いかなる役割を果たしたかについては、自分自身の体験をふまえた意見があります。そして実は、社会的共通資本という考え方は、もともと市場原理主義への批判、あるいはオルタナティブ(代案)というものが出発点だったのです。(P35-P37)

ミルトン・フリードマン 選択する自由 シカゴ大学事件 市場原理主義の蔓延

リーマン・ショックの本質 (P50)

私はアメリカやイギリスで長いこと教えたあと、ヴェトナム戦争を契機として日本に帰ってきました。それ以来、日本の経済社会あるいはアメリカの惨憺たる状況を見て、経済学が社会の病を作っているのではないかと、何とかして経済学が人間のための学問であるようにと願い、様々な努力をしてきました。結局、あまりものにならないようですが、その過程で私は一つ大事なことに気がつきました。それは、大切なものは決してお金に換えてはいけぬ、ということです。人間の生涯において大きな悲劇は、大切なものを権力に奪い取られてしまう、あるいは追いつめられてお金に換えなければならなくなることです。私は公害や成田空港の土地収用の問題などで全国各地を駆けずり回ってきましたが、いずれのケースでも、先祖から伝えられてきたかけがえのない自然、あるいは土地が奪われてしまっていた。成田での国家権力による土地収用がそうであったように、そういうときの農民の苦しみと悩みは、理屈や言語では尽くしがたいものがあります。市場原理主義者は、あらゆるものをお金に換えようとしています。人間のもっている大切なもの、あるいは社会的共通資本であっても、お金に換えるといくらになるか、ひたすら追求していく、非常に極端なかたちの経済学、いやむしろ似非経済学と呼ぶべきかもしれません。…… そのとき基調講演をしたのが福井俊彦日銀総裁(当時)で、要するにこういう内容でした。「大切なものはお金に換えなさい。お金に換えておけば、価値を保存して、必要なときにまたそれを使うことができる」…… 人生最大の目的はもうけること、政府は企業活動をできるかぎり自由にして、もうけのチャンスを多くしよう、それが小泉・竹中の改革の基礎にある考え方でした。今になって市場原理主義は異様な考え方だと思える人は多いでしょうが、フリードマンが世界中にセールスして歩いた市場原理主義は、もともと学問的にも経済学的にもまったく無内容で支離滅裂です。人間の心やそれぞれの境涯への配慮もない、ただもうかるかどうかを機械的に計算する、一種のコンピューターのようなものです。その行き着いた先がサブプライムローンであり、その破綻でした。経済学を専門としてきた私は、リーマン・ショックにはじまった平成の大恐慌と日本社会の破壊の度合いの深刻さを見るにつけ、経済学が非常に悪い役割を果たしてしまった、という感じを持たざるを得ません。…… 本来、金融機関というのは大切な社会的共通資本です。社会的共通資本は決してマーケットで取引するようなものではありませんが、市場原理主義者の最大のねらいは、大切な社会的共通資本として守られてきたものを世界中でもうけの対象にすることです。金融にとどまらず、医療については、医療サービスを売る人と買う人に分けてマーケットを設けよう、教育も教育をする方と受ける方と市場で取引しようと考えます。民営化のかけ声のもとで、どの国でも最初にねらわれたのは国鉄と郵便局で、イギリスでもそうでした。公共的な交通機関や輸送システムのような社会的共通資本をねらって民営化し、それをアメリカの金融資本がマネージすることで巨利を得る、そうした流れは共通しています。第二次大戦後にはじまったパックス・アメリカーナ、そしてこの三十年ばかり、世界各国で起きている問題のほとんどは、アメリカにとって都合のいい考え方を他の国々に押しつける姿勢によってもたらされてきました。市場原理主義はその最大の象徴であり、今はそのパックス・アメリカーナ時代の終わりの

始まりなのだと思います。(P50-P56)

## 二 経済学と医療をめぐる (P57)

### パックス・ブリタニカ (P57)

パックス・アメリカナが始まる前、パックス・ブリタニカとその終焉に際して、経済学がどのような役割を果たしたかについて考えてみます。パックス・ブリタニカは、経済史では一八〇五年トラファルガー海戦で、ネルソン提督ひきいる英国海軍がフランス・スペイン艦隊を破ったときにはじまるとされますが、正式にはその十年後の一八一五年、ワーテルローの戦いでイギリスを中心とする連合軍が、ナポレオンの軍隊に圧勝したところが出発点になります。パックス・ブリタニカには一つの重要なルール、Two-power Standard というのがあって、イギリスの海軍力は世界一で、二番目と三番目の海軍力を合わせたものより強力でなければならない、とされていました。その海軍力を使って、海賊的資本主義で世界を制覇するというのがパックス・ブリタニカの姿で、アフリカをはじめ中近東からインド、中国までを徹底的に収奪していったのです。イギリスの植民地政策は、世界史において特筆されるべき残酷さをもっていました。インドのエリート層のなかでも特に優秀な少年少女たちをオックスフォードやケンブリッジに連れてきて、英国式教育と思考様式を徹底的に叩き込み、母国へ帰して支配階級に据えた。そしてアフリカでは、英国で教育を受けたインド人エリートたちがパックス・ブリタニカの先兵となって、さらなる植民地化を押し進めていく。それが一つのパターンでした。…… スリランカにおいても、イギリスの軍隊が灌漑用のため池を壊してダムをつくり、森林を切り払って、お茶やゴムのプランテーションに変えていきました。アジアの農業はため池が中心で地元の村長がすべてを管理していたのを、ダムを作ることで中央集権的に用水をコントロールしたわけです。これもイギリスの植民地支配の苛烈な合理性をあらわしています。やがて二十世紀に入ると、オスマン・トルコの衰亡、第一次世界大戦を受けてパックス・ブリタニカは崩壊していきます。それを決定的にしたのが世界大恐慌であり、日本の経済史においては昭和大恐慌と呼ばれる不況の大波でした。(P57-P60)

### ケインズ=ベヴァリッジの時代      ベヴァリッジ報告書      医療と乗数効果      NHS(国民保険サービス)の難局

### Kill-Ratio と Death-Ratio (P72)

…… もともと Kill-Ratio はマクナマラが考え出して、実行に移したものでした。第二次大戦中、マクナマラは陸軍航空隊で日本への爆撃計画を理論的に考える仕事をしていて、それが空軍司令官カーチス・ルメイ少将の目に止まります。グアム島に呼ばれたマクナマラは、第二十一爆撃集団による日本爆撃作戦を練り上げますが、そのとき彼が開発したのが有名なナパーム弾(焼夷弾)で、日本の木造家屋が非常に効率的に燃えるようにつくられていました。それが大量に使われたのが、一九四五年三月十日の東京大空襲でした。…… その後も日本の主だった都市を同じ手法によって焦土と変えていくなか、広島、長崎への原爆投下で日本にとどめを刺したというわけです。ずっと後になって「The Fog of War」(霧の中の戦争)という記録映画が作られたとき、マクナマラ自身が出演して、こんな発言をしていました。「ルメイ少将は、いつもこう言っていた。『日本がもし勝っていたら、われわれは戦争犯罪人として処刑されていただろう。われわれは、そういうことをやっていたのだ』とね。私も、そう思う」…… しかし、いわゆる近代経済学の効率性の考え方が、このような形で適用されることに対しては、世界中から厳しい批判があるのです。社会的共通資本としての核心部分である医療に対しては、市場メカニズムを使うのではなく、もっと人間的な立場からその営みを守るために協力していかなければなりません。(P74-P75)

### 人生は短し、医術は長し (P76)

旧制一高時代、医学部志望のクラス(理乙)にいた私は、三年生になると自分の人生について真剣に考えるようになりました。いうまでもなく、医師を志す者は「ヒポクラテスの誓い」という厳しい掟を終生守ることを誓わなくてはなりません。医師たる者は自らの生涯を患者のために捧げ、自分のよこしまな心を一切捨てよ、というものです。しかし、…… お医者さんは師の教えを守って、ヒポクラテスの誓いに忠実に医の道を歩む。そして必ず弟子に医の道を伝えていく。そうすると、短い命を救う医術は永遠の生命をもって次の世代に伝えられていく。医術が永遠の生命をもちうるのは、一人一人の医師がヒポクラテスの誓いを守り、医師として、また人間としての生きざまを全うし、師から学び受け継いだ医術を、次の世代に伝える高貴な営為に全力を尽くしているからである——これこそ社会的共通資本の核心です。…… (P76-P77)

### 日本の医療危機の構図 (P79)

…… 人間を扱う医療というのは非常にデリケートなもので、一度壊されてしまうと回復するのは非常に難しいものです。特にイギリスの場合は、職能集団としての医師たちの士気、モラル、志という人間の心に関わるところが壊されてしまった。それがイギリスという国を危機的な状況に追い込んでいます。これは社会的共通資本としての今の日本の医療、あるいは教育が置かれた状況とじつに良く似ているのです。(P82-P83)

## 三 教育とリベラリズム (P84)

### 安倍能成先生のこと (P84)

社会的共通資本としての教育について考えるとき、私にとって忘れられない光景があります。東京大空襲後の一九四五年、旧制一高に入学した年の出来事でした。戦時中、一高の本館は師団司令部が使っていて、学生は裏手にあった講堂で講義を受けていました。…… たしか九月半ば、軍隊の施設とみなされていた一高にもジープに乗った占領軍の将校団が接收にやってきました。当時の一高校長は安倍能成先生で、戦前の日本では最も優れたカント哲学者で、すぐれたリベラリストでもありました。ずっと後になって知ったことですが、安倍先生は、戦争中から、近衛文麿を中心とする敗戦処理を考えるグループの一員だったそうです。その安倍先生は占領軍の将校たちを前にして、英語できっぱりとおっしゃいました。「この一高は、Liberal Arts (リベラルアーツ) の College (カレッジ) です。ここは sacred place (聖なる場所) であり、占領という vulgar (世俗的) な目的のためには使わせない」リベラルアーツというのは、教育の仕上げの段階で重要な役割を果たすものです。つまり、学問や芸術、知識であれ文学であれ、専門を問わず、先祖が残した貴重な遺産をひたすら学び吸収し、同時にそれらを次の世代へ受け渡すという営為をする場所だということです。一人ひとりの学生の人間的な成長を図るとともに、それを次代へと継承する役割がある。安倍先生はそのことを繰り返し、それを聞いた占領軍の将校たちは、

黙ってそのまま帰っていきました。占領軍に捕突くなど逮捕されて当たり前、という時代にきわめて珍しいエピソードのはずなのに、新聞はもちろん一高の記録にもいっさい残っていません。しかし、その場に居合わせた私は心の奥底で、われわれは先祖が残した貴重な遺産をできるかぎり吸収して次世代に残すという仕事をしている、それが大学あるいは学校なのだという思いを強くしました。今になって考えると、私の心の中に「社会的共通資本としての教育」という考え方が芽生えた原点だったように思うのです。そのあとマッカーサーは日本の政治、経済、教育など、あらゆる面について徹底的な改革を命じました。東久邇内閣は即日総辞職し、幣原喜重郎を首班とする内閣が発足します。…… 。。。そういう経験から、マッカーサーはあえて幣原を首班に指名したのでしょう。それからしばらくしてマッカーサーは、日本が無謀な戦争に突き進んだのは、すべて教育制度に原因があると、日本の教育を徹底的に改革することを最優先課題にしました。アメリカからやってきた三十人以上の大調査団を出迎えたのが、そのとき文部大臣になっていた安倍先生で、このような挨拶をされたのです。「日本は戦争中、いろいろな国を占領した。そのときの最も重い罪は、それぞれの国の歴史、社会、文化、それらを無視して日本の制度を押し付けたことだった。あなた方は占領国を代表して日本の教育制度の改革に来られたが、日本が犯したのと同じ罪を、決して犯さないでほしい」とすると調査団の団長は大いに感激して、壇上にかけてあげて安倍先生に握手を求め、全員が割れるような拍手をしたのです。この様子は当時の新聞記事にもなり、大きな話題になりました。そしてじつは、この調査団長はリベラルな教育を唱導した哲学者ジョン・デューイのお弟子さんでした。デューイについては後で話しますが、安倍先生が強調されたのは、リベラルな教育は人類に共通であって一つの国に特有のものではない、ということでした。もともとリベラルという言葉にはそういう意味が含まれていて、教育も、医療も、人間社会にとってかけがえのない大事なものであるから、それをリベラルな基準にしたがって大切に守って次の世代へ伝えていく。その際には、教育なら教育者の、医療なら医療に生涯を捧げる医療者たちの専門的な規範と判断によって、子どもたちへ残していこうということです。(P84-P88)

#### 社会的自由ということ (P88)

阿部先生の片腕として、大へんな苦勞を背負うことになったのが木村健康先生でした。木村先生は河合栄次郎の門下で、河合が軍を批判したとして起訴され休職に追い込まれたときは、河合に殉じて東大助手を辞し、特別弁護人として法廷にも立ちました。その後一高の教授となり、…… 木村先生の専門はイギリスの経済思想史で、中でもジョン・スチュアート・ミルを専門とされていました。一高時代の英語のテキストがミルの『On Liberty』でしたが、その冒頭には「ここに言うリバティはフリーダム、つまり無制限の自由ではない。他の人々の自由を侵さない限りにおいて、自由はある」と書かれていました。つまり、人間にとっての自由とは、社会的自由なのということ強調されていたのが、今でもはっきりと記憶に残っています。リベラルとは何か、ということは若い頃から長く私の心にかかってきました。日本語ではリベラルもフリーダムも同じ「自由」と訳されます。前にふれたデヴィッド・ハーヴェイの本のタイトル「Neoliberalism」も「新自由主義」になりますが、「自由主義」を英語にすると、どちらかというとLibertarianismと言うのでしょうか、自由を最高至上のものとする考え方になります。本来リベラリズムとは、人間が人間らしく生き、魂の自立を守り、市民的な権利を十分に享受できるような世界をもとめて学問的営為なり、社会的、政治的な運動に携わるということの意味です。そのときいちばん大事なのが人間の心なのです。(P88-P90)

#### 福沢諭吉先生の信条 (P90)

日本人でリベラルアーツを代表する存在といえば、福沢諭吉だろうと私は思います。緒方洪庵が開いた適塾に学んだ諭吉は、もともと医者になるつもりはありませんでした。……。そのあと東京へ出て、今の慶応大学の前身となる学校をつくるのですが、彼の教育についての考え方は常に一貫していて、人間は生まれながらにして各々が素晴らしい能力をもっているのだから、それを自由に育てるのが教育で、決して競争や試験をすべきではないといえます。…… 「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」という人間に対する考え方、はじめての異郷の地でもまったくゆるがない信念を思うにつけても、私は、人間性の社会的本質を明らかにしようとしたアダム・スミスの『道徳感情論』を思い起こし、そこに経済学の原点をみる思いがします。『道徳感情論』をもとにして書かれた『国富論』のなかで、アダム・スミスは論理的整合性のみを基準として設計された経済制度は、必然的に、多様で個性的な人間のもつ基本的性向と矛盾することを、繰り返して強調していました。(P90-P93)

#### ジョン・デューイの教育哲学 (P93)

ジョン・デューイは、十九世紀後半から二十世紀にかけてアメリカで活躍した最も優れた哲学者であり、教育者です。接点こそありませんが、私にいわせれば、デューイは福沢諭吉の考え方を体系的に展開した哲学者ということになります。デューイは有名な著書『Democracy and Education』(民主主義と教育)で、「教育の三大原則」をまとめていますが、それは次のようなものです。第一は、社会的な統合です。子どもたちはそれぞれの家庭、村、宗教など生まれた環境を背景にした狭い世界のなかで育ってきて、学校へ行くようになってはじめて、あらゆるバックグラウンドが違う子どもたちと一緒にいる。つまり学校教育は、子どもたちが学校の教室という場で、他の子どもたちと一緒に学び、遊ぶことで一人前の人間に成長するのを助ける。アメリカは、特に十九世紀は典型的な移民社会でしたから、そのなかで、人間として共通の理念や生きざまを学ぶのが教育だということです。第二は、平等に関わる原則で、どんな僻地に生まれても、どれほど貧しい家庭に育ったとしても、その時々社会が提供できる最高の教育を、すべての子どもたちが受けられるようにすることです。第三は、一人ひとりの子どもの知的、精神的、道徳的な側面の発達を助けるということです。子どもたちはみなinnate(生来的)に、あるいは後天的に独特の能力と性向をもっています。絵を描くのが上手な子、歌のうまい子もいれば足の早い子もいて、あるいは物真似の得意な子もいる。それらの良い面をできるだけ生かしながら、同時に社会的な存在としてバランスのとれた人間に育てます。デューイが掲げた三大原則は、二十世紀前半のアメリカだけではなく、世界の学校教育において一つの理想とされました。しかしよく読むと、福沢諭吉が日記に書いたり、自ら行動で示していたこととほとんど重なっていて、そういう意味で、諭吉はリベラル教育の先導者だったといえます。それをデューイが受け継いだと考えれば、福沢諭吉は十九世紀後半において最も優れた思想家であり、教育学者でもあったわけです。デューイの理念はアメリカ教育界の大きな流れとなり、彼自身、コロンビア大学の教育学部を全米における教育のメッカにしました。先にふれたように、終戦後に日本に派遣された教育調査団のほとんどがデューイの影響を強く受けた人たちで、その理念は戦後日本の学校教育改革に貫かれているように思います。しかし、よかったのは教育基本法がつくられるまでで、そのあと文部官僚たちはデューイの理念、あるいは諭吉の思想をないがしろにするような制度の改革を次から次に重ねてしまった。そのことを私は非常に残念に思います。…… 試験で高い点数をとって有名大学に入り、一流企業に就職できたらもうそれで満足、ただそれだけで教育を考えている。そうではなくて、一人ひとりの子どもが人間として立派に成長し、社会的に活躍することができ、同時に豊かな感性と広い知識を持つようになること、いわばバランスのとれた人間にすることが教育の大切な役割なのです。…… (P93-P95)

…… それからずっと後になって、わたしの故郷である鳥取県の西尾邑次知事(当時)が、私の「公園都市」構想に共鳴してくださいました。もともと公園というのは、十八世紀ドイツの文豪ゲーテがワイマール公園の宰相だったときに唱えたのが最初といわれます。当時、立派な庭園とその緑は領主や貴族が所有していて、一般の人たちは使えなかった。ゲーテはそれを所有者が誰であるかを問わずに、共通財産として一般の人びとが享受できるような場所にしたわけです。一つの社会的共通資本として公園を位置づける考え方は、学問や芸術、広い意味での教育とつながると思います。…… (P100) (※ …… <公園都市> …… 日本では公園という庭園だけですが、ヨーロッパの公園には博物館や美術館、劇場などさまざまなものがあります。(宇沢弘文:週刊医学界新聞[対談]—Meet the expert—「社会的共通資本」から医療とリハビリテーションを語る 宇沢弘文氏—木村彰男氏(医学界新聞編集室で約3分の2に再構成)『総合リハビリテーション』誌(医学書院刊)Vol. 28, No. 3(全文))

## 四 大学と都市の理想と現実

(P102)

## ジェイコブスの四大原則

(P102)

ヨーロッパでもアメリカでも、理想的な大学は原則として全寮制で、教師も原則としてキャンパスの中か近くに住んでいます。つまり、生活をともにして一つのコミュニティをつくっている。しかし、わが日本の大学はというと、人里離れた広大なキャンパスに、味気ない建物が並んでいます。それを見ていると、現代日本の貧しい教育観のもとでは理想的な大学など到底実現できないだろうと思い、悲しくなります。…… ルーヴァン・ラ・ヌーヴ建設計画の全体から細かいところまで関与した建築家ピエール・ラコンテは、アメリカの都市研究家ジェーン・ジェイコブスの思想に傾倒していました。ジェイコブスの思想について、要約して紹介します。二十世紀初頭、アメリカには数多くの魅力的な都市がありました。それらの都市では幅が狭くて曲がりくねった街路が隅々にまで行きわたり、人口密度が高く、大勢の人々が絶えず行きかっていた。主な交通手段は路面電車でこれまた街の隅々にまで敷かれ、人間的な営みを可能にしていたのです。しかし、一九五〇年代の終わりごろには、こうした大都市の大部分は「死んで」しまいます。ジェイコブスは、アメリカの多くの都市が「死んで」しまった背景には、ル・コルビュジエの「輝ける都市」を理念とする近代的都市像があると考えました。コルビュジエのいう近代都市とは「自動車に乗って、豪壮な高層ビルのあいだを縫うようにつくられた高速道路を走りぬけ、街の中心には行政機能を果たす建物が左右にならぶ」といったもので、その通り都市の再開発がおこなわれてきたことが最大の原因だと考えました。ジェイコブスは自分の足でアメリカ中を歩きまわり、住みやすく人間的な魅力をそなえた街並みがまだ残っていることを発見し、それらの街並みに共通する特徴を探し出して「ジェイコブスの四大原則」としてまとめました。第一の原則は、都市の街路は狭く、折れ曲がっていて、各ブロックが短いことです。幅が広く、まっすぐな街路を決してつくってははいけません。街を改造したり、新しい街を作ったりするときは広い直線道路はつくらず、ブロックを小さくします。第二の原則は、都市の各地区には、古い建物ができるだけ多く残っているのが望ましいということです。街を構成する建物が古く、つくり方もさまざまな種類のもものがたくさん混じっているほうが、住みやすい街だということです。テレビなどで見たことがあるでしょうが、アメリカでは一ブロックまるごとダイナマイトで爆破してしまうので、古い建物は跡形もなくなります。ジェイコブスは「飲み屋でもレストランでも、新しくすると味が落ち、値段も高くなる」「新しいアイデアは古い建物から生まれるが、新しい建物からは新しいアイデアは決して生まれえない」という有名な言葉を残しています。第三の原則は、都市の多様性についてで、都市の各地区は必ず二つかそれ以上の働きをするようになっていなければならない、というものです。住宅地、文教地区、公園、工場、という具合に機能によって整然と区分けしてしまうのではなく、あくまで自然発生的であるべきだと主張しました。ジェイコブスは、当時のアメリカの新しい都市開発は自動車の使用を大前提としてゾーニングを貫徹してしまうので、とても人間が住めるような街ではなくなってしまふ、治安も悪くなると真っ向から反対しました。第四の原則は、都市の各地区の人口密度が高いということは、住居をはじめとして実際に住んでみて魅力的な街だということであらわすからです。これらジェイコブスの四大原則が、高層ビルの群立や幅の広い道路といった近代都市を否定し、人間的な魅力をそなえた、住みやすく文化的香りが高い都市をつくるために有効な考え方であることは、一九六一年に名著『アメリカの大都市の死と生』(The Death and Life of Great American Cities)が刊行されてから半世紀のあいだに、はっきり示されてきたと私は思います。しかし、日本ではダメでした。ルーヴァン・ラ・ヌーヴの理念とは正反対の、ジェイコブスが批判したアメリカ流の醜悪な街づくりをどんどん進めてしまいました。それを象徴するのが筑波ニュータウンで、かつて私自身も建設省の筑波ニュータウンのレビュー委員会に入っていました。筑波ではまっすぐな広い道路、しかも自動車での移動を基本として設計してしまつた。それに大学のつくり方自体ひどいもので、…… だいいち、飲み屋が計画されていなかった。…… (P102-P107)

## ヴェブレンの『大学論』

(P108)

…… ヴェブレンはアメリカが生んだ傑出した経済学者の一人で、深遠な思想家、そして鋭い文明批評家でした。私自身、早くからヴェブレンの経済学に傾倒し、彼の制度主義の概念をよりどころにしながら、社会的共通資本について考えを深めてきました。つまりそれは、ヴェブレンの経済学を私なりの言葉で表現したものに他ならないのです。ジョン・デューイがシカゴ大学哲学科に主任教授として迎えられたのと同じ頃、ヴェブレンは経済学部で講師をしていて、そこででの経験にもとづいて大学論を書いています。大学論は主として一九一六年に刊行された『アメリカにおける高等教育』(The Higher Learning in America)のなかで述べられていて、その副題は「もしビジネスマンが大学を経営したらどうなるか」というものでした。つまり、経営的観点を中心にして大学を運営するとひどいことになる、という皮肉をこめてヴェブレンは近代文明社会における大学の機能を二つの側面から考えました。一つは「Idle Curiosity(自由な好奇心)」で、人間に本来備わっている好奇心を探究していくことが大学の目的であって、決してお金を儲けたり、世間的に出世して偉くなったりするためにあるのではない、ということです。そしてもう一つは「Instinct of Workmanship(職人気質、生産者としての本能)」で、もともと人間はものづくりに対する本能的な熱意をもっていて、ものをつくるときに強制されたり、それによって儲けようと考えたりはしない。学問も研究も一種のものづくりですから、この二つの本能的傾向を深め、知識を蓄積していくことが大学の基本的な役割だということです。小・中学校では自由な生き方や能力を育て、社会的な存在として立派な一生を送れるような基礎をつくらうと唱えたデューイも、高等教育の本質を論じたヴェブレンも、後にロックフェラーによって大学を追われました。しかし、二人はそれから三十年ほどたってニューヨークで「ニュー・スクール・フォー・ソシアル・リサーチ」(The New School for Social Research)という社会科学を中心とする四年生大学をつくりました。…… 一九八〇年代に入って間もない頃のことでした。当時私は東大経済学部長をしていて、あるとき坊隆総長に、フランスから来日するパリ大学のシステム責任者と会うので同席してほしい、と頼まれました。パリ大学といえば、一三のフランスのエリート校を集めたもので、その責任者は大臣よりも偉いといわれていました。するとその責任者は開口一番、このようなことを言ったのです。「東大は偉い。あれだけの紛争があつたにもかかわらず、何一つとして改革していない。それに比べてパリ大学システムは、次から次に改革、改革というので、すっかりダメになってしまいました」フランスの官僚は日本と比べものにならないほど強烈

で、改革はアカデミックな視点ではなく政治的な動機と意図にもとづくもので、大学の基本的な理念に反している—それを聞いた向坊校長も私も、我が意を得たりという心境でしたが、それから間もなく東大も改革の波に巻き込まれ、かつてのようなアカデミックな威信も、リベラルな雰囲気もすっかり影をひそめてしまいました。とりわけ無念だったのは、アメリカにはじまる市場原理主義の流れが押し寄せてからの変わりようです。学生たちは人間が本来持つべき理性、知性、そして感性まで失い、人生最大の目的はひたすら儲けることだという、まさに餓鬼道に墜ちてしまったのです。その頃から、工学部の学生たちが競って金融機関に就職を希望しはじめたのを見て、向坊さんは心底嘆いてこういわれました。「工学はもともと、すべての人々が豊かな文化的香りの高い生活を営むことができるように、自然も社会も安定的に持続的に維持できるような社会的インフラストラクチャーをつくるのが目的ではないか。その工学を勉強した学生たちが、ただひたすら金儲けを求めて自分の人生を送ろうとすることほど悲しいことはない……」しかし、経済学部の同僚の教授は私にこういったのです。「私のゼミの学生はその多くが大銀行に就職する。それは大銀行に入れば定年になってからも二次的な就職が可能で、生涯所得を最大にすることができるからだ。経済学の基本をちゃんと理解している彼らは、じつに賢明だ」歴史的スケールの金融恐慌を引き起こした直接要因となったサブプライムローン、それを徹底的に悪用した金融工学、その大きな責任は大学教育にもあるのです。…… (P109-P113)

大学の作られ方 ……

「種馬」と「敵」 (P115)

福沢諭吉やデューイの「競争をしてはいけない」という理念は素晴らしいものです。子どもは一人ひとり皆ちがうのだから、子どもたちが自由に自分の能力を育て、立派な人間として育つように教育しなければなりません。それを画一的な試験で比較したり、点を付けたりするのは、社会的共通資本としての学校教育の理念から大きく逸脱しています。そんな乱暴なことをするから「落ちこぼれ」が出たり「いじめ」が起きるのだし、だいたい点数で比較することに、いったいどんな意味があるのでしょうか。…… (P115-P116)

五 数学という永遠の命 (P121)

末綱恕一先生のこと (P121)

古代ギリシャの哲学者ピタゴラスは、南イタリアのクロトンで全寮制の学校のようなものをつくり、数学によって宇宙の神秘をあきらかにしようとしました。彼らが考え出した正十二面体はその象徴的な存在で、それを「十二の五角形を持つ球」として最も聖なる形としました。しかし彼らは、今でいうところのカルト集団みたいな扱いを受けて糾弾され、ついに、ピタゴラスは殺されてしまいます。それでもピタゴラスの定理は真理として現代に受け継がれている。永遠に生命をもつ真理の継承、これこそ社会的共通資本のエッセンスだと思います。…… 私は東大数学科で弥永昌吉先生について代数的整数論を勉強するかたわら、末綱恕一先生に数学基礎論を学んでいました。末綱先生は西田幾多郎の哲学に心酔していて、もともとお寺育ちということもあって、インド哲学とサンスクリットにも精通しており、数学に西田哲学を応用できないかということまで考えるような方でした。しかし、微分積分にサンスクリットまで登場するので、私などはちんぷんかんぷんで往生したものです。それでも今もよく覚えているのは「無量」という言葉です。無量、すなわち数には限界がない、ということをも末綱先生はしばしば口にされました。……、あれから六十年以上たった今でも、数は無量、人間はいつも謙虚な心で問題にあたるべきだ、そうした先生の教えは心に残っています。(P121-P123)

『好きになる数学入門』への思い (P123)

数学が対象としているのは、数、空間、時間という自然の要素のあいだに存在する神秘的な法則を明らかにすることです。この自然の法則は決して人間の手によって変えたり、細工したりすることはできません。数学を学ぶというのは、厳然として存在する自然の法則を理解し、学ぶことにほかならず、すぐれた数学者がみな謙虚な人柄で謙讓の心を忘れないのは、こうした数学の本質に関わるところが大きいように思います。…… (P123-P124)

六 天与の自然、人為の経済 (P132)

水俣病の記憶 (P132)

経済学がはじまって以来、自然環境を扱うことはタブーとされてきました。もともと自然環境は天から与えられたもので、人間がつくったものではありません。人間は森から木を伐り出し、海や川から魚介を獲り、それによって経済的な生活を営むことができますが、森、川、海など自然の価値は、そこからどれだけ経済的メリットを受けることができるか、という一つの要素に過ぎなかったのです。一九七〇年、十数年ぶりに日本に帰ってきて間もない私は、はじめて水俣の地を訪れました。熊本大学の若い医学者原田正純さんに連れられて胎児性水俣病の患者に接し、その母親の悲しみをみたときの衝撃は、今も忘れることができません。私が知らずにいた高度経済成長の陰の部分の直視させられた経験は、それまでの経済学に対する私の考え方を根本からくつがえし、人生観まで変えたと言っても過言ではないでしょう。…… チッソは長いあいだ、営業の名のもとに水俣湾を自由気ままに汚染する犯罪行為をおこなったのです。水俣の公害問題は、自然環境というのは所有権がはっきりしていないのだから、企業がどれだけ利用しても、どれだけ汚染してもかまわない、という考え方が引きおこしたものです。しかし、水俣湾という自然は、決して自由財あるいは公共財ではありません。有史以来、地元の人々にとって共通の財産として大切にみつかわれ、海を汚すことはきびしく禁止されていた。そこで魚を獲って生計を立てる人たちは、海を神聖なものとして尊崇してきたのです。つまり、社会的共通資本としての水俣湾をチッソは勝手に使い、徹底的に汚染し、破壊しつくした。それによって数多くの人々が脳神経の中樞を冒され、言語に絶する苦しみを味わってきました。「水俣病患者をみると、これが犯罪でないのならば、ほかに犯罪がありうるものかという感想をなんびとも抱くであろう」これは、惜しまれながらも若くして世を去った刑法学者の藤木英雄氏が、名著『公害犯罪』(東京大学出版会、一九七五年)のなかで残した言葉です。水俣病をはじめとして全国の公害問題にかかわるなかで、私はそれまで専門としてきた近代経済学の理論的枠組みの矛盾、倫理的欠陥をつよく感じざるを得ませんでした。そして数多くの公害の人間の被害の実態を分析していく過程で、その原因を解明し、根源的解決の道をさぐるような理論的枠組みとして到達したのが、社会的共通資本という考え方だったのです。所有関係には私有のものもあれば、公有もあり、国有もあります。それはマルクス経済学にも近代経済学にも共通していますし、私自身、かつては経済学者の通例として、すべて所有関係でものを考えてきました。しかし、それだけでは森林や海のような自然環境をうまく、持続的に管理していくのは不可能です。日本でも、明治の

近代化の過程で急速に壊されてしまった入会制度のように、皆で相談して大切に使い、次の世代に伝えていく、つまりモモンズの精神を取りもどす必要があると思うのです。(P132-P135)

「環境」と「経済」の関係 エネルギー消費大国の横暴 排出権取引の反倫理性

近代文明から自然の摂理へ (P147)

自然環境は、社会的共通資本として最も重要です。人間はもちろん、あらゆる生物は自然環境のなかで生きていくものだからです。京都会議が計画されているころ、私の先生でもあるケネス・アローが中心となって、地球温暖化や生物多様性の保全など、リオ・デ・ジャネイロ会議で提起された問題について、経済学的視点からだけでなく社会的、倫理的な視点から考えようとする大きな研究グループをつくりました。一九九四年にケニアのナイロビで開かれたIPCCの「気象変化に関する倫理的、社会的考察」のコンファレンスで発表された、カナダの環境に関する研究所の指導的研究者であったハイデンリッヒが、基調講演で次のような話をしました。「地球温暖化や生物多様性の保全といった地球規模の問題は、もとをただせば近代文明の考え方に沿って人間の活動がおこなわれてきたためだ。自然の摂理にしたがって生きるのではなく、自然をできるだけ人間の都合のいいように使い、そこからできるだけ大きな利益を得るといふ、近代科学の原点ともいべきデカルトやベーコンの考え方にそもそもの原因がある」ハイデンリッヒは、シアトルに暮らす先住民族の族長の「白人は夜やってきて土地を盗み、それを売って儲ける。儲かるものなら自分の母親さえも売ってしまう」などの言葉を引きながら、「われわれは、アメリカの先住民族であるインディアンの方や知恵を学ぶべきだ。自然の摂理にしたがい、自然と共存して暮らすことが大事だ」と述べました。それを聞いた議長のアローは、すでに私たち経済学者の出る幕ではない、とため息をついたものです。京都会議では、こうした知恵も比例的炭素税も無視され、有効性のない政治的スローガンとしての数値目標、排出権取引という非倫理的な制度が中心テーマとなりました。しかしそれ以降、地球温暖化、生物多様性という問題はいつそう深刻になるばかりで、自然を大切に、自然とともに生きるという考え方を、政策的、制度的にうまく取り入れることが必要だという考え方が、世界的な流れとなりつつある。そうした大きな流れがアメリカではオバマ政権、日本では政権交代につながったともいえるでしょう。しかし、……もともと私たちが暮らす日本は、海の生物の多様性においては世界で最も高い国で、非常に豊かな水産資源に恵まれています。しかし、日本列島の海の生物多様性は二十世紀を通じて、とりわけ第二次大戦後の六十年余りで劇的に損なわれつつあります。生態学者の加藤真は『日本の渚失われゆく海辺の自然』(岩波新書)のなかで、かつての生命にあふれた干潟や海浜などがコンクリートや護岸に姿を変え、決定的に壊されてきたその構造を明らかにしています。戦後長きにわたって、自民党支配による問題ある政策が採られてきた結果だとは思いますが、地球温暖化や生物多様性の保全などの世界的な問題については、日本としても、世界の多くの国から支持される理性的な政策を打ち出すべきだと思います。この点においても、比例的炭素税の考え方は新興国、途上国すべてに適用できます。中国とロシアが参加しない限り、地球全体の問題について効果ある解決策を見出すことは難しいのですから、そうした立場からリーゾナブルな主張を展開していくべきではないでしょうか。(P147-P152)

生物多様性 (P152)

地球の大気安定性と、生物多様性の保全とは非常に深くかかわっています。なぜなら生物多様性の原点とは、地球の大気の循環が、生物が快適に多様な生き方をするように、摂氏十五度という温度に保たれていることだからです。これこそ神の摂理というべきものであり、地球ほどバランスのよい組成を持った大気は、おそらく宇宙に存在しないといわれます。生物多様性という言葉に象徴される、美しく豊かな自然。そのなかで人間が自然と調和して暮らしていくというバランスが、戦後、特に京都会議を契機として、大きく崩されてきていると感じます。二十世紀に入って、地球温暖化、生物の多様性喪失という、おそらくはこれまで人類が直面したなかでもっとも深刻な課題が、ダモクレスの剣のように私たちの頭上に迫ってきている。十八世紀後半の産業革命をきっかけとして展開されてきた、近代科学を基礎とする技術への盲目的な信頼、それと新古典派経済学にもとづく社会的、経済的条件を是とするような非人間的な生き方、倫理的偏向がその原因です。ブラジルの優れた研究者ユージニオ・ダ・コスタ・エ・シルヴァの論文『生物種の多様性と知的所有権』には、次のようなことが書かれています。アメリカの製薬会社が開発する新薬の七五パーセントは、次のようなプロセスで作りだされている。製薬会社が数多くの専門家を、アマゾン熱帯雨林で暮らす少数民族の集落へ送る。彼らは集落の長老あるいはメディシンマンを訪ねて、伝承的に受け継がれてきた医療技術を聞く。長老やメディシンマンのなかには一人で五千種類にもおよぶ治療法を知っている人もいて、彼らにアマゾンに生息する動植物や微生物、土壌や鉱物について、どのような症状や疾病、障害にどう使えばいいかを尋ねる。専門家はこれらのサンプルを本国へ持ち帰り、ラボラトリーで化学分析をして、人工的に合成して新薬として売り出す。近年、アメリカの製薬会社の多くが莫大な利益を上げているが、そのかなりの部分が、このような形で行われる新薬開発によってもたらされている。そこでブラジル政府は、アメリカの製薬会社がアマゾンの長老たちに特許料を支払う制度をつくったが、長老たちはこぞってその受け取りを拒否するという。その理由は、自分たちのもっている知識が人類の幸福のために使われることぐらいうれしいことはなく、その喜びをお金に代えるようなさみしいことはしたくない、というものであった。あくどく利潤を追求してやまない市場原理主義的な企業のあり方と、アマゾンの長老たちのすがすがしい人間的な生き方との鮮明な対照こそ、現代文明の病理現象である地球環境問題を生み出したものです。地球温暖化と同じように生物多様性をめぐっても、国際間で様々な利害対立があるのが現実ですが、二十一世紀においてこの問題の根源的な解決につながる、暗夜の星のようなエピソードではないでしょうか。アフリカのある種族のあいだでは「自然」「文化」「宗教」が同じ言葉だといいます。自然の恩恵は、アマゾンやアフリカのような自然に生きる人びと、農の営みにたずさわる人びとにとって大切なもので、それを売って儲けるなどということは考えられないのです。森を守ることは神聖なことであり、自然環境は人間の生存に不可欠なばかりでなく、人びとの経済的、文化的、社会的活動のために重要な機能を果たしています。自然とともに生きる人、農の営みにたずさわる人はそのことをよく知っているのです。(P152-P155)

七 人類と農の営み (P156)

戦後農政の矛盾 (P156)

農の営みは、人類の歴史上、過去も将来においても基幹的な地位を占めつづけることはまちがいないありません。およそ一万年、人類がはじめた農の営みは、小麦にはじまり、稲を栽培し、農耕による食料の生産によって人口の増加を支えてきました。農の営みは、経済的、産業的範疇のなかでとらえる農業をはるかに超えて、すぐれて人間的、社会的、自然的な意味をもっています。つまり、人間が生きてゆくために不可欠な食料を生産し、衣と住についてその基礎的な原材料を供給し、さらに、山、森林、川、湖沼、海、土壌のなかに生存する多様な生物種を守りつづけてきたのです。そして農の営みは、自然環境をはじめとする多様な社会的共通資本を持続的に維持しな

から、人類が生存するためにもっとも大切な食料を生産し、農村という社会的な場を中心として、自然と人間との調和的な関わり方を可能にすることで、文化の基礎をつくり出してきました。こうした意味で、農村自体も一つの重要な社会的共通資本であることはいうまでもありません。どの国をみても、人口のある一定の割合が農村で生活していることが、社会的安定性を維持するために不可欠になっています。社会的安定性を保つために必要な農村人口の割合は、国によって、また、経済的な諸条件の変化によっても変わりますが、さしあたって日本の場合は、二〇～二五パーセント程度が望ましい農村人口の比率といっていいいでしょう。そしてこの人々は社会的、心理的な強制によるのではなく、農村に定住して農の営みに従事することが、自らの生き方としてもっとも望ましいものとして自ら選択する、ということの意味をしています。しかし、今の日本農業は存続自体が危ぶまれるということでは、一九三〇年代の大恐慌以来、あるいはその形成以来、最大の危機を迎えています。それほどの危地をもたらした要因のひとつは一九六一年に制定された農業基本法であり、市場的な効率性、つまり工業部門と同じような考え方を農業にあてはめてきた政策の失敗にあります。第二次大戦後、アメリカは、日本を意のままに動く国になるよう仕向けてきました。その占領政策の基本は二つあって、一つは、戦争中に利害を超えて軍隊に協力したアメリカの自動車産業に日本の巨大なマーケットを捧げることでした。はじめのうちこそ、日本が自動車をつくれないうように重化学工業をもつことを禁じられていましたが、朝鮮戦争による軍需で解禁され、積極的に推し進めたことが高度経済成長をもたらしました。それともう一つが、余剰農産物に苦しむアメリカ農業と日本の農業がコンフリクト(競合)しないようにすることで、農業基本法によって選択的農業という流れを全面的に法制化していったのです。かつて日本人の体格が貧弱なのはパンではなく米を食べるからだとか、俗説がたくさん流布されたものですが、それも余った農産物を日本に入れようというのが目的でした。それと並行して、農村の子どもたちを中学卒業と同時に「金の卵」と称して大量に都会へと連れ出し、工場などで朝から晩まで働かせるような政策が、広範囲で何年間にもわたってつづけられました。そのため農業基本法が制定されてから三十年ほどのあいだに、農業を選ぶ新卒者が九万人から千八百人にまで減ってしまいました。このような極端な政策をこれほど大規模におこなった国は、おそらく日本をおいて他にありません。社会的共通資本としての農業というとき、子どもたちが生まれ育った農村で立派に成長し、農の営みを続けていくことが原点になります。その農村の大事な宝物である子どもたちをいっせいに都会に連れ出し、農村をダメにしてしまったことは、とても大きな傷跡として今に残っているのです。農業基本法制定にあたって審議会の会長をつとめた東畑精一先生が、後年、「自分が中心になってつくった農業基本法が、日本の農村と農家を徹底的に破壊してしまっただけで、それを見通せなかった自分は今後、農政について語る資格はない」と仰っていたことは、今も私の心に重く残っています。一九七四年に私が『自動車の社会的費用』を書いたきっかけは、一九五六年に世界銀行から日本の道路調査に派遣されたワトキンス調査団の研究助手をつとめたことでした。調査団には、若い頃、明治維新における日本の侍たちをテーマに論文を書いた経済学者エヴァレット・ヘーゲンMIT教授もふくまれていました。私は、日本を破壊するようなプランには協力できないと一度は断ったのですが、何せまだ占領同然でしたから、結局、助手として三ヶ月ぐらい調査を手伝うことになったのです。アメリカの目的の一つは、朝鮮戦争のような事態に対応するために日本の機動性を高めようということ、その一つが名神高速道路、日本でもっとも最初に出来た有料高速道路でした。私はヘーゲンを説得して、建設予定地での聞き取り調査を何度もおこないました。そこに出てくるのは、足元がおぼつかないような高齢のお百姓さんだったりするのですが、日本語の通じない相手に緊張しながら、それでも必死になって中止を訴えるわけです。それを建設省(現在の国土交通省)の担当者が高圧的に抑えこんでは、卑屈なばかりに調査団に気をつかい、いくら住民が田んぼや農村がだめになると言って訴えても、彼らは聞く耳をもたなかったのです。私は腹が立ってしかたがなく、自分で報告書を書いて提出しましたが、まったく無視されました。ワトキンス報告書は最初から結論ありきのようで、日本の道路事情は悪すぎるから、日本のために全国どこでも自動車が通れるようにすべきだ、という自動車信仰一辺倒の内容で、それをきっかけとして以後次々に高速道路網がつくられていきました。しかし、高速道路は日本の古い街並み、田んぼや畑が広がる農村を壊し、その周辺は次第に町や農地として機能なくなっていく。今の農村は道路だけは真っ直ぐで立派でも、商店ひとつないゴーストタウンみたいな地域ばかりです。そして自動車を中心としたライフスタイルは、痛ましい交通事故だけでなく、排ガスによる様々な公害、犯罪の増加とその凶悪化までもたらしました。臨海工業地帯に象徴される日本の高度経済成長は、経済的に豊かになる過程で陸と海の自然環境を破壊し、農村という大切な社会的共通資本に深いダメージを与えました。成長を続けるために生産性を高め、農村の生活を犠牲にしてきたことが、国としてのバランスをはなはだ欠く状況をもたらしたことが残念でなりません。世界全体で見ても、二十世紀はじめまで世界の人口の約九〇パーセント近くが農村に暮らしていました。それが現在は約八〇パーセントが都市で生活しているといわれています。かつてこれほど早いペースで都市化と工業化が進み、農村と農業が占める位置が相対的に低下しつづけた世紀はありませんでした。その象徴的な例である日本では大きなバブルが崩壊し、リーマン・ショックがあり、経済は非常にきびしい状態におちいっています。私はそのいちばんの原因は、社会的共通資本として大切に守り、子どもたちの世代に残さなければいけない農村を粗末にしてきたことにつきると思います。日本人はあらゆる生活の営みにおいて農村をベースとして、そこに伝わる教えと生きざまを心に残してきた。それを時代遅れだとか、封建的だという見方でこわしてしまっただけです。それにとって代わったのが、アメリカ発の市場原理主義的な考え方で、地球温暖化対策にもそれがはっきりと現われています。しかし、地球温暖化問題を考える上でも、中心となるのは農業なのです。もともと農業は太陽エネルギーと二酸化炭素という無限に存在する資源を使って、人類が生きていくのに必要な食料をつくってきました。植物を農作物として栽培し、動物を家畜として育成して食料を生産する作業を中心として、自然と共生しながら、もっとも効率的な結果を得ようとするものです。農業は二酸化炭素の排出を抑え、自然を大きく改変することなく営むことができるという点で、工業部門とは決定的にちがうのです。工業労働者とちがって、農民一人ひとりが主体的に生産にかかわることができます。そして重要なのは、農業は、日本や東アジアでは協同的な営みとして歴史的につづけられてきたということです。これまでの経済学では中心的な概念にはなりませんでした。私が一九九〇年のローマ会議で強く主張した考え方は、大気という大事な社会的共通資本を守るために、「競争的」ではなく「協同的」に、皆が公正と思えるようなルールを採用して協力していこうということでした。大切なことは、それぞれの国がもっている歴史と文化を社会的共通資本として大事に守り、それを子や孫たちの世代に伝えることであり、そのために私たちが力を合わせて協力し、協同して解決していくことです。そこで中心になるのが農の営みであり、いかにして農村を活性化し、そこで生きる人たちの生きざまを人間的、社会的な視点から豊かで希望あるものに変えていくのか、その実現に向かって出発するための条件を求めるときは今をおいてないと思うのです。(P156-P163)

私と農村の思い出 .....

空海の満濃池 (P168)

もともと工学は英語でいうと civil engineering、日本では土木工学と理解されがちですが、じつはそれより広い意味を含んでいて、社会が一つの社会として機能し、そこに住むすべての人たちが人間らしい生活ができるための工学的なストラクチャーを指しています。耳慣れない言葉だと思いますが、一例として、農業にかかわる灌漑について考えてみます。かつての日本農業は生産性の高さでは世界的にすぐれ、少なくとも一九五〇年代から一九六〇年代はそれがあてはまっていました。それを支えてきたのは、長い年月をかけて全国でつくられてきた灌漑システムと、共同体によるすぐれた管理方法でした。日本の灌漑システムに大きな影響を与えた空海は、日本の歴史上最も偉大な civil engineer (工学者) の一人でした。九世紀はじめ、空海は遣唐使とともに留学僧として中国長安に渡りまし

た。…… それからしばらくして空海は、朝廷から別当職をもらって故郷の讃岐に帰り、有名な満濃池の大修復の総監督をすることになります。八世紀に造られた満濃池は、日本最大の灌漑用ため池でしたが、あまりに巨大だったので造ってすぐに壊れてしまい、使いものにならなかった。それが大修復工事を始めた空海のもとには、彼を慕うたくさんの人たちが集まり、わずか三ヶ月で大修復工事を仕上げました。これは日本古代の水利工学的な事業の中で、一番に特筆される事業として今も語り継がれています。空海は、満濃池を造るにあたって唐で学んだ工学的な知識をもとに、当時最新の技術を用いました。…… 空海が長安で学んだのは、スリランカの灌漑用ため池の技術でした。スリランカは紀元前三世紀から十世紀にかけて、社会的共通資本としての世界最高水準の水利文明を誇った国で、その中心となったのがため池です。古代スリランカの都アヌラダプラは古代世界で最も美しい都といわれ、大小無数のため池が非常にうまく計画されていて、スリランカに降った雨は一滴も無駄にしないで使うという理想で貫かれていました。田んぼや畑にとどまらず、家の庭までため池の水が回るようになっていて、もちろん農業生産性においては世界でいちばん優れた水準を誇っていたのです。しかし、十六世紀にはじまったポルトガルによる侵略、そして十八世紀にはイギリスの植民地政策によって急激に姿を変えていきます。イギリスは森林を切り払い、農地をつぶして茶やゴムのプランテーションに変えてしまった。軍隊によってため池や水利施設も破壊され、川は汚れ、マラリアを媒介する蚊が繁殖するなど、自然と調和した豊かな暮らしは、たちまち世界で最も悲惨なところに入り込んでしまいました。日本による戦前の植民地支配は、朝鮮は陸軍、台湾は海軍が中心になっていたので、ひどく強圧的だった朝鮮統治に比べると、台湾では海軍らしい国際的な視点が生かされていました。植民地支配といっても、まずは農業、つまり灌漑事業を調和的発展の基礎としてすえたことが、日本の統治に感謝する台湾の人たちが多い理由の一つなのです。…… 水の惑星、は地球の代名詞です。私たちの暮らす日本、スリランカやエジプトなどの例を見ていくと、いかに自然を大事にして、自然の恵みを十分に享受できるような制度を作らなければいけないか、社会的共通資本の原点について考えさせられます。(P168-P172)

#### 八 「シロウトの経済学」ゆえの仏心 (P173)

石橋湛山のヒューマニズム 経済は人間のために

富を求めるのは道を聞くため (P180)

…… 湛山の著作は、経済のメカニズムに対して冷静に分析しながら、常に失業者やしいたげられた人びとに対する温かい目があります。それらを読んでいると、私の社会的共通資本という概念は、湛山の心を私なりに一つの経済学のコンセプトに徹底してきたのではないかとさえ思うことがあります。私の深読みかもしれませんが、湛山が自分のことを「有髮の僧」と称する原点には、やはり仏の心がある。私自身はだいが墮落してしまいましたが、自分にもまだ仏の心が残ってればいいが、そう願っているのです。(P184-P185)

#### 本書の成り立ちについて (P186)

著者の宇沢弘文氏は、二〇一四年九月に他界されました。編集部では二〇〇九年、リーマン・ショック後の社会状況をふまえ、氏に『人間の経済』の刊行を依頼。翌年にかけて行ったインタビューや、近年の講演録等(巻末を参照)をもとに原稿をまとめました。内容・構成については了解され、刊行に向けて作業を進めていましたが、二〇一一年三月に体調を崩されたため、著者として細部にわたる校正作業は行われませんでした。本書には、この六年余の経済状況の変化については言及がありませんが、社会的共通資本という考え方とその役割は、現代社会において今なお重要であると考え、刊行することにしました。ご協力をいただいたご遺族をはじめ、関係者の皆様にあらためて御礼申し上げます。 「新潮新書」編集部 (P186)

## 2. 私達当会の仮定と提案と要望

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の個体にとって、「大切なもの」/事象は、当該の私達人類の個体に帰属するものでしか、在り得ない処、お金は、常に、誰のもの/事象でも、在り得る、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡は遺跡でしか、在り得ない処、私達人類の主観に委任すれば、私達人類の主観の望み得る、何にでも、変容し得る、と仮定します。

(神、又は、仏、の心、と、悪魔、又は、餓鬼、の心)

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の科学が、私達人類の世界に貢献し得る事象となり始めたのは、170年程以前からであり、私達私達人類の経済学が、私達人類の世界に貢献し得る事象となり始めたのは、90年程以前からである処、60年程以前には、経済学に、悪魔の心、又は、餓鬼、の心が、浸潤し始めた、私達人類の心、活動、展開、には、常に、神、又は、仏、の心、と、悪魔、又は、餓鬼、の心、の双方が、同時に、働き得る、私達人類は、その存在にあって、神、又は、仏、の心、と、悪魔、又は、餓鬼、の心、の、どちらを、選択し、行為するであろうか？ と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、事象に関して、私達人類の経済社会の市場に於ける私達人類の抽象的な価値観、並びに、之に基づいて行われる取り引き、に於いて、事象に包含される、私達人類にとっての多様である具体的な意味、並びに、多様な自然の事象、様々な関連性、が欠落する、その可能性がある、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の世界、私達人類の社会は、一度壊されてしまうと回復するのは困難である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、私達人類の個体が、その生ける一生のうちに引き受け習得し継承できなかった当該の私達人類の個体に關係する任意の事象は、私達人類の世界から、永久に、消滅し、私達人類の世界に、二度と再び、回復することはない、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡は、一度壊されてしまうと回復するのは不可能である、と仮定します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡は、全ての私達人類にとっての「社会的共通資本」である、と仮定します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、その土地の遺跡について、遺跡たる私達人類にとっての必然と、私達人類にとっての道義、倫理、専門的職業的な規範(discipline)、私達人類の社会のすべての人たちが幸福になれることへの願い、私達人類の文化、に従い、例えば、競争よりも協同に於いて、遺跡の分断と破壊を回避し、遺跡の、発見又は再発見、調査と実態の把握、遺跡としての、保存と活用、整備と公開、を行為すること、を提案し要望します。 〆



私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、当該の事象の「価値」について、之を、「あるものを他のものよりも上位に位置づける理由となる性質、人間の肉体的、精神的欲求を満たす性質、あるいは真・善・美・愛あるいは仁など人間社会の存続にとってプラスの普遍性をもつと考えられる概念の総称。殆どの場合、事物の持つ、目的の実現に役に立つ性質、もしくは重要な性質や程度を指す。何に価値があり、何には価値がない、とするひとりひとりのうちにある判断の体系を価値観という」、又、倫理において、「良いという性質」、又は、「悪いという性質(反価値、又は、無価値)」、であり、経済に於いて、当該の事象の代わりとなる事象の大きさ、又は、数量、又は、対価、その大きさ、又は、数量、である、と確信します。(参考資料:Wikipedia「価値」最終更新 2021年1月1日(金)13:58、その他)

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡の価値に関して、私達人類は、例えば、歴史上価値や学術上価値に由来して、之を重要と認識できる、又、遺跡を、倫理の対象と認識する習慣がない処、遺跡が良いか悪いかを想定することは出来ず、遺跡を、代わりとなる事象との対照に於いて相対的に把握する習慣がない処、代わりとなる事象の大きさ、又は、数量、を想定することは出来ず、遺跡の市場も遺跡の製造原価もないので、対価を想定することも出来ない、又、あるものを他のものよりも上位に位置づける、即ち、相対的な位置づけを想定することが出来ない、即ち、私達人類は、遺跡を、重要であることにより「価値」と認識することが出来る処、遺跡の「価値」の大きさを、把握し、又は、相対的な位置づけに於いて「価値」を認識することが出来ない、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、遺跡の私達人類にとっての意義や遺跡の私達人類にとっての意味、を想定することが出来る、と確信します。

(私達当会は、日本の法律である『文化財保護法』に於いて、「遺跡」に関して、「歴史上価値」並びに「学術上価値」を言及して明文する処、“遺跡の価値”について明文しない、と認識します。)

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、遺跡に、任意に、価値や意義や意味、を付けたり、取り外したり、してはならない、私達人類は、遺跡の価値の大きさを把握することが出来ず、あるものを他のものよりも上位に位置づける、即ち、相対的な位置づけに於ける価値を認識することが出来ない、私達人類にとっての遺跡の価値や意義や意味は、遺跡が、私達人類の過去の活動の痕跡であることにより、当該の遺跡に、既に、共時的通時的に、固有に備わる事象である処、私達人類が、私達人類の状況に応じて、又は、事後的に、操作し、任意に、恣意的に、意図的に、加減する事象であってはならないからである、私達人類は、私達人類にとっての遺跡の価値と意義と意味を、研究し、探求し、究明し、極大化し、有意に、認識し、私達人類たる存在に於いて、正の活用を行為することが出来る、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、遺跡としての、発見又は再発見と調査、実態の把握、保存と活用、整備と公開、遺跡としての空間の保全、を行為すること、を提案し要望します。 ✕

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、例えば、遺跡を考える者は、私達人類にとっての遺跡の価値や意義や意味を、限界まで追求して、極大化する努力を為さなければならない、遺跡を考える者が、私達人類にとっての遺跡の価値や意義や意味を、限定して捉えて、極小化するようなことが、あってはならない、と確信します。 ✕

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の、民主主義による民主制としての例えば構造について、次の、三点を、確信します。

① 地方自治体に於ける、共同体(※コミユン(commune(仏):基礎自治体:共通、共同、共有、多数、平凡、庶民:common(英):[歴史]フランスの県や地域圏とは異なりコミューンの歴史は古く、住民の宣誓共同体という形態では中世の11-12世紀の頃にさかのぼるものもある。ただし、現在の多くの自治体については、特にその管轄範囲の起源をめぐっては、カトリック教会の地方組織として整備された教区(パロワス paroisse)が基礎となっていることが多い。制度的には、フランス革命を経た後、教区の範囲が現在のコミューンの範囲とされ、19世紀には議会と首長の公選制が導入されている。 :Wikipedia「コミューン」最終更新 2020年9月30日(水) 11:16 より抜粋))、としての地方自治の実態、例えば、社会(ゲゼルシャフト:gesellschaft)に対する、共同体(ゲマインシャフト:gemeinschaft)の在り方。

② 市民の考え、懸案 ⇒ 学者の検証、実証、理論化、確実性の構築 ⇒ 行政による実施=市民全体への還元 ⇒ 市民と学者による検証、蓄積、改善、変革、の循環(サイクル)

③ ①、②を実行し得る、市民に於ける蓄積、学術に於けるリベラルアーツとしての働き、行政に於ける応用力

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、私達人類の集団に、①、②、③の民主主義による民主制としての例えば構造が成立し、且つ、私達人類の個体が遺跡を認識する、その実態に於いて、遺跡を、私達人類にとって、有意に、発見又は再発見し、調査し、実態を把握し、保存し、活用し、整備し、公開し、遺跡としての空間を保全、することが出来る、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の遺跡の調査と保存と活用について、遺跡としての、発見又は再発見と調査、実態の把握、保存と活用、整備と公開、遺跡としての空間の保全、に関して、私達人類の世界に於いて、①、②、③の民主主義による民主制としての例えば構造、を確立すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の芸術は、私達人類の手技ゆえの嗜好(テイスト:taste:味、味わい、趣味、好み)を包含する処、厳密には、私達人類にとっての、私達人類の個体又は集団の感覚認知認識上に於ける当該の事象に対する必然に規定されて成立する、私達人類の装飾たる行為、即ち、応用芸術、並びに、私達人類のプロパガンダ(propaganda)たる行為、は、私達人類の必然を必ずしも必要としない、時に、私達人類の嗜好(taste)の応用のみで、成立し得る、と確信します。

私達当会は、私達当会の為す、皆様への、提案と要望である『国際長崎遺跡公園都市構想』について、之が、私達人類の任意の事象の“利用”に由来する側面のある、私達人類にとっての価値や意義や意味、を私達人類の選択の基軸とする、と云うより、私達人類の任意の事象の“引き受け”に由来する側面のある、私達人類にとっての必然、を私達人類の選択の基軸として、構成したものである、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達当会が提案し要望する『国際長崎遺跡公園都市構想』としての内容、又は、結果が、私達人類の為す、価値や意義や意味、を選択の基軸として、構成した内容、又は、結果と、異なるならば、その差異に、私達人類の世界の、宇宙と太陽系のエネルギー系、並びに、地球の自然に於ける、私達人類にとっての必然を逸脱する、私達人類の世界の現代の課題が、表象されている、その可能性がある、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、その土地の遺跡の、遺跡としての、発見又は再発見と調査、実態の把握、保存と活用、整備と公開、遺跡としての空間の保全、を行為すること、を提案し要望します。

◇『国際長崎遺跡公園都市構想について』

2021年(令和3年)5月30日 日曜日

大文字の文化(カルチャー:Culture)から小文字の文化(カルチャー:culture、又は、cultures)へ、～“主体”～、私達人類の個体に於ける間や遊びや飾り、～“文明”～、主体としての大きな機械(原動機:エンジン:engine)から、介添えとしての小さな機械(原動機;エンジン:engine)へ

私達当会は、私達当会が、皆様に、提案し要望する『国際長崎遺跡公園都市構想』が、そんな、私達人類の、私達人類の世界の過去ー近代と現代ーから現在と未来へ向かう転換を、後押しすることができる、と確信します。

私達人類の個体の充実と幸福と私達人類の平和へ

脱近代、真のポスト-モダン (post-modern) へ

◇『私達人類にとっての現代の事象である遺跡』

2021年(令和3年)6月1日 火曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、私達人類にとって、遺跡たる事象が、共時的通時的に、常に、現代の事象である処、遺跡を鑑賞し経験する私達人類にとっての価値や意義や意味や必然は、第一義に、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体の固有に委ねられた価値や意義や意味や必然でなければならない、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、私達人類の一部の個体や集団が、当該の遺跡にあって、任意に、様々な事象を付加し、又は、任意に、様々な事象を削減し、依って、任意に、様々な遺跡を規定することがあってはならない、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類は、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体が、自由に、当該の遺跡を契機として、又は、当該の遺跡に由来する、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体に固有の、価値や意義や意味や必然を発見し、又は、獲得することを、補佐し得る可能性がある、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、私達人類が、遺跡を、遺跡としてあるがままの、又は、遺跡としての必然である、遺跡としての具象、並びに、当該の遺跡に関する、遺跡としての様々な有意性を包摂する可及的に広範な空間、を、私達人類に、提示し、且つ、遺跡以外の局面を運用し、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体が、自由に、当該の遺跡を契機として、又は、当該の遺跡に由来する、当該の遺跡を鑑賞し経験する私達人類の個体に固有の、価値や意義や意味や必然、を発見し、又は、獲得することを、補佐し得る可能性に挑戦すること、を提案し要望します。

◇『遺跡が本物であると言うこと』

2021年(令和3年)6月2日 水曜日

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、遺跡が、遺跡に附随する、本物であるという特性(共時的且つ通時的な真正性且つ特異性)の故に、私達人類は、当該の遺跡に於いて、信頼の念を生起し、感嘆を生起し、喜びを生起し、又、当該の事象は、私達人類の感興と興味に、応えることが可能となる、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、私達人類が、遺跡を、遺跡としてあるがままの、又は、遺跡としての必然である、遺跡としての具象、並びに、当該の遺跡に関する、遺跡としての様々な有意性を包摂する可及的に広範な空間、を、私達人類に、提示すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、遺跡が、私達人類の為す、破壊、忘却、並びに、様々な、その土地への埋納により、私達人類の世界に於ける共時的通時的な連続性を断絶し、自ずから、宇宙、又は、私達人類の世界に投企された事象である、と認識します。

私達当会は、遺跡について、遺跡には本質といわれるものはない、遺跡は、宇宙、又は、私達人類の世界に投企されているがゆえに、本質よりも存在が先立ってそこに在るだけであり、遺跡の私達人類にとっての価値や意義や意味や必然は、その後にも生まれる、その遺跡に於ける歴史上の関係者と関係する事象の役割は宇宙と私達人類の世界に関わるもろもろの問題提起であって、予定調和的に答えを提示するものではない、遺跡は、未知の構造と認識の可能性を孕んだまま完成しているのであり、歴史上のその関係者と関係する事象の手を離れると同時に投企された事象として、自らの運命を宇宙と私達人類の世界にゆだねるのである、と確信します。

私達当会は、遺跡について、遺跡は、その遺跡に於ける歴史上の関係者と関係する事象によって生み出されるわけだが、それが宇宙又は私達人類の世界に投企された以上は、私達人類にとっての遺跡の価値と意義と意味と必然を決定する役割は、それをつくったその遺跡に於ける歴史上の関係者と関係する事象ではなく、マルセル・デュシャンのいう「後からやってきた者」、要するにそれを「見る人」のほうにあるのだ、と確信します。

私達当会は、遺跡について、私達人類は、遺跡を、受け入れ、受け取らなくてはならない、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類が、遺跡たる事象に関して、遺跡を、遺跡の存在として、投企された事象としての、そのあるがままの具象、並びに、当該の遺跡に附随する空間、を、私達人類に、提示すること、を提案し要望します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、遺跡は、私達人類の、詩文、詩歌、音楽、芸術、並びに、哲学、遊び、－私達人類の存在、と近似している、と確信します。

私達当会は、皆様に、私達人類について、私達人類の世界にあって、遺跡たる事象に関して、遺跡を、私達人類の、歴史並びに学術に於いて、認識し、且つ、上記により、遺跡を、私達人類の、詩文、詩歌、音楽、芸術、並びに、哲学、遊び、－私達人類の存在、に於いて、活用すること、を提案し要望します。

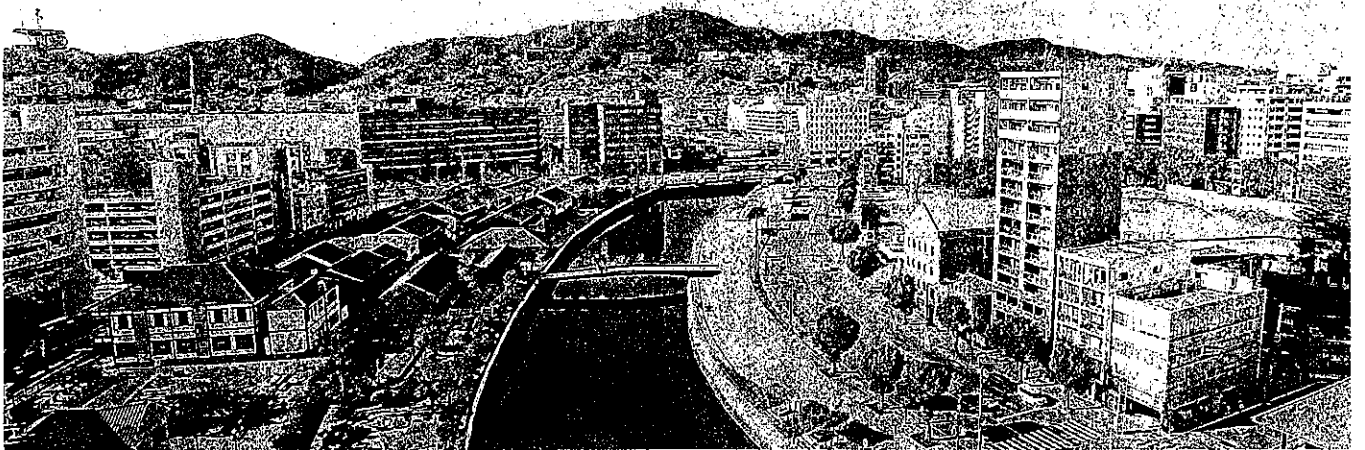
参考資料：『題名 浦上発 19時50分 作者 小林充雄（1939年山梨県生まれ） 19時50分あるいは現代美術オタクのエクリチュール 2012年12月20日 小林充雄（ジャズ・現代美術・現代思想オタク）』

○ 2021年(令和3年)1月1日 金曜日 長崎新聞 第3部 第1面

『開港450年 長崎の遠い記憶』 2021年(令和3年)1月1日～ 連載

1 (第3部歴史文化) 長崎新聞 2021年(令和3年)1月1日 金曜日 紙面編集・林田夜広

長崎新聞



開港450年を迎えた長崎。開港当時、長崎陣地(右側の高き地)は陣の突撃に位置した。出陣(川の左側一帯)付近から広がっていた海上には、ポルトガル船が停泊していたことだろう(長崎市編纂部の十八世紀長崎町絵図上から、坂本和介撮影)



ポルトガルとの貿易で栄えた長崎の様子を再現したとされる「新田人員明之図」(行幸本所、17世紀初期、四国歴史資料館蔵)。右に並列して予備展を掲げた絵巻が描かれている(長崎歴史文化博物館蔵)

## 開港450年 長崎の遠い記憶

長崎は開港450年を迎えた。開港450年を迎えた長崎。開港当時、長崎陣地(右側の高き地)は陣の突撃に位置した。出陣(川の左側一帯)付近から広がっていた海上には、ポルトガル船が停泊していたことだろう(長崎市編纂部の十八世紀長崎町絵図上から、坂本和介撮影)

開港450年を迎えた長崎。開港当時、長崎陣地(右側の高き地)は陣の突撃に位置した。出陣(川の左側一帯)付近から広がっていた海上には、ポルトガル船が停泊していたことだろう(長崎市編纂部の十八世紀長崎町絵図上から、坂本和介撮影)

開港450年を迎えた長崎。開港当時、長崎陣地(右側の高き地)は陣の突撃に位置した。出陣(川の左側一帯)付近から広がっていた海上には、ポルトガル船が停泊していたことだろう(長崎市編纂部の十八世紀長崎町絵図上から、坂本和介撮影)

『布教と繁栄 2人の宣教師 ルイス』

掲載写真・長崎新聞

掲載写真・長崎新聞

長

崎

新

聞

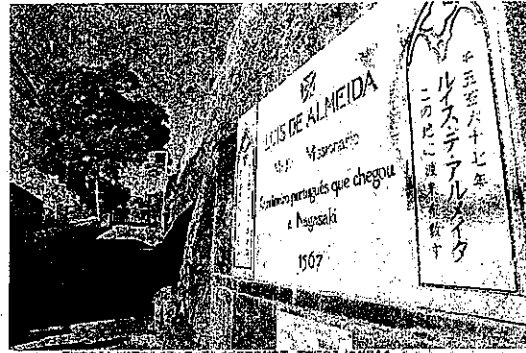
2021年(令和3年)1月1日 金曜日

2

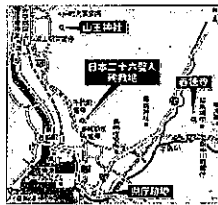
# 布教と繁栄

「長崎の遠い記憶」

長崎の歴史を語る上で、欠かせない存在が宣教師。彼らの来航は、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。



## 2人の宣教師 ルイス



ルイス兄弟の来航地

ルイス兄弟は、1599年、長崎に上陸した。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。



ルイス兄弟の来航地

ルイス兄弟は、1599年、長崎に上陸した。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。

ルイス兄弟は、1599年、長崎に上陸した。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。

ルイス兄弟は、1599年、長崎に上陸した。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。彼らは、長崎に西洋文化を伝えた。その中でも、ルイス兄弟の来航は、長崎の歴史を大きく変えた。

『特異な歴史 キリスト教 衰退見詰め』

田上富久長崎市長 インタビュー 港町こそ「交流」「人間味」長崎人の特徴 コラム 五島のサンショウウオ



## 港町こそ「交流」

田上富久市長は、港町の交流を重視している。港町は、長崎の歴史を語る上で、欠かせない存在である。港町は、長崎の歴史を語る上で、欠かせない存在である。港町は、長崎の歴史を語る上で、欠かせない存在である。

## 「人間味」長崎人の特徴

長崎人の特徴は、人間味である。長崎人は、温厚で、礼儀正しい。長崎人は、温厚で、礼儀正しい。長崎人は、温厚で、礼儀正しい。長崎人は、温厚で、礼儀正しい。長崎人は、温厚で、礼儀正しい。

# 特異な歴史



長崎の歴史は、特異である。長崎は、西洋文化の入り口であった。長崎は、西洋文化の入り口であった。長崎は、西洋文化の入り口であった。長崎は、西洋文化の入り口であった。長崎は、西洋文化の入り口であった。

## キリスト教 衰退見詰め

長崎のキリスト教は、衰退している。長崎のキリスト教は、衰退している。長崎のキリスト教は、衰退している。長崎のキリスト教は、衰退している。長崎のキリスト教は、衰退している。

『開港450年 長崎の遠い記憶 増崎英明 ② 大航海時代 結ばれた西洋と東洋 日本にたどり着いた「南蛮」 インタビュー 長崎大・木村直樹教授 布教を理解、安全な港 コラム マラッカのめぐり逢い』

# 結ばれた西洋と東洋

## 開港450年 長崎の遠い記憶

増崎英明

### ② 大航海時代

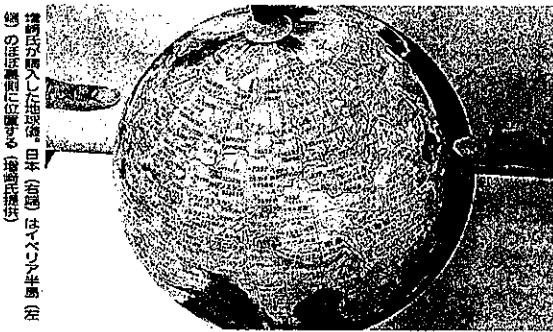
地球儀を買いました。平面の地図では世界の表と裏が分からないので。

#### ■ 遠い東の国

450年前の西洋には、すでに世界地図がありました。その中心はイペリ半島(ポルトガルやスペイン)で、串を刺した団子のような形の日本が右端にあり、地球儀の右(西)と左(東)があり、ヨーロッパから見て日本は「遠い東」(Far east)、「日本が暮らすとポルトガルやスペインは遠い西」(Far west)に位置します。しかし、実際の地球に描かれたのは、彼らは地球の裏側まで、香料を探していた。

#### ■ 征服者たち

この時代の英雄あるコロンブスの第一発見地は、長崎の人には物おじしい印象がある。暗黒時代の中で年配の人が話しかけてくると、普通にあるが、東京や京都にない。450年前、ほとんど何もなかった所に人が集まり、作り出された人工的な町。体的には、よそ者から来る人を受け入れるには、



16世紀の地球儀。日本(赤丸)は遠く東の島にあり、ポルトガルやスペインは遠く西の国にあり、地球儀の右と左でそれぞれを指す。

「東京出身、長崎や長崎人の第一発見地は、長崎の人には物おじしい印象がある。暗黒時代の中で年配の人が話しかけてくると、普通にあるが、東京や京都にない。450年前、ほとんど何もなかった所に人が集まり、作り出された人工的な町。体的には、よそ者から来る人を受け入れるには、

# 日本にたどり着いた「南蛮」

も聞いたようなでもない国について、も西国で分け合ったわけが、結局、ポルトガルはフィリピンやブラジルを築く南米アメリカの領土を獲得していった。その時に、日本にたどり着いた。16世紀の世界の覇者はポルトガルとスペインだった。

#### ■ 混沌の時代

東へ西へと侵略を進めた西国は、地球の裏側で鉢合わせするようになります。そして、そこには日本が横たわっていた。つまり当時の日本は、ポルトガルとスペインがいずれも権利を主張できる位置にあったのである。

### コラム マラッカのめぐり逢い

1549年に日本へキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルは、インド方面で布教活動中の47年、マレー半島のマラッカでヤジロウ(またはアンジロウ)なる日本人と出会います。ふたりの出会いは、現実とは思えないほど奇妙な偶然と必然の混交なのですが、ヤジロウとザビエル両人の手紙が残っているのが、ヤジロウは日本人として最初のキリスト教徒になり、ザビエルを案内して来日します。大変印象的な話なのですが、マラッカまでどんな手段で行けたのか、そんな疑問がわいてきました。

かつてのマラッカ王国は、多国籍の商人が集まるアジアの国際都市でした。カイロのイスラム教徒、トルコのキリスト教徒、インドのヒンドゥー教徒、中国人やアラブ人もいて、84もの言語が入り乱れていたそうです。そこへ西から乗り込んだポルトガル人は1511年、マラッカ王国を占領しました。ヤジロウは薩摩から、ポルトガル人と一緒にマラッカへ向かっています。ポルトガル語もいくらか話せたようです。当時の東西交流は想像以上のスピードで進んでいたのではありませんか、今はそんなことを考えています。

# 布教を理解、安全な港

インタビュー 長崎大・木村直樹教授

会。彼らとしては貿易と布教がセットであり、ちゃんと布教ができる場所、(自分たちが)守られる場所をねがなければならぬ。博多は政治的に不安定で、織内に行くと、海難や海賊の問題がある。キリスト教に理解のある領主がいて、なかつく港として優れていること、大船が入港しやすい安全な港であることが必要だった。

ポルトガル人は香料を求めた。アジヤに進入した。日本には香料がないが、何のために来たのか。貿易品の鉄砲や火薬が売れるというところがあった。アジヤでの買い付けに必要な銀は東にわたすら走らなければならない。後

うな航海をすることがなかった。例え日本に来た場合、インドやフィリピンに出れば、マラッカ、シリア半島を経由して中国の南方を見ながら北東に向けて走り、琉球を越すと男女群島が見える。男女群島の女性を見た。男女群島の女性を見た。男女群島の女性を見た。男女群島の女性を見た。男女群島の女性を見た。

サンデーぶんか

歴史 (第3日曜日掲載)

bunka@nagasaki-np.co.jp



増崎英明

③ フランススコ・ザビエル

1549年、54歳のザビエルは、プロヴァンスのナントで生まれ、パリで神学を学んだ。1541年、彼は「イエズス会」に入会し、以後1549年10月まで、フランスで生活した。1548年、彼はパリで「イエズス会」の宣教師として任命された。1549年、彼は日本へ渡った。その時、彼は「フランススコ・ザビエル」の名で知られるようになった。

艱難乗り越え 日本布教

ザビエルは、1549年、日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

ザビエルは、1549年、日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

ザビエルは、1549年、日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

ザビエルは、1549年、日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

ザビエルは、1549年、日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

ザビエルは、1549年、日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

ザビエルは、1549年、日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

ザビエルは、1549年、日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

コラム 四つ目の宣教師

フランススコ・ザビエルは、1549年に日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

高見三明カトリック長崎大司教

心の平安求めた民衆

16世紀のキリスト教は、日本に伝来した。それは、ザビエルによって行われた。彼は、日本にキリスト教を伝え、多くの日本人を信仰させた。彼は、日本にキリスト教を伝え、多くの日本人を信仰させた。彼は、日本にキリスト教を伝え、多くの日本人を信仰させた。

高見三明カトリック長崎大司教



高見三明カトリック長崎大司教

高見三明カトリック長崎大司教は、1549年に日本の鹿児島に上陸した。彼は、日本で布教の機会を得た。しかし、彼はすぐに困難に直面した。彼は、日本での布教を計画したが、中国の海賊船に日本へと向かい、中国沿岸の上陸した。彼は、中国の海賊船に捕らえられた。彼は、中国の海賊船で死した。彼は、中国の海賊船で死した。

高見三明カトリック長崎大司教





『開港450年 長崎の遠い記憶 増崎英明 ⑤長崎港の発見 三つの条件満たす理想の地  
インタビュー 郷土史家 越中哲也さん 商売人が集まった町 コラム 曲直瀬道三の改宗』



⑤ 長崎港の発見

今からちょうど450年前の1617年、長崎港にポルトガル船が入港しました。今回は、長崎港がポルトガル人たちによって発見された経緯について話しましょう。

■最初は平戸に

それより21年前、フランシスコ・ザビエルが薩摩に渡航した翌年の50年、平戸に最初のポルトガル船が来航しています。ザビエルはそこで薩摩から平戸へ来て布教活動を始めました。ポルトガル船が来航すると、日本の商業都市から商人たちがやってきました。その頃、薩摩と呼ばれた地の権力者が精進した金持の商人が、堺、京都、大坂、博多などに現れます。南蛮貿易は徐々に広がります。南蛮貿易は徐々に広がります。

歴史 (第3日曜日掲載)

サンデーぶんか

bunka@nagasaki-np.co.jp

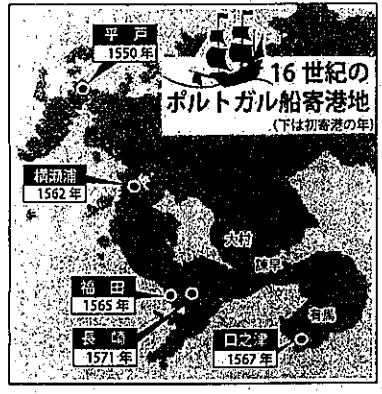
純忠の離れ業  
平戸は⑤を満ちました。が、キリスト教については受け入れ困難でした。その頃、徳川の領土である大分県が平戸に入会に近づきます。彼は福岡浦(豊後)の提供を平戸に申し出て、領土開放がキリスト教教徒だけでなく、純忠の離れ業

三つの条件満たす理想の地

■外敵から守る  
現在の女神大橋をかきかき海に入る。奥に進めば箱館は開き、広々とした海が広がります。

長崎開港の前身(1570年)ポルトガル船は福地に上陸しました。イエズス会の司教が水先案内人、福地を海軍鎮守府に小舟を運ぶ受取、長崎の港に到達します。その時の様子を空想図でみます。

長崎開港の前年(1570年)ポルトガル船福地に上陸しました。イエズス会の司教が水先案内人、福地を海軍鎮守府に小舟を運ぶ受取、長崎の港に到達します。その時の様子を空想図でみます。



閉鎖の島、長崎に初めてポルトガル船が来航します。岬切りが開かれ、フィエンド岬は小さな教会を建てました。やがて長崎は、新しく作られたこの町、処女地を開かれたカタリシヤンと呼ばれるようになった。

長崎開港の前年(1570年)ポルトガル船福地に上陸しました。イエズス会の司教が水先案内人、福地を海軍鎮守府に小舟を運ぶ受取、長崎の港に到達します。その時の様子を空想図でみます。

狭くなった入り口や三方を丘陵に囲まれた地形は、風を防ぎ、海賊から船を守るにはすばらしい。さらに奥に進むと、フィエンド岬の地形が、港に向かって飛び出した岬が目に入り、この地形こそ、ポルトガルが海軍都市として理想とした地形です。岬の先端に教会を建てたら、船乗りたちの良い目印になるだろう。神父のほほ笑む姿が浮かびました。

インタビュー 郷土史家 越中哲也さん



長崎開港当時、今の長崎開港地に最初の6町ができて、よそ者が集まってきた。大村藩公は、ポルトガル船が来航して、それが条件だった。ポルトガル船はカトリックの教区に従い、安全な所に入港。長崎が「番付」になった。最初の6町は「番付」になった。番付から、大村藩公が来るから「番付」もあつた。そのうち「番付」に関係のある人が、ポルトガル船が入った。番付から、大村藩公が来るから「番付」もあつた。そのうち「番付」に関係のある人が、ポルトガル船が入った。番付から、大村藩公が来るから「番付」もあつた。そのうち「番付」に関係のある人が、ポルトガル船が入った。

商売人が集まった町

長崎開港当時、今の長崎開港地に最初の6町ができて、よそ者が集まってきた。大村藩公は、ポルトガル船が来航して、それが条件だった。ポルトガル船はカトリックの教区に従い、安全な所に入港。長崎が「番付」になった。最初の6町は「番付」になった。番付から、大村藩公が来るから「番付」もあつた。そのうち「番付」に関係のある人が、ポルトガル船が入った。番付から、大村藩公が来るから「番付」もあつた。そのうち「番付」に関係のある人が、ポルトガル船が入った。

道三は仏教に詳しいが信じていない。私は自分のやり方で通じている。フィエンド岬の病院を頼んだ。同時に人間の救いについて、あなたがわかれなければならない。われわれはそのために何千里も遠くまで日本に来たのである。道三は佛徳され教会に通う。洗心を受けキリスト教徒になりました。数人はフィエンド岬の名をもらって、ベルシヨロの名をもらって、ベルシヨロの改宗はイエズス会には大変、吸積した。長崎港を調査したフィエンド岬は、それから13年後、京都で曲直瀬道三を改宗させたのです。この話のルイス・フロイスが「日本史」に書いています。

コラム 曲直瀬道三の改宗

今から450年前、長崎港にポルトガル船が初めて入港しました。その前年、長崎港の福音を調査したベルシヨール・フィエンド岬は、岬の先端に教会を建て、その後、豊後(今の大分)でコレジオ(大学)の院長になりました。同じ頃、京都に曲直瀬道三という漢医がいました。豊後に出入りした織田信長が、数多くの病人を治療しています。80人の弟子があり、たいへんな数人だった。道三が70歳を過ぎたころ、豊後で重い病氣を患った。フィエンド岬が、治療を受けたいと京都まで訪ねてきました。やがて病氣は平癒し、豊後投合した2人は宗教論議を始めました。

増崎英明のインタビューに答える越中氏(1)長崎市の伊良木1丁目、光臨寺(山下雅弘撮影)

『開港450年 長崎の遠い記憶 増崎英明 ⑥ 原風景 今よりずっと広がった海  
インタビュー ポルトガル人研究者 ベビオ・アマロさん 異文化との接触の歴史 コラム 大水害の夜』

サンデーぶんか

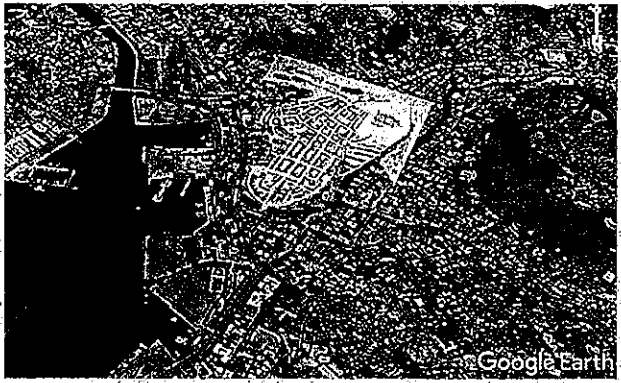
歴史(第3日曜日掲載)

bunka@nagasaki-np.co.jp

# 今よりずっと広がった海

開港450年  
長崎の遠い記憶  
増崎英明

## ⑥ 原風景



Google Earth



長崎港のGoogleアースに古い地図を合成した開港当時の再現図(一部分、全崎徳氏提供)

現在の地図に開港当時の海岸線を重ねた復元図(一部分、ベビオ・アマロ氏提供)

450年前、ポルトガル船が初めて来航した頃の長崎港は、今よりずっと広がったはずですが、その後、貿易港として栄えた長崎は、土地を増やすための海を埋め立て続けてきたからです。

長崎は、今の江戸町から方町に続く高台に六つの町を建設することから始まりました。現在、江戸町の県庁跡地前には方町を向いて立つ、左は大波止、右は浜町に下る坂道があります。昔は大波止側も法町側も下った場所が海でした。元々は海に向かって突き出した「陣」だったのです。

陣の崖下には燈籠や燈籠の住み小屋があったはず。長崎で開港が始まり、急速に人口が増加する中、長崎港のあちこちを埋め立て、そこに町を

ポルトガル人研究者のベビオ・アマロ氏は、長崎の土垣開港の際に行われたボリリングや地理情報システム(GIS)による位置情報を駆使して、土地の高低を再現し、さらに新旧・日欧の文献情報を追加して、開港前後の長崎を再構成しました。

異なる方法で作成された両者の地図は、互いによく似ています。これらは長崎の原風景なのです。

(前長崎大付属図書館長)

450年前、ポルトガル船が初めて来航した頃の長崎港は、今よりずっと広がったはずですが、その後、貿易港として栄えた長崎は、土地を増やすための海を埋め立て続けてきたからです。

長崎は、今の江戸町から方町に続く高台に六つの町を建設することから始まりました。現在、江戸町の県庁跡地前には方町を向いて立つ、左は大波止、右は浜町に下る坂道があります。昔は大波止側も法町側も下った場所が海でした。元々は海に向かって突き出した「陣」だったのです。

陣の崖下には燈籠や燈籠の住み小屋があったはず。長崎で開港が始まり、急速に人口が増加する中、長崎港のあちこちを埋め立て、そこに町を

ポルトガル出身。首都リスボンの港の形は長崎にも似ていると感じる。共通点は確かにあるが、多くは不思議な偶然の結果。16世紀(ポルトガル人が長崎を選んだとき)、リスボンをまわったつもりはなかった。アジアで活動していたポルトガル人はとても少なく、マカオやペルシヤ湾のホルムズのような半島・岬の地形を好んだ。海や山に囲まれ、少ない人で十分守れる場所だ。

なぜ長崎の研究を始めたのか。子どもの時から日本の文化に興味があった。日本の歴史について研究し始めたとき、やはり、自分の国に關連するテーマを選んだ。

ポルトガル人研究者 ベビオ・アマロさん

1982年ポルトガル・アマロリスボンで生まれ、2007年リスボンで修士号、2010年東京大学で博士号取得。専門は都市史・建築史など。『港市長崎の成立に関する論文多量』。新型コロナウイルスの制限のため福井県に滞在。



インタビュー

は大事だと考えた。長崎は関連性があった。最初は長崎の都市計画や教会堂の建築に、ヨーロッパの影響を見つけてきた。

長崎の岬(現在の県庁跡地)を細かく研究している。論文を読むと、教会の場所が何度も移り、最後は海に突き出した形で大きな教会が建った。

その(教会跡)土がおそらく、出島(の埋め立てのために運ばれてしまった)を思っ、西側の先端が飛び出している岸が、最後に教会があったところだ。

現在のテーマは、都市史、港町の研究しており、長崎の研究も続けている。中国・天津大学で建築の文化遺産の保護、天津の都市史を教える。

津の都市史を教える。天津と長崎を比べると、いろんな共通点がある。16世紀の日本国内にあったイエズス会の教会堂研究なども取り組んでいる。

長崎の文化や歴史をどう伝えていくか。

一番好きなのは、教会と神社を、いろいろな文化が混在していること。長崎の歴史は異文化との接触から生じている。不安な要素もある。例えは、開港によって西洋医学の知識が日本に入り、日本の薬物はヨーロッパに強い影響を与えた。そうして中を生み出した長崎には、一回復元されたのではなく、長崎は、数百年の波瀾万丈の生活の末に平和の道場受けついで

(聞き手は増崎英明氏)

# 異文化との接触の歴史

## コラム 大水害の夜

1982年7月23日のことです。私は夕刻から銅座で会食中でした。激しい雷雨に外へ出ると、道は川に変わっています。膝まで浸かって高台をめざし、当時の県庁(江戸町)から「ロープウェイ前経由下大橋行」のバスに乗りました。

室町でバスが停止するので外を見ると、稲佐へ向かう凹んだ道が、まるで海のようなでした。バスはコースを変えて直進しますが、銭座町で車内に海水が入り、茂里町でエンジンが止まりました。座席が水に浮き、室内灯は消え、エンジンも止まります。静寂と暗黒。天井の雨音だけがリズムを刻みます。

緊張した乗客に運転手さんは落ち着いた声で言いました。「隣のビルまでロープを張ります。女性から降りてください。お子さんは男性がおぶってください」。たいした運転手さんでした。自分の番

が来て降車すると、ストンと首まで水が来ました。その夜、ビルの4階から国道を見ていると、材木、車、小屋、さまざまなものが流れ去ります。目の届く限りが海です。海は対岸の稲佐まで続いていました。

翌朝、ウソのように海は元の国道に戻り、卒後5年目の医師だった私は、すぐに大学病院へ向かいました。病院に被害はなく、私はソニメンを食べ風呂に入りました(屋にはガスも水道も止まりました)。

銭座町の聖徳寺から坂本国際墓地、山王神社から大学病院まで、一方に崖のある道が続いています。古い海岸線ではないでしょうか。今になって私は、長崎大水害に際して、山際まで海の迫った長崎の原風景を垣間見たように思うのです。



# 表出する過渡期の痕跡

## 写真に見る 115年前の長崎 日露戦争時代 姫野 順一

□1□



ひめの・じゅんいち  
1977年九州大大学院  
経済学研究科博士課程修  
了。博士(経営学)。ケ  
ンブリッジ大クレーブ・ホ  
ール ライフメンバー。

専門は経済学史・知性史  
・古写真を中心とする長  
崎学。70年長崎大教養部  
講師に在任。同助教授  
教授、環境科学部教授、  
付随園地長を経て、20  
16年長崎外国語大特任  
教授。18年から同大副学  
長。著書に「J・A・ホ  
ブソン人間福祉の経済  
学」(龍馬が見た長崎)  
「日露戦争による長崎の  
長崎」などがあ

の時期なので、写真は2  
人が撮影したようである。  
写真の大きさは手札  
(2し)と名刺版で、洋風  
化と工業化が進む「長崎」  
を切り取っている。洋風  
館(県立会館)兼外賓待  
所、警察署、郵便局、監  
獄、医学学校、急行列車、商  
品陳列館、大浦のホテル、  
フランス長崎港の汽船、  
茂木棧橋、茂木ホテルな  
どである。工業のシンボ  
ルは拡張期の三菱造船所  
である。市民の憩いの場  
は諏訪公園と桜の名所カ  
ルルス中川であった。遊  
郭から貸座敷に変わった。  
丸山(奇台)出雲の花街  
姿容する出島や新地、螢  
茶屋も写されている。古  
社にたすまひの諏訪神  
社、松森神社、興福寺、大  
音寺、清水寺は今も変わ  
らない。皮辰野や台湾  
の役の戦死者を祀る招魂  
社は新しい聖地であった。  
同32(9)年8月に公布  
された要塞地帯法で、民衆  
の統制と監視が厳まり、  
長崎中心部は撮影禁止と  
なった。これらの写真群  
は、繁栄から軍国化に至  
る過渡期の痕跡を表出す  
るメディアとして重要で  
あり、要塞地帯時代の長  
崎を解明するベンチマー  
クとして研究と公開が求  
められる。

### 世界遺産となった第3ドック

入り江を利用し崖を切り取り、前面の海を埋め立  
てて5年の歳月をかけて明治38(1905)年に完成し  
た新設の大型第3ドック。対岸は波の平から古河町  
にかけてであるが、背後の景色は要塞地帯法に基づ  
き雲状に消されている。竹の久保にあった三菱司令  
部は同36(03)年5月に大黒町に移転し、同39(06)  
年に平戸小屋に移転した。このドックはその後さら  
に拡張され今なお現役である。2015年に「明治日本  
の産業革命遺産」として世界遺産に登録された。



### 向島の第2ドック

造船の需要が拡大する  
明治29(1896)年11月に  
完成した。右の洋館は修  
理中の船員が宿泊するド  
ックハウス。この建物は  
ドックが廃止された昭和  
47(1972)年にグラバー  
園に寄贈されて今も健在  
である。



### 三菱造船所

日露戦争(1904-  
05年)時代の長崎を撮影  
した写真61枚を収載する  
アルバムが、秋田の古書  
店から発見された。豪華  
な装丁は東浜町の一枚べ  
つ甲店の納品で黒と白の  
べつ甲細工が施されてい  
る。表装に「贈呈 荘田君  
長崎市有楽町」と刻ま  
れている。明治39(06)  
年12月9日に三菱造船所  
長を退任した荘田平五  
郎に長崎市民が贈呈した

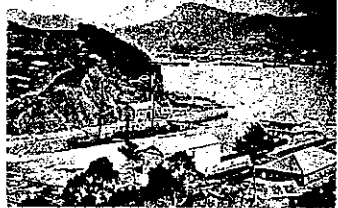
### 寄稿

記念品のようである。同  
様のべつ甲写真アルバムが翌  
年長崎を訪問した皇太子  
嘉仁親王(後の大正天皇)  
に献上されていることか  
らその価値が推し量れる。  
荘田はのちに三菱で  
は「管事」と呼ばれた社  
長に次ぐ地位にあった。  
日弁藩の特待生として漢  
学から英学に進み、慶応  
義塾に学んだ。福沢諭吉  
に取り立てられて商学教

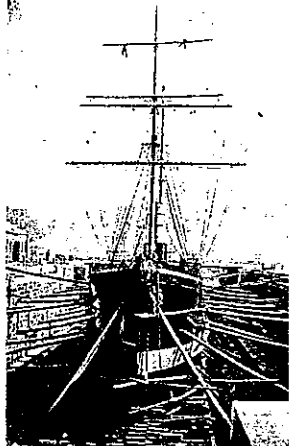
### 拡張期の飽の浦工場

日清戦争が終わった明治29(1896)年、造船  
奨励法を契機に機械工場、組立工場、鉄機工場、  
網具製帆工場、練物工場、事務所の施設が拡充  
した。停泊している船舶は鉄製から変わった鋼  
製商船で、製品積込中のような様子。この写真  
では背後の景色は消されていない。

アルバムに収められた  
貴重な写真のうち特に珍  
しいものについて、長崎  
外国語大の姫野順一・新  
長崎学研究センター長に  
紹介してもらいます。  
週一回掲載します



フランス人技師フロラン兄弟の指導で  
明治12(1879)年に完成した大型ドライ  
ドック。7000トンの艦船を入渠(にゅうき  
よ)できる東洋一の規模を誇った。同17  
(84)年に工部省から三菱の経営に移り同  
20(87)年に設備が払い下げられた。背後  
の景色はまだ消されていない。荘田はこ  
のドックを拡張し、ヨーロッパ航路の開  
拓を目指す日本郵船が発注したわが国最  
初の大型客船常陸丸6000トンの建造に  
取り組んだ。



立神の第1ドックと修理中の外国船



2代目県庁舎

## 2代目長崎県庁

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 2 □

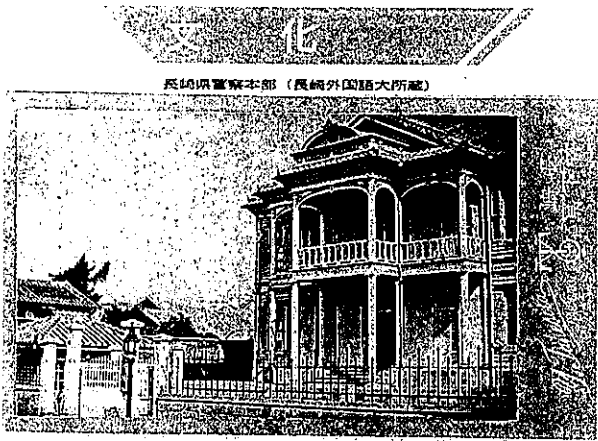
明治39(1906)年、森崎の長崎銀行所役所を撮影された外浦町(現・はづね町)は、長崎府城後(後長崎)と江古町、旧県庁所在地)のてに建っていたが、明治2代目長崎県庁である。築(1874)年7月28日に後30年を経ている。県知事 水増(陸軍)洋館の初代県は、コレラなどの伝染病の庁舎に建て替わった。しか水際対策や長崎港第2期改良工事を推進した川養太郎であった。

2代目の県庁舎は、初代県庁の跡地に明治9(76)年12月20日に再建された。西側である。南側が始まる5月前のことである。2代目県庁舎も木造瓦葺きの2階建て洋館であったが、4棟の寄せ棟に補強されている。大きさは建坪で82坪、1方6130坪の工費を費やした。建築物に目を向けると、観音堂の上げ下げ式洋風窓や、出陣カバリの石の装飾、マントルピース用の煙突が印象的である。2階には、ランタナが設けられ、洋風手すりが付いている。庭に植木が配置された洋風庭園である。明治初期を代表するこの町の洋風建築は、しゃれたゲートのデザインと門灯の石油ランプとともに長崎市民の目を引いた。右に写る男性の和服と帽子は、左の人力車から明治30年代の雰囲気を感じられる。ゲート右の建物は門衛部省長崎製作所(三番長崎所)である。

# しゃれた洋風デザイン

(長崎外国語大・新長崎学  
研究センター長)

週一回掲載します



長崎県警察本部 (長崎外国語大所蔵)

### 長崎県警察本部

## 明治政府権力の象徴

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順二

□ 4 □

正門に「警察本部」の看板が見える明治公1889年の警察本部と呼ばれた別館元長崎警備の現存した年10月までであるから、新築された長崎県警察本部 影時期は完成後である。この建物である前身となる長崎 明治政府の軍事警察組織 崎県警備局は明治7年に長崎 警備の権限が治つて、明治 崎県内に創設され、明治57年、振興隊を引き継ぎ、警察の支隊、重慶的な日本風

正門に「警察本部」の看板が見える明治公1889年の警察本部と呼ばれた別館元長崎警備の現存した年10月までであるから、新築された長崎県警察本部 影時期は完成後である。この建物である前身となる長崎 明治政府の軍事警察組織 崎県警備局は明治7年に長崎 警備の権限が治つて、明治 崎県内に創設され、明治57年、振興隊を引き継ぎ、警察の支隊、重慶的な日本風

市町の長崎警備局は警察 飾り風情が設けられ、一段 局がこの場所に置かれた。 これは明治9年に東浜町 (現長崎の場町)に長崎警 署署として移転し、大正12 (1923)年には長崎 市の県庁に転移する。選挙 ンボルであった。

明治22年建設当時の図面 が残されている。これによ れば建坪は80、昇降口は6 坪7合の大きさである。間 取りは2階のテラスにつな がる部屋が警部長室、その 左が応接室、右が警務課、 長崎県巡査養成所になり、右側に新しく警察部 長官舎が設けられている。

(長崎外国語大・新長崎学 研究センター) 思

廻り回帰致します



交親館 (長崎県議事院兼外賓接待所) (長崎外国語大所蔵)

### 交親館 長崎県議事院兼外賓接待所

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 3 □

明治12(1879)年6 主催の晩餐会に出席した。 月、南北戦争を北軍を勝利 宿舎は新町の県立師範学校 に遷す大統領となった。であった。県令内海軍勝は ラント將軍が、世界旅行で、このとき通商船の必要を痛 長崎を訪問した。22日に 感した。翌年、慶應義塾1 訪公園の長崎博覧会を見学 996万円を投じて、県議事 しく、翌日裁判所、県庁、師 院兼外賓接待所としての交 親学校を視察し、その夜、 親館が建設された。

令明治19年から(長崎知事) 県庁舎と同じく軒の高い 5回の県会から、外浦町現 代わって出席した。可明子夫

本造り建てで、洋風窓と 石の出隅カバが施され、 外構はランプを柱頭に頂く 門柱と鉄製門扉が目立つ豪 華な造りである。

長崎県は明治29年に 離し議員は半減する。 交親館は、外賓接待所と して居留地の外国人との夜 会や県知事の送迎会などに 使われ、長崎の庶民でも 訪公の長崎博覧会を見学 996万円を投じて、県議事 しく、翌日裁判所、県庁、師 院兼外賓接待所としての交 親学校を視察し、その夜、 親館が建設された。

令明治19年から(長崎知事) 県庁舎と同じく軒の高い 5回の県会から、外浦町現 代わって出席した。可明子夫

人ほ、きついコルセットで 何度もダンスを踊つたあと 倒れた。知事は腕原の温泉 獄に水求めたが間に合わ ず、夫人は28歳の若さで亡 くなった。その後薩長は興 水所ができていた。

明治32(99)年の条約改正 で居留地が廃止され、交親 館の外賓接待所としての役 割は終わる。議事院が新県 庁舎に統合されたあとの明 治44(1919)年、平戸 から水産講習所が移転し、 大正4(1919)年には改築され て県立図書館となった。

(長崎外国語大・新長崎学 研究センター) 長

廻り回帰致します

## 豪華な造り 長崎の鹿鳴館

梅香崎にあった(右から)長崎郵便局、大北電信社長事務所、日本郵船会社の洋館



### 梅香崎の洋館群

## 郵便、電報、運輸の拠点

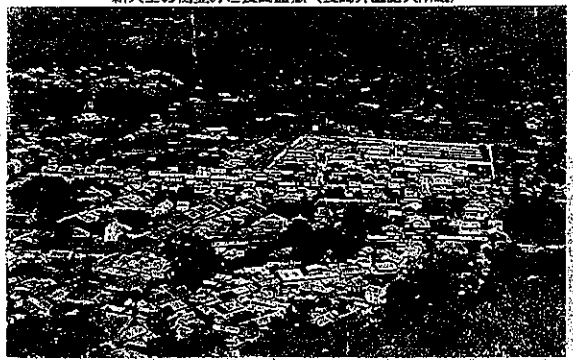
**写真に見る 115年前の長崎**  
 日露戦争時代 姫野 順一 □ 6 □

明治30年代の梅香崎。右端一番に西洋風赤煉瓦造りから長崎郵便局、大北電信の長崎郵便電信局が開局す。社長崎、日本郵船会社の。明治26年に長崎と佐賀洋館である。明治4(18)の郵便電信の監署局となつた。本博多町で開業し、明治36年に長崎郵便局とした郵便所は明治7年(1872)に、明治33年には郵便局が合併し、この梅香崎の梅香崎郵便局とつた記録がある。

この国に開ける明治9年 底電線が通った。長崎では松ヶ枝で、大北電信社(1880)年、ト電信社の一画を借りて長崎12(1899)年には日華通商の海運電信の監署局が公衆電信の監署局に始まり、長崎郵便局は市民で、インキリスはインド、中国の国内電信を、大北電信社は外国電信の国際電信を取扱っていた。デナー日本郵船会社は明治9年から41年まで梅香崎3番に入居した。明治18年、郵便小舟と人がバケツリした。明治33年に上海と天津間を結ぶ航路を引いた。明治33年に上海と天津間を結ぶ航路を引いた。明治33年に上海と天津間を結ぶ航路を引いた。

(長崎外国語大学長) 週一回掲載します

新大工の街並みと長崎監獄(長崎外国語大所蔵)



### 新大工の街並みと長崎監獄

## 広大な敷地 3区域に分割

**写真に見る 115年前の長崎**  
 日露戦争時代 姫野 順一 □ 5 □

風頭から新大工方面を撮る。口の家が見える。反対の影している。中央の横は北側の屋敷には掃光の窓の家の並びは旧長崎街道。左が嵌められていた。端の茂みは伊勢宮で、右端、奥の塀に囲まれた建物の白壁は写真師上野彦馬のは、片瀬(現片瀬町)に屋敷である。明治15(18)建設された長崎監獄である。82)年に建ったビード。江戸時代、桜町に置か

れた年屋敷は明治9年に長けられていた。左の正門付監獄と改称され、明治15近は管理区画で、奥の監獄と職員舎が見える。右奥4棟の長屋は既設囚、清入舎、船番、町使、右手前の一監獄棟(パノプティコン)の原型のような放射状の配置の建物。未10年の西園戦争時には、寺民衆におかれた病舎は、寺の敷地の小な建物は刑務場足りた。この畑地に官量の板橋が建てられた。長崎監獄は8千坪(平和公園の約1.2倍)と広大で、内部は3区域に分

(長崎外国語大・新長崎学 研究センター長) 週一回掲載します



文化

浦上山里村に移転する前の県立長崎病院の病棟(右)



県立長崎病院

写真に見る  
115年前の長崎  
日露戦争時代 姫野 順一

□8□

旧大徳寺境内の西母すれの一つである大徳寺は、江戸時代、幕府に献上された新地越しに出陣方面を望む大徳寺が、後醍醐天皇の御影時期(明応2年)に、浦上山里村に移転した。この時、右の洋館は浦上山里村に移転する前の県立長崎病院の病棟である。「寺がないのに大徳寺」と嘆かれた長崎の七不思議、浦上成道(長崎大徳寺社)の

**旧大徳寺境内に整備**

ち播磨招提社が継承し、毒酒院も横に移された。明治11(1878)年に長崎病の発症地とされた大徳寺境内に、旧大徳寺の礎石を移転し、橋本大徳園として公開された。この敷地は、大正5(1916)年に浦上町の一部となり、浦上町として正式に行政区画された。この敷地は、大正5(1916)年に浦上町の一部となり、浦上町として正式に行政区画された。

文化



浦上の長崎医学専門学校

写真に見る  
115年前の長崎  
日露戦争時代 姫野 順一

□7□

長崎医学専門学校(現・室之棟 解剖学教室、病理学教室、解剖学教室、解剖学教室、解剖学教室)の木造校舎。地形的に浦上地区の山麓に建ち、この地形的な特徴が、この校舎の設計に反映されている。この校舎は、明治33(1900)年に竣工された。この校舎は、明治33(1900)年に竣工された。

**九州の医者養成拠点**

西郷隆盛が創設した長崎医学専門学校(1877)年再び長崎県立医学部となった。明治25(1892)年、大徳寺跡(現・西小島)に長崎医学専門学校の敷地として、長崎大学医学部の起源である。明治33(1900)年に、長崎医学専門学校が設立された。この校舎は、明治33(1900)年に竣工された。

文化



写真提供：長崎県立歴史博物館

### 大浦のフランスホテル

## 洗練されたレンガ造り

写真は明治30年代に撮影された大浦3番(現長崎孔)参入し、長崎は九州の国際子(蘭)のオテル・デ・フ(貿易港)となり、雲仙も保森(通称フランスホテル)地として整備され、アメリカ(と、33番)現長崎の万国博覧会、上海から(じい)病院)の日本貿易商、多くの欧米観光客が来訪し、社長代理人エドワード・タム(タム)を相手にオカサロシヤースの和風洋館、オテル・クリフ・ホテルとい

日清戦争後、日本郵船が、つた本格的な西洋式ホテルシヤトル航路に、東洋汽船の關係が相次いだ。

写真は明治30年代に撮影された大浦3番(現長崎孔)参入し、長崎は九州の国際子(蘭)のオテル・デ・フ(貿易港)となり、雲仙も保森(通称フランスホテル)地として整備され、アメリカ(と、33番)現長崎の万国博覧会、上海から(じい)病院)の日本貿易商、多くの欧米観光客が来訪し、社長代理人エドワード・タム(タム)を相手にオカサロシヤースの和風洋館、オテル・クリフ・ホテルとい

写真に見る  
115年前の長崎  
日露戦争時代  
姫野 順一

□ 10 □

明治36(1903)年、ズと結婚。家業を継いでフランス人ジャン・ジュリン商(パン屋、自転車販売)の屋下に売却され、支配人(アン・シロ)は、3階建てで、売を営み、資金を蓄え、苦はアンリからリネ・シユバ(養育)レンガ造りのフランスオテルを構築した。ホテルオーナーとなった。妻のアンリが支(アン・シロ)とヨーロッパ配人であった。

ホテルは日系フランス人ジャンの事務員となり、客足が途絶え、明治37(1904)年に倒産する。シアンリの妹と結婚した。つまりアンリとレヴァルは兄弟であった。

そしてレヴァルも明治44(1911)年に27歳の妻を病気で亡くして、42年に葬を閉じるフランスホテルは、フランスゆかりのシロ家とバルメ家の家族の苦悶と悲しみがしみ込んで

臨時掲載します

文化



白木橋が新築された新大橋は、新大浦、右側の高台、旧大浦、左側の山、長崎県立歴史博物館蔵

### 中島川河口の新大橋

写真に見る  
115年前の長崎  
日露戦争時代  
姫野 順一

□ 9 □

出島東端から中島川河口が要求し、明治になって完成しに新地方面を望む。右成した海、並から出島までの高台は旧大浦境内、左の遊歩道の一部である。梅し、長崎市参事長と長崎商工会館新築も務めた。引善行、立誠会社から千

は明治20年代と想われる。和洋折衷の洋館は、明治初年に中国商社の拾遺号があつた新地4番(白長崎ワシントンホテルの場所)に、明治10(1886)年に開業したが、資金は長崎の豪商13名による協賛社に継承された。

## 外国人が要求した遊歩道

臨時掲載します

(長崎外国語大学長)



明治時代の遊郭風景 (長崎外国語大学蔵)

出雲の遊郭

写真は明治30年代の出雲。成し、奥平八郎は山崎遊郭(現山崎本通り)。彼会として事業を発展させ長久平に遊郭地を確保し私娼の壟断となる。外国人娼婦の風紀を取り締まった。留置の太浦一帯には、徳政の風紀を正すため明治26(1893)年、海防隊の関帝が来た。出雲町でこれを移した。斜面地の道は西側に石垣が築かれ、ヘラダ、麻付。借地は山崎山崎右衛門が創設した桐葉亭が開業した田であった。

熊石衛門は大浦六村で船給給水や船運送で財を築された。丸山に比べて。小川は暗渠にして露田部坂本屋、泉屋、虹屋、清月。当初の貸座敷は防風屋、貸座敷に変貌した。取り締まりも使われた。

斜面地の新興遊郭

丸山遊郭は後述から芸妓(芸者、長崎では芸子衆)が派遣される「送り込花」楼、機屋、大学屋、機屋の娼妓遊世が禁止された。明治24年には一旗の娼妓入れ替わる楼主は雇われた。明治5(1870)年の芸妓・娼妓解放令で年季付き人身売買は禁止され、翌年の公娼取締規則で遊郭は由業業は進まなかった。(1957)年施行の娼業禁止法待たねばならなかった。(長崎外国語大学蔵)

随時掲載します



丸山町の花月楼(現料亭花月)前から東を望む(長崎外国語大学蔵)

写真に見る 115年前の長崎 日露戦争時代 姫野順一

丸山・寄合の遊郭

上の写真は、貸座敷に浴槽があった。この建物は今でも長崎検校として学生寮の事務所に使われている。人力車が走りやすいように道は敷石で舗装され、大きな電柱から電線が走り、玄關や軒先には紅灯がとられていた。長崎では明治26(1893)年か電気が通っていた。

下の写真は、寄合町の貸座敷水遊樓前。丸山坂が見える。遊郭を望む。左手前の屋内には男性は遊技場で射的を楽しんでいるようである。水遊樓の山遊樓と新築楼までが現在の丸山公園である。人力車の奥は最上級の玉泉楼、新油屋、新遊樓、万国楼。

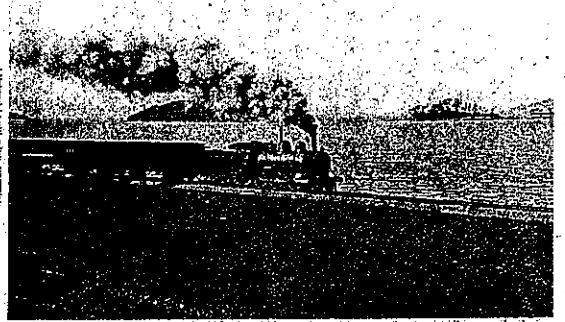
時代と共に変容した花街



丸山と寄合町の入り口(現丸山交差点)には「江戸時代」の「口」と呼ばれた重の「二門」が設けられていた。明治5(1870)年の太政官布告により遊女は年季拘束から解放され、明治6年の公娼取締規則により遊女は公娼と呼ばれる貸座敷に姿を変えた。昭和21(1946)年にGHQで公娼制度は廃止され、昭和32(1957)年に娼業禁止法が成り下り遊郭の歴史は閉幕した。長崎検校の芋衆は「うちの茶納踊りの伝統を守り、丸山芸妓の芸能を守っている。」

随時掲載します

文化



大草町近を走る蒸気機関車  
長崎外国語大学所蔵

### 長崎線の蒸気機関車

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□13□

## 不況で遅れた全線開通

写真は、大村湾沿いの大草町近を走る門司行き蒸気機関車。奥に写っているのが竹島左衛門海軍少将の邸宅。明治31年(1900)年に敷設された。木製の運転台に215と記されている。この車両は、明治30年(1899)年にアメリカから輸入した飽和型テンタ(炭水)の改善で、42年に国鉄6150形蒸気機関車となる。黒船から分岐する九州鉄道は明治30年に国有化され、28年に佐賀まで、28年に武雄、30年に早岐と延伸した。25年に始まった佐世保(長崎の鉄道工事は不況で遅れ、28年に長崎(現浦上)から長崎(現長崎)まで延伸するのは明治38年で、着工から13年を要した。明治39(1906)年の大草町改正で門司・長崎間が長崎本線となり、旧長崎本線は佐世保線と大村線に分離される。現在の市布線由の長崎本線が開通するのは、昭和47年のことである。

(長崎外国語大学長) 同時掲載します

1 12版 第48446号  
日本経済新聞  
2021年(令和3年)1月26日(火曜日)

©日本経済新聞社2021 (日刊)



1月26日

火曜日

発行所 日本経済新聞社  
東京本社 ☎(03)3270-0251  
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
大阪本社 ☎(06)7639-7111  
名古屋支社 ☎(052)243-3311  
西部支社 ☎(092)473-3300  
札幌支社 ☎(011)281-3211

# 独、日本に艦船派遣

## 今夏にも、中国をけん制

【ロンドン＝赤川省吾】ドイツ政府は独海軍に所属するフリゲート艦を日本に派遣する検討に入った。今夏にもドイツを出航する。海外領土を持たないドイツが極東に艦船を送るのは極めて異例。英国も航空母艦を近く太平洋に展開する。対中警戒論が急速に強まる欧州におけるアジア政策の転

換を象徴する出来事になる。(関連記事11面に)独政府は昨秋にインド太平洋ガイドライン(指針)を閣議決定した。現在は指針にもとづく具体策を詰めており、海軍の派遣はその一環となる。複数の独政府・与党筋によると独北部を母港とするフリゲート艦1隻が長期にわたってインド太

平洋地域に滞在し、日韓などに立ち寄る。同地域に点在するフランス領で補給を受けたり、共同演習に参加したりするのを想定。南シナ海を航行する案もある。シルバーホルン独国防務次官は取材に「今夏に出航したい。まだ詳細は決まっていないが(寄港先として)日本が視野

にある」と明らかにした。「自由民主主義陣営のパートナーとの絆を深めた」とも語った。同次官は「だれかを標的にした計画ではない」と強調したが、力による現状変更を試みる中国をけん制する意味合いがあるのは明らかだ。ドイツは域外派兵に慎重でアジアは伝統的な関

心領域ではない。にもかかわらず海軍を展開すれば強力な政治メッセージとなる。国際秩序の維持に積極的にかかわる姿勢を示す。英国は空母クイーン・エリザベスをインド太平洋に送る。英海軍報道官は取材に「4〜6月に出航する見通し」と答えた。欧州各国は経済的に中国に大きく依存する半面、政治面では急速に距離を置きつつある。軍艦のインド太平洋派遣は中国偏重のアジア政策が大きく変わることを意味する。

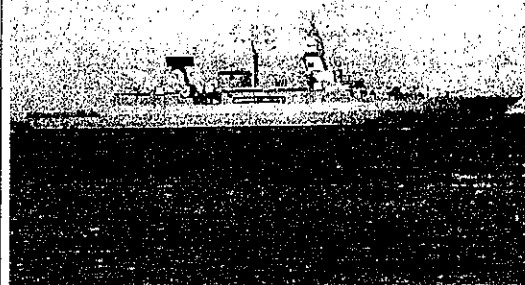
心領域ではない。にもかかわらず海軍を展開すれば強力な政治メッセージとなる。国際秩序の維持に積極的にかかわる姿勢を示す。英国は空母クイーン・エリザベスをインド太平洋に送る。英海軍報道官は取材に「4〜6月に出航する見通し」と答えた。欧州各国は経済的に中国に大きく依存する半面、政治面では急速に距離を置きつつある。軍艦のインド太平洋派遣は中国偏重のアジア政策が大きく変わることを意味する。

# 欧州、東アジア安保に関与

## ドイツ、日本に艦船派遣

### 対中「政経分離」に限界

ドイツ政府が「インド太平洋戦略」に極東への海軍派遣を盛り込むのは、東アジアの安全保障体制に関心が高まっているからだ。政治では距離を置き、経済ではうまくつきあうという対中政策の「政経分離」を狙うが、人権を重視する緑の党が与党入りする可能性が高まっており、「いいと取り」の戦略には限界が近づいている。(一面参照)



ドイツ海軍のザクセン級フリゲート艦。どのフリゲート艦を派遣するかは検討中＝ロイター

ドイツ	2020年9月にインド太平洋指針を閣議決定、日本に海軍派遣へ
英国	G7議長国として6月の首脳会議に韓印憲も招待、空母をアジアに展開へ
フランス	2018年にマクロン大統領がインド太平洋重視を表明
オランダ	2020年11月にインド太平洋重視を表明し、独仏と連携

「指針を定めただけで国際的に信用されない。なにか強力な具体策を盛り込まないと。2020年秋にインド太平洋ガイドライン(指針)を閣議決定して以来、独政府・与党関係者は取材に異口同音に語っていた。目玉として浮かんだのが海軍のアジア派遣だ。02年に練習航海中のドイツ艦船が日本に寄港したことがあるが、当時とは緊張感が違う。この20年近くで北朝鮮や中国への懸念を欧州も共有するようになった。

「強さを頼みに自らの秩序を押し進めようとするのを認めてはならない」と。▼フリゲート艦 レーダー類を備える軍艦の一種で、敵の潜水艦や航空機から自国艦隊や民間船舶を護衛することが主な役割。サイスなど基準は各国の海軍で異なる。海上自衛隊の護衛艦は一般的にフリゲート艦と駆逐艦に分類される。

必要がある(シルバーホルン氏)との思いも強まっている。フランスは、英離脱後の欧州連合(EU)で「外交・安全保障のリーダー役」を狙う。インド洋の仏領ジエオン島などに8000人の兵力があり、「我々もインド太平洋国家」と自外務省報道官は取材に強調した。中国の膨張策を見逃せば点状化する仏領が寸断されてしまうという危機感がある。EUから抜けた英国は国際的に「孤立してない」ことを誇示したい。英海軍報道官は「詳細の発表は数カ月後」と言及を避けたが、英空母を米艦船が護衛する「米英共闘」の噂もある。

たが問題は外交・安保で対中強硬姿勢を強めつつ、自動車など対中ビジネスで恩恵を受けようとする「二重」(じじ)を追う戦略が難しくなりつつある点だ。「輸出を犠牲にしても中国に強い姿勢を臨むべきだ」。ドイツでは緑の党からはそんな声が漏れる。人権を重んじる緑の党は9月の議会選で与党入り有力視される。同党が発言力を強めれば、対中関係が悪化し、中国からワインや小麦などに次々と追加関税を課されたオーストラリアの二の舞いになりかねない。高速通信規格5Gなどビジネスと外交・安保が密接にからむ案件は多い。中国は「核心的利益」と位置づける香港問題などで対外的な強硬姿勢を強めており、欧州が同指針「政経分離」が本場に機能するのには不透明だ。中国は経済的に無視できないパートナーだ。ドイツは中国を過度に刺激することを避けたのが本音だ。今回の航海を国会議事録が必要ない「軍事作戦」ではなく、あくまでも「関係国との連携強化が狙い」(独国防省報道官)と位置づける。EU外交筋は「対ロシアなどに比べてアジア政策は蓄積が浅い。いまは経験を積んで政策を軌道修正していくしかない」と話している。

(欧州総局編集委員 赤川晋吾)

# 日本経済新聞

4月8日  
木曜日

発行所 日本経済新聞社  
東京 本社 電話(03)3270-0251  
〒100-8366 東京都千代田区大手町1-3-7  
大阪 本社 電話(06)7639-7111  
名古屋 支社 電話(052)243-3311  
西部 支社 電話(092)473-3300  
札幌 支社 電話(011)281-3211

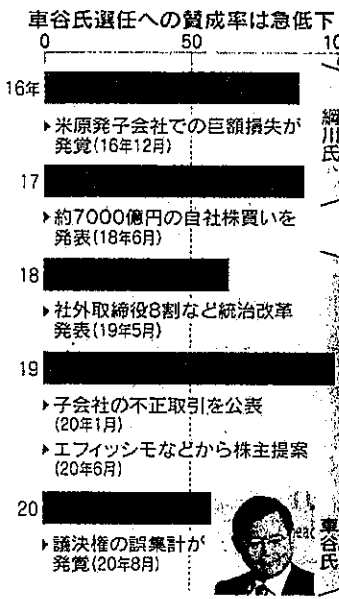
## 英ファンドが2兆円買収提案

# 東芝株主との対立打開へ

東芝は7日、英投資ファンドのCVCキャピタル・パートナーズなどから2兆円超の買収提案を受け、取締役会で検討に入った。2017年の経営危機を救ったアクティビスト(物言う株主、3面きょうのこぼし)との対立が深まり、3月の臨時株主総会では株主提案が可決された。定時総会での再任が危ぶまらなかつた一部は、非公開買収提案をアクティビストと決別し成長戦略を打ち出す好機と捉えている。(関連記事3面に)

## 脱市場で探る再生

7日午前に東芝が開いた買収提案が報告された度のアレミナム(ト)乗せた取締役会で、CVCが6日の株主に3割程(幅)を乗せた買収額が提示された。



東芝氏

示されたもようだ。関係者によると、同日は取締役の間で提案を共有する程度で、内容についての議論はなかった。来週にもCVCが正式に提案するとみられ、詳細は次回以降の取締役会で議論することを確認したという。

は上場維持のため、18年3月末までに債務超過を解消する必要があった。稼いだ半導体メ

モリ事業の売却を検討したが、協業先の米ウェスタンデジタル(WD)との交渉が難航した。追い込まれた綱川智会長(当時社長)は、アクティビストを含む60もの海外投資家を対象にした計6000億円の増資を決めた。上場廃止は免れたが、海外投資家の比率は約7割まで高まった。

20年総会では子会社の不祥事など企業統治の不備に対し、エフィッシモ・キャピタル・マネジ

メントなどが自らを推薦する取締役の選任を求めた。株主提案は否決されたが、東芝が社長兼最高経営責任者再任への賛成比率も約57%と19年の約99%から急低下した。

外取締役は現任も最高顧問だ。利害関係を考慮し、東芝氏は買収交渉は行わないとみられる。CVCが経営陣と合意し実施したTOBに東芝が乗るかは、アレミナムによる部分が大きい。アクティビストは投資利

28日、米議会で施政方針演説を行うバイデン大統領(中央)。後方は上院議長を兼ねるハリス副大統領(左)とペロシ下院議長(ワシントン・ポスト紙提供、AP=共同)



4月30日(金) 先頁

(旧暦3月19日)

総合案内 090(5)844-2111  
報道部 090(5)844-2400  
編集デスク 090(5)844-2400  
電話センター 090(5)844-2400  
FAX 090(5)844-2400

# 長崎新聞

発行所  
長崎新聞社  
長崎市高屋町3-1 千852-8601



県産紙宣言。

## 対中競争勝利へ決意

### バイデン氏施政方針 米「再始動」

【ワシントン共同】竹本 篤史 米大統領は28日、上下両院合同会議で施政方針演説に臨み「中国や他の国々と競争し21世紀を勝ち抜く」と述べ、中国への対抗姿勢を鮮明にした。習近平国家主席を「専制主義者」とを指して批判し、米国の勝利すると強調。「米国は再び動きだしている」と国家再生を宣言した。「7面に表層深層と関連記事」

400兆円規模の成長戦略を通じ、雇用創出と格差是正を図ると表明。巨額の財政出動で「大きな政府」への傾斜を明確にした。歳出拡大に伴う増税については「富裕層や大企業に「公平な負担」を求めるとし、中間層の底上げで経済成長を図る方針を示した。中国には「専制主義が未来を勝ち取ることはない」と警告し「紛争を防ぐため、米国はインド太平洋で強固な軍事力を維持すると習氏に伝えた」と説明。不正な貿易慣行や知的財産技術の窃取に立ち向かう。次世代の技術で優位に立たなければならぬと述べ、安全保障や経済など幅広い分野で対抗する決意を表明した。気候変動問題は「地球規模の闘いだ」と各国に協力を求めると同時に、米国内での対策を雇用拡大や国民の収入増に結び付けると指摘。再生可能エネルギー分野の生産力増強などを通じて産業構造の転換を打ち出した。

バイデン氏は指摘。中国やロシアなどの専制主義国家に優位を譲らないため「民主主義が機能することを証明しなくてはならない」と訴えた。

アフガニスタン駐留米軍については「米国は20年間犠牲を払ってきた。もう部隊を帰還させる時だ」と述べ、9月11日までに完全撤退させる考えを再度表明。「現在の米国への最も致命的なテロの脅威は、白人至上主義者によるものだ」と警戒感を示し、人種差別の根絶を改めて求めた。

紙面編集・出口浩一





# パクス なき世界

インタビュー 3

デジタル化の加速にコロナ禍が重なり、人工知能(AI)に雇用の機会を奪われる層が生まれている。国立情報学研究所の新井紀子教授に産業構造の変化と労働について聞いた。

——技術革新の歴史に学ぶことはありますか。

「イノベーションが特定の労働を代替し、仕事を失う人が大層に出るという歴史は繰り返されてきた。産業革命では生産性が低い家内制手工業を担う熟練労働者が機械へと代わった。大

## 職奪うAI 知恵で対抗



あらい・のりこ 一橋大法卒、米イリノイ大を経て東京工業大より博士(理学)を取得。専門は数理論理学。2006年から現職。58歳

### 国立情報学研究所教授 新井 紀子氏

### 新井 紀子氏

量生産をめざす近代的工場では熟練度と関係のない大勢の労働者を必要とした。——特にAIの進化が雇

「資本主義や民主主義の礎も築いた。大量生産を司能としたフォードシステムは工場管理の事務職を生み、ホワイトカラーが戦後の繁栄をけん引した」

「長期的には技術革新は社会を前進させるが、雇用のミスマッチは困窮者を生

む。新しい職種で働く人材が育つのに20年かかる」

「AI導入の目的は生産性が無駄を省くことだ。かつての産業革命と違い、人手はどんどん要らなくなる。工場での食品加工からローンの与信審査まで幅広い業務がAIに置き換

る。現代でも不満を持つ人がSNS(交流サイト)で陰謀論にひかれ、ポピュリズム(大衆迎合主義)に向かう。再分配のあり方への不満は民主主義を揺るがす」

「不安定な社会は民主主義をも脅かします。戦前の昭和恐慌でも就職難の憤りが鬱積し、冷害による農村の疲弊も重なった。現代でも不満を持つ人がSNS(交流サイト)で陰謀論にひかれ、ポピュリズム(大衆迎合主義)に向かう。再分配のあり方への不満は民主主義を揺るがす」

「社会への打撃を減らす方法はありますか。」

「欧州連合(EU)には利益を独占する米テック企

業「GAF A」に対抗する知恵がある。個人データの消去を求める「忘れられる権利」などを提起し、AIに規制をかけながら人々の雇用を守る。人類の幸せを問う法哲学が根底にある」

「少数の労働者が利潤を稼ぐデジタル企業がインフラ化した今、『見えざる手』を唱えたアダム・スミス以来の経済学を見直す時期だ。データを独占する企業の利益をいかに分配するか、知恵を出さなければならぬ」

——今、日本に必要なことは何でしょうか。

「明治以来、欧米をまねてばかりだった。イノベーションの表層でなく根本に精通し、100年先の国家像を見通す官僚や研究者を育てるべきだ。AIとつま

く付き合うためには歴史や哲学に精通した為政者も欠かせない」

(聞き手は松浦奈美)

発表から71年が経過し、初めて修復されることになった「原爆の図」第1部「幽霊」



埼玉「原爆の図丸木美術館」所蔵

### 「原爆の図」初の修復へ 悲劇の記録 次世代に

被爆直後の広島を画家の丸木位里、俊夫妻が描いた連作「原爆の図」が初めて修復される。第1部の発表から71年たち、劣化や虫食いによる傷みが激しかった。所蔵する「原爆の図丸木美術館」(埼玉県東松山市)の岡村幸宣学芸員は「一度と原爆の悲劇が起こらないよう、世代を超えて受け渡したい」と話している。

広島出身の位里は1945年8月6日の原爆投下から3日後、家族の安否確認のため現地入りし、俊も1週間後に到着。残留放射線を浴びながら、焼け野原を歩いた体験などを基に50年〜82年、全15部の作品を発表した。うち14部が同美術館に収められている。

修復が決まったのは、縦1・8メートル、横7・2メートルの第1部「幽霊」で、数百万円の費用を美術館の貯蓄から捻出。折りたたんだ状態で愛知県立芸術大学の文化財保存修復研究所(愛知県長久手市)に送り、修復中は複製画を展示する。

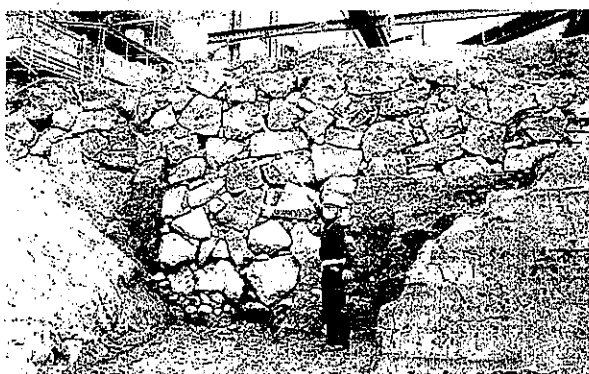
夫婦がこの作品で描いたのは、焼けた皮膚を引きずり、腕を前に上げてさまよい歩く人々の姿。連合国軍総司令部(GHQ)の占領下で原爆の報道が検閲を受ける中、あえて人に焦点を絞り、洋画家の俊がはっきりした線で描いた人物に、水墨画家の位里が墨を流して仕上げた。

岡村学芸員は「被爆者の姿をこまめに視覚的に伝えたのは初めてで、歴史的意義が大きい」と指摘。費用が賄えれば他の作品も順次、修復したいとしている。

50年に第2部「火」と第3部「水」も発表した夫妻は精力的に巡回展を開催。当時の記録では、51年11月までに計51カ所で65万人近くを集めた。

53年には欧州やアジアでも展覧会が開かれ、夫妻は世界平和評議会から国際平和賞ゴールドメダルを授与されている。

### 400年前の江戸城石垣か 皇居で発見「最初期の姿」



皇居・東御苑で見つかった江戸城初期の石垣=13日午前

東京都千代田区は13日、皇居・東御苑にある「三の丸尚蔵館」の整備に伴う発掘調査で、徳川氏による江戸城の最初期の石垣が見つかったと発表した。当時の絵図や、出土した磁器片や木製品の年代から、1610〜20年ごろに造られた可能性があり、同区は「最初期の姿をとめる貴重な遺構」としている。

区によると、見つかった石垣は当時の堀の一部とみられ、高さ約4メートル、南北に幅約16メートル、石を7段階程度積み上げたもの。16世紀末から17世紀初めの江戸城や周辺を描いた絵図では、今回の発掘現場付近に南北に通る堀が描かれている。一方、17世紀半ばの絵図では堀の形が大きく変わっており、今回の石垣は造られて数十年で役目を終え、埋め立てられた可能性があるという。

【本社】▽川口氏

【取材先】長岡市建設委員会

【取材先】長岡市建設委員会

【取材先】長岡市建設委員会

【取材先】長岡市建設委員会

【取材先】長岡市建設委員会

長崎再興 課題先進県の挑戦

<上>

地域経済を支えてきた造船業の競争力低下、九州・沖縄で最も進行が早い人口減少……。全国でも有数の課題先進県とされる長崎県が、転換期を迎えている。基幹産業が交代しつつあるほか、2022年秋の新幹線暫定開業もにらんだ長崎市内での相次ぐ大型再開発、さらにはオープンインベションを活用した課題解決の動きも広がる。「長崎再興」に向けた動きを追う。

「船舶の新造事業は22年1月に休止せざるを得ない。2500人の希望退職も募る」。県を代表する造船会社の一つ、佐世保重工業(SSK、佐世保市)の名村建介社長は2月に佐世保市で開いた記者会見で、苦渋の表情

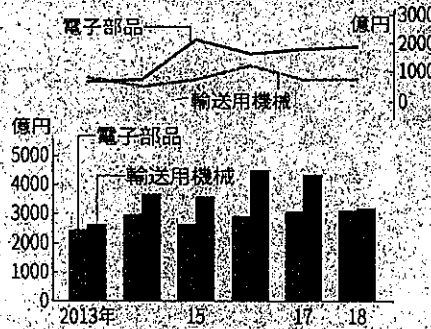
# 造船から電子部品へ



新船建造休止を発表する、佐世保重工業の名村社長。(2月、長崎県佐世保市)

## 基幹産業の構造転換進む

長崎県の電子部品と輸送機械の推移



(注) 折れ線グラフは付加価値額、棒グラフは製造品出荷額等 (出所) 工業統計

造船が祖業といえる三菱重工業も、主力工場だった長崎造船所香焼工場(長崎市)を大島造船所(長崎県西海市)に売却する交渉を進めている。造船業は今や、長崎の基幹産業の座を明け渡そうとしている。代わってその座に就こうとしているのが、電子部品・デバイスだ。

### 雇用1000人創出

中村法道知事は2月の記者会見で「ソニーのスマートフォン向け画像センサーの工場が4月に稼働する。1000億円超を投資し、1000人規模の新たな雇用が生まれる」と指摘。その上で「基

幹産業の構造変化を促すような施策を積極的に打っていく必要がある」と強調した。工業統計によると17年の県の製造品出荷額等は、業種別だと造船を合算した輸送用機械器具製造業が4342億円、トランプ・一方、電子部品・デバイス・電子回路製造業は3057億円と3位だった。だが、18年には輸送用機械器具製造業は2位になり、その差も85億円に縮まった。

### 付加価値額は電子部品の3割近くを占め、1割強にすぎない輸送機械を大きく上回る。ある県幹部は「ソニーの新工場が稼働すれば、製造品出荷額等でも輸送機械を大きく引き離してトップになる」との見方を示す。

県は電子部品以外にも航空機部品、ロボット、IT(情報技術)、海洋エネルギーの育成に力を入れている。中でも航空機部品は造船業で培ったものづくりの技能を生かし、産業集積が進んでいる。「長崎県などの強い熱意も立地を決めた大事な要素の一つ」。三菱重工航空エンジン(愛知県小牧市)の島内克幸社長は、長崎市内にエンジン部品の新工場を立地した理由をこう話す。長崎工場では主に、各国・地域内を飛ぶ小型航空機向けの部品

を生産する。現在は新型コロナウイルス禍で、航空会社は苦境にある。だが、国内線向けの機体需要は中長期的に回復の兆しが見え始めており、同工場は23年の育成を始めたことが大きい。

三菱に先立ち、金属加工の電子部品がものづくりの

工のワン(埼玉県上里町)は06年、長崎県東彼杵町に工場を開設した。航空機のエンジンや機体の部品を生産する。同社のほかにも、県内の7社が航空機部品を製造するのに必要な技術認証を取得している。各社は三菱への納入に向けた準備も進めている。三菱側も加工する際に部材を保持する治具を県内企業に発注する意向だ。

### 人口減少が悩み

IT関連の拠点も県内に相次ぎ立地している。20年にはゼンリンや医療機器のアークレイ(京都市)などが、研究開発拠点を開設した。長崎大学が情報データ科学部を開設し、IT関連人材などの育成を始めたことが大きい。日清紡ホールディングス傘下で4月に佐世保市で半導体製品の検査ソフト・装置開発を開始する新日本無線の森田謙一社長は「長崎は造船で培ったものづくりの伝統があり、優秀な人材が多いという印象がある」と話す。地域を活性化させるためにも、人口流出を抑えることが重要になる。

# 長崎再興 課題先進県の挑戦

<中>

「ジャパネットホールディングス(HD)が長崎市で進めるスタジアム構想の効果を最大化するため、官民連携組織を近く立ち上げたい」。長崎県の中村法道知事は2月、記者会見でこう表明した。県は同構想を「若者の県外流出抑制の切り札の一つ」(幹部)と位置づけていることから設備を決めた。

## JRは新駅ビル

通販大手のジャパネットHD(同県佐世保市)が進めるスタジアム構想はサッカースタジアムを軸に、5000人以上収容できるアリーナ、ホテル、オフィス、商業施設などからなる複合施設を、長崎駅から北に約1キロにある三菱重工工業長崎造船所跡地(長崎市)に整備する。2024年の完成を予定し、アリーナ

# 再開発続々、変わる県都

はライブ会場としての利用も検討するなど、単なる競技場にとどまらない計画だ。同社子会社で、実務を担うリージョンナルクリエーション長崎(長崎市)の岩下英樹取締役は「試合がないときでも気軽に

訪れて楽しめるようにしたい」と意気込む。県は「若者やファミリーに魅力的な施設で、九州で最も進む人口減の抑制につながる可能性もある(幹部)と期待する。

22年秋に九州新幹線西九州ルート(長崎新幹線)のうち、長崎―武雄温泉間が暫定開業することも、長崎市では「県都」の表情を一新するよ

うな開発が相次ぐ。中でもJR九州が長崎駅に建設する新駅ビルなどの再開発は、ジャパネットのスタジアム構想と並ぶ目玉案件といえる。商業施設やオフィスだけでなく、米マリオット・インターナショナルが進

営予定の高級ホテルがで

きる。JR九州は「新幹線の開通効果を最大限取り込む(青柳俊彦社長)ため、全面開業を当初の25年度から23年秋に前倒しすることを決めた。

同駅近隣では21年秋、交流人口の拡大などを目指して国際会議などを開催できる「MICE」施設「出島メッセ長崎」が開業する。同施設隣接地には同時期、外資系ホテル「ヒルトン長崎」もオープンする。長崎市内では21年から24年まで毎年、大型案件が順次開業する。田上高久市長は「まさに100年に1度の大変革の時」と期待する。この大変革を、地域再

民間主導、行政と連携力ギ

興につながるのが課題だ。中でも人口減の抑制が重要になる。長崎市は人の移動による「社会減」が、18、19年はそれぞれ2376人、2772人で全国最多だった。転出数は1万3000人台で推移している。転入者が増えるなどで

方、転入者は14年の1万2394人が19年には1万541人にまで減ったことが要因だ。市は「若い世代を中心に、一度市外へ出た人が戻ってこないことが大きい」と分析する。20年は

推進会議を設立

スタジアム構想や長崎駅再開発などは民間主導の事業だが、街づくりと絡むだけに行政との連携は欠かせない。ただ、ジャパネットは行政と協力して事業を進めた経験がほとんどない。過去には子会社のサッカーJ2、V・ファーレン長崎の練習場を整備するため、長崎県大村市と協議を進めたがまとまらなかった。

市は「若い世代を中心に、一度市外へ出た人が戻ってこないことが大きい」と分析する。20年は転入者が増えるなどで

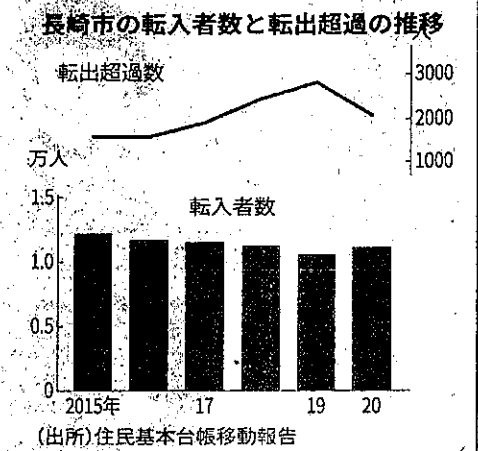
避いを十分に理解しては要因を分析中だが、21年以降もこの傾向を続けるため、若者やファミリーをうながさず留める役割を果たすのがスタジアム構想であり、長崎駅周辺の再開発だ。

よって設立された。同会議は今後、地元経済界なども巻き込み、スタジアムをはじめ新施設を生かした観光誘客策や雇用確保策などを検討していく。

リージョンナルクリエーションの岩下取締役は「推進会議を通して地元経済界や住民とも連携を深めたい」とする。新施設を単なる「ハコモノ」に終わらせず地域活性化の起爆剤にするためには、官民が協力してにぎわいを生み出すための仕掛け作りも重要になる。



長崎駅の再開発事業起工式に出席した(左から)中村長崎県知事、青柳JR九州社長、田上長崎市長(3月15日、長崎市)



長崎再興 課題先進県の挑戦

<下>

長崎市中心部から車で20分ほど、長崎県長与町にある食品スーパーの生鮮加工センター。地域の課題解決に外部の力を活用するオープンイノベーションが進んでいる。長崎県・市や地元スーパーのジョイフルサンアルファ(長崎市)に加え、伊藤忠グループといった県外勢も参画し、漁業者の収入安定を目指すプロジェクト「Find Fish's Future(FFF)」に取り組んでいる。

魚をサブスクで

加工センターでは魚を刺し身にし、パックに入れて真空にする。その上でセ氏マイナス30度のアルコールを使った急速冷凍機「凍眠」で冷凍する。加工を担当するジョイフルサンアルファの森寿彦取締役は「鮮度が落ちにくく、サバでも刺し身に

解決導く外部の知恵



県や市、県外の大手企業のほか地場企業も加わって地域課題の解決に取り組んでいる。(長崎県長与町)

企業誘致と「一石二鳥」も

仲介した。同グループの企業で、ICT(情報通信技術)やデザイン面でサポートする伊藤忠インタラクティブ(東京港)は「魚のサブスクの潜在的な市場規模は80億円に上るとみる。

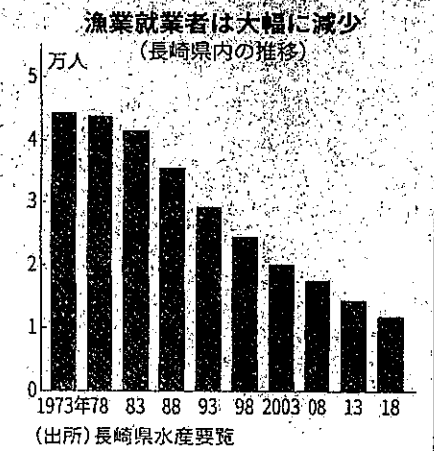
長崎で飲食店を経営し、プロジェクトにも参画するF・デザインGASAKI(長崎市)の永石一成社長は「漁業者の収入は天候や相場などに左右される。凍眠のような保存技術を活用すれば出荷などが計画的にでき、収入が安定する」と期待する。

水産業は長崎県の基幹産業の一つだ。北海道に次ぎ、全国2位の生産量がある。ただ、ピーク時

アガンパニーは人工知能(AI)を使って紙や画像上の文章をデジタルデータ化できるようにして、自治体や企業の負担を軽減する。サービスやプログラムの開発には首都圏などの人材を積極的に活用している。同県雲仙市は観光を軸にした地域活性化に、東京や大阪などの専門家らの知見を取り入れている。

FFFでコーディネーター役を務める十八親和銀の銀先鬼生氏は「伊藤忠インタラクティブも地域課題の宝庫である長崎県に魅力を感じ、参加してくれていると明かす。地域にとってはマイナス

長崎支局長の古岸由光氏が担当しました。



食べられる」と味の良さを強調する。冷凍した魚は月2回、サブスクリプション(定額課金)でおさかなサブスクとして、東京や大阪など大都市圏の消費者に届ける。

冷凍技術やサブスクの導入は伊藤忠グループが

の99万ト(1979年)に比べ、2017年は34万トと3分の1にまで減少している。漁業従事者も73年は4万4200人だったのが、18年には1万1762人にまで落ち込んだ。

オープンイノベーションが広がっている背景には、長崎県が「課題先進県」ということがある。

FFFでコーディネーター役を務める十八親和銀の銀先鬼生氏は「伊藤忠インタラクティブも地域課題の宝庫である長崎県に魅力を感じ、参加してくれていると明かす。地域にとってはマイナス

であるはずの課題を、企業誘致や課題解決という地域にプラスとなる「一石二鳥」に変える。長崎県での取り組みは、他の地域のモデルにもなる。

長崎支局長の古岸由光氏が担当しました。

# 情報

無職 浜永 孝雄(70)

2年前、ポルトガルを南へ北へと旅した。斜面都市の多くでは露天の長いエスカレーターやがけ下、地下道から続くエレベーターが整備。川沿いから人口密集地を通るロープウェイ、急傾斜地を行くレトロな路面電車やケーブルカー、低床式の新型電車など、高齢者の足がきちんと確保されていた。

まちの広場や歩道、アーケードには、花や帆船、波などの芸術性が高い模様が描かれた石畳があり、遠目でも見下ろしてみても美しかった。

そこで提案である。現地で見

声 みんなのひろば

## ポルトガルのまちに学ぼう

かけたような石畳や、魚鮮やかなタイルで地域の歴史や産業を表現した壁絵を、長崎でも駅や飲食店の内外に描いてはどうか。陶器製の食器や斬新な意匠の魚の缶詰も人気。日本で初めて缶詰ができたと言われる、陶磁器産業も盛んな長崎のまちづくりや土産物のヒントにならないか。

また、魚と米を使った滋味あふれる同国の伝統料理を取り入れた新「南蛮料理」も創作できそう。長崎は今年、開港450年。その先の500年に向け実のある交流を深めてほしい。

(長崎市)

# 情報

無職 浜永 孝雄(70)

県庁跡地(長崎市江戸町)で発掘された遺構などの保存や、跡地活用について私案がある。

長崎市立桜町小を建設した際に跡地から出土した遺跡などを保存する、サント・ドミンゴ教会跡資料館。発掘現場をそのまま保存した資料館として高く評価されており、私は県庁跡地もこれと同様の保存方法を前提にすべきだと思う。

ヨーロッパで見られる遺跡の保存活用方式は、全面保存とにぎわいを創出するショップングセンターや集客施設と両立できる建築形態にしていることだ。

今年、長崎港開港450周年。県庁跡地の周囲の環境などから考えると、歴史的な建築物

声 みんなのひろば

## 県庁跡地活用 欧州を参考に

の復元や、歴史的景観を踏まえた施設を造るより、開港500周年など将来を見据えた造形デザイン建築物ができればいいと思う。

例えば、屋外の史跡公園と施設の1階を遺跡展示室にしたリ、江戸期の石垣遺構などを見るためにサント・ドミンゴ教会跡の展示方式を用いたりする。

ヨーロッパではこれらの方式で古代の港の跡や城壁、下水溝跡などを常時見ることができ。そして、その上階には市場やイベントが開催できる広場や飲食場、展覧スペース、遊歩道もある。

いずれにしても地域の人が誇りと愛着を持って利用できる県庁跡地活用の基本構想策定を期待する。

(長崎市)

ながさき

# 時評

以前の同僚に誘われて、鹿児島大学鹿児島環境学研究会のシンポジウムに、東京からオンラインで参加した(2月21日開催)。テーマは「島と東京を結び、ここからの奄美の環境文化」を語り合う、奄美の自然と深く付き合い、奄美の暮らしを持続させるために」。ユネスコの世界自然遺産への指定を間近に控え、島在住のさまざまな世代と、島出身者の東京在住者とのあいだで、活発な意見交換が行われた。

そこで深く印象に残ったのが、島の高校生から出された「伝統文化を受け継ぐ意味がどこにあるのか」という問い

## 伝統文化のゆくえ

西村 明



にしむら・あきら 1973年雲仙市国見町出身。東京大大学院人文社会系研究科准教授。宗教学の視点から慰霊や地域の信仰を研究する。日本宗教学会理事。雲仙市と東京の2拠点居住中。

# 絆と個性のバランスを

かけだった。本人は奄美大島でも中心部ではなく、伝統行事が色濃く残る集落の出身で、そうした文化に愛着をもちながらも、あえて挑発的に、上の世代に投げかけた発言のようだった。年配の参加者がそれに刺激を受けつつ、その問題を自分たちがしっかりと考え、次の世代に伝えようとしたことも印象的だった。

個人的には、戦後の宗教史をめぐる論議の総論をまとめたりばかりでもあったので、三世代のやりとりが、戦後日本社会全体の縮図のように感じられた。

敗戦によって、総動員体制から民主化へと舵が切られた。経済復興のなかで、地方の人口が大都市部の経済発展を担う労働力として吸い上げられた。就職や進学のために故郷を離れ、歯車やコマのようない扱いを受けることもある都会生活の厳しさに埋没せず、自分らしさを保つための拠り所の一つが、自らのルーツとのつながりや、島の暮らしと風景のうちに埋め込まれた懐かしさであったろう。

伝統行事をやめてしまうことは簡単かもしれないが、その途端、その地域は個性を失い、どこにでもある凡庸な場所になりかねない。戦後の日本社会を襲った開発の波は、

便利さをもたらした一方で、それぞれの地域文化の固有性を奪い、都市文化のコピーをまん延させた側面もある。

伝統行事や文化の保持は、そうした流れに抗うことでもあり、その担い手には重い負担ともなる。シンポジウムの中でも、伝統行事を継続することの面倒が語られていた。地域の絆を強化する反面、それがしがらみと感じられることもある。

個人化・個性化の時代にあつて、伝統文化を地域の宝として認識し、伝えるためには、個人にとつて楽しみや、やりがいを感じられねばならない。まして、これから人口減少時代にあつては、地域の固有性と一人一人の個性の両方を尊重するバランスが、鍵となっていくだろう。

ながさき

時評

このところ、複数の研究者とチームを組んで、戦後長崎の被爆者運動・平和運動をめぐる資料調査を行っている。さまざまな団体の事務所を訪問して資料を見せていただいたり、アンケートを送って所蔵資料の有無を尋ねたり、戦後の長崎を生きた人々に対する聞き取りを行ったりしながら、記録と記憶の掘り起こしに努めている。

原爆体験の継承

山口 響



やまぐち・ひびき 1976年長与町出身。「長崎の証言の会」で被爆証言誌の編集長。「長崎原爆の戦後史をのこす会」事務局も務める。長崎大学等非常勤講師。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。

「被爆」イメージの狭さ

れたことがある。

もうひとつは、いわゆる「被爆証言」に比べて、被爆後・戦後の人々の歩みに関する記録保存や調査が著しく立ち遅れていると感じるからだ。これは、原爆というものを「1945年8月9日の出来事」としてのみとらえる狭いイメージからきている。

8月9日に熱線・爆風・放射線が長崎に未曾有の被害をもたらしたことは間違いないが、それに加えて重要なのは、その後の長い時間においてもまた、人々の苦闘があったという点だ。それは、単なる放射線障害以上のものである。被爆者運動・平和運動にはす

で60年以上の歴史があり、

そこには被爆者だけではなく非被爆者も参与していた。さらには、そうした活動に関与してこなかった圧倒的多数の個人や団体があるが、それらに関する記録が自覚的に残されてきたとは言いがたい。

今回、長崎原爆に関して研究しているグループだと名乗った上で、さまざまな教育機関や宗教団体、経済団体、文化団体などに対して「その過去の様子や歩みがわかる資料」はないかと尋ねるアンケート用紙を送った。

「し」と回答する団体が少なくなかったことだ。原爆投下時に存在していた団体の場合は原爆で建物が燃えてしまったこと、戦後に設立された団体の場合は、もともとそんな資料は持っていないことなどが理由である。この背景にあるのは「8・9に関する資料(日記や写真、被爆証言の聞き書きなど)でなければ、原爆に関する資料ではない」との思い込みではなかっただろうか。

戦後の長崎においては、平和教育や証言記録運動、原爆報道が豊かな成果を収めてきた。しかしこれらを通じて形成された「被爆の実相」に関するわかりやすいイメージの陰で削ぎ落とされた部分は少なくない。今こそ、そうした目に見えにくい部分を記録に残すべきだと思つのである。



# ながさき

## 時評

新年度から「長崎県森林審議会」の委員を務めることになった。門外漢で恐縮だが、一生懸命努めなければならぬので、ここで本県の森林・林業の将来像について、私見を述べたいと思う。

2018年に発生した「西日本豪雨」。連日テレビに映し出された大規模な土砂災害の映像は記憶に新しい。

戦後、急速に進められた「拡大造林計画」によって、それまで国土の大半を占めていた広葉樹林がスギ・ヒノキを中心とする針葉樹林に置き換えられた。管理されない人工林は、植林された後、手入れが追いつかず放置され、径が小

### 本県林業の将来像

川口 幹子



かわぐち・もとこ 1979年青森県出身。地域おこし協力隊員として対馬市に移住。対馬グリーン・ブルーツーリズム協会事務局長。農村交流や環境教育に取り組む。北海道大学院環境科学院博士後期課程修了。

# 前向きな撤退と小規模化

さく節が多い低質材しか取れないような森になってしまっている。このような森は、水源涵養や土砂流出防止機能が著しく低い。いわゆる「災害に弱い」森である。

これからの森林政策を考えるにあたって、まずは過去の拡大造林政策について、しっかりと批判的な評価を加えることが必要だと思う。その反省の上に立って、拡大造林政策が招いた負の影響を低減し「元に戻す」ための方法を前向きに検討するときかもしれない。

その一つが、経営として成り立たない人工林を、天然林に戻していくことだ。そのために、個々の山について、「経営として成り立つか否か」の査定をしっかりと行い、ゾーニングに基づく施業計画を、行政と山主とが共同で作っていく必要がある。

この一つの山について、判断には、天然林に戻した後、に想定されるシイタケなどの特用林産物生産、薪炭やバイオマス燃料の生産、レクリエーションや教育の場としての活用などの視点も含めて考えるべきだと思う。建材生産を目的とした森林施業からの撤退を建設的に行うと言い換えてもよいかもしれない。

もう一つが「自伐型林業」の普及だ。離島・半島の多い

本県の山々は山肌が小さく、起伏に富み、傾斜が急だ。こうした長崎県の森林施業において、今、国が進めている「高性能林業機械の導入」は、果たして適切だろうか。大型機械に対応するための大型林道の整備は、急峻な地形の山の環境を破壊しないだろうか。設備投資の大きさは霧細林業経営者を苦しめることにならないか。

チェーンソーとワイヤーによる切り出しが可能な規模で高級材を作る人工林施業。そうした経営が成り立つよう支援していくのが、小規模な山林が多い本県林業の生きる道なのではないか。

国の政策をそのまま適用するのではなく、長崎県にあった独自の計画が策定されることを願う。

本県の山々は山肌が小さく、起伏に富み、傾斜が急だ。こうした長崎県の森林施業において、今、国が進めている「高性能林業機械の導入」は、果たして適切だろうか。大型機械に対応するための大型林道の整備は、急峻な地形の山の環境を破壊しないだろうか。設備投資の大きさは霧細林業経営者を苦しめることにならないか。

ながさき

時評

新年度となり、初々しい姿がそこかしこに見られるが、これまでであるのが当然であったものが見られなくなる交代の時期でもある。

国交省九州地方整備局の雲仙復興事務所が先月末に閉鎖されたという。同事務所は、雲仙・普賢岳災害による火砕流・土石流に対する砂防ダム整備をはじめ、防災情報発信や災害伝承、防災教育にも携わってきた。今月からは、同省長崎河川国道事務所内に新設の雲仙砂防管理センターに、砂防ダムの管理や溶岩ドームの監視作業が引き継がれた。事業規模の縮小を、復興の達成と見るべきかどうかにつ

復興とレジリエンス

西村 明



にしむら・あきら 1973年雲仙市国見町出身。東京大大学院人文社会系研究科准教授。宗教学の視点から慰霊や地域の信仰を研究する。日本宗教学会理事。雲仙市と東京の2拠点居住中。

地域の無形の宝

いは、意見が分かれるところだろう。この30年を振り返ってみて、はたして島原半島は、経済的・精神的に噴火以前の力を取り戻し、さらに発展していると言えるか、改めて問いたい気持ちも起る。残念ながら思うように盛り返せていないところも多い半面、災害をバネに、それまで以上に力を発揮している部分もあるはずだ。

わが身を振り返ると、噴火当時は高校生で、目の前に迫る大学受験も含め、先の見通せない不安に投げ込まれた感じであった。しかし、ふと周囲を見渡すと、終息が見えない中でも、懸命に生きる人々の姿があった。

2年前、母校の島原高校に呼ばれて講演をした際に、地元の名産に秘められた「レジリエンス」に注目するよう、生徒たちに訴えた。それは、困難に直面しても、しなやか回復する力のこと、噴火に限らず度重なる逆境を乗り越えてきた先人たちの姿に学ぶべきだと考えてのことである。近年では、さまざまな研究の分野でも注目されているキーワードでもあり、講演直後にはセンター試験の現代文でも取り上げられた。

・精神的不安に陥れた。規模こそ違えども、混乱の状況は噴火当時とどことなく似た様相である。

4日の雲仙の山開き式を伝える記事で紹介された「雲仙を美しくする会」の七條健会長が、まさに地元の人々のレジリエンスを示している印象が深かった。七條さんは、噴火当時はホテル経営者で、同業組合の長も務められたそうである。「噴火災害による観光客減を乗り越えた気概で、何とかコロナにも立ち向かってほしい」と後進に向けて送られたエールは、経験に根ざして重みがある。

こうした心持ちの部分は、外からは見えにくい。これまでの復興を底流で支えてきたものだろう。地域の無形の宝として大切にしたい。

# 住民の危険除かれぬまま

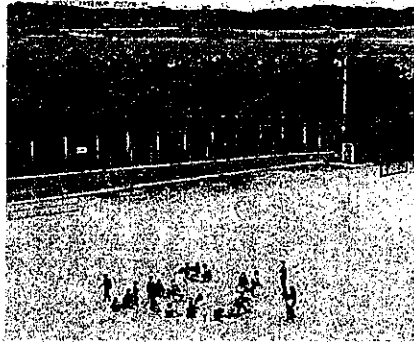
住宅密集地のすぐ上空を軍用機が飛び交い、住民の安全を脅かし続ける米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)。名護市辺野古移設を進める政府と県の対立構図は変わらず、基地の危険性が取り除かれないまま返還合意から四半世紀の時が流れた。国の計画では太平洋戦争末期の沖縄戦犠牲者の「遺骨がまざる土砂」が辺野古埋め立てに使われる懸念も浮上し、県民の不信感は増しつつある。

## ■押し付け

普天間飛行場のフェンスが迫る運動場を走り回る子どもたち。普天間第二小の知念克治校長(59)は「米軍機は近々を飛ばな

## 普天間返還合意25年

いではないし、飛行場は早く閉鎖してほしい」と表情を曇らせた。2017年12月、運動場に大型輸送ヘリコプターの窓が落下した。知念校長によると事故後、



普天間第二小の近々を飛ばす米軍機のフェンス  
11月、沖縄県宜野湾市

怖くて運動場に行けなくなると見做らされた。米軍機の飛行のため、45分間の屋外での授業中に7回避難したこともある。沖縄県には今も在日米軍専用

## ■既成事実

日の記者会見で「普天間の危険性除去を含む基地の整理縮小は、県民の長年の悲願だ」と訴えた。

## ■難関続き

普天間飛行場の危険性除去と返還だ」と言及。固定化は許されないとの認識を強調した上で「辺野古移設が唯一の解決策だ」とも明言した。

ただ移設は難関続きだ。防衛省は19年12月、辺野古沿岸部にある軟弱地盤に対応するため工期を延ばす計画見直し案を発表。事業進捗には約7年を要し、

首脳会談が予定され防衛相経験者は双方のトップが交代して初の対面会談で、推進の立場を改めて確認すべきだ」と主張する。政府には、来年任期満了を迎える名護市長選や知事選を控え、移設の既成事実化を急ぎたい思惑も。菅義偉首相周辺は地元振興策も矢張り早に打ち出すべきだ」と語る。首相は官房長官出席時、前回名護市長選で自ら

現地に入り、自民党推薦の新人を支援して移設反対派の現職を破った経緯がある。知事選は反対派の勝利が続く、県政の奪還は宿願だ。与党幹部は「あらゆる手段を尽くす」と政治決戦を見据える。

## 「遺骨まざる土砂」不信増幅

返還は30年代以降にずれ込む見通しとなった。

基地縮小を有識者が検討する県設置の「万国津梁(ほんこくしんりょう)会議」は3月、辺野古移設を「最もあり得ない選択」と玉城知事に提言。「普天間の危険性を少なくとも12年以上放置することになる」と、普天間の運用停止と辺野古計画の中止を求めた。

新たな問題も浮上している。政府は軟弱地盤改良工事のため、土砂を調達できる県内の採取地として沖縄本島南部の糸満市と八重瀬町を挙げたが、本島南部は沖縄戦の激戦地で遺骨が眠る。

この地の土砂が使われる可能性があることに、遺骨を収集する市民団体は「戦没者への冒瀆(ぼうとく)だ」と反発を強めている。「辺野古の新基地建設に遺骨のまざった土砂を使うのは、人道上許されない」。玉城知事の側近は語気を強めた。

長 山崎 桑斤 戸門  
2021年(令和3年)4月18日 日曜日  
紙面編集・佐藤武郎 社 会 24

# 遺骨眠る土砂採取人道問題

## 反対の市民ら 辺野古埋め立て抗議 オンラインシンポ

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古移設を巡り、沖縄戦戦没者の遺骨が眠る土砂が埋め立てに使われる可能性があるとして、反対する市民らが17日、オンラインシンポジウムを開いた。参加者らは「辺野古移設の賛否にかかわらず、人道的に許され

ない問題だ」と抗議した。政府は、辺野古の埋め立て予定海域にある軟弱地盤の改良工事のため、土砂の採取場所として沖縄本島南部の糸満市と八重瀬町を挙げていた。南部は沖縄戦の激戦地で、今も遺骨や遺品が出てくる。県内で戦没者の遺骨収集

を続ける市民団体「ガマフヤー」(那覇市)の具志堅隆松代表は「ウチナンチュー(沖縄人)に限らず、全国から来た日本兵や米兵、朝鮮半島から連れてこられた人たちも眠っている。私たちだけの問題ではない」と強調。「戦没者の尊厳を守るため、埋め立てに使われないよう力を貸してください」と呼び掛けた。

### 【遺骨眠る土砂…人道問題】

……沖縄戦戦没者の遺骨が眠る土砂が埋め立てに使われる可能性があるとして、反対する市民らが17日、オンラインシンポジウムを開いた。参加者らは「辺野古移設の賛否にかかわらず、人道的に許されない問題だ」と抗議した。…… 「戦没者の尊厳を守るため、埋め立てに使われないよう力を貸してください」と呼び掛けた。

私達 当会は、皆様に、『国際長崎遺跡公園都市構想』(2021年(令和3年)5月25日 火曜日)を提案し要望しています。

私達 当会は、皆様に、『長崎核爆弾被爆遺跡』について、従来より、又、『国際長崎遺跡公園都市構想』に包含する『長崎核爆弾被爆遺跡』の項に於いて、“日本地域に於ける近代の終焉、長崎核爆弾被爆の痕跡の実態把握と提示、遺骨収容提示、被爆の実相とその範囲の提示を目的とし、内容と範囲の拡張を行う。――①公園地、教育機関、河川、道路等公共用地又はその性格を有する土地に於ける、遺跡としての発掘調査と遺跡の提示、又は、根拠ある再建、遺骨搜索収容供養提示 ②大規模再開発の計画に於ける、遺跡としての発掘等調査と遺跡の提示、遺骨搜索収容供養提示 ③遺跡の遺跡としての実態と空間の提示、その内容と範囲の拡張、遺骨搜索収容供養提示、並行して、被爆遺跡による公園都市として存在し得る長崎地域とその土地の活用の在り方の再検討。”を提案し要望しています。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているのでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の 生と死の証です。

# “遺跡についてXXXI”

『私達人類のアート(art:芸術)と遺跡』

私達当会は、私達人類について、私達人類の現代の世界にあって、地球上の世界の私達人類がアート(art:芸術)に取り組んでいる、と認識します。例えば、アート・フェスティバル(art festival:祝祭:展示、コンテスト)～アート・フェア(art fair:見本市、市:販売)。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の為す、私達人類のアート(art:芸術)には、私達人類の華がある、と確信します。

私達当会は、私達人類について、私達人類の世界にあって、私達人類の哲学とアート(art:芸術)と遊びと学術と遺跡の境界は、消滅しつつある、と認識します。

私達当会は、皆様に、私達人類の長崎地域に於いて、私達人類が、長崎地域の、豊かな地球の自然と、温帯南国の気候と、本物の人情と、本物の遺跡と歴史、を資産に、リベラル・アーツ(liberal arts:自由七科:文法学・修辞学・論理学の3学、算術(数論)、幾何(幾何学、図形)、天文学、音楽の4科、～)と哲学を当該地域の社会的共通資本として確立し、茲に、様々な形態と制度に於いて、アート(art:芸術)を行為すること、を提案し要望します。

私達人類は、私達人類の活動の空間に於いて、この土地の遺跡が送り続けるメッセージを受けとめることが出来ているでしょうか？ 遺跡は、人々のそして現代の私達の生と死の証です。

2021年(令和3年)6月9日 水曜日  
養生所を考える会 代表 池知和恭

✕

目

これからの美術がわかるキーワード100

目次

はじめに

PART 1 VISUAL OF ARTISTS IN 2010'S

PART 2 美術批評と動向

PART 3 美術批評と動向

PART 4 日本・アジア編

PART 5 中国・韓国編

PART 6 海外編

PART 7 保存修復

PART 8 アートマーケット

PART 9 社会とアート

はじめに

「これからの美術がわかるキーワード100」では 2010年前後から浮上してきた概念や動向を取り上げています。

2000年代はグローバル資本主義の進展により、新興国が経済成長を遂げることで世界経済が大きく膨らみ、アートマーケットも過熱していく。しかし、2008年には世界的な金融危機の影響を受けてアートバブル崩壊とも称される事態を迎えます。また、SNSやスマートフォンが普及して、ポスト・トゥルースの時代が幕を開け、それらを活用した民主化運動「アラブの春」が起こり、いかに政治の季節が到来を告げる。そんななか、アートシーンでは、ポスト・インターネットの動向が注目を集めています。

日本では、3.11の甚大な被害に対峙するべくアーティストたちが新たな表現を模索していく。いっぽう、2010年に始まる瀬戸内国際芸術祭が大成功を取り、いかに地域密着型の芸術祭の機運が高まっています。

そして 2015年のシリア難民問題からブレグジットによるEU危機、アジアの覇権を争う中国の台頭、トランプ米大統領政権の暴走、北朝鮮の核問題など、情勢がさらなる混沌を迎えています。それに呼応して、難民問題、ブレグジット、#MeTooなど、アートが喫緊の社会・政治問題に積極的に関与していく動きも目立ってきています。

今後 社会で起きている事象と同時代のアートを往還していく視座がますます重要となるでしょう。本書を座右に置いて、ともにアートと社会の行く末を考えていきましょう。

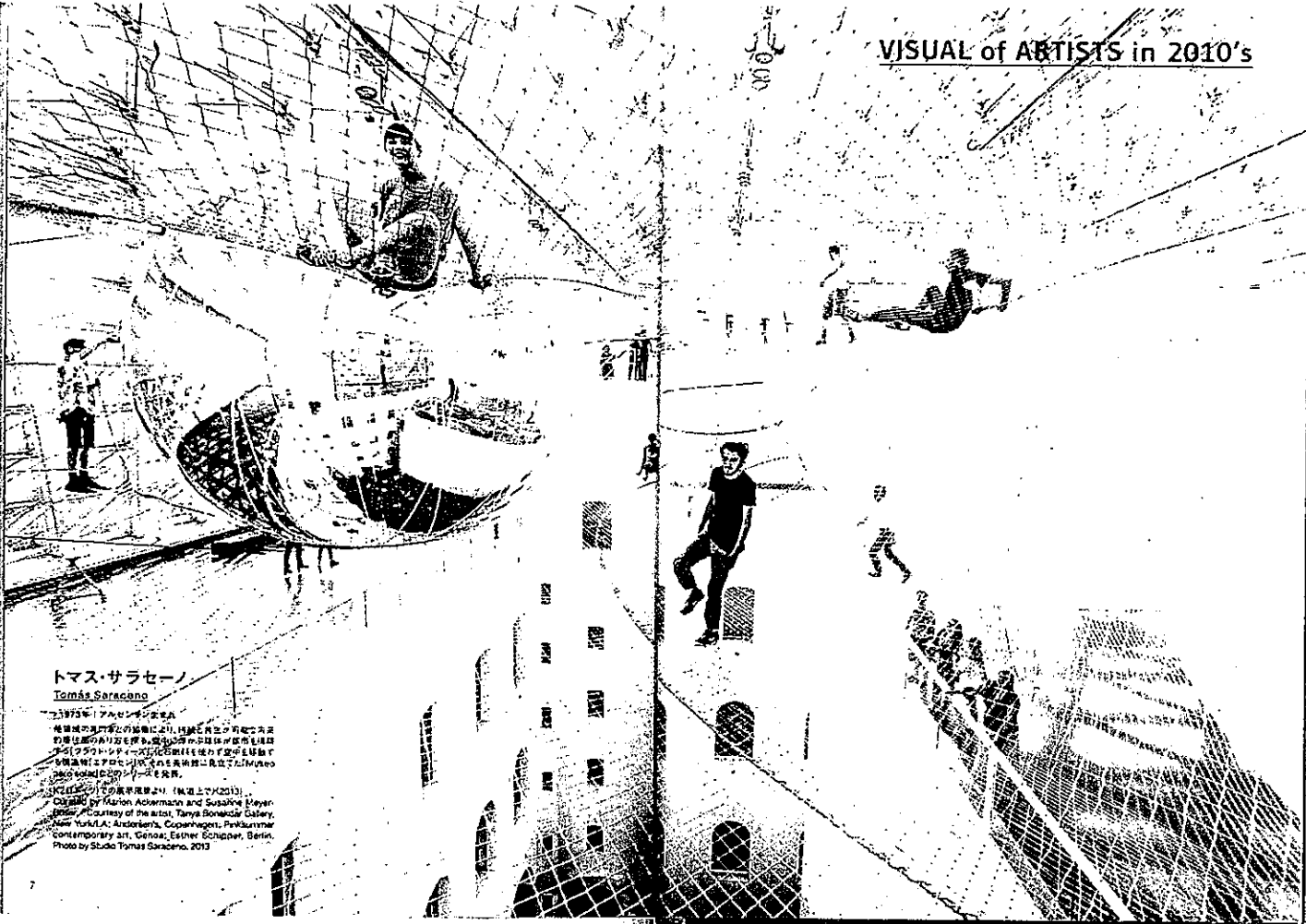
美術手帖編集部

これからの美術がわかるキーワード100

政治・社会の転換、テクノロジーの急進、環境問題など、人権を取り巻く世界は、この10年、大きな変化の途中にある。そして、つねに「同時代」を扱ってきた「コンテンポラリー・アート」とは何かを100のキーワードを通して、いっしょに考えてみたい。そこから見える、未来の世界と人権、そして美術はどんな姿で存在しているだろうか。またなるべき2020年代への項目を探ってみよう。

これからの美術がわかるキーワード100

PART 1	VISUAL OF ARTISTS IN 2010'S	6	PART 2	美術批評と動向	10	PART 3	美術批評と動向	16
PART 2	美術批評と動向	10	PART 4	日本・アジア編	32	PART 5	中国・韓国編	52
PART 3	美術批評と動向	16	PART 6	海外編	58	PART 7	保存修復	74
PART 4	日本・アジア編	32	PART 8	アートマーケット	78	PART 9	社会とアート	114
PART 5	中国・韓国編	52						
PART 6	海外編	58						
PART 7	保存修復	74						
PART 8	アートマーケット	78						
PART 9	社会とアート	114						



トマス・サラセーノ  
Tomás Saraceno

1973年、アルゼンチン生まれ  
 南米の荒涼とした山岳地帯に、自然と共生する環境を共有する  
 的居住空間の探求を行い、2006年、国際芸術祭「シドニー」で  
 「クラウド・ランド」展覧会を開催し、空を歩ける  
 空間を体験させた。その後、世界各地に展覧会を開催し、Museo  
 de Arte Moderno (MAM) に滞在し、新作を発表。  
 2010年、上海美術館展覧会「上海」に出品。  
 Organized by Marlon Adermann and Susanne Mayer,  
 Berlin. Courtesy of the artist, Tanya Bonakdar Gallery,  
 New York/LA; Anderson's, Copenhagen; Perksunter  
 Contemporary Art, Göttingen; Esther Schipper, Berlin.  
 Photo by Studio Tomás Saraceno, 2013



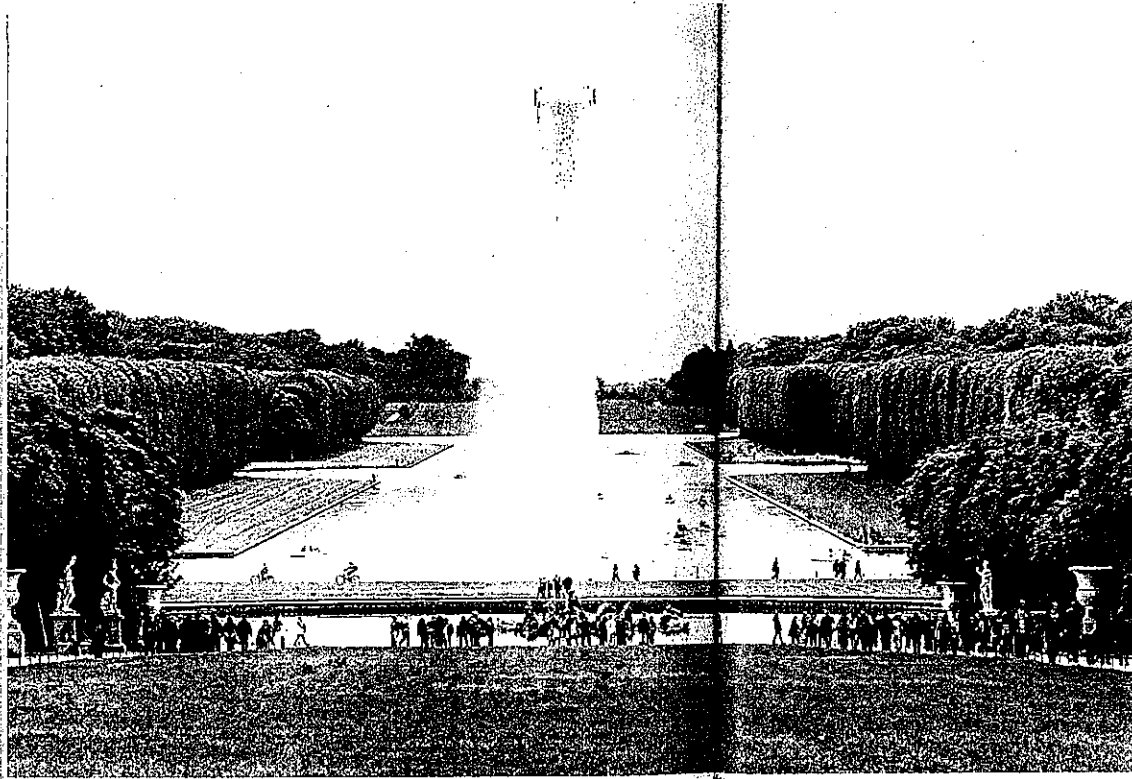
ピエール・ユイグ Pierre Huyghe

1962年、フランス生まれ  
 1990年代、写真家との協働で、SF的な世界観を構築し、  
 映像制作、パフォーマンス、彫刻など多岐にわたる  
 アート活動を行う。2010-10年に、ロンドン、  
 Tate Modernにて、初の単独展覧会を開催。  
 2014年、上海美術館展覧会「上海」に出品。  
 2014年、上海美術館展覧会「上海」に出品。  
 Courtesy of the artist, Marian Goodman, New York  
 Esther Schipper, Berlin  
 Photo by Dag Runold  
 Photo by Dag Runold, 2014  
 Courtesy of the artist and Bornemann  
 2014  
 2014年、上海美術館展覧会「上海」に出品。  
 Courtesy of the artist, Tanya Bonakdar Gallery, New York  
 Photo by Dag Runold, 2014



フィリップ・パレーノ  
Philipp Parreno

1964年、フランス生まれ  
 2000年代、パフォーマンス、映像、彫刻など多岐にわたる  
 アート活動を行う。2010-10年に、ロンドン、  
 Tate Modernにて、初の単独展覧会を開催。  
 2014年、上海美術館展覧会「上海」に出品。  
 2014年、上海美術館展覧会「上海」に出品。  
 Courtesy of the artist, Marian Goodman, New York  
 Esther Schipper, Berlin  
 Photo by Dag Runold  
 Photo by Dag Runold, 2014  
 Courtesy of the artist and Bornemann  
 2014  
 2014年、上海美術館展覧会「上海」に出品。  
 Courtesy of the artist, Tanya Bonakdar Gallery, New York  
 Photo by Dag Runold, 2014



オラファー・エリアソン  
Olafur Eliasson

1967年：アイスランド生まれ  
2003年にロンドンで開幕した、自身の名前を冠した現代美術ギャラリー「Olafur Eliasson Gallery」を設立。自身の作品だけでなく、他のアーティストの作品も展示している。近年では気候変動への関心を喚起する作品を発表している。2016年の作品「The Weather Project」が話題となった。2016年の作品「The Weather Project」が話題となった。2016年の作品「The Weather Project」が話題となった。

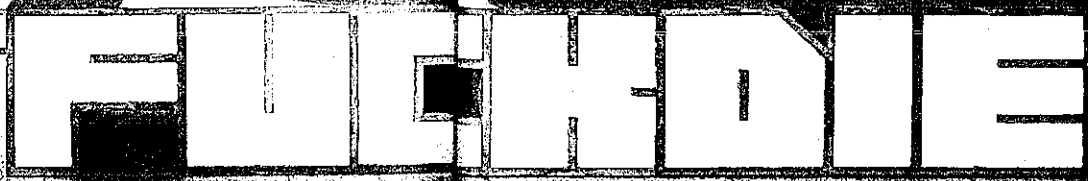
Photo by Arqers Sive Beig  
© 2016 Olafur Eliasson

# Art Criticism and Movement in the West

美術批評と動向

この10年、世界では...

「アート・フォーラム」/ コンテンポラリー・アート・ビザ / アート・アート / 文化人類学 / コンテンポラリー・アート / 現代的動向 / アート・フォーラム / 文化人類学 / コンテンポラリー・アート / 現代的動向 / アート・フォーラム / 文化人類学 / コンテンポラリー・アート / 現代的動向 / アート・フォーラム / 文化人類学 / コンテンポラリー・アート / 現代的動向

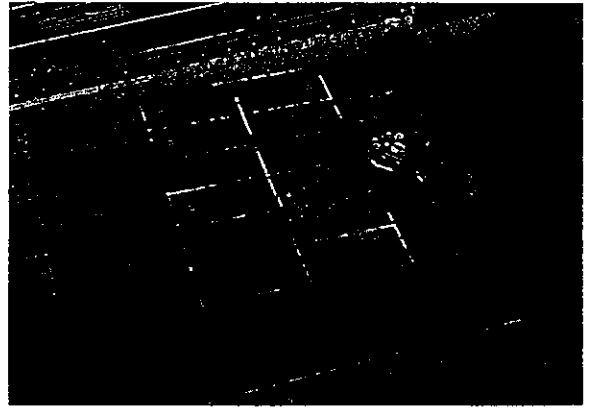


HELL YEAR / I FUC KODIE © 2016  
Photo by Heining Heung  
Courtesy of the artist, Arqers (New York Gallery), New York and Center for Contemporary Art, Seoul



# シンガポール

2010年11月にはシンガポール・ナショナル・ギャラリーが、シンガポール・ナショナル・アート・センターとしてリニューアルされた。このリニューアルは、シンガポールの文化政策の一環として行われた。このリニューアルは、シンガポールの文化政策の一環として行われた。



シンガポール、2010年11月。シンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポール・ナショナル・アート・センター。

PART 2

シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。



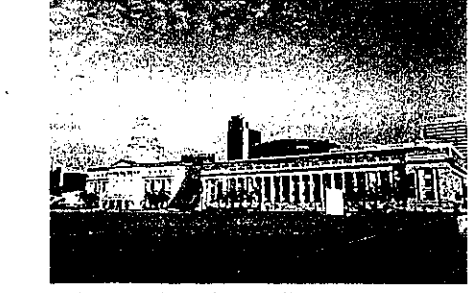
シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。

## ナショナル・ギャラリー・シンガポール

シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。

## ナショナル・アート・ヒストリー

シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。

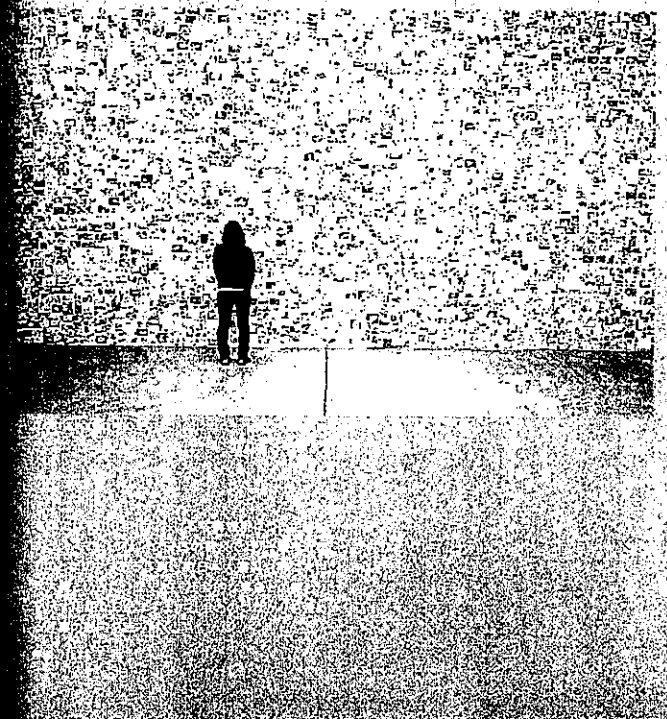


シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。シンガポールのシンガポール・ナショナル・アート・センター。



# Photograph

写真



田舎の風景を捉えた写真家、その作品は見る者の心を揺るがす。自然の美しさと人間の営みの調和が、彼のレンズを通して表現される。静寂の中で、生命の息遣いを感じさせるような、独特の視点と構図が、彼の作品の最大の特徴である。

「モノクローム」は、色を排したことで、光と影のコントラストを際立たせ、質感や空間の奥行きを強調する効果がある。また、構図のバランスや、被写体の配置が、観る者の視線を自然と導くように設計されている。その結果、一枚一枚の作品が、まるで一つの物語を語っているかのような印象を受ける。

「モノクローム」は、色を排したことで、光と影のコントラストを際立たせ、質感や空間の奥行きを強調する効果がある。また、構図のバランスや、被写体の配置が、観る者の視線を自然と導くように設計されている。その結果、一枚一枚の作品が、まるで一つの物語を語っているかのような印象を受ける。



「モノクローム」は、色を排したことで、光と影のコントラストを際立たせ、質感や空間の奥行きを強調する効果がある。

「モノクローム」は、色を排したことで、光と影のコントラストを際立たせ、質感や空間の奥行きを強調する効果がある。また、構図のバランスや、被写体の配置が、観る者の視線を自然と導くように設計されている。その結果、一枚一枚の作品が、まるで一つの物語を語っているかのような印象を受ける。

PART 6

# Technology



「アート・マシン」により「ユーザー」が「自然」に「適応」して「環境」を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」が「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。建築物が単に人間の活動を容れるだけの「容器」ではなく、人間の活動を促進し、変化する「環境」の一部として機能する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。

もろもろの時代の境界を、このオーストラリアの建築家たちは、従来の建築の枠組みを打破し、新たな表現の場を開き、その可能性を探っている。その結果、建築物は単なる「容器」ではなく、人間の活動を促進し、変化する「環境」の一部として機能する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。

「アート・マシン」により「ユーザー」が「自然」に「適応」して「環境」を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」が「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。



「アート・マシン」により「ユーザー」が「自然」に「適応」して「環境」を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」が「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。

もろもろの時代の境界を、このオーストラリアの建築家たちは、従来の建築の枠組みを打破し、新たな表現の場を開き、その可能性を探っている。その結果、建築物は単なる「容器」ではなく、人間の活動を促進し、変化する「環境」の一部として機能する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。

「アート・マシン」により「ユーザー」が「自然」に「適応」して「環境」を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」が「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。



# Museum & Institution

文化施設

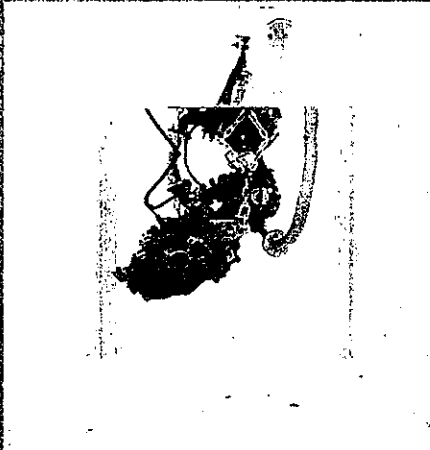
「アート・マシン」により「ユーザー」が「自然」に「適応」して「環境」を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」が「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。

## PART 7

ドナルド・クック、建築設計は「アート・マシン」により「ユーザー」が「自然」に「適応」して「環境」を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」が「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。

「アート・マシン」により「ユーザー」が「自然」に「適応」して「環境」を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」が「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。建築物は人間の活動を「感知」し、「反応」を「示す」ことで「環境」を「変化する」というコンセプトに基づき、建築物と人間との関係性を再考する。

# Preservation and Restoration



幅広い形態の作品を含む現代までの領域において、作品の保存方法は美術館への対応にとどまらぬ。また、保存を前提とせずにつくられた作品のアーカイブの仕方についても議論が深じ、多様な表現を背景へ直し、存続の歴史のために血脈付けていくための取り組みに向けて、希聖性を担いしつめるキーワードを取り上げる。

加治風臣司

「現代美術の保存と修復」の重要性を説く。現代美術の保存と修復は、単に作品の物理的な状態を維持するだけでなく、その文化的・社会的な価値を伝えるための重要な役割を果たしている。特に、デジタルアートやインスタレーションなどの新しい表現形式の出現により、保存と修復の課題はますます複雑化している。

「デジタルアートの保存」について。デジタルアートは、物理的な媒体に依存しないため、複製と改変が容易に行われる。そのため、オリジナルのデータや制作環境を正確に記録し、将来にわたってアクセス可能な形で保存することが求められる。また、アーティストとの協力が不可欠である。



## PART 10

### 日本美術市場での投資

東京美術市場の拡大について語る。日本美術市場は、近年急速に成長しており、特に現代美術分野での投資が顕著である。コレクターや機関投資家の関心が高まり、オークションや画廊を通じた取引が活発化している。

### 中国コレクターの変化

北京や上海を中心とした投資家層の動向について。中国の富裕層は、海外美術市場への関心を示し、特に現代美術や中国現代美術に注目を集めている。この変化は、国際美術市場のダイナミクスに大きな影響を与えている。

### 上海西岸地区

現代美術シーンの中心地としての発展について。上海西岸地区は、現代美術の集積地として知られ、画廊、美術館、アートセンターが数多く立ち上がり、活気あるアートシーンが形成されている。

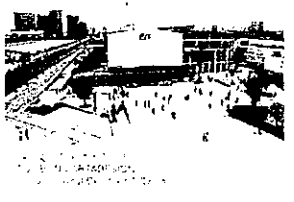


現代美術市場の動向と投資家の関心。この作品は、現代美術市場の成長を象徴する重要な要素の一つである。投資家は、アーティストの経歴、作品の希少性、市場の動向などを慎重に検討し、適切な投資戦略を立てている。

本 東京美術市場の拡大について語る。日本美術市場は、近年急速に成長しており、特に現代美術分野での投資が顕著である。コレクターや機関投資家の関心が高まり、オークションや画廊を通じた取引が活発化している。

北 北京や上海を中心とした投資家層の動向について。中国の富裕層は、海外美術市場への関心を示し、特に現代美術や中国現代美術に注目を集めている。この変化は、国際美術市場のダイナミクスに大きな影響を与えている。

美 現代美術シーンの中心地としての発展について。上海西岸地区は、現代美術の集積地として知られ、画廊、美術館、アートセンターが数多く立ち上がり、活気あるアートシーンが形成されている。





## Ⅶ. 参考資料

a.

養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する陳情書 X IX (旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)  
長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する陳情書 X (サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等)

2021年(令和3年)2月22日 月曜日 長崎市議会議員 井上重久様 / 2021年(令和3年)3月3日 水曜日 長崎県議会議員 瀬川光之様

養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する要望書 IX (旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)  
長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する要望書 X (サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等)

2021年(令和3年)3月3日 水曜日

長崎県知事 中村法道様 長崎県教育委員会 教育長 池松誠二様 長崎県企画部長 柿本敏晶様 長崎県 地域振興部長 浦 真樹様 長崎県 文化観光国際部長 中崎謙司様 長崎県 土木部長 奥田秀樹様 長崎県 環境部長 宮崎浩善様 長崎県 文化財保護審議会 会長 立平 進様 長崎県 美術館長 小坂智子様 長崎歴史文化博物館長 水嶋英治様  
長崎市長 田上富久様 長崎市教育委員会 教育長 橋田慶信様 長崎市教育委員会 教育総務部長 前田孝志様 長崎市 企画財政部長 片岡研之様 長崎市 文化観光部長 股張一男様 長崎市 まちづくり部長 片江伸一郎様 長崎市 土木部長 松浦文昭様 長崎市 中央総合事務所長 大串昌之様 長崎市 原爆被爆対策部長 中川正仁様 長崎市 理材部長 小田 徹様 長崎市 環境部長 宮崎忠彦様 長崎市 秘書広報部長 原田宏子様 長崎市 文化財審議会 下川達彌様 (長崎歴史文化博物館長 水嶋英治様)

I. “遺跡について X III” (2021年(令和3年)2月18日 木曜日)

II. “遺跡について X IV” (2021年(令和3年)2月19日 金曜日)

III. “遺跡について X V” (2021年(令和3年)2月20日 土曜日)

IV. 『遺跡について 2021年2月』 (2021年(令和3年)2月20日 土曜日)

V. 添付資料

養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する陳情書 X VIII (旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)  
長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する陳情書 IX (サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等)

2020年(令和2年)11月24日 火曜日 長崎市議会議員 井上重久様 / 2020年(令和2年)12月2日 水曜日 長崎県議会議員 瀬川光之様

養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開に関する要望書 VIII (旧長崎市立佐古小学校地とその外周道路を中核として)  
長崎奉行所西役所等遺跡群の調査・保存・活用・公開・整備に関する要望書 IX (サン・パウロ教会等跡/長崎奉行所西役所跡/長崎県庁跡・大波止跡・築地跡等)

2020年(令和2年)11月27日 金曜日

長崎県知事 中村法道様 長崎県教育委員会 教育長 池松誠二様 長崎県企画部長 柿本敏晶様 長崎県 地域振興部長 浦 真樹様 長崎県 文化観光国際部長 中崎謙司様 長崎県 土木部長 奥田秀樹様 長崎県 環境部長 宮崎浩善様 長崎県 文化財保護審議会 会長 立平 進様

長崎市長 田上富久様 長崎市教育委員会 教育長 橋田慶信様 長崎市教育委員会 教育総務部長 前田孝志様 長崎市 企画財政部長 片岡研之様 長崎市 文化観光部長 股張一男様 長崎市 まちづくり部長 片江伸一郎様 長崎市 土木部長 松浦文昭様 長崎市 中央総合事務所長 大串昌之様 長崎市 原爆被爆対策部長 中川正仁様 長崎市 理材部長 小田 徹様 長崎市 環境部長 宮崎忠彦様 長崎市 秘書広報部長 原田宏子様 長崎市 文化財審議会 下川達彌様

第一部 長崎地域の遺跡、並びに、遺跡 (2020年(令和2年)11月 初出)

I. “遺跡について XII” (2020年(令和2年)11月17日 火曜日) II. [角川武蔵野ミュージアム] (2020年(令和2年)11月16日 月曜日) III. 『遺跡に於ける遺跡に関する遺跡の空間としての彫琢』 (2020年(令和2年)9月15日 火曜日) IV. 『遺跡に於ける遺跡に関する遺跡の空間としての彫琢』(資料編) (2020年(令和2年)9月15日 火曜日) V. 『私達人類、遺跡の本源的価値、遺跡の存在、機能、社会的共通資本』 (2020年(令和2年)10月28日 水曜日) VI. 『私達人類の世界の動向、国力、国土、遺跡、漁港、田園、牧場、森林』 (2020年(令和2年)10月28日 水曜日) VII. 『株式会社三菱総合研究所による県庁舎跡地整備基本構想検討報告書』 (2020年(令和2年)10月28日 水曜日) VIII. 『長崎奉行所西役所等遺跡群遺跡の保存と活用への提案と要望 2020.10』 (2020年(令和2年)10月28日 水曜日) IX. 『長崎核爆弾被爆遺跡群遺跡への提案と要望』 (2020年(令和2年)10月28日 水曜日) X. 『私達人類の存在と行為の正当性』 (2020年(令和2年)9月3日 木曜日) XI. 『文化財的概念の近代化、遺跡と遺構と遺物、私達人類の現代の活動』 (2020年(令和2年)9月19日 土曜日) XII. 『私達 現生人類の世界、日本地域、長崎地域、遺跡、文化財』 (2020年(令和2年)9月30日 水曜日 改訂1版: 2020年(令和2年)11月27日 金曜日) XIII. 『書籍『長崎史の実像』2013年10月30日 著者: 外山幹夫 より』 (2020年(令和2年)9月30日 水曜日) XIV. 『遺跡の遺跡たる事象、市民生活の日常と心、観光やリゾート、その他の開発等、都市長崎遺跡』 (2020年(令和2年)10月7日 水曜日) XV. 『人類と遺跡 - 私達人類の想像と知性より -』 (2020年(令和2年)10月15日 木曜日) XVI. 『歴史上価値並びに学術上価値等、視覚、遺跡の実相、遺跡の保存と活用』 (2020年(令和2年)10月28日 水曜日)

第二部 長崎地域と遺跡

(2020年(令和2年)9月 初出)

I. 『遺跡についてXI』(2020年(令和元年)8月4日 火曜日) II. 『長崎地域の遺跡と歴史と社会』(2020年(令和2年)8月4日 火曜日) III. 『人類の世界と被爆人:ひばくびと:の世界』(2020年(令和2年)8月7日 金曜日) IV. 『遺跡の形態と長崎の核爆弾被爆の遺跡』(2020年(令和2年)8月9日 日曜日) V. 『人類と人類の創造、並びに、記憶たる事象、遺跡、人類の存在』(2020年(令和2年)8月11日 火曜日) VI. 『人類の行為たる遺跡と歴史の活用』(2020年(令和2年)8月11日 火曜日) VII. 『私達人類の文化財的事象の形態、在り方』(2020年(令和2年)8月16日 日曜日) VIII. 『私達人類の開発と遺跡』(2020年(令和2年)7月23日 木曜日) IX. 『私達人類にとっての記憶並びに記録、又、人類の対する交感の体系』(2020年(令和2年)8月17日 月曜日) X. 『2020年以降の長崎地域の都市計画』(2020年(令和2年)8月18日 火曜日) XI. 『私達人類の恣意、そして遺跡』(2020年(令和2年)9月26日 水曜日)

第三部 長崎県文化財保存活用大綱策定へのパブリック・コメント

(2020年(令和2年)9月 初出)

I. 『長崎県文化財保存活用大綱策定へのパブリック・コメント』(2020年(令和2年)7月31日 金曜日) II. 『私達人類のパラダイム・シフト』(2020年(令和2年)6月24日 水曜日) III. 『遺跡に関するMEMORANDUM』(2020年(令和2年)7月4日 土曜日 改訂1:2020年(令和2年)8月4日 火曜日) IV. 『2020年(令和2年)2月25日以降の養生所/(長崎)医学校等遺跡』(2020年(令和2年)7月5日 日曜日) V. 『長崎地域の近代現代の遺跡』(2020年(令和2年)7月9日 木曜日) VI. 『長崎地域の核爆弾被爆遺跡』(2020年(令和2年)7月24日 金曜日)

第四部 遺跡へ

(2020年(令和2年)9月 初出)

I. 『展示と存在、概念と想念、情報と情景、取得と到達、読解と包摂、巡礼、観光、旅、遺跡』(2020年(令和2年)6月4日 木曜日) II. 『「情報」と「情景」』(2020年(令和2年)6月4日 木曜日) III. 『長崎地域に於ける高層建築とその他の開発について』(2020年(令和2年)6月10日 水曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭 改訂1版:2020年(令和2年)8月18日 火曜日)

第五部 原遺跡計画、並びに、否定され得る人類としての人類の在り方を顕現する人類の活動の空間の形成

(2020年(令和2年)6月 初出)

I. 原遺跡計画 II. 否定され得る人類としての人類の在り方を顕現する人類の活動の空間の形成 一. ラスコ洞窟 二. 情報 三. 考察、並びに、提案と要望

第六部 遺跡について

(2020年(令和2年)2月 初出)

第七部 遺跡

(2019年(令和元年)12月 初出)

I. 遺跡 II. 遺跡と風土と文明、又、私達人類の公共と私達人類の選択、又人類の分断 III. 遺跡、その存在の性格と関連事象について、 IV. 遺跡たる事象 V. 日本地域について VI. 長崎地域とその遺跡について VII. 私達 当会より、皆様への、提案と要望 について VIII. 長崎地域の遺跡への提案と要望

第八部 長崎地域の特定の個別の遺跡群について

(2019年(令和元年)12月 初出)

I. 長崎地域の浦上地区遺跡群について (※2020年(令和2年)2月 初出) II. 長崎奉行所西役所等遺跡群の調査と活用について (※2020年(令和2年)6月 改訂) III. 長崎地域の桜町地区遺跡群について (※2020年(令和2年)2月 初出) IV. 養生所/(長崎)医学校等遺跡(“佐古の丘の地形”、“中核区域”、“運用区域”、“関連区域”)について (※2020年(令和2年)6月 改訂) V. 『長崎市歴史的風致維持向上計画』並びに『国土交通省長崎港松が枝埠頭岸壁2パース化』並びに『長崎県松が枝地区再開発構想～港湾整備と一体となったまちづくり～』について (※2020年(令和2年)6月 初出)

第九部 その他 関連する事象について

(2019年(令和元年)12月 初出 ※2020年(令和2年)9月 追記 12. (長崎)医学校等正門東翼石垣等石垣群について を追記)

第十部 関連する資料

(2019年(令和元年)12月 初出 適宜 改訂)

I. 参考資料 1. 『遺跡に関する提案と要望のお届けについて』 2020年(令和2年)3月11日 水曜日 長崎市教育委員会 教育長 橋田慶信 様 長崎市教育委員会 教育総務部長 前田孝志 様 長崎市教育委員会 教育総務部 施設課長 西原政彦 様 長崎市文化観光部長 股張一男 様 長崎市文化観光部 文化財課長 大賀史郎 様 長崎市企画財政部長 片岡研之 様 長崎市企画財政部 都市経営室長 岩永浩 様 長崎市企画財政部 長崎創生推進室長 山田尚登 様 長崎市企画財政部 大型事業推進室長 赤倉史明 様 長崎市まちづくり部長 片江伸一郎 様 長崎市土木部長 吉田安秀 様 長崎市中央総合事務所長 大串昌之 様 長崎市理材部長 小田 徹 様 長崎市環境部長 宮崎忠彦 様 長崎市原爆被爆対策部長 中川正仁 様 長崎市秘書広報部長 原田宏子 様 長崎市議会議長 佐藤正洋 様 長崎市文化財審議会 会長 下川達彌 様 養生所を考える会 代表 池知和恭 (『(長崎)医学校等正門両翼石垣等石垣群 並びに、旧長崎市立佐古小学校北西門前扇型石段に関する提案と要望』 2020年(令和2年)3月11日 水曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭)

b.

私達当会から皆様へ過去に提出した当該事象に関するその他の陳情書/要望書、並びに、随時提出した資料

以上